

博士論文（要約）

# 日中路地空間の比較研究

—東京の路地と揚子江南部地域の里弄を例に

李晋琦



# 目次

概要	4
----	---

## 序

研究の背景	13
研究の目的	16
研究の方法	17
本論の構成	18

## 第一章 先行研究及び本論の位置づけ

1.0 本章の目的	21
1.1 本論で扱う路地/里弄の範囲について	21
1.2 先行研究の概要	25
1.2.1 日中両国の路地/里弄研究の概要	26
1.2.2 路地/里弄の物理的特徴	28
1.2.3 路地/里弄の心理的評価	31
1.2.4 路地/里弄の現状調査	35
1.2.5 リノーベーション・再開発	37
1.2.6 アジアにおける路地的な道について	38
1.3 路地/里弄の具体例	40
1.3.1 東京の路地的な道	45
1.3.2 揚子江南部地域の里弄的な道	52
1.4 本論の位置づけ	61

## 第二章 路地/里弄の物理的構成について

2.0 本章の目的	63
2.1 実地調査の背景	64
2.1.1 路地/里弄のある調査対象地区の選択	64
2.1.2 路地の現状に対する調査手法	69

2.1.3 本調査の方法	72
2.1.4 調査日程	75
2.2 分析にあたって	76
2.2.1 分析対象写真の選択	76
2.2.2 データシートの作成	77
2.2.3 分析図の作成	78
2.2.4 写真における各物理量の可視率の算出方法	80
2.2.5 路地/里弄の分類	82
2.3 道の類別ごとの可視率の分析	88
2.3.1 類別ごとの可視率の割合の概要	88
2.3.2 路地/里弄と他の分類の道の間の比較	95
2.3.3 要素ごとの各分類の比較	98
2.4 まとめ	103
2.4.1 各物理量の可視率について	104
2.4.2 結	106

### 第三章 日中の人々による路地/里弄の識別及び印象評価

3.0 本章の目的	108
3.1 アンケート調査用の写真の選定	109
3.1.1 路地/里弄の特徴を聞き取る予備調査について	109
3.1.2 選定された20枚の写真について	110
3.2 アンケート調査の方法について	124
3.2.1 写真を用いたアンケートについて	126
3.2.2 質問ページのデザイン	127
3.2.3 調査の手順	129
3.2.4 調査対象者	129
3.2.5 調査時期	129
3.3 路地/里弄に対する日中の評価にもとづく分析	130
3.3.1 結果の概要	130
3.3.2 「日本/中国らしさ」の識別と 「路地/里弄らしさ」「懐かしさ」「雰囲気の良い」の印象評価について分析	139
3.3.3 印象評価によるクラスター分析及び雰囲気の良いと保存意識の相関分析	154

3.4 まとめ	157
結	160
参考文献	162
謝辞	177
付録	
付録1 里弄の代表的な平面	179
付録2 揚子江南部地域における各都市の調査対象となる里弄の位置	187
付録3 連続立面輪郭図の作成	193
付録4 Space Syntax Analysis (以下 SSA) にもとづき, データ算出の手順	195
付録5 あふれ出し率と Integration Value の関係性	198
付録6 アンケート調査票のイメージ (日本人向け)	201
アンケート調査票のイメージ (中国人向け)	203
付録7 各物理量の可視率の分析で得られた二次データ	205
付録8 アンケートで得られた二次データ	210

## 概要

日本の東京の路地であれ、中国の江蘇南部地域の里弄であれ、そこにいとその空間の独特の雰囲気を感じ、懐かしさを感じる。本研究は、ともに細い道であり、住まいが多く、しばしば独特の懐かしさを感じられるなど共通点を持つ、日本の東京の路地と中国の揚子江南部地域の里弄を対象とする国際的な視点から比較する研究である。

都市開発や社会基盤整備が盛んになった今日、グローバルな範囲で大都市は似かよった様相を呈している。繁華街の街路写真を見るだけでは、それはどの都市のものだと判断することが難しい。都市開発の進捗が都市景観にかつてない影響を与えている今、都市の従来の雰囲気や地域らしさの保持、都市に生活している人々の愛着感情、人々にふるさつを感じさせる都市の原風景をどう守り、都市空間をどう発展させていくかを考えるべきである。

人々の記憶だけではなく、都市の物理的環境は都市の記憶として、都市空間計画、都市空間の変遷経緯、及び社会生活を反映し、各々の都市の特徴を表している。路地/里弄空間は都市空間の一つの形として、都市の特徴を物語る原風景である。

ところで、路地や里弄それぞれの既往研究は数多くある。これらにより、各地の路地や里弄の変遷経緯やあふれ出しなどが調査され、路地や里弄の物理的形成過程、使われ方や社会心理的效果などが把握されてきた。また里弄については特にリノベーションの報告が数多く提出されている。しかし、路地と里弄を比較対象として捉え、国際的な視点から研究した例は少ない。路地と里弄それぞれの雰囲気や人々の愛着に関する言説数多くある一方で、生まれ育った環境や文化が異なる人々の路地及び里弄に対する印象評価についての研究はみられなかった。

中国人の筆者は来日時、東京の路地を歩いた時に、なぜか中国の揚子江南部地域にいた時と同様な懐かしさを感じた。そこで、本研究では、日中の路地/里弄の物理的構成に異同があり、日中の人々はそれらをそれぞれ路地、または里弄として区別できるが、同じものとして認識していることがある。さらに、路地/里弄には共通する懐かしさがあり、国籍を問わず、人がその懐かしさを感じられるという仮説を立て、これらについて検証することとした。具体的には、東アジア（日本・中国）において、たとえ生まれ育ったの国や受けてきた教育など個人背景が違っても、路地空間に対する識別（国の弁別、路地らしさ）と共通的な印象（懐かしさ、雰囲気の良い）を持ちうる。

研究方法としては、先行研究にもとづき、本論の研究対象である路地/里弄とはどのようなものなのかを日中それぞれの先行研究から明らかにし、両国の路地空間を比較対象としての妥当性を確認した。さらに、対象地域に関する先行研究をまとめ、関連する資料の収集と分析を行った。そのうえ、調査対象地の選定を行い、日本の東京の路地と中国の揚子江南部地域の里弄においてフィールド調査を実施した。実地調査で得られたデータをデータシートでまとめ、写真調査で日中それぞれ

れ 130 枚の写真ピックアップし、写真の分類を行い、写真に映る各物理要素の可視率について比較と分析を行った。

さらに、分類した各カテゴリーに日中それぞれ 2 枚の写真を選び、アンケートを作成した。アンケートを日中それぞれで実施し、「路地/里弄らしさ」、「日本/中国らしさ」、「懐かしさ」、「雰囲気よさ」、「住みやすさ」、「残したい風景か」6つの質問を通し、日本人と中国人それぞれの評価を求め、その評価の平均値の分析により、路地の識別及び人々の路地に対する印象を究明した。

日中ともに現在、路地/里弄空間が喪失されつつあるなか、本論では、フィールド調査による路地/里弄空間の物理的要素の可視率の分析、物理的な構成から日中の路地/里弄の異同を分析した。さらに、アンケート調査の実施、及びその結果の分析を通して、日中の異なる生活環境で生きてきた違う文化的背景を持つ人々が路地/里弄をはっきり識別することができること、そして、路地/里弄に対し、印象には明確な差が見られなかったことを検証し、路地/里弄空間の文化・社会制度・伝統を超える共通的な認識を明らかにした。

本論は基礎研究として、アジアの伝統的な町空間の比較研究を通して、日中相互に参照可能な都市空間の調査方法と分析手法の提案を試みた。フィールド調査のデータから「路地らしさ」を探り、近未来の都市空間計画や街路のデザインにおいて、路地のような都市空間の保全や有効利用の一助とすることを期待し、東アジアの都市の原風景の研究に寄与したい。

キーワード：路地，里弄，物理的要素の可視率，都市景観，環境評価，日中居住文化比較

## 挿入図 索引

図1 根津の路地（要素の増加につれ、懐かしい感覚が強くなる）

図2 アジアの都市の鳥瞰（左：東京 右：上海）

出典：昵图网.(<http://www.nipic.com>, 2019.7 現在)

図3 本論の構成

図4 種々の路地図

出典：小林一郎.(2014).横丁と路地を歩く. 柏書房. (pp.84, 銀座7丁目の路地, pp.89, 有楽町高架下センター 丸三横丁, pp.91, ビルの中の路地 新橋駅前ビル2号館内, pp.141, 三ノ輪商店街, pp.149, 佃島 佃地蔵へ 民家軒下の犬走りを通り抜ける, pp.188, 立石仲見世, pp.193, 川越)

図5 路地の構成：路面 側面 付属 視界

出典：小林一郎. (2014). 横丁と路地を歩く. 柏書房. pp.282.

図6 上空からみた江戸川流域（左：昭和32年, 右：昭和57年）

出典：ビジュアルブック江戸東京.(1992). 岩波書店.

図7 左：台風と地震, 右：人口の集中

出典：Polish Army Topography Service. (1967). Japan. Pergamon World Atlas. Pergamon Press, pp.239-240.

図8 市街の壊滅 大震災と戦災

出典：正井泰夫.(1986). アトラス東京：地図でよむ江戸～東京. 平凡社.

図9 山の手—下町

出典：穂積和夫.(2010). 絵で見る明治の東京. 草思社.

図10 今の谷中銀座辺りの住宅区（2015年）

図11 初期の築地居留地（1867年11月）

出典：川崎晴.(2002). 築地外国人居留地：明治時代の東京にあった「外国」. 雄松堂出版.

図12 月島散歩マップ

出典：安部容子. (2008). 下町東西軸の街あかり(<特集>江戸情諸 東京下町の街あかり:東京支部). 照明学会誌 92(7), 367-373.

図13 富獄三十六景 江戸日本橋 葛飾北斎 1830-32年頃

出典：アイランズ (2009). 地図から消えた東京物語：新旧地図で比較する東京の20年. 東京地図出版.

図14 日本橋魚河岸とその周辺（大正初期）

出典：Seidensticker, E., 安西徹(訳).(2013). 東京下町山の手：1867-1923. 講談社.

図15 日本橋地域（左：昭和61年, 右：明治17年）

出典：正井泰夫.(1986). アトラス東京：地図でよむ江戸～東京. 平凡社.



図 16 佃島散歩マップ

出典：安部容子. (2008) 下町東西軸の街あかり(<特集>江戸情諸 東京下町の街あかり:東京支部). 照明学会誌 92(7),367-373.

図 17 深川散歩マップ

出典：安部容子. (2008) 下町東西軸の街あかり(<特集>江戸情諸 東京下町の街あかり:東京支部). 照明学会誌 92(7),367-373.

図 18 両国橋の夏景色

出典：鈴木伸子,脇坂敦史.(2012). 水の東京を歩く : 地形と古地図で愉しむ 10 コース (Vol. . 太陽の地図帖 : おとなの「旅」の道案内 014).平凡社.

図 19 今の浅草界限

出典：三石明彦. (2008) 下町南北軸の街あかり(<特集>江戸情諸 東京下町の街あかり:東京支部).照明学会誌 92(7),374-380.

図 20 細民街

出典：穂積和夫.(2010). 絵で見る明治の東京.草思社.

図 21 旧式石庫門里弄 初期 公順里の街区プラン

図 22 旧式石庫門里弄 洪德里の街区プラン

図 23 旧式石庫門里弄 後期 康宝里の街区プラン

図 24 静安別荘の街区プラン

図 25 新石庫門里弄 会楽里の街区プラン

図 26 花園式里弄 上方花園

図 27 マンション式里弄 福履新村の街区プラン

図 28 建業里の街区プラン

図 29 新天地 (卢湾区太平橋地区)

図 30 里弄の道路構造 ((陳,2007)pp.36 を参考に作成)

図 31 新石庫門里弄 錦華新村の街区プラン

図 32 長楽村の街区プラン

図 33 東斯文里と西斯文里

図 34 色々な種類の里弄住宅

図 35 あふれ出しなどで生活感が感じられる里弄

図 36 常州の里弄

図 37 観光地区として再開発された里弄

図 38 中国と日本, 東京と揚子江南部地域の位置関係

図 39 日本東京での調査対象地区

図 40 中国揚子江南部地域での調査対象地区

図 41 ESRI Web GIS, 谷中銀座の地図

図 42 左上：Google Map の Street View，右上・右下：Google Earth

図 43 WEB GIS による地域の統計データの一例

図 44 1980 年代の谷中辺りの地図（小林，1985）

図 45 同じ地域に該当する 2015 年の谷中における調査地

図 46 あふれ出しの記録

図 47 谷中三丁目調査での道順の記録

図 48 写真記録（②⑨⑩地点）

図 49 調査地域道ごとの写真整理

図 50 調査から作成したデータシートの例

図 51 分析図の作成

図 52 グリッド解析法

出典：積田洋.(2015). 風景構図の解釈学的考察，東京電機大学，空間研究のこれまでとこれから，建築計画委員会，第 80 回空間研究小委員会研究会，2015.09.

図 53 可視率の分析方法

図 54 類別ごとの日中における各物理要素の可視率

図 55 路地/里弄と思われるものにおける各物理量の比率

図 56 日中の各物理量の割合の平均値

図 57 路地/里弄らしい部分はあるが，違う要素があるものにおける各物理量の比率

図 58 日中の各物理量の割合の平均値

図 59 路地/里弄として商業開発また観光地再開発したものにおける各物理量の比率

図 60 日中の各物理量の割合の平均値

図 61 路地/里弄的ではあるが，生活感がないものにおける各物理量の比率

図 62 日中の各物理量の割合の平均値

図 63 老朽化して状態のよくないものにおける各物理量の比率

図 64 日中の各物理量の割合の平均値

図 65 分類 a，分類 b の日中の各物理量の可視率

図 66 分類 a，分類 c の日中の各物理量の可視率

図 67 分類 a，分類 d の日中の各物理量の可視率

図 68 分類 a，分類 e の日中の各物理量の可視率

図 69 要素ごとの各分類における日中の物理量の平均値

図 70 各分類における日中の緑（自然）の可視率の平均値(\*\*:p<0.01, \*:p<0.1)

図 71 各分類における日中のあふれ出しの可視率の平均値(\*\*p<0.01)

図 72 各分類における日中の建物の可視率の平均値(\*\*:p<0.01, \*:p<0.1)

図 73 各分類における日中の空の可視率の平均値(\*\*:p<0.01, \*:p<0.05)

図 74 各分類における日中の道の可視率の平均値(\*\*:p<0.01)

図 75 東京の路地的な道

出典：A1, A2, A3, A4. 千駄木から谷中, 日暮里へ. 2004.8. ([http://mikkagashi.cocolog-nifty.com/blog/2004/08/post\\_4.html](http://mikkagashi.cocolog-nifty.com/blog/2004/08/post_4.html), 2019.7 現在)

A5. <https://find-travel.jp/article/534>, 2014.11 確認.

A6. 浅草裏路地. 2013.6. (<http://kai-wai.jp/2013/06/post-2017.html>, 2019.7 現在)

A7. 京島三丁目に残る長屋. (<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E5%B3%B6>, 2019.7 現在)

A8. [http://www.geocities.jp/tokyo\\_oh\\_net/sumidaku.html](http://www.geocities.jp/tokyo_oh_net/sumidaku.html), 2014.11 確認.

A9. <http://ameblo.jp/sasabari/entry-11510619603.html>, 2014.11 確認.

図 76 揚子江南部の里弄的な道

出典：B1. 上海-拆迁中的东斯文里. 2013.5. (<http://tuchong.com/330843/4676879/4676812/>, 2019.7)

B2. 新浪旅游. 京味儿：消失中的上海老民居 东斯文里. 2013.9.

(<http://travel.sina.com.cn/china/2013>, 2019.7 現在)

B3. 静安別墅. (<http://sh.tuitui99.com/CommunityInfo7534.html>, 2019.7 現在)

B4. 上海城市进化：静安別墅的未来在哪里. ([http://sh.sina.com.cn/news/e/2011-03-30/1534177831\\_2.html](http://sh.sina.com.cn/news/e/2011-03-30/1534177831_2.html), 2019.7 現在)

B5. <http://news.subaonet.com/2013/0328/1114728.shtml>, 2014.11 確認.

B6. 牵肠挂肚青果巷. 2012.2. ([http://dp.pconline.com.cn/dphoto/2256204\\_5.html](http://dp.pconline.com.cn/dphoto/2256204_5.html), 2019.7 現在)

B7. 夏日无锡，弄堂生活. (<http://pp.163.com/obipanxm/pp/5523183.html>, 2019.7 現在)

B8. 青果巷改造 永葆人文气息. 2013.8. ([http://news.cz001.com.cn/2013-08/05/content\\_1952938\\_4.htm](http://news.cz001.com.cn/2013-08/05/content_1952938_4.htm), 2019.7 現在)

図 77 各類別から選定したアンケートで使用する日中の路地/里弄の写真

図 78 根津の住宅地

図 79 谷中の住宅地

図 80 上海の里弄 その 1

図 81 上海の里弄 その 2

図 82 三鷹台の住宅

図 83 辰巳新道の居酒屋

図 84 無錫の里弄 その 1

図 85 上海の里弄 その 3

図 86 門前仲町

図 87 神楽坂

図 88 南京の里弄風商店街

図 89 上海新天地

図 90 人形町の道

図 91 小伝馬町近くの道

- 図 92 上海の里弄 その4
- 図 93 寧波の里弄
- 図 94 千駄木近くの道
- 図 95 根津の住宅区
- 図 96 無錫の里弄 その2
- 図 97 常州の開発区の近くの道
- 図 98 アンケート質問紙のイメージ
- 図 99 アンケートで使用される写真リスト (番号順)
- 図 100 最も路地/里弄らしいと思われる3枚の写真
- 図 101 日本人/中国人が「日本/中国らしさ」における評価 (日本人赤, 中国人青)
- 図 102 「日本/中国らしさ」についての得点の分布
- 図 103 国別写真群に対する日中の日本/中国らしさの得点
- 図 104 日本人/中国人が「路地/里弄らしさ」における評価 (日本人赤, 中国人青)
- 図 105 「路地/里弄らしさ」についての得点の分布
- 図 106 路地/里弄として識別された道の写真
- 図 107 日本人/中国人が路地/里弄と識別した道における評価
- 図 108 日本人/中国人が「懐かしさ」における評価 (日本人赤, 中国人青)
- 図 109 「懐かしさ」についての得点の分布
- 図 110 路地/里弄と識別される群とそうではない群の日中得点
- 図 111 日本人/中国人が路地/里弄と識別した道における評価
- 図 112 日中の若者同士の比較結果
- 図 113 日本の年輩と中国の若者の比較結果
- 図 114 「雰囲気良さ」についての得点の分布
- 図 115 路地/里弄と識別される群とそうではない群の日中得点
- 図 116 日本人/中国人が路地/里弄と識別した道における評価
- 図 117 「残したいか」についての得点の分布
- 図 118 路地/里弄と識別される群とそうではない群の日中得点
- 図 119 路地らしさに有意に影響する項目で20枚の写真におけるクラスター分析結果
- 図 120 里弄らしさに有意に影響する項目で20枚の写真におけるクラスター分析結果
- 図 121 「雰囲気良さ」と「残したいか」の相関

## 挿入表 索引

表 1 日本東京での調査地区リスト

表 2 中国揚子江南部地域の調査地区リスト

表 3 日中それぞれ 130 枚の写真の分類結果

表 4 写真の分類の判断における一致率

表 5 東京の路地の分類結果表

表 6 揚子江南部地域の里弄の分類結果表

表 7 写真ごとにおける判断と記述

表 8 調査でまとめた要素

表 9 日中各質問上位 3 位と下位 3 位の写真まとめ

表 10 質問項目ごとの最高・最低平均得点の写真

表 11 各質問の日中回答の平均値の正規分布についての検定結果

表 12 路地らしさを予測する回帰式

表 13 里弄らしさを予測する回帰式

# 序

研究の背景

研究の目的

研究の方法

本論の構成

## 研究の背景

筆者は中国から日本へ留学し、入学間もない頃にキャンパス近くの根津に行ったことがあり、そこで筆者が中国の揚子江南部地域の里弄にいる時と同じ懐かしい雰囲気を感じた。中国の揚子江南部地域に生まれ育った筆者が、なぜ見たことがない、体験したこともなかった遠い日本の東京の路地を身近に感じたか、この空間をはっきり日本のものであると認識しつつも、中国人である自分はなぜ昔体験したことのあるような懐かしさを感じたのか。

生まれてから国を出るまでずっと揚子江南部地域にいた私にとって里弄の景色は自分にとっての原風景である。東京の路地の風景のどこが自分のなかの原風景と重なるのか。この身近な懐かしい感覚は中国の北京や上海など大都市の都心部、または東京の新宿のビル群や銀座の商店街では感じていないのはなぜか。当時、路地の景色は私が住んでいた町と似ているのではないかと解釈し、自分を納得させたが、路地ではそれぞれ違う戸建て住戸、日本語の表札、ずらりと並んでいる電柱、どうやら景色が中国の町と似ているの一言でまとめられないことに気づいた。

「都市景観をつくるのは、建物のファサードだけではない。多くの人たちが、家を借りたり、買ったり、仕事をみつけたり、転職したり、結婚したり、子どもを育てたり、単身のままですごしたり、老親を支えたりして、どうにかこうにか、生きようとする。都市の形姿は、人生の実践に関する人々の軌跡を映し出し、ライフスケープとして現れる。この“生き方の景観”が豊かであるかどうかは、空間・社会の開かれ方にかかっている。」と平山（2012）は都市景観について、生き方の景観の豊かさを語った。

人々の記憶だけでなく、都市の記憶としての都市空間の計画が、社会生活を反映した都市の物理的環境、すなわち、各々の都市の特徴を形作っている。路地空間は都市空間の一部として、都市の形姿をそのまま反映できると思われる。路地の景色にもそこに住む人々の軌跡が映っているであろう。この身近な懐かしい感覚はなんだろうか。路地/里弄で感じられたこの感覚を懐かしいと表現するのが妥当であろうか。この場所を知っている、ここで暮らしている人のことを知っている、ここを体験したことがある、ここにいると安心感が湧く、この景色を見ると心が動かされる、などなどこの感覚の中身は豊富である。この感覚は幸せと似ていて、人それぞれであり、一体なんなのかを問われた時、答えにくいものではないかと考える。路地を訪れるたび、この感覚を解明したい気持ちが次第に強くなり、日中の路地空間を研究テーマとする動機とあり、きっかけでもあった。

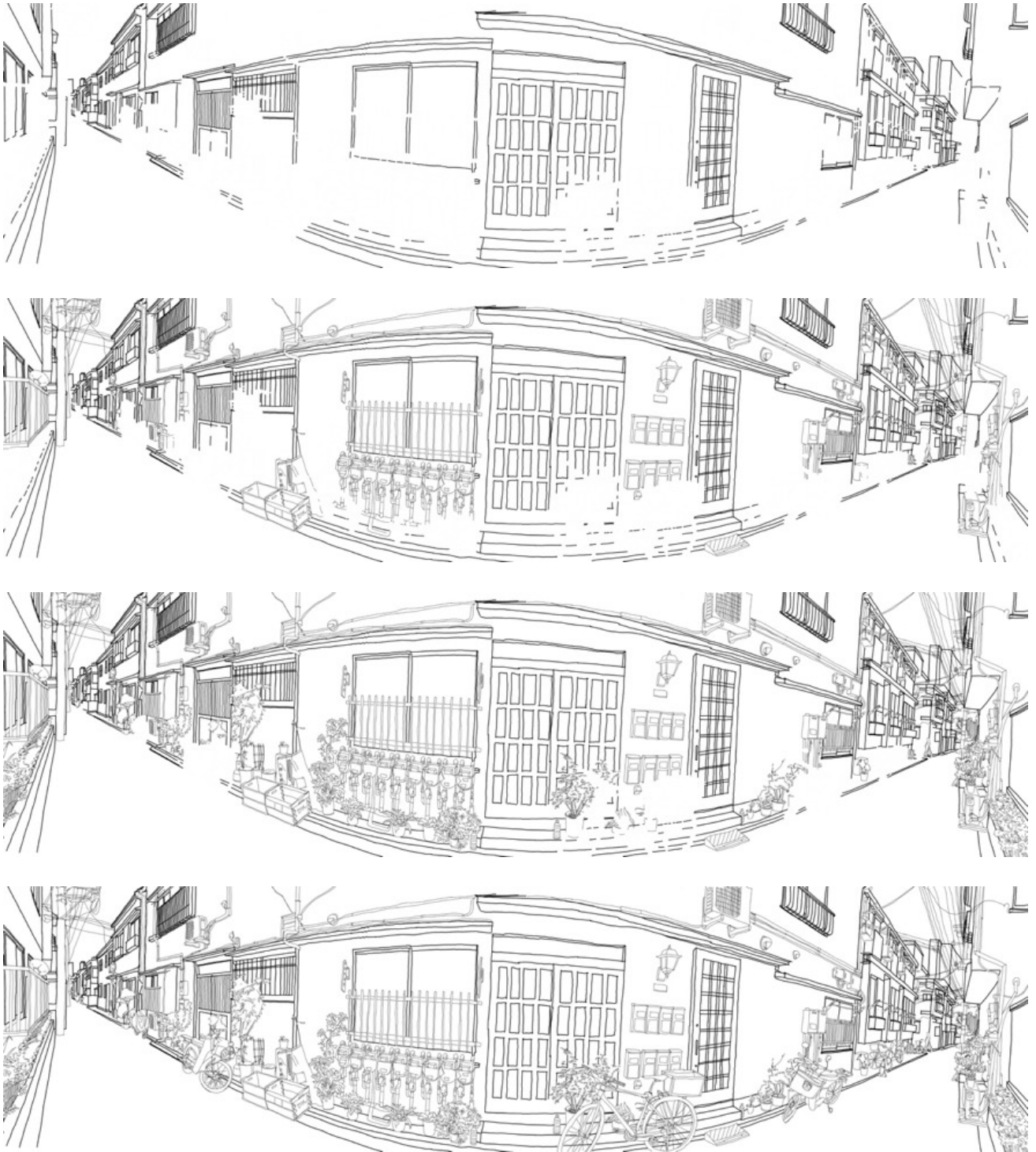


図1 根津の路地（要素の増加につれ，懐かしい感覚が強くなる）

空間・周りの人々・光・音・匂いなどなど，五感を刺激する路地/里弄空間は魅力的である．路地と里弄には独自の何らかのルールがあるのではないか．見た目が違ってても，似ている感覚の仕組みは何であるか．これらは都市の原風景の保存・創造に寄与できるのではないかと研究テーマとしての魅力を強く感じた．



懐かしく思う物事に価値を感じ、残したい気持ちが湧いてくる。日本の東京の路地（図1）であれ、中国の揚子江南部地域の里弄であれ、そこにいるとその町の独特の雰囲気に着かれ、懐かしく感じることもある。なぜ路地と里弄にこのような雰囲気が感じられるか、人はなぜ懐かしく感じるのか、この雰囲気を醸し出す物理要素、この雰囲気の中身を模索し、人々の感覚を日中両国の背景から分析・比較し、雰囲気を醸し出す物理要素の分析や解明が必要となる。

一方、都市開発や社会基盤整備が進んだ昨今、グローバル範囲で大都市（図2）は似かよった様相を呈している。繁華街の街路写真を見るだけでは、それがどの都市のものだと判断することが難しい。都市開発の進捗が都市景観にかつてない影響を与える今日、都市の従来 of 雰囲気や地域らしさの保持、都市に生活している人々の愛着感情、人々がふるさとを感じさせる都市の原風景をどう守り、都市空間をどう発展させていくかを考えるべきである。

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図2 アジアの都市の鳥瞰（左：東京 右：上海）

上述した個人的な体験及び都市の現状をもとに、本研究の研究対象を路地/里弄とし、本論における路地/里弄の範囲、対象とした路地/里弄が位置する地区の選定などについては、先行研究にもとづき、第一章で詳述する。

## 研究の目的

本研究は『日中路地空間の比較研究—東京の路地と揚子江南部地域の里弄を例に』と題し、都市空間の変遷が如実に反映され、歴史的雰囲気醸し出す路地に焦点をあて、アジアの伝統的な町空間の比較研究を通して、フィールド調査を通し、都市空間（路地/里弄）の物理的構成の分析と人々の空間（路地/里弄）に対する印象評価を明確にする研究である。

都市空間の代表例として路地/里弄空間を取り上げ、実地調査を行う。道のデータの整理及び分析図の作成を行い、物理的要素の可視率の分析を通し、路地/里弄の物理的構成について考察する。

人々の印象評価を明確するため、実地調査で得られた写真データの分類を行い、各カテゴリーから写真を選定し、アンケートを作成・実施することにより、人々のイメージを探ることを試みる。上述の作業を通して、路地空間の国際比較研究における研究方法に寄与できると考える。

具体的に、本論では、東アジア（日本・中国）の異なる生活環境で生きてきた違う文化的背景を持つ人々が路地/里弄をはっきり識別することができるか、そして、路地/里弄に対し、類似する懐かしい印象を有するかを検討する。見た目が違う場所が似ているような雰囲気を醸し出すことが可能であり、その原因は物理的要素のほか、物理要素だけでは説明しきれない人々のイメージにも関係あることを示唆する。こうした路地空間に関する印象評価を通じて、各々の都市の従来の原風景や雰囲気をどう守り、どう発展していくかに知見を寄与する。

そして、日中路地空間の発展段階や路地に関する研究成果の多寡に差があることを認め、お互い勉強できる点や改良すべき点を提示し、日本の発展経緯から中国の開発に経験と教訓を提示することを期待する。

## 研究の方法

本論では、都市空間の代表例として路地/里弄空間を取り上げ、日中両国の路地空間の比較研究の必要性を述べたうえ、関連の先行研究の整理を行った。

本論の研究対象である路地/里弄とはどのようなものなのかを日中それぞれの先行研究から明確し、両国の路地空間を比較対象としての妥当性を検証したうえ、地域ごとの背景、歴史的変遷に関する先行研究と史料、古地図集をまとめた。と同時にその地域で行われてきた実地調査の先行研究にもとづき、調査する道の選定及び調査時期等を計画した。日本の東京の路地に近い道を含む地区10箇所と中国の揚子江南部地域の里弄に近い道を含む地区8箇所においてフィールド調査を実施した。（資料の入手方法、調査のデザイン方法、アンケート・インタビューの尋ね方は『建築・都市計画のための調査・分析方法（改訂版）』（2012, pp.14-36）を参照した。）

調査対象地を選定してから、予備調査とし、違う時期に分け、その場を訪ねた。その後、本調査で従来の研究の文法を参照しながら、目視調査では、道の基本データを記録し、具体的な図面をもって路地の両側の建物の現状、路地の空間構成やあふれ出しなど私的領域の拡張要素を記録した。実測・写真等実測調査の作法（『建築・都市計画のための調査分析方法（改訂版）』, pp.86-89）に従い、現場での道幅の実測等を行った。写真調査では日中で合計9870枚の写真データを集めた。

実地調査で得られたデータをデータシートでまとめ、分析図を作成した。写真データにもとづき、路地/里弄空間を分類し、各分類の物理要素の可視率を分析した。さらに、カテゴリーごとに日中それぞれの道を選定し、アンケートを作成した。アンケートを日中それぞれで実施し、「路地/里弄らしさ」、「日本/中国らしさ」、「懐かしさ」、「雰囲気よさ」、「住みやすさ」、「残したい風景か」6つの質問を通し、日本人と中国人それぞれの評価を求め、その評価の平均値の分析により、路地の識別及び人々の路地に対する印象を解明した。

これらにより、日中の異なる生活環境で生きてきた違う文化的背景を持つ人々が路地/里弄をはっきり識別することができること、そして、路地/里弄に対し、印象には明確な差が見られなかったことを検証し、路地空間の文化・社会制度・伝統を超える共通的な認識を明らかにする。

## 本論の構成

序では研究の背景である筆者の体験と都市の現状を述べ、研究の目的、研究の方法及び本論の構成（図3）を説明する。

第一章では、路地/里弄とはどのようなものか、路地と里弄の異同を先行研究から明らかにする。先行研究の定義を見ながら、本論で扱う路地/里弄の範囲を定めた。続いて、先行研究の全体像を概観したうえで、本研究ではこれらを重要と思われる5つの先行研究（①路地/里弄の物理的特徴、②路地/里弄の心理的評価、③現状調査、④リノベーション・再開発、⑤アジアにおける路地的な道）をまとめる。その後、路地/里弄の具体例として、先行研究を中心に東京の路地的な道と揚子江南部地域の里弄的な道を整理する。最後に、本論の位置づけを述べる。

第二章では、フィールド調査と調査で得られた物理量の分析を行う。第一章の先行研究にもとづき選定した地区において、具体的に調査する道の確認と調査区画の限定のため、予備調査を行った。予備調査では、①ESRI社のWEB GISにより、地域の基本データの取得（補足でGoogle Earth, Google Map, Open Street Mapを使用した）。②目視調査では建築用途、表出・あふれ出し、街路の構成パターン、建築物の高さや道幅などの記録。と③区画の限定を行った。本調査では、目視調査のほか、写真調査を行い、一定の手順で道の写真データを得た。調査で得られたデータをデータシートでまとめ、調査した道の分類を行い、道の物理要素の可視率を分析した。

第三章では、日中の人々の路地/里弄の識別及び印象評価について、アンケート調査及びその結果の分析を行った。まず、複数の写真から路地らしいものを選び出す予備調査を行った。何組の写真を見せ、被験者が考える一般的に路地風景と思われるものを選び出させ、その理由となるいくつかの要素を挙げさせた。被験者が語った路地であるものを記録し、それぞれの判断に關与する要素をまとめ、箇条書きで整理した。さらに、第二章の分類ごとに日中それぞれ2枚の写真を選定し、アンケートをデザインした。アンケート調査を日中で実施し、質問ごとの分析及び質問間の関係性を検討した。

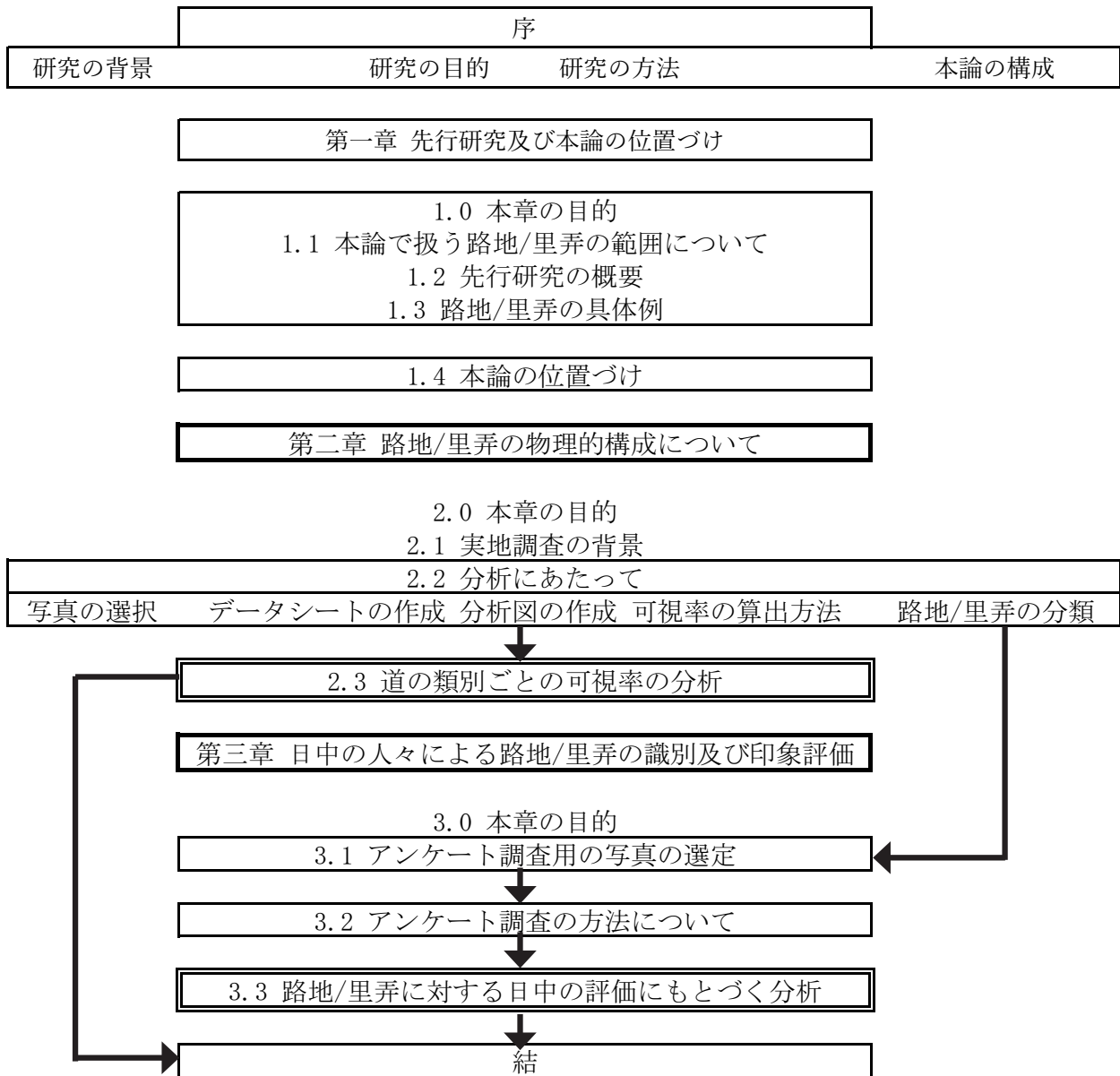


図3 本論の構成

# 第一章 先行研究及び本論の位置づけ

## 1.0 本章の目的

### 1.1 本論で扱う路地/里弄の範囲について

### 1.2 先行研究の概要

#### 1.2.1 日中両国の路地/里弄研究の概要

#### 1.2.2 路地/里弄の物理的特徴

#### 1.2.3 路地/里弄の心理的評価

#### 1.2.4 路地/里弄の現状調査

#### 1.2.5 リノベーション・再開発

#### 1.2.6 アジアにおける路地的な道について

### 1.3 路地/里弄の具体例

#### 1.3.1 東京の路地的な道

#### 1.3.2 揚子江南部地域の里弄的な道

### 1.4 本論の位置づけ

## 1.0 本章の目的

本章では、路地/里弄とはどのようなものか、路地と里弄の言葉の異同を先行研究から明らかにする。先行研究の定義を見ながら、本論で扱う路地/里弄の範囲を定める。

さらに、第二章、第三章で扱う物理量及び心理量の分析に関連する先行研究及び現状調査、リノベーション、国際的比較研究の先行例をレビューする。続いて、先行研究で扱った路地/里弄の具体例を挙げる。そのうえで、本論の位置づけを明確にする。

## 1.1 本論で扱う路地/里弄の範囲について

### 路地と里弄の言葉の類似性について

『広辞苑』(第六版)によると、路地は「人家の間の狭い通路」とあり、特定の時代のもを指すのではなく、一般的な言葉として使われている。一方、中国語の辞書『新華字典』(第10版)では、「里」の字のところに、住む所及び近所と記されており、「弄」の字のところに、「<方>表通りから横に入った住宅街の一部で、小さい道をはさんでいるもの=弄堂」と記述されている。中日辞典『現代中国語辞典』(第1版)によると、里弄は「「胡同」の上海方言」であり、中国揚子江南部地域で広く使われている。日本語では「路地、横町」とされ、路地と同義に扱われている。『日中辞典』では、路地は胡同であり、里弄であるとされている。

このように路地と里弄は互いの訳語をされており、そこに類似性が考えられている。

### 路地の概念について

Wikipediaの路地の項目より、「路地とは、密集市街地に形成される狭い道のこと。露地(屋根のある建物以外全般の地面)に派生したもので、家屋の間に便宜的に設けられた通路である。主に歩行者やそれに順ずる者の交通に供され、自動車の交通はえてして考慮されない。いわゆる「横丁」はおおむね同じようなニュアンスがあるが、「路地」と表現されると更に狭く隣接する建物の関係者以外はほとんど利用しない道を示し、生活道路を含む自動車交通に対応した主要な道路とは別に、勝手口など重要ではない出入口から家屋に出入りするために利用される。」との記述がある。

また、上田、田端(2013)が定義する路地は「公共性を持ち、かつ公私混交の空間であり、迷路性があり、車が入らない、利用上の可変性や可能性を持っている「荷風の路地空間」」である。路地裏の人々の姿を描く『路地裏の社会史』のなか、木村(2007)は路地について、「路地は、家と家の間を、迷路のように結んでいた。五軒長屋、十軒長屋が立ち並び、路地はその間を縫ってい

た。」，「表通りからはそれと気づかれないまま，路地は家々を細い線でつなぎ，更に細かくなるとそのまた，奥へとつながっていった。」との記述を残っている。

現代の路地の概念に関しては，小林（2014）が訪ねた種々たる路地について，下記の画像（図4）でまとめた。

## インターネット公表に対する 著作権者からの許諾が得られていない

図4 種々の路地（小林，2014）

図4のなか，建物のなかに設けられた両側に店舗がぎっしりと並んだものやアーケードのある商店街，または歴史的価値のある観光地化されたものも挙げられた。

上記の物理的な特徴を持つ路地は，現地の人々の生活が感じられる空間，懐かしさを感じ，ホットする場所とされてきた。（上田ら，2013）

### 本論における路地の範疇

以上のように，路地における定義の仕方が多様であり，正確な定義が難しい。80～90年代に路地に巡って数多くの研究者が調査を行い，自らの考察と経験から路地の特徴をまとめ，路地について論じた。

昔では，多数の路地が下町に位置しており，下町と路地との関係性が強かった。だが，時代の変遷につれ，下町の領域が曖昧となり，現在では郊外にも路地/里弄があり，下町的な雰囲気を出している現状となっている。

したがって，本研究で扱う路地が位置する場所を，今現存するところを前提で，かつ昔また今も川の近辺に位置する地域とする。補足として，東京の路地は下町に位置する路地であると思われがちが，予備調査で人々の路地に対する印象を問う調査を行った結果，そうとも限らないことがわかった。

### 里弄の概念について



「路地」は日本固有の概念であり、それらを中国にそのまま援用するのが不適切だと判断した。中国では、「里弄」や「坊巷」の概念が完全に「路地」と一緒ではないが、それと近い概念である。本論では「里弄」を使うことにした。

「里弄」はもともと上海の方言であり、里弄住宅の間の道を指している。次第に、狭い道の代名詞となり、中国の揚子江南部地域（一般的に中国の江蘇省、浙江省、上海市の3行政区画を指す言葉である。3つの地域は地理的に隣接し、歴史的な成り立ちに共通点が多数見られる）ではこの呼び方が広く使われている。

上田、田端（2013）は「里弄」の言葉を下記のように解釈した。「「里弄」という言葉にはどのような意味があるのだろうか。通常、里弄といえば、路地と一体となった棟割の建物群、またはその形式を指す。一方で、「〇〇里」は、ある里弄の集合体の固有名詞であって、いわば日本の団地名に等しい。そして、「里」は「中」、「弄」は中国の南方で「小路」を意味する。つまり、「里弄」とは街区の中に作られた路地なのであって、それが棟割の建築形式と一体となって存在することから、里弄といえば街区内部の路地に面した建築群という解釈に至るのである」。補足として、「里弄」は「街区内部の路地に面した建築群」として解釈できるが、「里弄住宅」という正式名称があり、「里弄」は道として、日本語の「路地」としての意味合いが一般的である。

そして、揚子江南部地域の旧市街地が指す地域を東京の旧市街地に解釈することができる。昔運河や川が豊富で、住宅地がぎっしり並べ、時代的な地域を指すことが多い。今になってその地域の住宅の居住条件が悪く、その経緯と成り立ちも東京の旧市街地と類比できる。

## 本論における里弄の範疇

以上のように、里弄は上海で発達し、里弄住宅ありの里弄である。揚子江南部地域では里弄は日本の路地のような共通概念として認識されることがわかった。したがって、本論で扱う里弄の範疇を揚子江南部地域に位置するものとする。

## 本論における路地/里弄の概念

上述のように、里弄の成り立ちが明確であるに対し、一方、路地の歴史的変遷がもたらす多様性がゆえ、路地の定義が曖昧となる。

日中間わず、密集住宅地で路地/里弄が発達し、現在に至った。路地と里弄はともに細い道であり、住まいが多く、しばしば独特の懐かしさを感じられるなど共通点を持っていると思われる。路地・里弄ともに辞書では住まいと関連付けられていることから、本論における研究対象である路地と里弄を住宅区に位置するものとし、商店街及び人が住んでいないところのものは除外して考える。

本論の研究対象は「隣接する建物の関係者以外はほとんど利用しない」、「勝手口など重要ではない出入口から家屋に出入りする」に限らず、道幅が4m以下である路地/里弄的な道とそれに類似した道を研究対象とする。

本論における路地は以下の条件を満たすものとする。下町とその後形成した地域を含め、道の両側の建物は居住用途のものを含む道である。道の上には構造物がなく、空が見える。そして、通り抜けのみ機能する道、または室内にある道は対象から除外する。

## 1.2 先行研究の概要

路地や里弄を扱った日中それぞれの既往研究は数多くある。特に日本の場合、膨大な先行研究がなされてきた。これらにより、各地の路地や里弄の変遷経緯やあふれ出しなどが調査され、路地や里弄の物理的特徴（大橋ら、2004；李、2013）、形成過程（Zhao,2004；盧ら、1992；申、2012）、使われ方（鈴木ら、1984）や社会心理的効果（小林、1988；青木ら、1994）などが把握されてきた。また、里弄については特にリノベーション（陈、2012；Arkaraprasertkul, 2009）の報告が数多く提出されていた。しかし、路地と里弄を比較対象として捉え、国際的な視点から研究した例は少ない。路地と里弄それぞれの雰囲気や人々の愛着に関する言説（金、2013）はあるが、生まれ育つ環境や文化が異なる人々の路地及び里弄に対する印象評価の研究は管見にして未だに見たことがない。

一方で、アジアの路地に共通性を感じている研究者はおり、例えば上田、田端（2013）は、路地と里弄それぞれに異なる由来があり、定義も諸説あるが、アジアの路地はいずれも共通してヨーロッパの広場の役割を果たしていると論じていた。しかし、路地と里弄が同類の印象を持つかどうかを確かめる研究はなされてこなかった。

ここでは、日本の路地について、中国の里弄についての先行研究の全体像を概観したうえで、本研究に重要と思われる先行研究を以下の5つの項目でまとめる：①路地/里弄の物理的特徴、②路地/里弄の心理的評価、③現状調査、④リノベーション・再開発、⑤アジアにおける路地的な道。

## 1.2.1 日中両国の路地/里弄研究の概要

日本では路地に関して、1980年代から90年代に数多くの研究がなされ、歴史的な形成経緯や実地調査、住民の意識調査などの研究が行われてきた。一方、中国では都市建設が進んでおり、里弄の取り壊しや都市再開発が日々行われるなか、里弄を研究対象として取り上げ、里弄の歴史的価値を再認識する研究が見られる。

### 日本側の先行研究の全体像について

1980-90年代をピークに関連研究がなされてきた。主なテーマは以下のとおりまとめる：

#### ①下町及び路地の歴史変遷を考察する研究。

そのなか、下町において、その発展の歴史推移（篠原，1997；小野ら，1999；松浦ら，2005；馬場，2005；生田ら，2006；藪崎ら，2008；サルバトール・ジョン，宮脇，2009；永井ら，2012），そして戦後土地区画整理（野々村，1960；中島，2009；山崎ら，2013）における袋小路や過小画地（佐原，1968；江面，1978），長屋や路地の更新過程（大月ら，1994；小林ら，1994；市岡ら，1994；水島ら，2003；田中ら，2010；山崎ら，2011）に関する研究がある。路地において、路地空間の形成（伊藤ら，1994；金井ら，1994；金子ら，1994；岡本，2003；河形ら，2010）とその歴史経緯（江面，1978，1989）に関する研究が挙げられる。

#### ②路地空間における調査に関する研究。

路地の空間構成（森，1988；大場，1987；橘ら，1991；西田ら，1992；菊地ら，1994；斉藤ら，1995；松口ら，1996；工藤ら，2003；中島，2004；千島ら，2009；友常ら，2009；三森ら，2011）について、多数の研究がなされてきた。そのなか、敷地との接道条件などに関する空間研究（材野ら，1983）が挙げられる。路地の機能に関して、金ら（1995）は隙間機能と行動の関係を論じ、高木ら（2010）はセキュリティ空間の調査を行った。路地に住んでいる人（児島ら，1990；荒井，2000）とその行動（篠田ら，2007），あふれだし（青木ら，1993，1994；市川ら，1999）等による私有領域の拡張（波多野，1987；横山ら，1994；高桑ら，2012）が論じられ、路地の機能性（斉藤ら，1992；花里ら，1992；西田ら，1993；金ら，1994；横山，2000；広畑ら，2011）及び人々の路地に対するイメージ（持丸ら，1993），地域との関わり方（篠崎ら，1994）に関する研究が見られる。

③主な研究方法として、土地台帳・国勢調査・文献から調べ（手島ら，1989），空間変化とその発生原因などが分析された。これらの手法は地域の成り立ちと形成経緯において、有効であることがわかった。空間構成や世帯に関して、多数の調査研究ではアンケート及びヒアリング調査を通じて行われ、その有効性が確認された。空間分析において、写真による空間構成やイメージの分析では積田ら（2006）はグリッド解析法を採用し、具体的な物理量の抽象化を行った。

本論では従来の研究手法を参照し、ピクセル比率による可視率の分析及び写真によるアンケートにもとづきのイメージ調査を行う。

## 中国側の先行研究の全体像について

中国側の研究文献では、路地に対応する言葉は様々であり（北部では胡同、南部では里弄や弄堂、巷子）、里弄の概念自体も地域によって多少差がある。本論で扱う揚子江南部地域では「里弄」という言葉が一般的に使われている。

ここで扱う先行研究は「里弄」という言葉が使われている地域である揚子江南部地域に関する研究に限定する。なお、中国では里弄を研究対象としてのフィールド調査が少なく、里弄の再開発及び人々のイメージ調査がほとんどであった。以下のとおりにまとめる。

### ①再開発を目的とする研究.

伝統文化（忻，1995；陳ら，2009；王ら，2010；王ら，2012）と都市構造（藤島，1998）を考察し、そのうえ、再開発事例（上海人大月刊，1992；布，2001；現代城市研究，2002；昭ら，2005；陳ら，2007；上海房地，2008；方，2008；何ら，2009；林ら，2009；戚，2001；牧野ら，2010；張，2010；李ら，2010；姚ら，2013；李ら，2013；陳ら，2013）及び再開発の必要性和価値（張，2005；阮ら，2009）を論じ、伝統建造物の保護（陶，2001；万，2014；严ら，2014）と開発の方法（卢ら，2007）の研究が挙げられる。再開発を通して、旧来のものの保存利用が研究の主な傾向と見られる。

### ②空間における調査や人々のイメージに関する研究.

現存する里弄住宅空間（重村ら，1988,1992；王ら，1999；八代ら，2005；大森ら，2009；吳ら，2013；林，2013）に関する研究が見られたが、歴史沿革または定性的なもの（譚ら，1986；本多ら，1995；董，1997；姚，2000；陳，2001；王，2005；吳，2006；羅，2006；阿，2006；何，王，2008；大熊ら，2012；楊，2010）にとどまっている。これらの論文の目的は里弄を如何に都市開発に運用するのである。また、里弄に生活する人達の生活環境（根橋，1991；李ら，1999,2000；戚ら，2005；村松ら，2009；川辺ら，2011；肖，2012）と需要（華，ら，1994）及び行動（張，2013）に関する先行研究があるものの、エッセイ、小説や映像では見られるが、論文で扱うのは少ない。

## 日中の先行研究の相違について

上記、日本側では歴史変遷からの考察のほか、路地空間における物理的構成の調査や人々に対するアンケート調査が多く見られる。一方では、中国の先行研究は定性的なイメージ調査や再開発を目的とする検討が多く、定量的な研究がほとんど行われてこなかった。

路地/里弄空間に関する研究の進捗状況について、日中の研究に大差があることを認めざるを得ない。したがって、本論では、日本側で使われた手法を使い、日中の路地/里弄を対象とし、比較研究を行うことによって、中国の里弄研究の分野の空白を埋めることを目指したい。さらに、両国の路地空間の比較から得られる知見や相互に学べる研究・検討の作法を提示し、路地空間における文化・社会制度・伝統を超えた共通的な認識を明らかにしていきたい。

## 1.2.2 路地/里弄の物理的特徴

### 路地の物理的特徴

図5で示すように、小林（2014）が路地の特徴を路面、側面、付属、視界の4つの部分に分け、それぞれの特徴を述べ、ヒューマンスケール、D/H、生活的要素や視線が強調された。路地は、単に狭い道だけではなく、その両側にあるもの、道と建物の比率、またはあふれ出しや生活感のあるものも重要視されている。

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図5 路地の構成：路面 側面 付属 視界（小林，2014）

この節では、路地に見られる物理的構成に関する先行研究を述べる。あふれ出しに関する鈴木（1984）の先行研究のほか、それにもとづく、小林（1985）の領域表示物に関する研究が挙げられる。

### あふれ出し—領域表示物

小林（1985）はなわばりについて、それは「人間の本能によるものであり、領土紛争、建て替え時の境界トラブル、役所管理範囲にめぐるなわばり争い、研究室模様替え時のテーブル占有などがあげられる」と記し、人間のなわばり性による、領域形成の構造解明、及び建築形態の差異による領域形成における影響をアンケート調査で実証し、博士論文でまとめた。

そして、人間における距離と自分の領域を示すために用いた方法について、「個人を中心として他人の侵入を拒否する空間という点で、なわばりの一つの原型と見ることができよう」と述べ、住戸近傍における生活行為を領域性・防衛性・表出性の三側面に分け、領域表示物は自分の領域を他者に表示するために、使われる方法であると記述した。

その領域表示物については具体的なものを挙げ、そしてものには排他的な機能のほか、他者との交流を促す機能も有すると述べた。

「J」エドネイ（1972）郊外住宅地の調査から、居住年数の長いものほど、塀やフェンス・縁石・植え込み等の領域表示物が多いことを明らかにし、さらに、このような排他的な表示物のある宅地の居住者は、他者の侵入に対してより素早く反応する（防衛行動を行う）ことを見出した。」

「ある種の領域表示物は他者を排除するよりは、むしろ他者と交流を促進する働きがあることが知られるようになった。その典型は、領有者の個性を他者に伝える「表出物（self expressing element）」である。」

具体的に例を挙げると、「家の排他的領域表示物」には「塀と門による領域の表示」、「縁石と段差」、「アプローチの仕上げの違い」、「植木鉢」、「路地に面した窓」などを挙げた。これらの領域表示物について、「表出とあふれ出し二つの性格に分けられる。ひとつは、収納不足などから住戸前に溢れでたゴミバケツ、空き箱、自転車等であり、ひとつは、住みての個性を外に伝え、住戸に豊かな表情を与えている植木鉢・ユニークな表札などである。前者を「あふれ出し」、後者を「表出」とよぶ」と記した。

ここで、住民の表出及びあふれ出し行為を含め、その建物にまつわる領域形成に関する行動は人間のなわばり本能によるものとわかった。そして、共有領域の形成がプライバシーの犠牲のもとに成り立っていると思われがちが、「共有領域が形成されることで、プライバシーが確保され、逆に、プライバシーの確保が共有領域形成を促すという現象が見られ、両者は対立関係というより、むしろ強い相補関係をもつと考えられる」と述べた。

さらに、共有領域の多義性に関しては、「共有領域は、常に他者を排除するものではないとしても、領有者の支配を無視して自由に侵入し、そこで勝手気ままな行為をすれば、共有領域の形成は著しく阻害される」、「また、共用空間に居住者自身が出ていることも、そこが共有領域であることを知らせる働きを持つ」と記述した。

人間は自分のプライバシーを確保するため、領域表示をする。その手段として、表出やあふれ出し、及び建物立面と外部空間の設計と改造が見られる。

## 里弄の物理的特徴

里弄の歴史形成経緯をまとめた論文では、重村ら（1988,1992）、王ら（1999）は里弄住宅の街区構成や里弄住宅の種類を論じ、建物についての特徴がまとめられた。また、里弄住区の全体像についての論文や小説などはあるが、日本のような里弄を里弄住宅から分けて、道に対するフィールド調査はほとんどなかった。

## 1.2.3 路地/里弄の心理的評価

路地/里弄の心理的評価に関する先行研究は本論の第三章のアンケート調査における環境の識別、場所愛着を分析する際の参考となる。

### 各国の人たちの環境に対する識別と印象の類似性

環境の意味には、表面の形態やテクスチャから直接感受され反応を誘うことのほか、「宗教的・文化的意味のような象徴的な意味、そして表面的な形態や特性の背後にある環境の状態、役割、地位、機能のような意味」が含まれている。

環境行動を解釈可能な理論として分析するため、多様な文化背景、各時期、及び違う環境をもとに分析しなければならない (Rapoport,1990) が、そのためには、それぞれの環境について持つ表面的な形態や特性の背後にあるこれらの意味を知る必要がある。これらの意味を読み取る過程は、環境心理学では、環境推論と呼ばれている。(羽生, 2007)

環境推論に関して、羽生ら (2012) は日英の庭の弁別における一連の研究で、日本と英国にある個人の庭の写真を用い、「居住国と知識の違いがどのような影響を与えるか」を検討し、日英の庭の間には違いがあり、庭が属す国の弁別がよくできており、弁別力には居住国と専門的教育の影響が大きいという結論に至った。

また、日本、英、独、伊の近郊住宅地の庭の写真を日本人学生に弁別させ、「見慣れた」庭は日本、「見慣れない」庭は外国のもの、そのうち、芝生のあるものがイギリスの庭、高木のある庭はドイツのものなど、それぞれの国に対するイメージの存在を示唆する研究がなされた (大森ら, 2005)。

さらに、東アジア圏という近い文化環境の中では環境推論に関する国際比較の研究がある。例えば、金ら (2001) は河川に対する評価を日英中の間で行い、英国人は日中の人たちと違い、歴史的なものを高く評価する傾向が見られることを明らかにした。ただし、片方の国のものを評価しただけで、違う国の違う物に関する印象評価の比較はなかった。また、居住国と背景の違う人たちがいる環境を国別に弁別できたとして、その環境に対する感情や印象評価の類似性の研究も見られなかった。

また、大森、羽生ら (2005) は違う国 (日本と英国) の同じ対象 (庭) を使い、印象評価を日英の間で行われた先行研究はあるが、本論では、日本の東京の路地と中国揚子江南部地域の里弄をピックアップする。調査参加者の居住国を東アジア圏の日本と中国にし、個人の庭ではなく、庭より公共性を帯びた住宅地の道に焦点を当てる。日本の路地、中国の里弄、それぞれ違う国の違う概念のものを日本在住の日本人、または中国在住の中国人に対する調査を行った。さらに、今まで論じてこなかった保全意識に関しても調査することに価値はあると考える。



## 場所愛着及び環境選好

環境に対する感情を扱った研究として、一連の場所愛着の研究が挙げられる。

1960年代から、人と場所の関連性が研究され始めたとされるが(Lewicka,2011)、場所愛着は人間—環境と関連する複数の独立した要素の総合作用として考えられ、「人と特定の環境との間の感情的絆(emotional bonds) (Altmanら,1992)」、 「個人と居住環境との間の肯定的なつながりで、または個人とある場所を結ぶ、個人をある場所に居続けさせる積極的な要因」(Hidalgoら,2001)などと定義されることになった。そのつながりは心地よさや安心感を生む(Sugiharaら,2000)など、場所愛着がもたらす効果を考慮する研究も数多くなされてきた。(園田,2002)

場所愛着を現象学的な手法でとらえ、記述する研究が多かったが、一方、計量的な研究もなされてきた(園田,2002)。例えば、Hidalgoら(2001)は「その場所やそこに住む人たちから離れると、悲しいか」を評価項目として定量評価した。Lewicka(2011)によると、他のことを目的とする大規模な調査においても場所愛着に関連する質問があり、特定の場所に対する「あなたの愛着のレベル」や場所への帰属感などが直接的なことばで問われた。しかし、特に国際比較研究においては、これらの直接的用語だけではない共有できる心理学的尺度がまだ十分ではないと考えられる。Lewicka(2011)はさらに、対象者数の大きい調査ではせいぜい2,3の尺度についてしか聞くことができず、単純な尺度にならざるをえないとも指摘している。

園田(2002)は代表的な5つの研究で用いられた質問項目を整理しているが、その中には、「気に入った」、「幸せ」、「リラックス」、「自分の一部」、「故郷の感覚」、「離れると寂しい」などの感情の描写が含まれ、場所への愛着を砕いて、普段の感情表現で表していると思われる。本論でも、普段の感情表現を用い、路地/里弄に対する愛着を表す。

感情を表す言葉において、東西には差がある。個人と場所との間の感情を表す際に、東洋の日本人と中国人の普段の表現では、場所について、「愛着がある」、「自分の一部」、「幸せ」または場所を愛するなどの強い感情表現はあまり見られない。

したがって、ここでは、「懐かしい」という感情表現を用いたい。「懐かしさ」は日中ともに存在し、同じ意味で使われるからである。また、場所に対する肯定的な感情の表し方として、西洋にも通じ得る故郷の感覚が伝わることによる。

## 環境に対する保全意識について

日中とも都市開発に伴い、路地/里弄のような空間が徐々になくなり、特に中国の場合、古い里弄を取り壊し、新しい開発や観光地化する運動が盛んになっている。そこで、人々の路地/里弄についての価値評価、及びこのような空間の存在意義の問題に関する考えを捉えたい。

Korpela(2012)によると、従来、場所愛着の研究において、人々の感情変化、自意識、個性、学習、文化などとの関連性が論じてきたが、場所愛着がその場所の利用価値及び保全に積極的な役割を果たしているか否かはまだ十分に確認できていない。本論のアンケート調査では、この風景を

「残したいか」の質問を設け、路地/里弄の価値を人々の路地/里弄に対する保全意識から探ってみたい。

### 路地の原理的説明・本質的意味

路地について様々な言説が見られる。路地を平民の身近な存在と記している（永井，1999）。そのほか、上田ら（2013）の『路地研究—もうひとつの都市の広場』（以下『路地研究』とする）では、路地の本質を広場として考える先行研究もある。上田ら（2013）は路地の原理的説明及びいくつかの国の路地の調査を記録し、本論の参考となるので、補足する。

路地の意味の変遷については、昔日本人の「労働や余暇の屋外生活空間」として認識される路地はなぜ今、路地という字をあてて「都市の中の狭い道路」を意味するようになったのかを問いかけ、路地が時代に従い、変容すると明記した。

そして、路地の本質ヒロバ性について、「貿易＝市＝広場」ではあるが、道でも貿易ができる。路地は和気あいあいであり、色々な人ともものがあるのは路地のヒロバ性ではないかと推論する。ヨーロッパのように道が広場に繋がり、広場で貿易や集会が行われると違い、広場が少ない日本では路地が広場の役割を担い、ヒロバ性を有するとは言える。だが、それを「路地が広場として使われ」と言い換えるかについて、路地の本質のヒロバ性を交換場として市の機能を有する。ところが、広場には市があり、交換が行われるが、交換が行われる場所は広場に限らず、交換場がヒロバ性を有するとも言えにくい結論に至った。

路地の機能に関しては、「多くの写真のなかに見て取れるのは、路地敷地は小規模とはいえ、都市に求められるあらゆる機能要素を魅力的な装いを伴いつつ、展開させているということだ。（中略）それらが景色の多彩さ・シークエンスの豊かさ、そしてヒューマンスケール性などを作り出している」（上田ら，2013）。路地は都市空間をヒューマンスケール化し、上田ら（2013）は路地空間の特性を下記「①都市空間のヒューマンスケール化、②都市的シークエンスの豊饒化、③にぎわい感の多層化、④多様な都市機能受容能力、⑤新しい仕事の創出空間」のように要約した。

そして、近代都市計画の課題として、アメリカの環境のいいとされるポストン郊外の犯罪発生率は再開発計画されたイタリア移民が多く住む地域より高い例を挙げた。街路の安全を保つために、常に多数の目の存在、つまり都市の多様性がもたらしていることを明らかにした。ここで、路地に暮らしている人の重要性が強調され、都市計画における重要な要素として、人目の役割が語られた。

『路地研究』は12人の学者がそれぞれ12の国の「路地のような」ものを研究対象とし、書いた文をまとめた一冊である。そのなか、路地の本質的意味を「ヒロバ性」と呼び、12の国の路地研究をそれぞれ紹介したが、それぞれ独自の方法を使い、互いの比較はなかった。国によって、伝統・文化・気候・風俗・人々の習慣や考え方など本質的に違うものから生まれる表層を同じ視座で比較するの難しさを実感させる。

「「都市における路地の本質的な意味は何か？」という議論は必ずしも十分ではなかった」（上田ら，2013）。地域的な課題，またはノスタルジーの対象としての路地論は多いが，路地の意味・役割を論じたものは少なかった。そして，上田ら（2013）は路地が「歴史や文化のなかで生成されてきた核心的都市装置である」ことを論証しなければこのさき路地は消え失わせてしまうかもしれない」と述べ，さらに，「世界各地の路地を積極的に見直すという方法によって，ヒトの住まう都市に必須の要素，未来の都市空間づくりに欠くことでできない施設としての位置づけが提示出来たと感じている」と言い，「これからの都市づくりには，都市の細部に分け入り，その特質を見極めるという方法を開発する必要がある」と路地に関する研究の役割を明確にした。本論において，日本の東京の路地と中国の揚子江南部地域の里弄を比較対象としての研究意義及び位置づけは上記の記述に当てはめる。本論では路地の空間構成や人々の路地に対する印象評価をデータで捉え，定量的に研究するのは難しい（上田ら，2013）とされる路地を分析してみる。

## 1.2.4 路地/里弄の現状調査

日本側では、既往文献で見られる路地における現状調査について、都市計画に関する調査（高ら、1995）や現地調査にもとづき、「人間に親しみ易い住環境の生成システム」を建築計画学的視点から構築・提案する研究（西田ら、1992）のほか、高木ら（2010）は住民による自然監視で安心感のあるセキュリティ空間を研究し、対象エリアと道の形式、入り口の形式・幅員・視線の通る距離・路地を使う人・路地の使われ方、安心度と、路地における被害例を調査し、安心度を上げる空間の特性をまとめた。

各地域に調査がなされ、下記では、東京を中心に、路地に関する現状調査の先行研究例を紹介する。

東京の谷根千（谷中・根津・千駄木）では、橋ら（1991）が下町住宅地の構成秩序について研究をなされ、図面を持って、塀・表出の分布、過去の土地利用形態、街の構造特性を解明した。

根津の地域研究と題する西田ら（1992、1993、1994）の一連の研究では、現地調査により、地域の現状、居住環境と使用者の利用状況をまとめ、「高密度につまんで住むための居住様式」としてアクセスポイントマップを作成し、建物の利用状況、路上で観察されるアクティビティ、視線透過性の分布、地域特有の視覚情報などがわかった。

小林ら（1994）の汐入に関する一連の研究では、地区の形成過程と災害履歴、住宅更新システム、住民に対するインタビューや聞き取り調査、路地のいくつかのタイプ、建物分布、各地区の特性を検討した。路地は自然発生より、むしろ複数の地主が計画性を共有することによるのものであると指摘した。

江面（1978）が東京の佃島の民家の調査で、現状の実測図面（平面・断面）、民家の内部と外部の写真撮影、建築年代の史料研究、居住者の家族構成や職業について聞き取りをした。さらに、可能な範囲での復元平面図、部屋構成とそその変化などをまとめた。

大橋ら（2004）は墨田区京島を事例とし、なくなりつつある路地の幅員、形状分布及び建物と道の接し方を検討した。

友常ら（2009）は月島と神楽坂を例に、都心部の路地の迷路性、長屋配置の効率化と集団生活の合理化から、路地空間の構成原理及び路地の両面性を論じた。また、新治ら（2009）は月島に新しい要素が多く、古いものがあまり見られないと指摘し、開発で生き残った統一感をもたせた雰囲気のある空間の保存に必要であるものの検討を行った。

東京隅田川の路地空間の領域化としてのあふれ出しの調査では、青木ら（1993）は私有領域が開放的空間または閉鎖的空間のどちらかになりやすいを仮説とし、現行の計画概念の再検討を試みた。そのなか、路地空間の概念の解説、調査対象地の平面図、建物立面図、路地空間・長屋、あふれ出し率と路地空間の史的変遷の整理を行った。

齊藤ら（1995）は統計と街路の構成や分析図面を用い、東京区部の空間構成の類型を研究し、「まち」のなかの道路は変化しにくく、緩慢であるが、一方、敷地や建物の変化が頻繁であることを指摘した。

高桑ら(2012)は埼玉県八潮市における水路路地の私領域拡張要素、配置、拡張のパターンを調査した。

原田（2011）の大阪の木造密集区域市街地特性の研究のなか、路地単位の類型化をし、単位ごとの特性の把握及び保全的更新の方法を提示した。区域内の地域資源分布・路地分布・接道条件別長屋の分布・高層ビル・空き地を図面で表し、路地とコミュニティ活動の関連性、地域資源を活かした住環境の保全的更新の可能性を論じた。

脇田（2011）は大阪市北区の中崎町界限を対象に、路地の更新実態を調査し、外部空間構成の実測調査、写真撮影、物品の配置データの収集、及び建築形式別のファサード構成を図面で記録した。

日本側に比べ、中国側では、里弄の現状調査に関する既往研究が少なく、主に歴史沿革、里弄住宅の分類、またはリノベーションについて研究してきた。いくつかの具体例を下記のとおり紹介する。

本多ら（1995）は上海の里弄住宅の保存修景について、それぞれの形式と歴史変遷から、従来の里弄住宅の分類に反論した。さらに、新しい分類の仕方を提示し、具体的に、里弄を中庭・外庭、前期・後期に分け、図面を作成した。

陈（2001）は里弄住宅の基本形態と平面形式を調査し、生態システムとして捉え、改造を提案した。

李（2013）は蘇州の里弄住宅の構造と二種類の里弄（明弄・暗弄）を紹介した。

戚（2004）は上海盧湾区の居住環境の変化を考察し、居住者のコミュニティを意識する研究が少ないことを指摘した。同研究では、6つの住宅の更新例を挙げ、ケーススタディを通じて、住居者の評価の変化を考察した。さらに、上海静安区の里弄住宅の更新による居住環境に関する研究（戚ら、2006）も見られた。

盧ら（1992）は里弄住宅の歴史変遷、所有と管理形態の変容過程及び生活様式の調査を行った。

本論ではフィールド調査をベースに路地/里弄の現状を記録・整理する。日本側では谷根千、汐入に関する一連の研究、中国側では里弄住宅の歴史変遷を参照し、路地/里弄の実地調査を行った。現状調査を行う際に、『建築・都市計画のための調査・分析方法』（（改訂版、2012）pp.14-27）の都市空間における調査方法と調査のデザイン手法、資料の入手方法を参考に、路地/里弄空間の背景資料を入手・整理し、調査地域の背景を文献や先行研究からまとめた。と同時に、先行研究では、現地調査が行われた道を参考に、調査対象箇所を選定した。日本の路地、中国の里弄を比較対象として捉え、アジアの近隣国の似て違う風土・文化・習慣のなかで発展してきた路地/里弄の解明を試みる。

## 1.2.5 リノベーション・再開発

リノベーション及び再開発について、中国側の既往研究が数多く見られる。そのなか、里弄の空間構造について、張（2013）は環境と居住空間の関係、地理空間や社会文化の影響、さらに人々の生活痕跡の影響から里弄の空間構造を論じた。里弄の一種である石庫門について、上海の近現代日常生活を反映する建築形式として捉える研究（何ら、2012）がみられた。また、石庫門里弄の歴史沿革、空間構造（呉ら、2013；林、2013）、発達及び現状（馬、2013）についての研究もみられた。初期の上海里弄について、歴史経緯、居住形態、または改造（陳ら、2013；万、2014）に関する研究が数多くあり、そのなか、楊（2010）は建国初期の上海里弄についてまとめ、龐（2012）は里弄文化が共通的に認識されたものであると評価し、肖（2012）が里弄における生活形態の変遷をまとめた。

また、申（2012）は近現代都市の管理体制から上海里弄の変遷をレビューし、里弄の改造・保護、1990年代から今までのリノベーションを記した。薛ら（2013）は里弄の現状における問題点に対する解決法を提示した。揚子江南部地域以外では、李ら（2013）は北京の南锣鼓巷を例に、リノベーション、歴史街区の改造と商業投資を分析した。

里弄の歴史的価値について、徳（2011）、王ら（2012）、世界遺産（2013）、李ら（2013）、王（2013）は里弄文化の歴史的価値について論じ、里弄空間が都市文化の反映と指摘した。須（2009）、張ら（2010）、張（2010）、李ら（2010）は揚子江南部地域の市の里弄建築の歴史価値を述べ、改造の仕方を探った。里弄が取り残されたものであり、リノベーションによって、住区の再生が望まれると具体例から論じた。

そして、里弄の保存開発に関して、研究者の評価が分かれる。そのなか、王ら（2010）は杭州の里弄を例に、その文化価値は物理的な空間にとどまらず、住民による改造やリノベーションの価値も含まれると指摘し、物理的空間が中国の伝統的生活方式の反映であり、歴史の記録であると述べた。里弄は家庭、コミュニティと社会をつなぐ役割を担い、伝統的生活の合理性が見られるため、取り壊しや商業開発ではなく、生きている里弄の保護が望ましいと論じた。さらに、陳（2012）は無錫の里弄を例に、空間構成、居住様式を述べ、里弄が典型的な揚子江南部地域の居住形式であると指摘し、空間の保護によって、居住形式の保存ができることを示唆した。

一方、保存利用ではなく、里弄を根本から組み直すべきとみる研究者がおり、姚ら（2013）は鎮江の歴史地域の問題点を挙げ、道の狭さ、風通りの悪さなどがゆえ、改造が必須とし、改造の方法として道の構造や住民の構成を組み直すべきと論じた。さらに、严ら（2014）は経済発展と里弄の保護が矛盾していると考え、適度な商業開発を解決策の一つとして提示した。

## 1.2.6 アジアにおける路地的な道について

本論では日本の東京の路地と中国の揚子江南部の里弄を対象とし、比較研究を行う。日本、中国、またはアジアの国の路地を対象とする研究が数多くなされてきたが、違う国の道に対する調査と分析に留まり、比較研究が少ない（李ら、1997）。

上田ら（2013）の『路地研究』のなか、アジアの路地について、道のヒューマンスケール、空間や景観の変化及びコミュニティ、人々の暮らしを記述した。路地的雰囲気はコミュニケーション行為を誘発することを指摘し、路地のような都市空間を新しい形で、未来の都市のデザインにおいても有益であると述べた。

台湾の路地について、路地の形成経緯、空間構造、私的領域性の強さや住民の構成などを記述した。うえ、アジアの国の都市空間の秩序に独自のルールが必要であることを指摘した。経済活動の場である表通りに対し、路地は日常生活の場として位置づけ、保存再生における観光開発は不可避ではあるが、その場の生業や生活がなくなると、場所の魅力もなくなると指摘した。（上田ら、2013）

日本の近代の路地について、上田ら（2013）は路地の空間構造を物理的な関係及び抽象的な関係からまとめ、路地の歴史・背景紹介のほか、その地域に住む人たちの職業構成と基礎背景を記述した。路地空間の開放性と閉鎖性について大阪と京都の路地を例に論じた。さらに、建物の一階の用途及び路地の両側の特徴ある建物の図面が記載され、調査項目として、建築用途の変遷、改造のパターン（状況&時期、建て替え）、ファサード・平面（基本、増築、タイプ分け、相続制度）・居住方式・居住単位（コミュニティ）・社会組織が挙げられた。本論のフィールド調査において、参考となった。

路地を都市空間のかけがえのできない一つの施設として位置づけ、特質を見極める方法が必要であると述べた。

中国の里弄と胡同について、上田ら（2013）は里弄を「閉鎖的で独立したコミュニティを目指した路地」とし、里弄の住民構成、生活風景を記述した。里弄におけるあふれ出し、住民の自発的な改造とリノベーションについて、「自分勝手な作法や増築をこれまで以上に厳格にし、ルール全体を再構築して、快適で美しい空間となるよう努力した」と記した。都市空間における里弄の役割及び重要性について、「上海では、他の近代のアジア都市と同様、租界当初から店舗と住居が一体となるように街区が計画された。したが、都心が商業化しても、そのすぐ裏に人々の住まう場所が広がり、その両者を結び付け全体を成立・存続させるためには路地が不可欠な存在となっている」と論じた。

上海の里弄のほか、北京の胡同（同じ路地的な道であり、中国北部では胡同と呼ばれている）についても言及し、空間構成には商住併用が見られ、伝統的世界観「風水」が強く影響すると記した。北京の胡同の文化価値、現代的意義について、近代都市計画のような、地区に応じる機能や利便性を合理的に配するより、胡同の「爛熟した生活」は「文化にほかならない」（中国研究家 竹内実）とされ、中国の都市文化を連綿と伝える役割を担っていると述べた。

上記、中国の「路地のような空間」に関して、日本人研究者が台湾・上海・北京を対象にそれぞれ研究をなされた。南から北へこの3つの場所を選んだことも意味深い。3つの研究に関して、その研究の構成、調査の手段、記録の方法は様々であった。3つの場所の路地に共通性と相違点はあるが、比較対象として捉えなかったことがわかった。



## 1.3 路地/里弄の具体例

本節では先行研究を整理しつつ、路地と里弄の歴史的成り立ち、そして路地/里弄の具体例をまとめる。

### 路地の歴史的成り立ち

路地は下町で発達した。昔から東京には色々な種類の水源がある。これは下町形成・発展の基礎でもある。東京下町の変遷は水源と親密な関係を持っている。

路地の歴史変遷に関する先行研究のなかでも、水にまつわる言論が多く見られ、それらを中心に時代順に路地の歴史的成り立ちを下記のとおり整理する。

### 江戸時代(1603年-1867年)

明暦の大火は江戸の中心市街地の大半、そして多くの武家屋敷や寺社の建築物を消失させたきっかけであった。その後、郊外の農村地帯や低湿地の埋め立てが進み、市街地が東方へと拡大した。下町では水源豊富で住みやすかったのわりに、洪水がよく起こり、そこで「たくさんの水路や濠が掘られ、川や海と一体となった水路網ができた」（陣内、1992）。深川がその代表例として挙げられ、過密は生活空間による生まれた下町人情が記された。「江戸時代の中頃の新興の下町・深川にはいろんな人がいて、こうした過密な生活空間から生まれる連帯感と木場などの活気のある産業と結びついて、イキでイナセな深川の下町人情が生まれた」（陣内、1992）。

### 明治時代(1868年-1912年)

「明治になっても下町の様子は江戸のころと余り変わっていない、表通りには土蔵造の商店が軒を連ね、洋風建築がぽつぽつと人目を引くようにはなったが、それを取り囲んで裏長屋がひしめいていた」（穂積、2010）

明治になっても下町の様子はあまり変わっていないことにつて、Seidensticker(2013)も「下町には、少くとも大震災の頃までは、江戸文化の残照がなお生き延びていた。日本の近代化と奇跡の経済成長が始まったのは明治だったが、下町はまだ、江戸期以来の文化的優位を失ってはいなかったのである」と記した。江戸の町をそのまま使い、近代化と言っても一挙に都市空間全体に及ぶ大規模な改造がなかった。

明治中期になると、流入人口の増えにつれ、貧困による暴力や犯罪、疫病が多く見られるスラムの存在が大きな社会問題となった。東京の人口は明治18年のほぼ百万から、日露戦争後の明治39年に200万を超えた。増加率は下町では高く、「江戸以来の伝統的な地域から隅田川をこえて東の本所、深川にまで押し広げるとともに、亀戸、寺島、また東北部の南千住、三河島など、旧市街地の周辺部に細民の密集地帯—大きなスラム街を形成していた」（鈴木ら、2012）。

さらに、洪水・火災・震災・戦災は下町を変容させていた。「木造家屋のひしめき合う江戸の下町は年中行事のようにしばしば大火に見舞われる」（穂積，2010），明治14年の神田の大火が広い範囲に及び、神田から日本橋，両国橋で隅田川を超え，町並みのほとんどが消えてしまった。

防火区域を作るために道路の拡張が相次ぎ，明治の初年と末年を比べると，道が広がっていた。それにもかかわらず，今でも東京の道路網は江戸の道筋が残している。

防火改修の実績について，「銀座煉瓦街計画と明治14年東京防火令の2つの策が大きな功を遺している」，「こうした防火改修の結果，明治20年を境に，旧36門内（日本橋，京橋，神田，麴町）から江戸火事は跡を絶った」（藤森，1982）。

上田ら（2013）の『路地研究』のなか，陣内が対談で明治の大火及び震災について，銀座が大火と震災をともに逃れ，煉瓦街が残り，少なくとも当時の路地の面影が残っている。若者が路地（銀座）に対するノスタルジーは時代を経験していなかったゆえの好奇心かもしれないと述べた。

明治43年の洪水，そして翌44年の大火。この2つの災害が，下町に深刻な打撃を与えた。次第に，水路が埋め立てられ，陸上交通の発達により，水路の重要性が少しずつ奪われた。

#### 大正時代(1912年-1926年)

関東大震災が訪れ，東京だけを見ると被害は主として下町に集中した。「震災の被害に鑑み，以後は道幅を広げたり，不燃建築をふやすなど，地震・火災対策の努力もなされた」（正井，1986）。しかし，下町の中心は関東大震災から回復できず，「大震災は，下町から南へ，あるいは西へというこの移動の速度を一挙に早めた」（Edward，2013）。

#### 昭和時代(1926年-1989年)

大正12年（1923）の関東大震災で打撃を受けた下町は昭和20年の大空襲で再び被害を受けた。東京はそのたびに復興したものの，都市の拡大に追いつかず，都市としての機能の整備はよくできていなかった。（陣内，1992）

第二次世界大戦後，水路は昔のようによく使われていたが，「1960年代の高度成長は，日本の繁栄の基礎をつくった反面，機能性・経済性の追求あまり，都市の歴史や自然環境をとことん破壊した。東京の中で，その影響を最も強く受けたのが，都心における掘割や河川の水辺空間であった」（陣内，1992）ということがあり，高度経済成長後，たくさんの水路が埋め立てられ，「東京は歴史都市だというのが，2度の大災害と不燃化・近代化のための建物改造で，古い情緒のある町並みはごくわずかの所に限られてしまった」（正井，1986）となった。（図6）

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図6 上空からみた江戸川流域（左：昭和32年，右：昭和57年）

#### 平成年代（1989年–2019年）

江戸時代から平成まで、大火や震災などの自然災害が多く（図7，8），「大震災以前の下町の面影を留める町並みは，上野谷中，本郷菊坂，佃島など，極限られた地域に残されているにすぎない」（新ら，1986）が，「それらの町並みからは，私達がほとんど忘れかけている明治の暮らしの美しい形を偲ぶことができる」（新ら，1986）．さらに，「現代の東京は，明治以後の近代化のプロセスのなかで，たくさんの欧米的要素を取り入れたにも関わらず，巨大な封建都市で，徒歩交通依存の大江戸のユニークな地域構造が，現代都市東京に様々な影を落としている」（正井，1986）．

現代では，浅草以外に渋谷など，新しい歓楽街ができ，浅草の興行街からは活気が失わせてしまったが，その地域がそのまま残された(Edward, 2013).

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図7 左：台風と地震，右：人口の集中

## インターネット公表に対する 著作権者からの許諾が得られていない

図8 市街の壊滅 大震災と戦災

### 里弄の歴史的成り立ち

里弄というのは、「里」は町を数える単位で、「弄」は建物をレイアウトする時の骨組みを指す言葉である。里弄は近代社会の背景において、中国古代の「坊巷」が発展したものとも言える。

「里弄」は上海だけのものではなく、「里」という字の構成から、「土」・「田」という構成が見られ、土地に境界を作る意味が含まれ、そのなかに人が住むようになる。秦の時代に、25個の家で一個の「里」が構成され、同時に「里」は動詞として「住む」という意味を表す。「弄」は本来王宮の道を指すが、呉語方言のなかで、狭い道、すなわち「弄堂」、「ちまた」の意味もある。「里弄」という言葉に道そのもの、居住という行為、そこに住んでいる住民3つのニュアンスが含まれている。

路地の成り立ちと対照的に、里弄の成り立ちのはっきりした脈絡があり、自然発生した路地と違い、計画的に作られたものである。上海、江蘇省と浙江省それぞれの里弄の成り立ちを下記に述べる。

### 上海市

昔の上海は漁業や紡績業を主な産業としての町であったが、今は中国の金融貿易の中心都市として活躍している。町から大都市への変化及び産業の転換の影響を受け、住民の生活様相も変わりつつであった。

上海の里弄及び里弄住宅は19世紀から現れたものであるという説(申, 2012)があり、その住宅様式は揚子江南部地域の三合院と四合院をベースに、アメリカ郊外住宅の配列方式に倣ったものである。住民は主に戦争が原因で移住する江蘇省や浙江省の人であり、里弄住宅もその住民たちの生活様式によって改造され、後に中庭—客室—廂房(四合院の両側に位置する家主を除いて、ほかの家族の寝室・書斎である)—キッチン—バルコニーのような序列を呈していた。このような序列が平行し並んで、その間のスペースが支弄となり、いくつかの支弄は一本の道—主弄とつながった。

太平軍が上海に侵入した時、租界は外国の領土として保護されるため、当時上海のお金持ちと周辺地域の地主たちが租界内に移住しようとしていた。イギリス人は商売のため、租界内で大量の安価住宅を作り、彼らに貸すことにした。当時のものは木造であったが、租界内人口の増加につれ、住宅に対する需要が高まり、燃えやすい木造住宅は適しないこととなった。したがって、レンガ作りの旧式里弄住宅が現れた。街区の構成はヨーロッパの郊外住宅地の構成を思わせるが、個々の建物は中国伝統民家の三合院と四合院の形式となっていた。この時期の里弄住宅の面積が大きく、入り口に「石庫門」という門があるため、「石庫門住宅」と呼ばれていた。

第二次世界大戦後、前のように何世帯が一緒に住む生活様式が一変し、面積の大きい里弄住宅も区切られ、里弄住宅の建設量も人口の増加とともに増えた。この時期から「弄」に「主弄」と「支弄」の区別がつけられ、道の幅も広げられた。

日清戦争勃発後、里弄に住んでいた人があふれかえ、里弄がどんどん建設されるうちに、「石庫門」がなくなり、三合院・四合院の中庭が欧米風の庭に変わり、建物が三階まで建てられ、道の幅がもっと広くなり、車の通行まで可能となった。

清の時代の末期に戦争が頻発し、周辺地域から上海へ避難する人が増えたため、租界内部だけではなく、ほかの地区にも住宅が建設され、その様式も租界のものと揚子江南部地域のもの両方の面影が見えた。1950年代頃、里弄住宅の数は最大に達し、上海で最も一般的な住宅様式となった。1990年代から里弄住宅の老朽化による改造や取り壊しが行われ、保存、廃棄などの課題が深刻となった。

### 江蘇省と浙江省（蘇州市・無錫市・常州市・南京市、杭州市・紹興市・寧波市）

江蘇省と浙江省は水の都であるゆえに、この地域の里弄は水弄（王ら、2010）と呼ばれることもある。川沿いに住宅があり、街—建物—川—建物—街という独特の形式が見られる。住宅は中庭を中心に構成した合院で、中心水路である古運河は両側の住宅地をつながっている。

ここでは、各住戸に内向きの合院があり、直線に沿っていくつかの合院が並んでいる。人口が多いため、住宅がぎっしりと並んでいて、自然に里弄ができあがってくる。里弄から住宅へ入ると、主弄—支弄—門—中庭—客室—寝室の序列が見られ、公共的な空間からプライベートな空間へと、中国の伝統的な礼儀作法がみられる。

ここでの里弄に住む人々は多様であり、特に老人や子供が多い。住宅の面積が非常に狭いため、皆路地で食事をしたり、洗濯したり、おしゃべりするようになる。里弄は人々が活動する場所として存在し、活動を誘発する空間形態を有する。時代の発展につれ、大家族が核家族になり、里弄住宅が分譲され、里弄空間が無秩序になりつつあり、部屋のなかに取まられないものが路上にあふれ出しているようになった。

## 1.3.1 東京の路地的な道

新ら(1986)は下町の範囲(図9)に関して、「隅田川に向かう東部の一帯は江戸の開市以来、早くから商業活動が盛んで、江戸の市民生活の中心となってきた」と述べ、神田・日本橋・下谷・浅草はその下町に属する。下町の密集住宅地で路地が発達し、現在に至った。だが、時代の変遷につれ、下町の領域が曖昧となり、現在では郊外の下町的な場所にも路地/里弄がある現状となっている。

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図9 山の手一下町

さらに、東京の土地の細分化について、「東京の中心街は、一部を除いて遺産相続のたびに細かく分かれていった」(新ら, 1986)との記述があった。

下記本論における東京の路地的な道の調査対象地(谷中・根津・千駄木, 月島, 築地, 日本橋・京橋, 佃島, 本所, 深川, 浅草, 神田)ごとについて、先行研究をベースに地域の背景について説明する。

**谷中・根津・千駄木(谷根千地区)**

谷根千地区の歴史は川と深く関係する。暗渠だった川の上に道を整備し、作られた場所が東京には多い。谷根千地域の藍染川もその一例であり、その上に作られた地域は大震災と戦災の2つの災害を無事に抜け、今でも当時の建物や町並みが残っている。そのため、今でも東京の代表的な下町として人気がある。

小林(1985)の調査では、谷中三丁目(図10)は調査対象地として選ばれた。

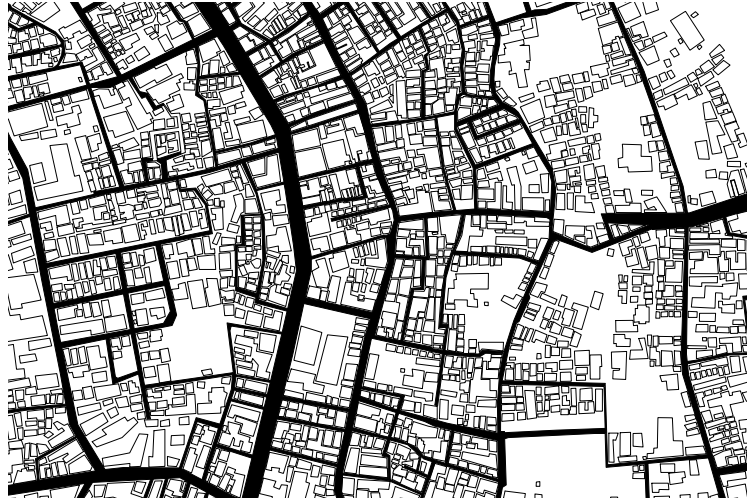


図 10 今の谷中銀座辺りの住宅区（2015 年）

### 築地

隅田川地域の特徴として「周辺に住んでいた人たちは長年水害に苦しめながらも、水を利用し生活を営んできた。そのため、水郷地帯の独特の風景があり、東京にとって特別な意味を持つ」ことが挙げられる。江戸から明治の記録をみると、三年間ごとに隅田川に洪水があった。それを改善するために、荒川放水路が作られた。（鈴木ら，2012）

築地は隅田川に面するため、水運が便利で、開市場地域に指定され、ここに運河や木戸、かなりの空地があり、外国人を日本人から分離することができる。そのため、築地が外国人居留地（図 11）と外国貿易の場として建設された。

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 11 初期の築地居留地（1867 年 11 月）

### 月島

月島は 1882 年に作られた埋立地である。戦災に逃れ、今でも戦前の木造長屋が残っている。（アイランズ，2009）

そして、実地調査において、上田ら（2013）は大正時代には最底辺の人々がここで生活していたが、最近は下町みたいに植木を置くなど小綺麗になっていると述べた。

また、安倍（2008）は「もんじゃ焼きで有名な月島は、西中通商店街を中心に基盤の目状に構成された、地下鉄月島駅から月島川までの小さな街である」と今の月島下町の範囲（図 12）を語った。そのほか、千島ら(2010)は月島の形成経緯，路地の割合と密集情況，路地の分類，住宅の分布についてまとめた。

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 12 月島散歩マップ

#### 日本橋・京橋

日本橋は、埋め立ててできた最初の土地であり、最初の下町として生まれた所であった。（ビジュアルブック江戸東京，1992）そして、日本橋川が流れ、川の発達により、通商の便がよく、下町が発展した。（図 13）

江戸時代には、日本橋は商業の中心に比べ、京橋は小商人や職人の町であった。明治時代、日本橋と京橋は2つの区に分かれ、下町の中心であった。明治に入り、外国の影響が多くなるなか、日本橋は古い町人の町の中心としての性格を残し続けた（Edward, 2013）。（図 14）

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 13 富獄三十六景 江戸日本橋 葛飾北斎（1830－32年頃）



インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 14 日本橋魚河岸とその周辺（大正初期）

大震災の前まで、江戸時代のままの町並みが見られたが、時代の変遷につれ、日本橋の西半分には新しい建物が作られ、京橋の端まで新しい町並みができつつであった。今の日本橋には、江戸どころか、明治時代の面影さえ残されていない。京橋にも今は橋がなく、川も埋め立てられ、首都高速道路がその上を走っている。（図 15）

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 15 日本橋地域（左：昭和 61 年，右：明治 17 年）

さらに、区画整理で道を広げて裏通りの路地が消えたが、「換地をして減歩をして、削られて、路地的なものが仕組みを変えて残った」（上田ら，2013），今の日本橋の裏にはまだ近代版路地が多少ある。

佃島

佃島の歴史も水と深く関わっている。「佃島は江戸時代の初めに家康が関西の摂津から魚師を連れてきて、江戸湾での漁の特権を与え、この島に住ませたことに起源を持つ。海の神を祀った住吉神社を中心とする伝統的なコミュニティが今も残っている」。(鈴木ら, 2012)

今の佃島の範囲(図16)について、安倍(2008)は「地下鉄東京メトロ有楽町線または都営大江戸線の月島駅で下車し、もんじゃ街の反対側に5分ほど歩いた所にある街である。(中略)最寄りの月島駅から西周りに高層マンションを抜けるとこじんまりとした路地が見えてくる、ここからが佃島である」と記しておる。

## インターネット公表に対する 著作権者からの許諾が得られていない

図16 佃島散歩マップ

### 本所・深川

日清戦争の後、東京の人口が凄まじく増え、下町はやむをえず江戸以来の範囲から隅田川東の本所・深川まで拡大した。深川の北半分は本所とほぼ同じ構成だが、南半分は水路に囲まれ、水路を利用し、商売も繁盛であった。明暦の大火の後、火事をコントロールするため、深川の埋め立てが始められ、後に残された水路のほとんどは江戸時代のものであり、深川は水路とともに発展してきた。その後、関東大震災と東京大空襲でこの地域が被害を受け、住民は周辺の地価の安い地域に移住したが、深川には今でも江戸情緒が残っており、人情深さが漂っている。

先行研究のなか、「深川」とは東京都江東区の町名だが、広義には江東区の西半分(旧深川区)を指す。家康が江戸を城下町にした頃、深川のある隅田川下流は、川に運ばれた土砂が堆積した湿地帯だった」と鈴木ら(2012)は深川の範囲について述べた。さらに、安部(2008)は「江戸末期の深川佐賀町という隅田川沿いの町並み、地下鉄東京メトロ東西線門前仲町駅付近に位置する深川不動尊や富岡八幡宮周辺と都営大江戸線清澄白河駅付近の清澄庭園周辺と広範囲」を下町散策地域として挙げた。(図17)

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 17 深川散歩マップ

### 浅草

江戸時代には栄えており（図 18）、今も下町の雰囲気を感じられる観光地として繁盛している。火除地として空いている空間があったため、店などで賑わうことができ、人も自然に集まれるような地域である。

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 18 両国橋の夏景色

今の浅草界隈の範囲（図 19）について、三石（2008）は浅草橋駅を降りるところにおもちゃや雑貨を扱っている問屋が多い地域で、そして、さらに蔵前橋通りを西に少し歩き、「浅草橋から蔵前を抜けていくと、浅草寺のある浅草に着く。（中略）仲見世通りやそこから左右に延びる通りを歩いていると、町並みが新旧入り交じる趣のある街景を体験する事ができる」との記述がある。

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 19 今の浅草界限

### 神田

神田には昔から細民街（図 20）のイメージがあった。スラム街ができ、空間が狭いがゆえ、衛生条件も悪く、火事も頻繁に起きていた。

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 20 細民街

先行研究では、神田地域（神保町地区・万世橋地区）の住民行動について、荒井（2000）が水辺における庶民の遊行行動を研究し、篠田ら（2007）はこの地域の高齢者の行動調査を行った。

## 1.3.2 揚子江南部地域の里弄的な道

### 里弄の種類について

里弄にはいくつかの種類がある。一般的には、旧式石庫門里弄（初期・後期）、新式石庫門里弄、新式里弄、花園式里弄、マンション式里弄と分類されている。また、近年の都市開発に伴い、里弄をベースに商業開発されたものもある。

特徴を挙げると、初期の旧式石庫門里弄住宅は中心軸を重視し、序列がはっきりしていた。その代表例として、興仁里（付録 図 A1\_1）と公順里（図 21, 付録 図 A1\_2）がある。後期の旧式石庫門里弄住宅には、建物が減り、道の幅が増えた。中庭の面積は減ったが、中庭を横にすることによって、光と風を取り込めるようになった。その代表例は洪德里（図 22, 付録 図 A1\_3）、東斯文里（付録 図 A1\_4）と宝康里（図 23）である。

新式石庫門里弄住宅になると、旧式の里弄住宅より面積が増え、階層数も多くなった。南向きをもっと重視され、「亭子間」という独特な空間が生み出された。代表例として、静安別荘（図 24, 付録 図 A1\_16）・四明村（付録 図 A1\_5, 図 A1\_6）と会楽里（図 25, 付録 図 A1\_7）は有名である。

新式里弄住宅の平面プランがユニットの制限から開放され、自由となった。後ろに位置する中庭もなくなり、住宅の前に芝生が現れた。さらに、石庫門がなくなり、開放的なイメージを有した。代表例はボルトン花園（付録 図 A1\_8）、上方新村と景華新村である。

花園式里弄では昔の里弄住宅のプランの面影がまだ見えるが、住宅の間をつなぐ道である里弄がなくなり、現代的な景観計画が施された。その代表例は上方花園（図 26, 付録 図 A1\_9）である。

マンション式の里弄住宅については、マンションにいくつかのパターンがあり、組み合わせによって住宅区が構成される。代表例は福履新村（図 27, 付録 図 A1\_10）である。

そしてリノベーション及び商業開発された里弄住宅区について、リノベーションにより、ファサードだけが残された建業里里弄住宅区（図 28）、と商業開発の代表格である新天地広場（図 29）が事例として挙げられる。

### 里弄住宅区の空間構成

里弄空間を構成する3つの要素は道路・境目・ノードである。全体からみると、特徴としては住宅がなす行列である。敷地によって、行列の組み合わせは自由である。（図 30, 31, 32）長楽里、東斯文里（付録 図 A1\_4）と陝南村（付録 図 A1\_11）はその代表例である。

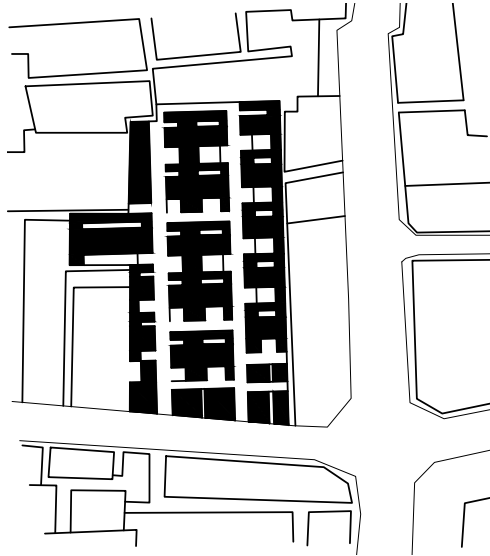


図 21 旧式石庫門里弄 初期 公順里の街区プラン

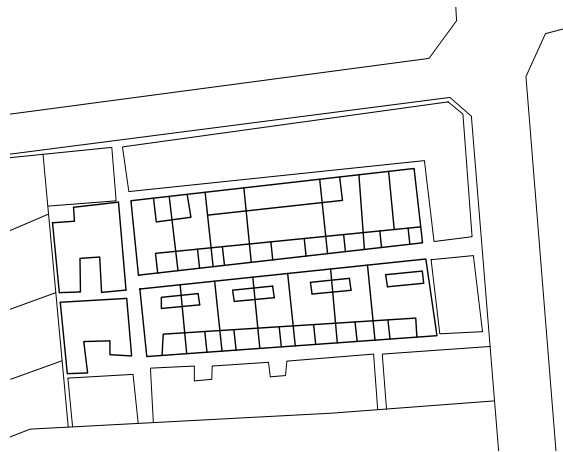


図 22 旧式石庫門里弄 洪德里の街区プラン

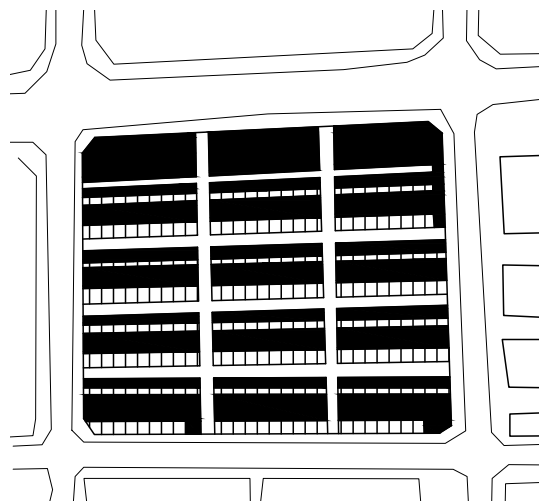


図 23 旧式石庫門里弄 後期 康宝里の街区プラン

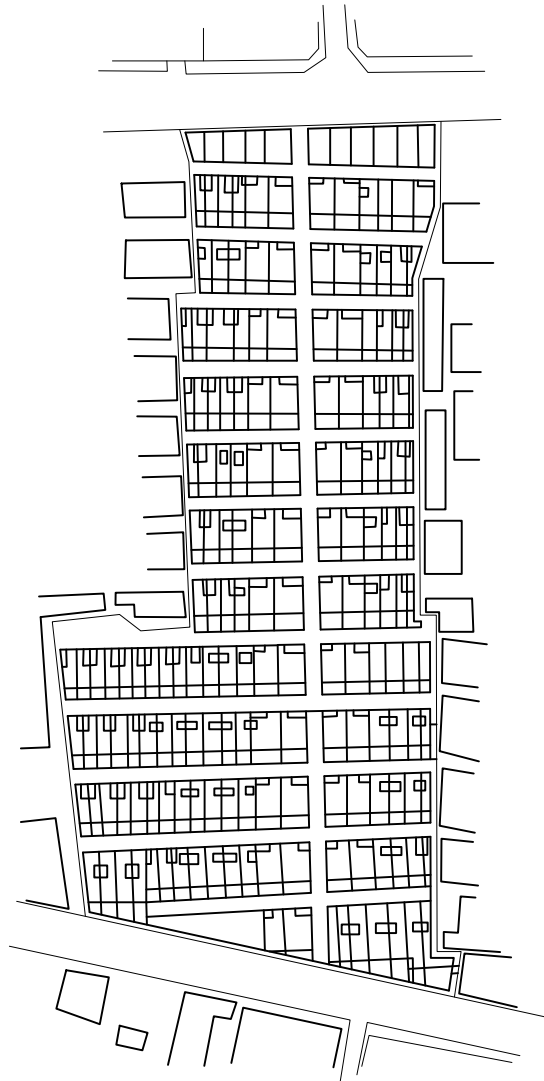


図 24 静安別荘の街区プラン

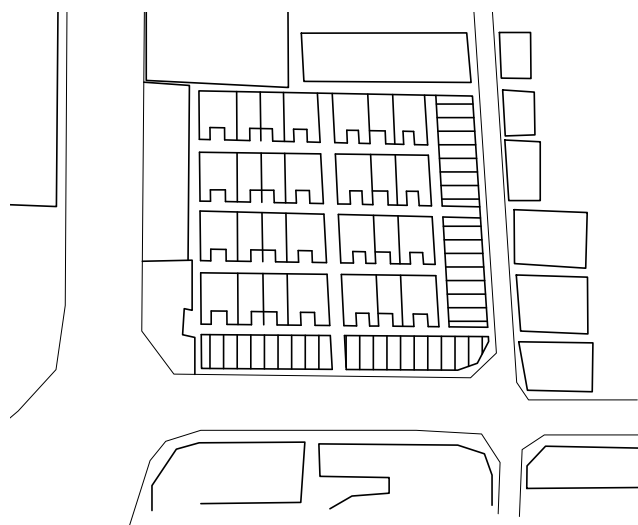


図 25 新石庫門里弄 会楽里の街区プラン



図 26 花園式里弄 上方花園



図 27 マンション式里弄 福履新村の街区プラン

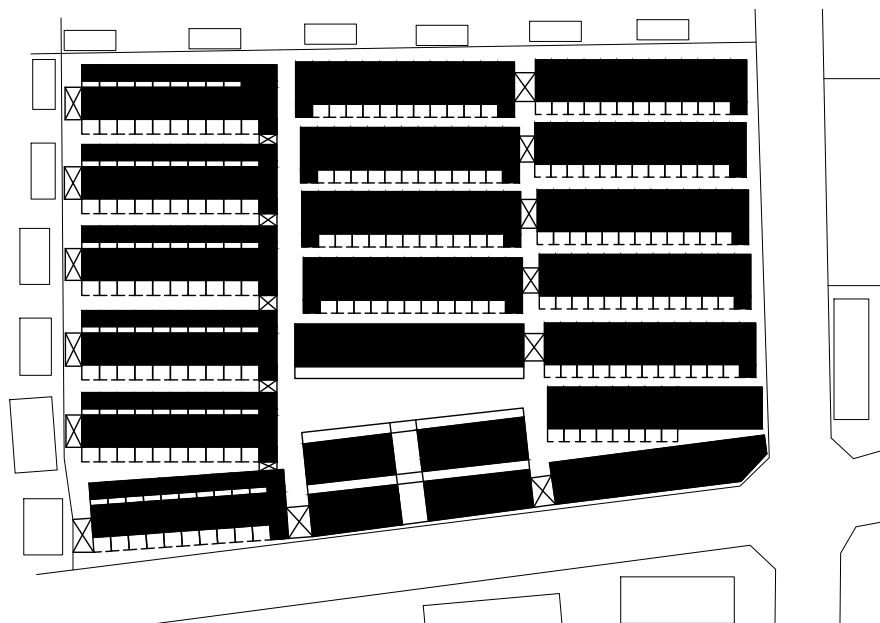


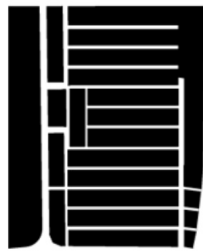
図 28 建業里の街区プラン



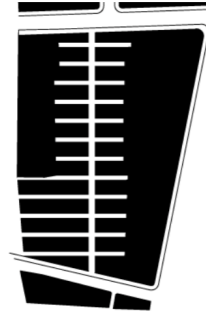


図 29 新天地（卢湾区太平橋地区）

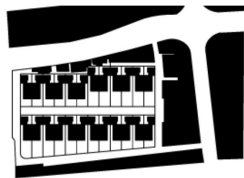
（左：今の街区プラン，中央：昔の街区プラン，右：左と中央の重ね）



東斯文里



静安別荘



奉賢路 68 弄



茂名南路 200 - 280 弄

図 30 里弄の道路構造（(陳,2007)pp.36 を参考に作成）

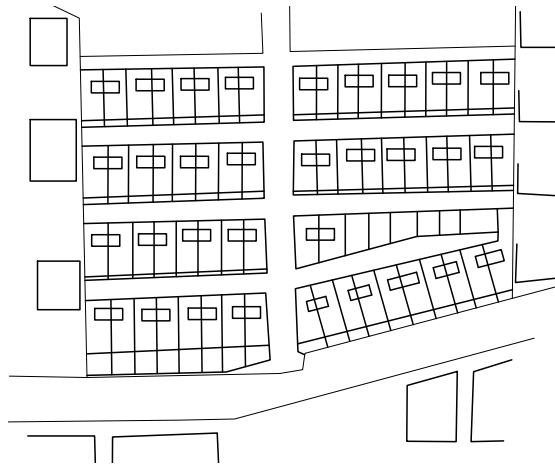


図 31 新石庫門里弄 錦華新村の街区プラン

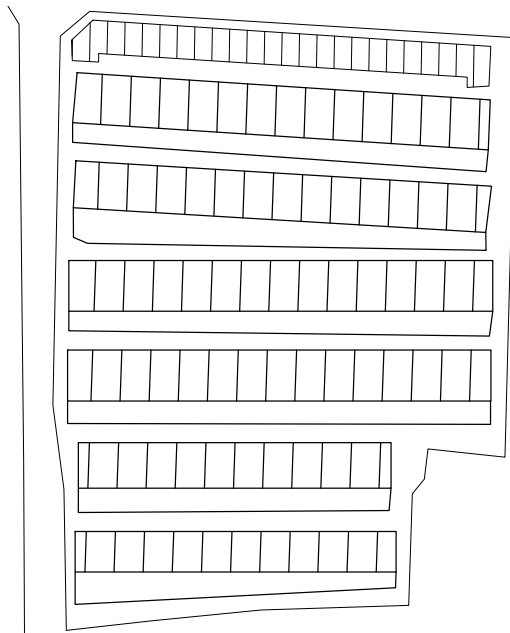


図 32 長樂村の街区プラン

### 里弄住宅の平面形式

里弄住宅の平面に対称形が多いが、変化もある。需要によって、階層数が変化し、高ければ高いほど上の階層が後ろへ退けていく特徴がある。兆福里（付録 図 A\_12），江陰路 88 弄（付録 図 A1\_13），上方花园，静安別荘・四明村，建业東里（付録 図 A1\_14），信孚里（付録 図 A1\_15）はその例である。

東斯文里は静安区に位置し、大田通りを境目に、東斯文里と西斯文里に分けている（図 33）。上海屈指の大規模旧式里弄の一つとして、西斯文里は民国 3 年（1914 年），東斯文里は民国 7 年（1918 年）に建てられた。現存するのは東斯文里だけで、その区画は新閘路 568 弄，620 弄，大田路 464 弄，492 弄，546 弄，南苏州路 1463-1475 号までに及んでいる。

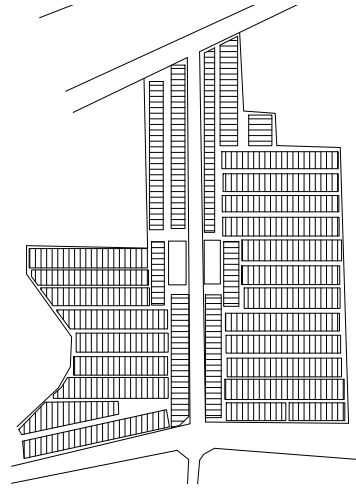


図 33 東斯文里と西斯文里

### 揚子江南部地域の代表的な里弄

里弄は里弄住宅（図 34）に位置し、住宅の間の道として広く認識されている。そのなか、図 35 のような密集住宅区に位置し、あふれ出しなど生活感が感じられる道がある。また、図 36 のような状態のよくない密集住宅区の狭い道もある。



図 34 色々な種類の里弄住宅



図 35 あふれ出しなどで生活感が感じられる里弄

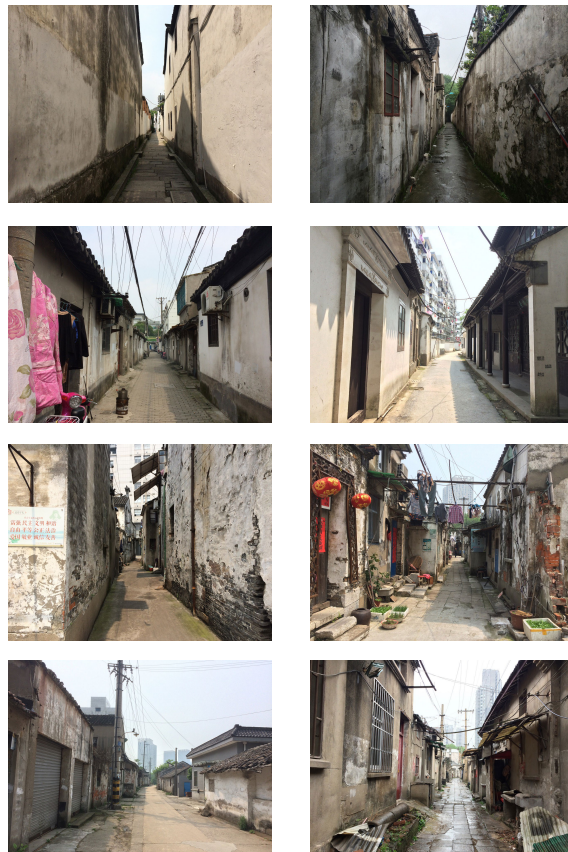


図 36 常州の里弄（都心部に残されたものであり，取り壊されている最中である）

さらに、都市の開発に伴い、里弄は図 37 のように再開発され、主に観光地区、または商業施設として機能しているものが挙げられる。

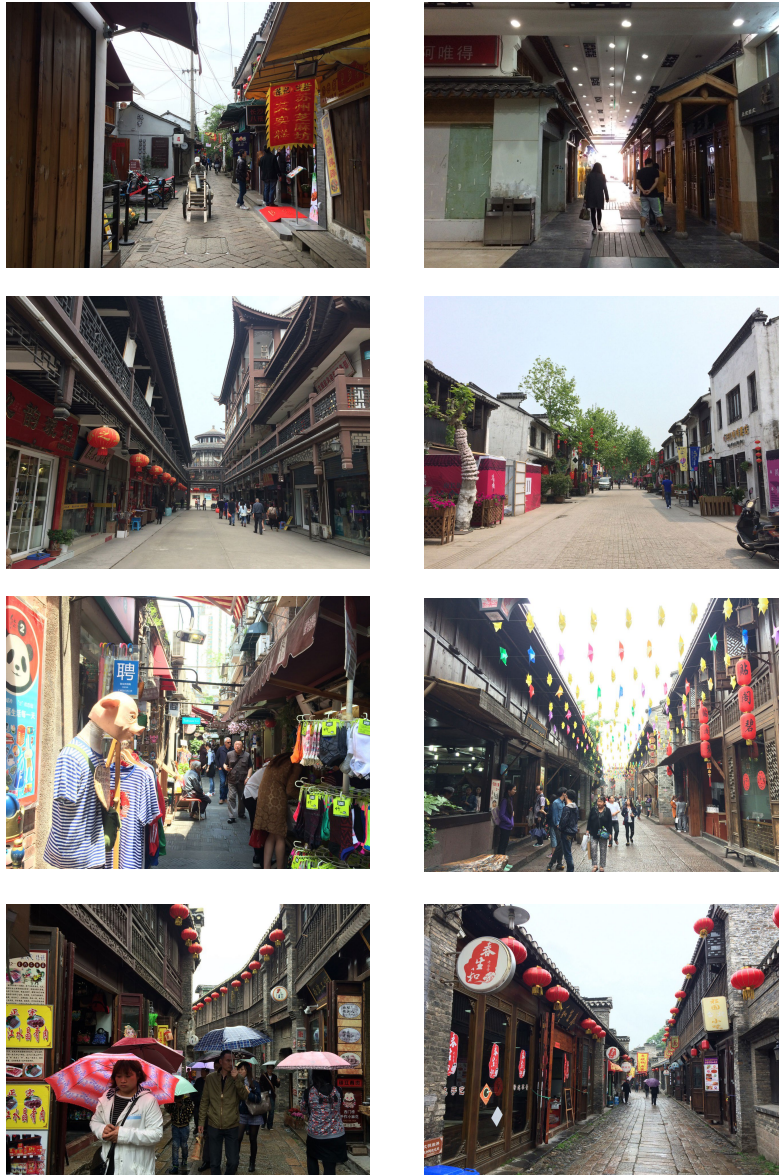


図 37 観光地区として再開発された里弄

## 1.4 本論の位置づけ

路地空間に関する先行研究に関して、日中ともに多くの研究が見られる。特に日本の場合、膨大な研究成果が蓄積されている。しかし、日中の路地空間を比較対象とする研究は少ない。特に、日中両国の人々が持つ路地の印象から、日中の比較を通して、路地が醸し出す雰囲気に関する研究は、筆者が調べる限り、まだ少ない。

日本側の既往研究をみると、戦後土地区画整理における袋小路や過小画地、長屋や路地の更新など歴史経緯に関する調査と分析がみられる。路地の空間構成や敷地との接道条件などに関する空間研究もある。そのほか、路地に住む人々に関する研究、あふれ出し、私有領域の拡張などもある。歴史経緯の研究に関して、土地台帳、国勢調査、文献からの調査が大半を占め、空間構成や住民に関する調査はアンケートやヒアリング調査を通じて行われた。

一方、中国側では、里弄は地方によって、形も違えば、概念も様々である。文献から抽出するキーワードは伝統文化、再開発の必要性和価値、保存・開発の方法である。このように旧来のものを改造し、再開発する傾向の研究が主であり、現存する里弄空間に関する研究は定性的なものにとどまっている。路地で生活する人達に関して、小説はあるが、論文で扱うものは未見である。

本論は先行研究で扱っていなかった日中の路地空間の比較研究をテーマとし、フィールド調査を通し、路地/里弄の各物理量の可視率の分析及び日中の人々の路地/里弄に対する印象評価を行う。したがって、本論では、見た目が違う場所が似ている雰囲気を醸し出すことが可能であり、その原因は物理的要素のほか、物理要素だけでは説明しきれない人々のイメージにも関係あることを論証する。

本論は基礎研究とし、アジアの伝統的な町空間の比較研究を通し、日中お互いに勉強できる点や改良すべき点を提示する。近未来の都市空間における調査の方法、及び路地空間の保全や有効利用の一助になる研究と位置づける。

## 第二章 路地/里弄の物理的構成について

### 2.0 本章の目的

#### 2.1 実地調査の背景

2.1.1 路地/里弄のある調査対象地区の選択

2.1.2 路地の現状に対する調査手法

2.1.3 本調査の方法

2.1.4 調査日程

#### 2.2 分析にあたって

2.2.1 分析対象写真の選択

2.2.2 データシートの作成

2.2.3 分析図の作成

2.2.4 写真における各物理量の可視率の算出方法

2.2.5 路地/里弄の分類

#### 2.3 道の類別ごとの可視率の分析

2.3.1 類別ごとの可視率の割合の概要

2.3.2 路地/里弄と他の分類の道の間比較

2.3.3 要素ごとの各分類の比較

#### 2.4 まとめ

2.4.1 各物理量の可視率について

2.4.2 結

## 2.0 本章の目的

第一章では、路地/里弄に関する先行研究をまとめ、本論における路地/里弄の範疇を示した。さらに、先行研究から調査対象地域を確定した。

第二章では、第一章で述べた日中それぞれの対象地域において、具体的に調査する路地/里弄を選定し、フィールド調査を行う。具体的には、調査対象である日中それぞれの選定基準と具体的な位置の説明、フィールド調査で使った調査方法、データの記録の方法を順に説明する。調査で得られた写真をもとに、路地/里弄の分類を行い、本章ではその分類及び分類の手順について述べる。調査で得られた写真から各路地/里弄などの物理量の分析を行い、物理量の可視率についての分析と考察を記す。



## 2.1 実地調査の背景

赤瀬川ら(1993)は「神は路上に宿り」と記し、フィールド調査を路上観察学として捉え、その重要性を語った。紙上の鑑賞から路上の観察へ、さらに街歩き用の小道具の紹介もなされた。「街歩きが何よりの情報源」であり、路上観察学は「欠片集めのプロセス」であり、「新聞・雑誌で情報を集め」、「写真を撮り」、「建物を味わう」、「現場での交渉のタイミング」、「現場の人とふれあう楽しみ」、「どういうカケラを選ぶか」、「ガラクタの山から宝を探し出す」などなどフィールド調査の面々、そして面白さを語った。

路地に関する先行研究においても、フィールド調査にもとづくのものが多く、その有効性が認められる。本研究も同様にフィールド調査は重要だと考え、したがって、本研究はフィールド調査にもとづくの研究となっている。

### 2.1.1 路地/里弄のある調査対象地区の選択

#### 対象地域：東京と揚子江南部地域について

日本の調査対象を東京の路地に限定し、中国の調査対象を揚子江南部地域の里弄に限定する。

揚子江南部地域の旧市街地には下町的な風情があり、同じく下町的な風情のある東京の旧市街地と同様なものとして解釈することができる。揚子江南部地域の旧市街地は昔運河や川が豊富で、住宅地がぎっしりと並び、今になってその地域の住宅の居住条件が悪化しつつある。東京の旧市街地も水運を核の一つとして発達し、密集住宅地がその周辺に形成するなど、揚子江南部地域の旧市街地の成り立ちと変遷の経緯も東京の旧市街地と類比できるところが多い。

一方、中国の国土は広く、道の空間構成も地方によってそれぞれ特徴があり、里弄と呼ばれていても、様々な景観を持つ道が含まれる。そのなかで、揚子江南部地域の旧市街地は川を中心に発達した平坦地に位置し、気候は温帯及び亜熱帯気候であり（北緯 35° 41′，図 38）、天候の変化の類似性が高く、風土的にも稲作文化圏にあり、漢字文化圏にある。一定の年中行事、冠婚葬祭儀礼を継承しているなど、人文環境的にも中国のほかの地域より東京の旧市街地との共通点が多く見られる。以上の地理的・人文的背景によって、この地域の里弄が中国のほかの地域の里弄より東京の路地と景観的に類似していると考えられる。

したがって、本論で東京の路地と揚子江南部地域の里弄を比較対象として取り上げる理由は上記にあたる。



### 東京における調査対象地区

したがって，東京都では，文京区，中央区，墨田区，江戸川区，江東区，台東区，新宿区，千代田区と市部の三鷹市，武蔵野市，合計 10 個の地区（図 39）でフィールド調査を行った。文京区の谷中，根津，千駄木をはじめ，そのほか，中央区の佃島，墨田区の本所，江東区の深川，台東区の浅草，新宿区の神楽坂や吉祥寺周辺の武蔵野市と三鷹市などにて調査を行った。（表 1）

なお，表中の「分析に用いた写真枚数」については，2.2.1 で説明する。



図 39 日本東京での調査対象地区

表 1 日本東京での調査地区リスト

調査地域	分析で用いた写真枚数	具体的な調査場所	参考文献
文京区	35枚	谷中	小林 (1985, 1988) , 橋ら (1991) , 手島ら (1989, 1990)
		根津	花里ら (1992) , 市川 (1999) , 持丸ら (1993) , 森ら (1988, 1989, 1990) 西田ら (1993) , 篠崎ら (1994)
		千駄木	小林 (2014)
中央区	35枚	人形町	玉井 (1976)
		月島	安倍 (1992) , 広畑ら (2011) , 市川 (1999) , 新治 (2009) , 千島 (2009, 2010)
		築地	安倍 (1992) , 川崎 (2002)
		京橋	鈴木ら (2012)
		佃島	安倍 (1992) , 馬場 (2005) , 江面 (1978, 1989) , 佐原 (1968)
		日本橋	三石 (1992)
墨田区	15枚	京島	大橋ら (2004)
		本所	鈴木ら (2012)
江戸川区	5枚	平井・小松川	今野ら (2009)
江東区	5枚	深川	安倍 (1992) , 波多野 (1987)
台東区	5枚	浅草	三石 (1992) , リオッタら (2009)
新宿区	5枚	神楽坂	新治 (2009)
千代田区	5枚	神田・神保町	水島ら (2003)
市部	20枚	武蔵野市	
		三鷹市	

### 揚子江南部地域における調査対象地区

揚子江南部地域は中国の東沿岸部に位置し、揚子江の流れに沿い、上海市、江蘇省、浙江省の3つの行政区画から構成される。調査では上海市の全体、江蘇省南部の蘇州、無錫、常州、南京、浙江省北部の杭州、紹興、寧波の合計8地区（図40）を対象に行った。

調査では上海市の万宜坊、歩高里など、里弄が今でも住宅として使われる場所と新天地、田子坊のような観光開発されるところを含めて、合計26箇所を訪問した。江蘇省では、蘇州市をメインに中国で有名な平江历史文化街区や石路山塘街のほか、改造や開発が行われていなく、今でも昔の風貌が残されている簕葷巷、懸橋巷など合計18箇所を調査した。江蘇省では、蘇州市のほか、無錫市（14箇所）、常州市（21箇所）、南京市（20箇所）を調査した。浙江省では、文化財として里弄を開発保護している地域が多くある杭州市（24箇所）を中心に、紹興市（22箇所）、寧波市（8箇所）で調査を行った。

以上の調査地区のリストについて表2に示す。なお、表中の「分析に用いた写真枚数」については、2.2.1で説明する。また、調査箇所の所在地を付録2に示す。

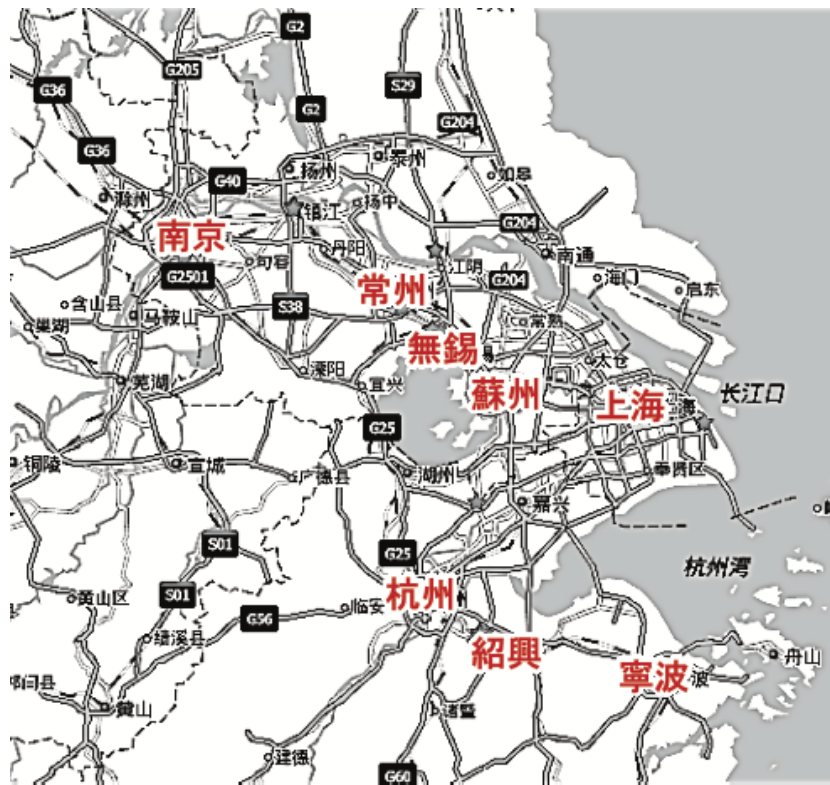


图 40 中国揚子江南部地域での調査対象地区

表2 中国揚子江南部地域の調査地区リスト

調査地域	分析で用いた写真枚数	具体的な調査場所	参考文献
上海 (26箇所)	20枚	新天地	現代城市研究 (2002), 陈 (2007), 申 (2012)
		田子坊	何ら (2009), 申 (2012)
		山阴路	李ら (1999, 2000)
		亨昌里	万 (2014)
		陝西南路 (歩高里)	戚ら (2004, 2005, 2006)
		そのほか: 瞿秋白故居, 甜爱路, 同乐坊 (余姚路), 涌泉坊, 薛家厍, 青公馆 (愚园路749弄), 丰子恺旧居, 复兴西路 (玫瑰别墅), 苗王公主弄堂 (复兴西路44弄), 思南路, 范园 (华山路1220弄), 春光坊 (华山路1520弄), 巴金故居, 万宜坊, 淮海中路, 高安路, 梅泉别墅, 新华别墅 (新华路329弄), 淮海西路, 左家宅 (淮海西路442), 虹桥路	陈 (2001), 陈ら (2013), 张 (2005), 董 (1997), 藤島 (1998), 阮ら (2009), 本多ら (1994, 1995), 川辺ら (2011), 何 (2012), 江ら (2012), 村松ら (2009), 大熊ら (2012), 大森ら (2009), 盧ら (1992), 戚 (2001), 重村 (1988), 昭ら (2005), 羅 (2006)
蘇州 (18箇所)	20枚	石路山塘街	俞 (2014)
		篆霞巷	王ら (1998)
		仓街	俞 (2014)
		平江历史文化街区	李 (2013)
		そのほか: 东北街, 皮市街, 丁香巷, 悬桥巷, 大儒巷, 中张家巷, 邗长巷, 钮家巷, 汤家巷, 建新巷, 定慧寺巷, 十全街, 张思良巷, 书院巷	吴 (2006), 俞 (2014)
杭州 (24箇所)	25枚	桥西直街	马 (2006)
		小河直街历史文化街区	马 (2006)
		清河坊历史文化特色街区	马 (2006)
		十五奎巷历史文化街区	马 (2006)
		そのほか: 北山街, 皮市巷, 小营巷, 大塔儿巷, 小塔儿巷, 马市街, 横饮马井巷, 直饮马井巷, 中山中路, 五柳巷历史街区, 南宋御街中山路步行街, 后市街, 大井巷, 鼓楼, 孝子坊, 蔡官巷, 清波街道, 大马弄, 四宜路, 白马庙巷	陈ら (2009), 李ら (2010), 马 (2006)
南京 (20箇所)	15枚	夫子庙	陈ら (2007)
		陈家牌坊	
		剪子巷	
そのほか: 颐和路公馆, 估衣廊, 明瓦廊, 甘熙故居, 船板巷, 金沙井, 状元境, 小石坝街, 乌衣巷, 琵琶巷, 璇子巷, 钓鱼台, 中华路518号, 饮马巷, 煤灰堆, 过街楼, 糖坊廊,	参考文献: 「南京調査の背景資料」項目を参照する		
紹興 (22箇所)	20枚	仓桥直街历史街区	王 (2010)
		龙山后街	参考文献: 「紹興調査の背景資料」項目を参照する
		そのほか: 西小路, 新河弄, 书圣故里, 西街, 躲婆弄, 题扇桥, 局弄, 笔飞弄, 斜桥弄, 富民坊横街, 井巷, 八字桥, 马弄, 作揖坊古巷, 青藤书屋, 大乘弄, 观音弄, 鲁迅故里, 春波弄,	王 (2010)
常州 (21箇所)	10枚	斜桥巷	参考文献: 「常州調査の背景資料」項目を参照する
		运河五号 创意街区	
		青果巷	张 (2010), 严ら (2014), 须 (2009)
そのほか: 三堡街, 西直街, 北直街, 天王堂弄, 鸣珂巷, 十字街, 蓖箕巷, 西瀛里, 大庙弄, 雪洞巷, 马山埠, 药皇庙弄, 菱蒲巷, 周线巷, 鲜鱼巷, 天井巷, 正素巷, 乌衣浜	须 (2009)		
無錫 (14箇所)	10枚	南下塘	何ら (2008)
		小娄巷	张ら (2010)
		荣巷历史街区	陈 (1994), 李ら (2013)
		そのほか: 前桥老街, 三里桥, 江尖大桥, 梁鸿里, 万寿里, 健康里, 南市桥巷, 夹城里, 运河古邑, 南长街历史文化旅游街区, 清名桥	陈 (2012)
寧波 (8箇所)	10枚	秀水街	
		南塘老街	
		そのほか: 德记巷建筑群, 孝闻街, 永寿街, 桂芳巷陈宅, 宁波老外滩步行街, 桂井街	参考文献: 「寧波調査の背景資料」項目を参照する

調査する際に、路地/里弄について、大都市に位置するものと中小都市に位置するもの、視線の通り抜けができるものとできないもの、あふれ出しが道全体にあるものとよく整理され、統一感のあるもの、D/Hが違うもの、道幅が違うもの、商業・観光地化されたものとそうではないもの、できるだけ路地/里弄とその近くに位置する道で網羅し、調査を行った。

## 2.1.2 路地の現状に対する調査手法

### 予備調査の内容

以下、谷中銀座の池田屋沿いの道を例として、実地調査する前の道の予備調査としての基本データの収集方法を説明する。

ESRI社のWEB GIS（図41）により、地域の基本データを得る。場所によっては、補足として、Google Map, Google Earth, Open Street Mapを用いた。WEB GISからは以下のデータを得た。まず、地図から建物の用途を読む。と同時に、街区全体の物理的構成も読み取る。物理的構成をもとに、建築の密度、道の本数と長さ、街区の数、建物のパターンなどを把握する。

さらに、Google MapのStreet View（図42）を利用し、街路データの撮影時期の選択を変えることにより、道の両側の建物の立面、一階からのあふれ出し及び季節と年代ごとの変化を確認した。また、Google Earth（図42）を使い、街全体の鳥瞰と建物と地面の海拔高度を得た、そして建蔽率の大概も把握した。

補足として、WEB GISのデータベース（<http://www.esri.com/products/technology-topics/web-gis>）に統計データがあれば、地域ごとにデータ（図43、例えば、住宅所有率や地域ごとの消費水準など）を入手した。

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図41 ESRI Web GIS, 谷中銀座の地図

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 42 左上：Google Map の Street View, 右上・右下：Google Earth

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 43 WEB GIS による地域の統計データの一例

#### 調査対象場所の区画の限定の仕方

先行研究で行われた調査例の実地調査地域の区画をベースに、現状の地図と対照し、実地調査の場所を選定した。先行研究の時期によって、区画内の建物の増減が見られ、区画内の細い道の構成にも変化があるものの、外周の道の形の変化が少なく、外周の道を基準として、区画を選定する。

ここでは、谷中の調査を例に、区画限定の仕方を説明する。

先行研究には、1980年代の谷中の実地調査（図 44）がある。谷中の範囲及び歴史について、小林（1985）は「＜谷中＞は上野と本郷向ヶ丘の両台地に挟まれる谷，東の台地上にかけては上野寛水地から続く寺院が多い。また，すぐ西南の根津には根津権現が構え，その門前には花街が明治初期まで栄えたと，古い歴史をもつ」を記した。

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 44 1980 年代の谷中辺りの地図（小林，1985）

調査対象地については，本論では，小林と同じ地域（図 45）を選定し，現在でも細かい路地を中心として密集した住宅地があり谷中三丁目付近にした。

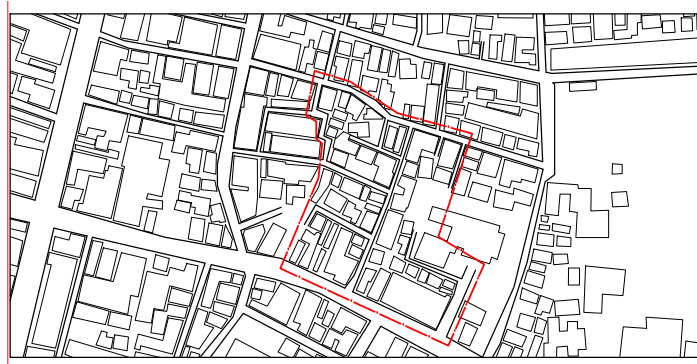


図 45 同じ地域に該当する 2015 年の谷中における調査地

現場に行く前に，下準備としては具体的な対象地の確定（上記図 45），現場では写真撮影（建築のファサード，路地の入り口の写真撮影），目視調査，道順の記録，道幅の測定を行った。

以上のような手続きによって，日中それぞれの調査場所を確定し，予備調査を行った。予備調査では，一本一本の道の写真を撮影し，目視調査の試行をした。



## 2.1.3 本調査の方法

調査は予備調査と本調査に分けて行われた。本調査では、同時に行われた2つの調査で構成される。1つ目は目視撮影であり、2つ目は写真調査である。

### 目視調査の方法

現場では、スケッチブック B4 サイズの1ページの大きさに収まる大きさの地図を複数枚持って行われる。縮尺は1/100,あるいは地区が大きい場合は1/200の地図を作成し、現地に持参する。目視調査では地図を参照しながら、以下の項目を目視あるいは実測により、スケッチ記録する。

- ①街区の道路構成、路地が位置する街区の用途の確認、路地と敷地の接続方法の確認。
- ②路地/里弄の道路幅員の計測、あるいは目視。
- ③主な表出・あふれ出しの物品とその位置の記入。(図46)

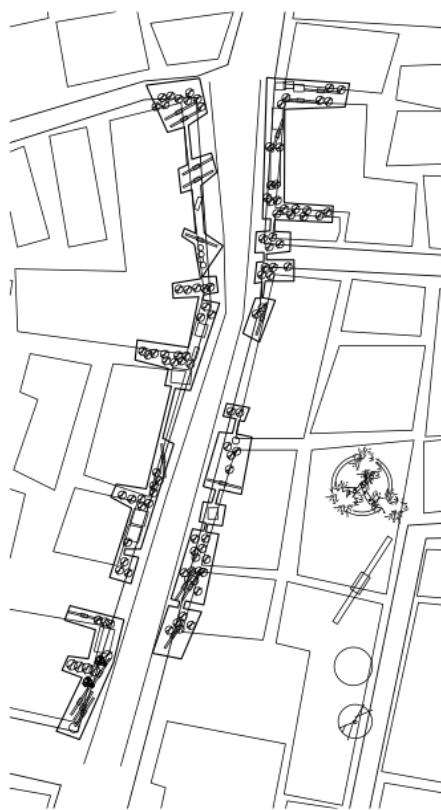


図46 あふれ出しの記録

### 写真調査の方法

以下、予備調査で挙げた地区と同じ地区を例に方法を説明する。

図47で示すように、調査範囲内の道全体及び調査範囲周辺の道の一部を対象に、道ごとの起点、終点、交差点、または長い道の中央地点付近に番号をつける。番号がつけられた場所で写真を撮る

撮影する。道路中心で進行方向に向かって、前後左右に向け4枚の写真を撮影し（図48）、道ごとに整理する（図49）。最後に、調査したすべての道を可能な限りビデオで撮る。これにもとづき、一部の地域において、連続立面輪郭図の画像を作成した。（付録3）

写真の撮影条件はすべての場所で同じとし、道の両面を平等に見せるよう調査対象地の道の中央で道の長さ方向に向かい、筆者の視線の高さ（おおよそ1.5m）で同一機器により水平に撮影し、同一設定の録画機能を用い、画像を記録する。

なお、撮影終了後に、全体の移動ルートを記録した。撮影時期は、冬季の木々が枯れた時期や雨と雪など極端な天候の日時を避けた。

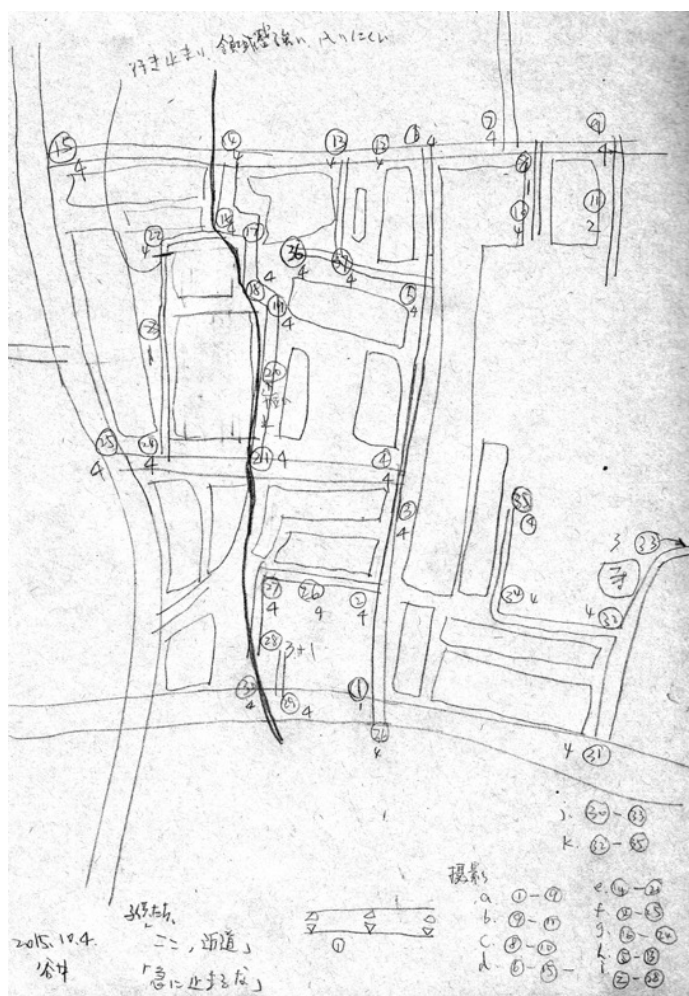
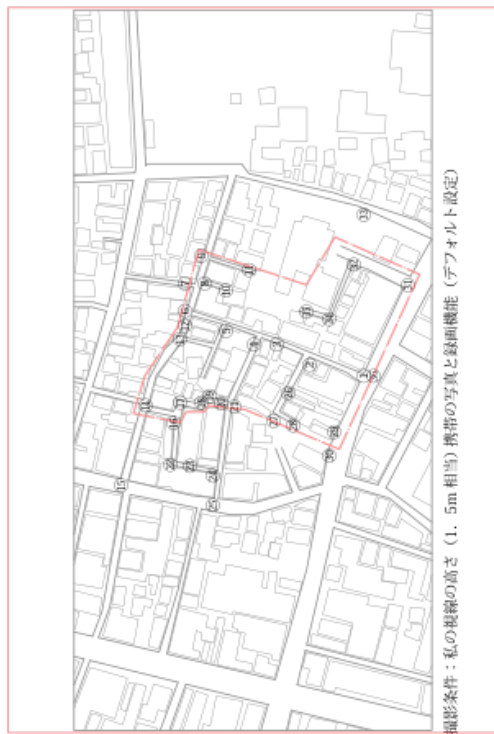


図47 谷中三丁目調査での道順の記録



図48 写真記録（②⑨⑩地点）



- ビデオ  
 ①→⑨  
 ⑨→⑪  
 ⑧→⑩  
 ⑥→⑮  
 ⑭→⑳  
 ④→⑵  
 ⑮→⑳
- ⑤→⑬  
 ②→⑳  
 ⑩→⑳  
 ⑫→⑳

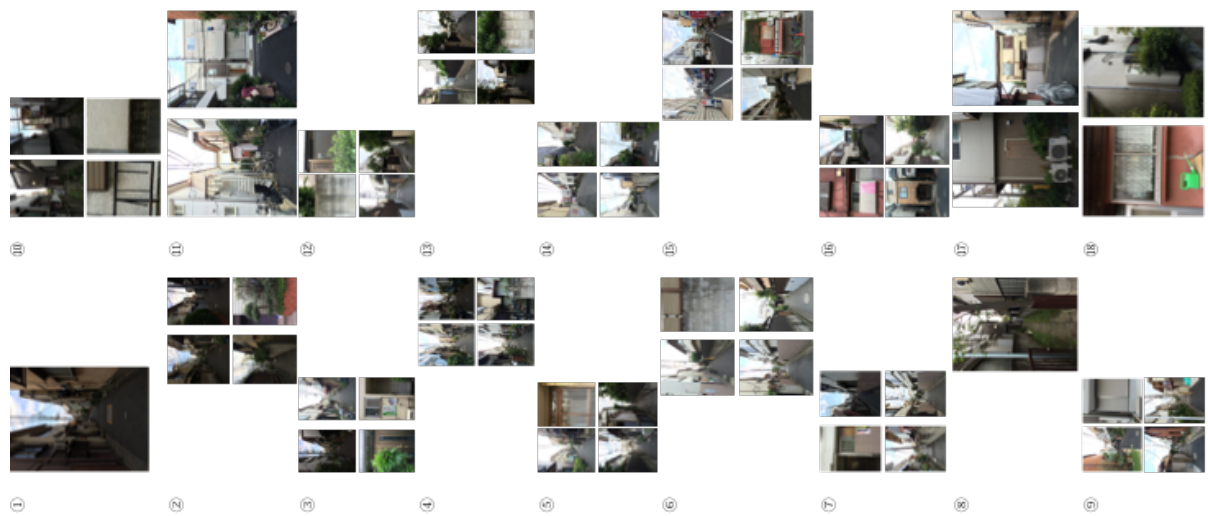


図 49 調査地域道ごとの写真整理

## 2.1.4 調査日程

日本の東京と中国の揚子江南部地域にて3期のフィールド調査を行い、路地/里弄および周辺を巡って写真撮影を行った。第一期：2014年10月～2015年10月に、日本（東京）と中国（上海，蘇州・無錫・常州，杭州・紹興）。第二期：2015年12月（東京），2016年8月～9月（上海，蘇州・常州，南京，紹興）。第三期：2017年中に（東京）補足調査を行った。

## 2.2 分析にあたって

分析にあたって、以下の作業を行った。本節では、その手順を説明する。

### 2.2.1 分析対象写真の選択

写真調査の結果、総計 9870 枚の写真が得られた。写真を国—調査地域—撮影番号の順でファイル名を付け、データの整理を行った。

中国では、8 地区の広範囲で調査を行った。揚子江南部地域として広く認識され、また里弄が昔から数多くあり、そして文化財として開発保護する杭州、上海、蘇州でそれぞれ 25 枚、20 枚、20 枚と分析で用いる写真の枚数を決め、そのほかの地域では 15 枚、または 10 枚の写真を分析用としてピックアップした。合計 130 枚の写真がピックアップされた。

日本での調査は東京の 10 個の地区で行われた。分析で用いる写真に関して、総数を中国揚子江南部地域と同じ数にし、これまでの先行研究で路地として取り上げた地域のものをピックアップした。路地として最も有名とした谷根千を 35 枚、路地が多く見当たる中央区の築地・月島周辺は 35 枚、本所、京島周辺は 15 枚を選んだ。そのほかの地域はそれぞれ 5 枚をピックアップした。また、近年郊外で路地のような道が見られる吉祥寺周辺では 20 枚をピックアップした。

## 2.2.2 データシートの作成

文献調査と現地調査の結果をまとめ、主要な道一本一本につき、データ整理のため、以下のとおりデータシートを作成した。

データシートは4つの部分から構成する：

- 1) 道の基本データ：通し番号、形成年代、規模、建物やあふれ出し等についての文字記録；
- 2) 道の所在地、道両側の建物の代表的な平面図と断面図；
- 3) 道における複数地点の進行方向の写真画像；

図 50 は作成されたデータシートの一例を示す。

市町村 中国上海

路地の番号 001

調査地番号 CN-SH-B

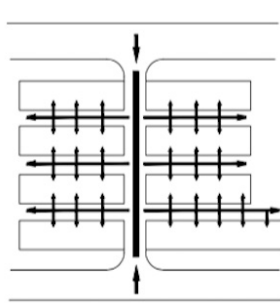
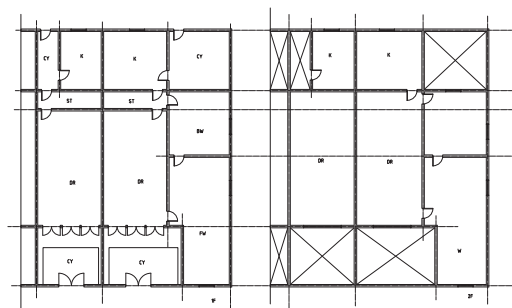
### 路地データ

形成年代	1930年	規模	78棟	道路幅	2.5-4m
建物のタイプ	居住				
建物の階数&構造	2-3階	組積造、木造			
あふれ出し有無	あり				
ある場合はその内容	植栽、干し物、自転車、バイクなど。				
再開発の有無	あり				
ある場合はその年代と内容	政府による修繕あり、取り壊しなし。				
空き家	0	住人の数	平均 3-5人 / 住戸		
コメント					
卢湾区陕西南路と建国西路の間に位置し、典型的な旧式里弄住宅群。出入口には伝統式の里弄牌楼があり、街区全体は里弄住宅当時のままである。					



調査地の位置

写真及び分析箇所的位置



代表的な住宅(建物)

平面図

路地構成図



写真

図 50 調査から作成したデータシートの例

## 2.2.3 分析図の作成

データシート化した主要な道一本一本につき、中央進行方向の写真画像の各物理量の可視率図を作成する。さらに、表出・あふれ出しの種類と分布図、Space Syntax Analysis(SSA)による Integration Value(In. V.)の算出図 (Hillier,1984; 高野,2007) を作成する。(図 51)

調査対象である路地/里弄において、可視率の分析図は典型的な景観写真で映る各物理量の構成比を把握、分析するための図である。表出・あふれ出しの分布図はフィールド調査時に現場での表出とあふれ出しの位置と物品名の記録となる。SSA 分析図は調査した道が街区の道路網において、どれくらいの奥深さを分析するためのものであり、道路網の構成を示す。

### ①可視率の分析

本論では路地/里弄であるかを景観的に判断する際に、景観内の各物理的要素の構成比率が影響すると考える。そのため、調査した路地/里弄の写真に映る物理的構成要素の構成比率を求めた。本論では調査で撮った写真をベースに、写真で映る可視的物理要素の構成比率から分析を行うことにした。ここではその可視率の算出方法については 2.2.4 で説明する。

### ② 表出・あふれ出しの分布の分析

小林 (1985, 1988) が述べているとおり、表出・あふれ出しは領域を表示し、路地における重要な物理的要素となる。したがって、表出・あふれ出しの平面図を作成した。

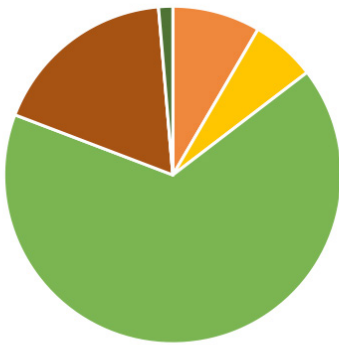
目視調査では、領域の形態 (例えば、塀・縁石・L字溝の有無)、領域構成要素表出 (例えば、地植えの植栽、植木鉢、盆栽など)・あふれ出し (例えば、自転車、バイク、三輪車、洗濯機、洗濯物干し、牛乳箱、ゴミ箱、ビル箱その他ガラクタなど) を記録した。それらをまとめて、平面図で示す。位置と大きさについては、写真より特定した。

### ③ SSA による分析

データシートで示した道の位置が街区の道路網において、どのくらいの奥深さにあるかを知るために、Space Syntax Analysis(SSA)分析を行った。(方法については付録 4 を参照のこと。)

なお、研究の一環として、緑とあふれ出しの可視率と道の位置の奥深さの相関を検討し、住宅地に位置する道のあふれ出しの比率と奥深さ、あるいは緑の比率と奥深さに一定の相関が認められた。本論ではこれについては議論しないことにし、付録 5 に結果の概要を記す。

各物理要素の可視率



各物理要素の割合

空 7.80%  
 道 5.75%  
 建物 61.46%  
 あふれ出し 16.56%  
 緑 (自然) 0%  
 緑 (人工) 1.26%

■ 空 ■ 道 ■ 建物 ■ あふれ出し ■ 緑 (自然) ■ 緑 (人工)

あふれ出しの分布

SSA による分析

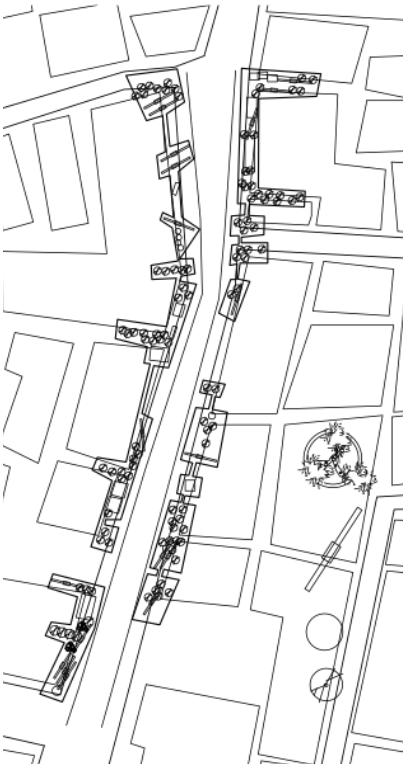


図 51 分析図の作成 (上 : 右 : 可視率の分析, 左下 : 表出・あふれ出しの分布, 右下 : SSA による分析)



## 2.2.4 写真における各物理量の可視率の算出方法

本論では路地/里弄であるかを景観的に判断する際に、景観内の各物理的要素の構成比率が影響すると考える。そのため、調査した路地/里弄の写真に映る物理的構成要素の構成比率を求める方法を検討した。

写真における各物理要素の比率の算出する方法として、積田（2015）などのグリッド解析法が挙げられる。この方法は写真の複雑な違いを抽象化して、空・樹木・建物・白砂などをまとめて把握する利点がある。

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 52 グリッド解析法

一方で、積田（2015）が扱った写真は互いに明らかな違いが認められるものであったが、本論で扱う路地/里弄の写真は見た目の差が小さく、一つのセルの面積が大きいグリッド解析法では十分に差を捉えられない可能性がある。したがって、グリッドの精度を上げるか、ピクセルで面積を統計する必要がある。

そのため、本論では、ピクセル法を使い、写真の各物理量の可視率の分析を行う。図 53 は 1 枚の路地の写真を例として方法を説明する。分析の手順は以下のとおりである：①すべての写真を同じ画像数に補正した（横 800pixel×縦 600pixel）、②Photoshop で 3pixel の鉛筆ツールを用い、写真上の各要素（空、建物、道、地植えの植栽（以下自然の緑とする）、鉢植えなど移動可能な植栽（以下人工の緑とする）、あふれ出しの 6 つとする）を色分けした、③各色のピクセル数を集計し、その画面内の比率を算出する。

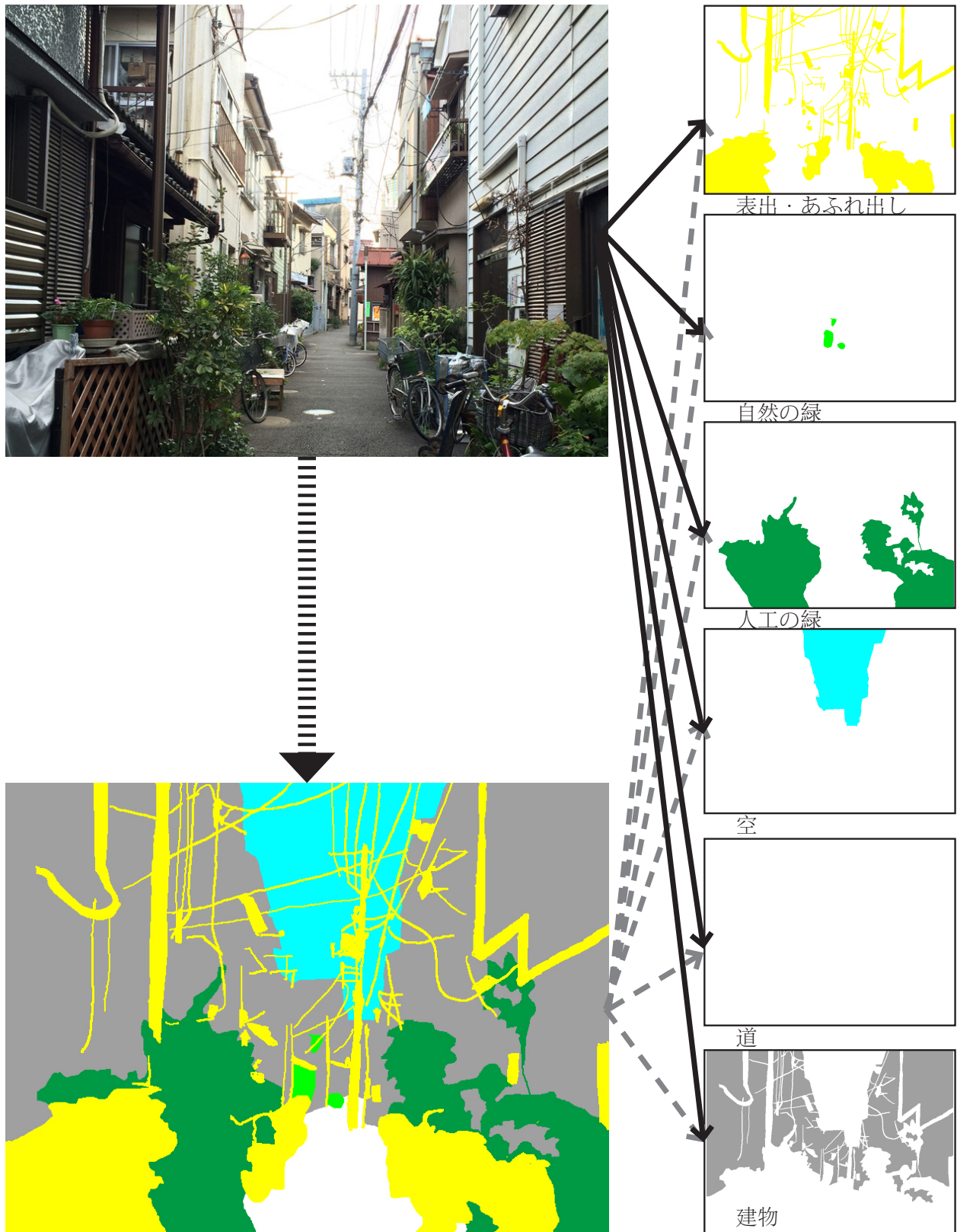


図 53 可視率の分析方法

この作業を通し、セルの精度に関係なく、各要素が示す比率を精度高く捉えられ、分析の精度が上がった。

## 2.2.5 路地/里弄の分類

路地/里弄として、密集住宅区に位置する狭い道、裏道、または近年路地/里弄をベースに観光開発されるものなどが挙げられる。

これらのものを類別化して考える際に、再開発または観光化されたものは用途ごとすっかり変わり、路地/里弄として認識されつつも、異質なものとして一類別に分ける必要がある。また、時代につれ、家族構成や生活様式が変化し、地域によって、路地/里弄に住む人が減り、建物が老朽化し、全体的に状態がよくなっているものも現れる。さらに、あふれ出しなどが極端に少なく、生活感がないものや路地らしさはあるものの、違う要素を感じたり、違和感を覚えたりするものもある。

路地/里弄と言っても、一概に一つの枠組みに収まるのが難しく、類別に分けて分析する必要がある。

### 分類の方法

実地調査でまとめた写真データをもとに、調査した日中の路地/里弄を5つの類型に分ける。分類は以下の5つとなる。

- a. 路地/里弄と思われるもの
- b. 路地/里弄らしい部分はあるが、違う要素があるもの
- c. 路地/里弄として商業開発また観光地再開発したもの
- d. 路地/里弄的ではあるが、生活感がないもの
- e. 老朽化して状態のよくないもの

写真を分類する際に、具体的な手順は以下のとおりである。

①まず、c. 路地/里弄として商業開発また観光地再開発したものを選別する。この分類に属すものについては、日中ともはっきりした商業要素、例えば、店の看板、観光施設、売店のあふれ出しが多く見られ、人の住まいが感じられず、道が位置する地域が商業地域か観光地であることを特徴とする。

②次に、e. 老朽化して状態のよくないもの、空き家があることが明確なものの写真を確定する。この分類のものについては、例えば、植え込みの手入れ不足や不用品やゴミなどのあふれ出しが放置されているなどの特徴を持つものも入る。建物の壁の塗り直しの状態がよくない、または建具などが錆びていて、人が住んでいるかわからないものもこの類別に分類する。

③続いて、d. 路地/里弄的ではあるが、生活感がないものに写真を分類する。ここでは、表出やあふれ出しを生活感として捉え、この類別のものについては、表出・あふれ出しがほとんどないことが特徴である。

④上記 c→e→d の順で分類し終わった後、a. 路地/里弄と思われるものと b. 路地/里弄らしい部分はあるが、違う要素があるものの選別を行った。そのなか、a. 路地/里弄と思われるものについて、その道幅は 4m 以下で、D/H が適切であり、ヒューマンスケールが感じられ、表出・あふれ出しが見られる。著しく違う要素があるものは b. 路地/里弄らしい部分はあるが、違う要素があるものとして分類する。

なお、分類はこの手順にもとづき、筆者のほか、研究者 2 名、合計 3 名で行った。

## 分類の結果

日中それぞれ 130 枚の写真を以上の手順にもとづき分類した。(表 3) 写真データは類別ごとに色違いのタグを付け、整理した。

表 3 日中それぞれ 130 枚の写真の分類結果

	分類a	分類b	分類c	分類d	分類e
日本 (写真枚数)	20	68	15	13	14
中国 (写真枚数)	14	32	30	23	31
合計 (枚数)	34	100	45	36	45

上記の分類結果は、筆者のほか、研究者 2 名、合計 3 名で一致率 2/3 以上の分類結果である。各類別において、日中それぞれの一致率は表 4 のとおりである。

表 4 写真の分類の判断における一致率

	分類a 一致率		分類b 一致率		分類c 一致率		分類d 一致率		分類e 一致率	
	100%	67%	100%	67%	100%	67%	100%	67%	100%	67%
日本 (写真枚数)	13	7	53	15	14	1	4	9	8	6
中国 (写真枚数)	9	5	22	10	25	5	20	3	23	8
合計 (枚数)	22	12	75	25	39	6	24	12	31	14

すべての写真において、3 名の判断がそれぞれ分かれることがなく、最低でも 2 名が一致していた。したがって、写真の分類はある程度妥当であると考えられる。

この分類に信憑性があり、上記の分類結果を用いることにする。

分類 c において、日本は 15 枚のうち 14 枚、中国は 30 枚のうち 25 枚の一致率が 100% となり、商業または観光開発されたものについて、分類の判断が明確であることがわかった。続いて、分類 a, b において、日中ともに一致率 100% の枚数が一致率 67% の枚数の 2 倍近くあり、判断はあまり割れていないことがわかった。特に分類 b において、日本の場合は 68 枚のうち、53 枚が完全一致し、路地らしいが、違う要素がある道についての判断は明確であった。

分類 d において、日本側の一致率が低く、生活感について、人によって感じ方に幅があり、分類の基準がゆるいことが伺える。また、分類 e では、揚子江南部地域の道ははっきりと老朽化である

と判断されることに對し、東京の道は揚子江南部地域の道に比べ、それほど老朽化していないことから、一致率 100%のものと一致率 67%のものの比率が低くなったと考察する。

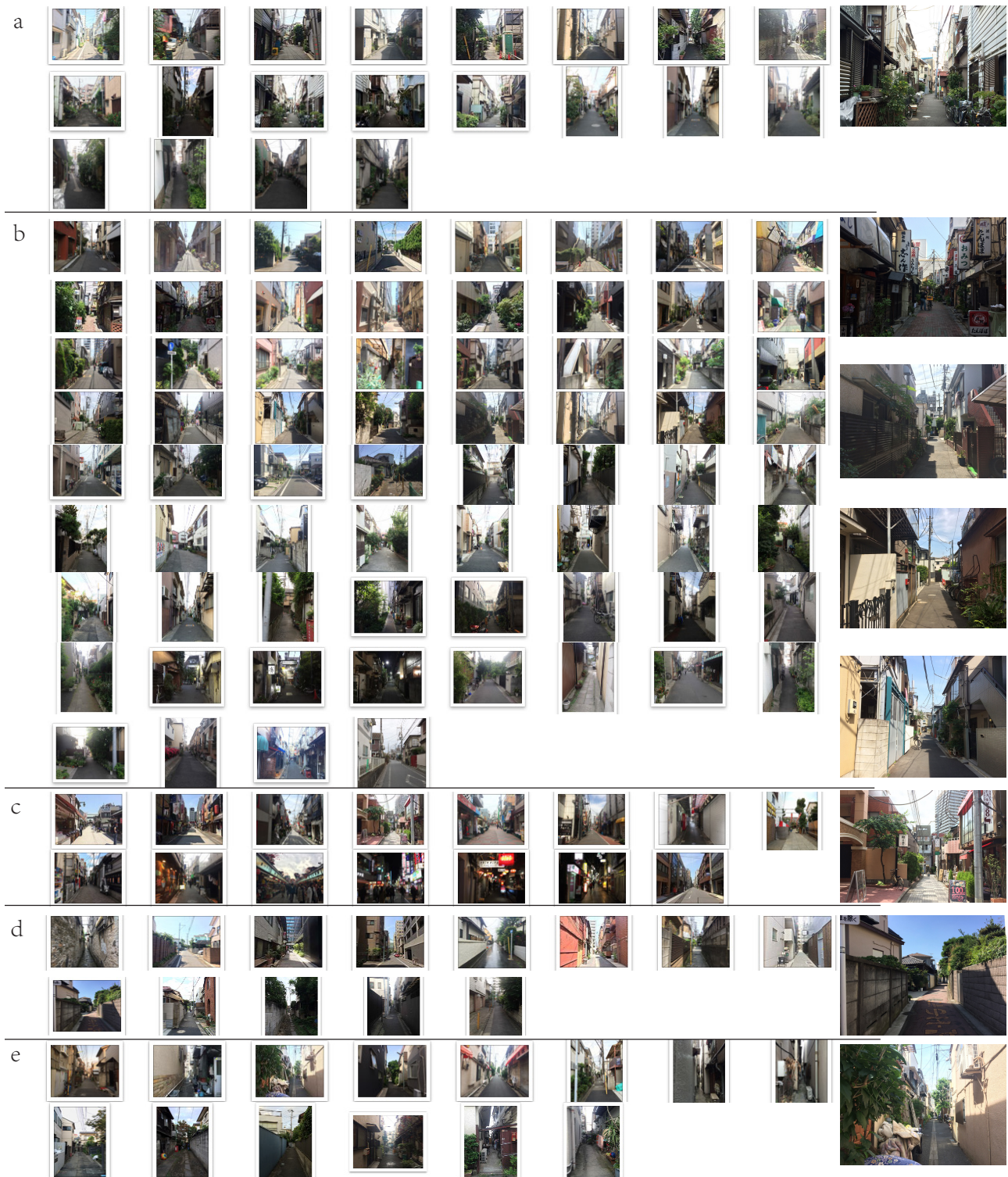
東京の 130 枚道の写真の分類の結果は表 5 のとおりである。

分類 a には写真 20 枚、分類 b には写真 68 枚、分類 c には写真 15 枚、分類 d には写真 13 枚、分類 e には写真 14 枚の結果となる。

分類手順に沿って、①分類 c.商業・観光開発されたものについて、商店街、ビル街、屋台が並ぶ参道沿い、店舗の裏道の写真が分類され、商店の看板や、道先の観光地などが特徴として挙げられる。②続いて、分類 e.老朽化の道に不用品や粗大ゴミが多数置かれており、また、工事で残された道具や手入れがされていない配管などが見られる。③分類 d の生活感のないものに関しては、スッキリしたきれいな道となり、表出やあふれ出しはほとんどないのが特徴である。

なお、④分類 b.路地らしい部分はあるが、違う要素があるものは 130 枚のうち 68 枚、半分以上の道がこの類別に分類された。これに對し、分類 a.路地そのものであると分類されるものは 20 枚であった。この 2 つの分類のものをみると、分類 a より分類 b のほうが写真により、緑が極端に大きい割合を占めたり、あふれ出しはあるものの、看板などが見えたり、または道の幅が広がったり、D/H が大きい道が見られるなどの特徴が挙げられる。⑤分類 a. 路地と思われる道のどれにおいても、一定の道幅と D/H が見られ、且つ表出やあふれ出し、緑が見られ、両側の建物は低層住宅であることがわかった。

表 5 東京の路地の分類結果表



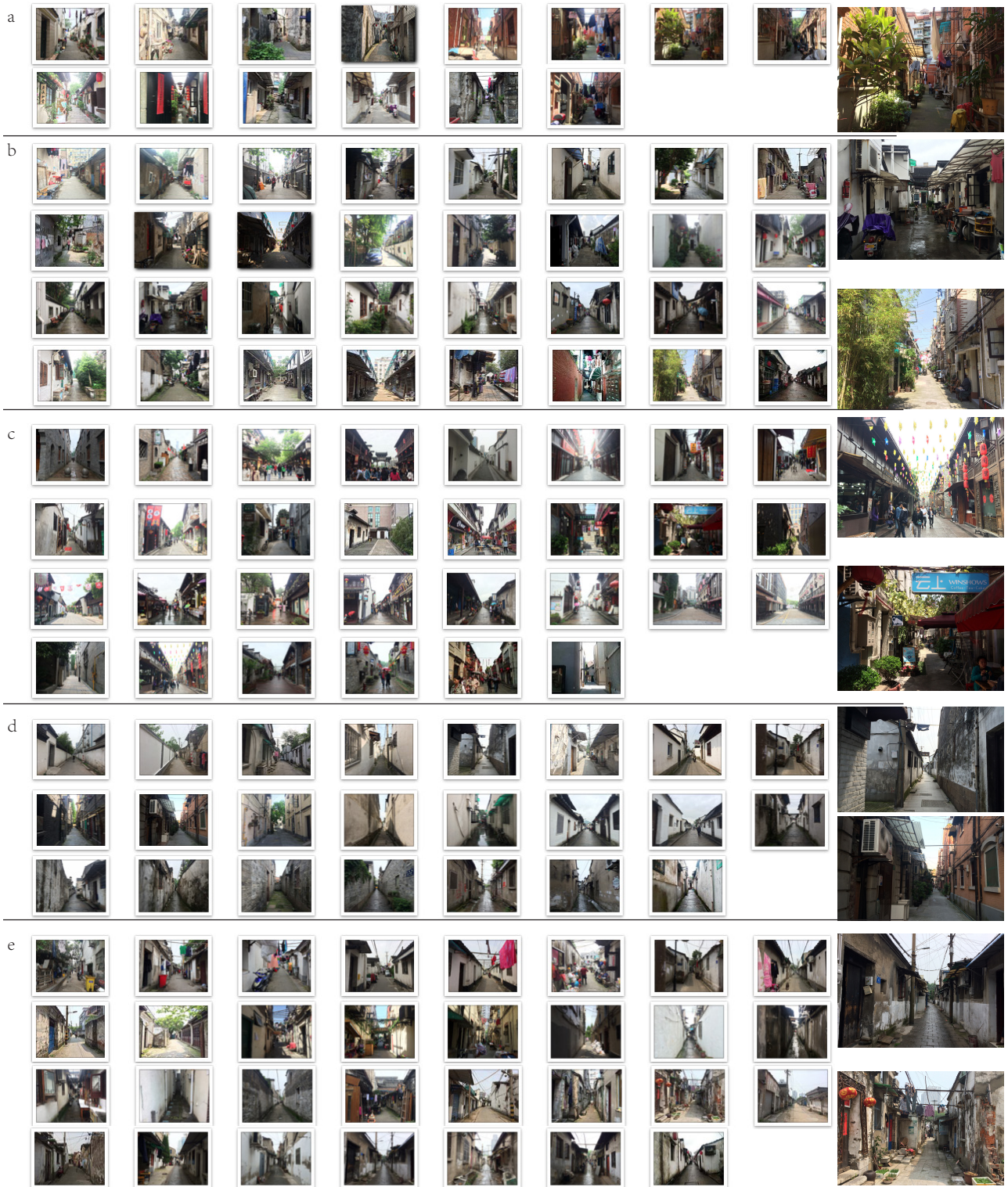
次に、揚子江南部地域の里弄について、130枚の道の写真の分類結果表6のとおりである。

分類aには写真14枚、分類bには写真32枚、分類cには写真30枚、分類dには写真23枚、分類eには写真31枚の結果となる。

分類の手順に沿って、①分類 c. 商業・観光開発されたものは 30 枚あり、日本のこの分類の 15 枚の倍となった。中国では里弄をベースに商業・観光開発される傾向が伺える。道について、道幅は広く、両側の建物も住宅と違い、広々と作られているのが特徴である。さらに、店の看板などの表出、商売のためのテーブルや椅子などのあふれ出しも多く見られる。地面のほか、建物に吊らされる提灯や旗なども特徴である。②続いて、分類 e について、枚数は日本のこの分類の枚数の倍となり、分類の一致率も 31 枚のうち 23 枚が 100%で、日本の 14 枚のうち 8 枚が 100%に比べ、一致率は高かった。建物の状況が悪く、壁の塗装剥げ、建具の錆付き、不用品とゴミの置きっぱなしが多く見られ、写真によって空き家があり、ゴーストタウンとなるものもある。③分類 d の生活感のないものに関しては、日本のこの分類の道と同様、スッキリしたきれいな道となり、表出やあふれ出しはほとんどないのが特徴である。

なお、④分類 b 里弄らしい部分はあるが、違う要素があるものは 32 枚あることに対し、分類 a 里弄そのものであると分類されるものは 14 枚であった。この 2 つの分類のものをみると、分類 a より分類 b の道の両側の建物の様式が違ったり、あふれ出しや緑がほどよくあるものの、建物の手入れがよくされていなかったり、アンバランスが見られる。⑤分類 a の里弄と思われる道はどの写真においても、一定の道幅と D/H が見られ、且つ表出やあふれ出し、緑がほどよく見られ、両側の建物は 2-4 階建ての住宅であることがわかった。

表 6 揚子江南部地域の里弄の分類結果表





## 2.3 道の類別ごとの可視率の分析

この節では、2.3.1 で各分類の可視率の割合の算出結果の概要を記し、各分類の特徴を述べたうえで、2.3.2 では a.路地/里弄と思われるものとほかの分類の道との比較を行い、分類 a の特徴を明らかにする。さらに、2.3.3 では日中を分けて、6つの物理量（緑（自然と人工）、あふれ出し、建物、空、道）ごとに、各分類の間の比較を行う。

### 2.3.1 類別ごとの可視率の割合の概要

図 54 は各分類(a, b, c, d, e)において、日中それぞれの各物理要素の可視率の割合を示す。

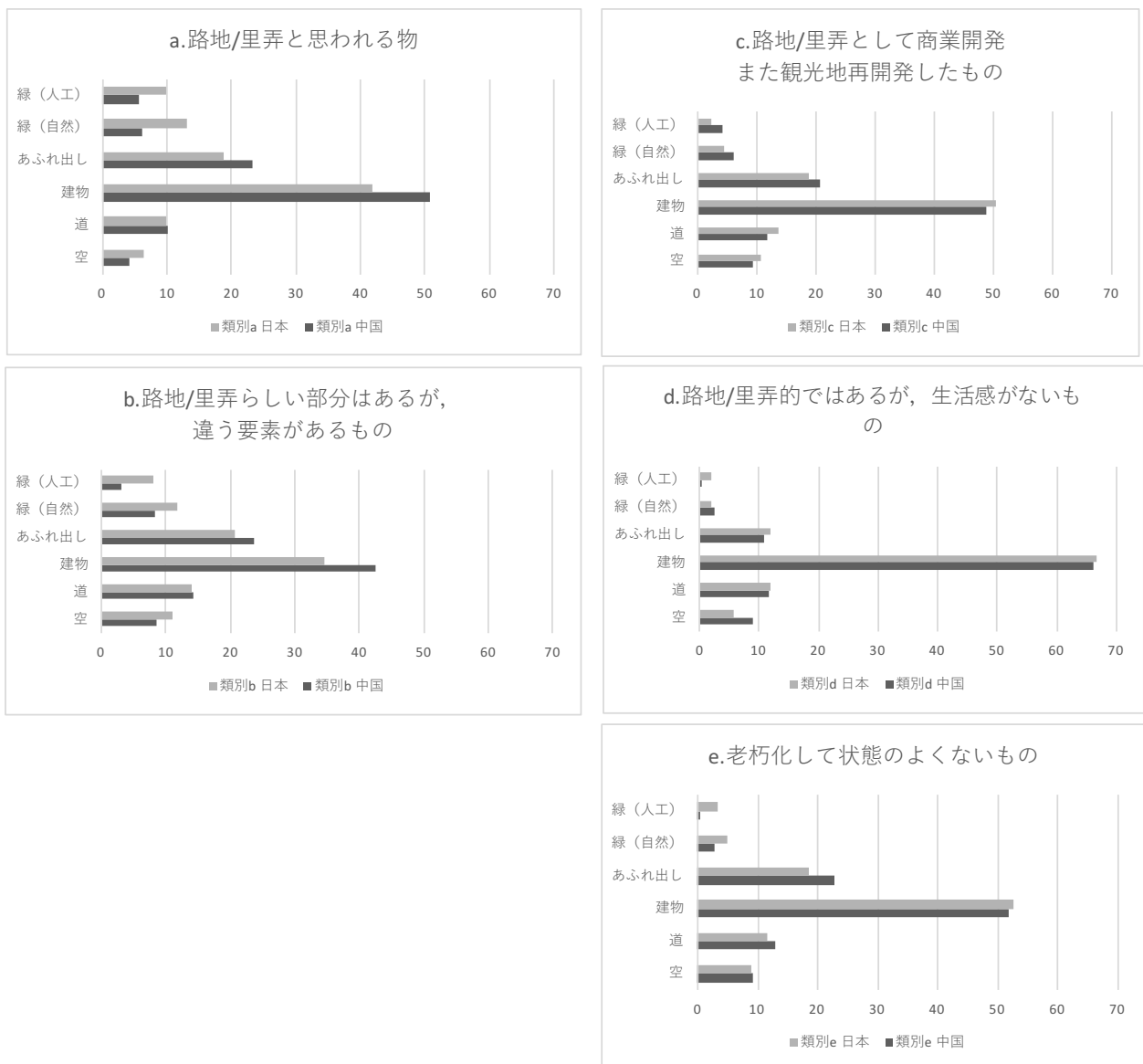


図 54 類別ごとの日中における各物理要素の可視率

下記ではそれぞれの類別ごとに日中それぞれの結果の概要を記す。

**a. 路地/里弄と思われるもの について**

図 55 は日中それぞれの路地/里弄と思われるものについて、各写真に占める各物理量（空、道、建物、あふれ出し、自然の緑、人工の緑）の可視率を示す図である。図 56 は日中の各物理量の割合の平均値を示す図である。各物理量の可視率の平均値において、日中ともに一番大きな割合を占めるのは建物であり、日本では 42.0%、中国では 50.8%である。続いて、あふれ出しの可視率は日中とも二番目となる。日本では 18.8%、中国では 23.3%である。なお、日本は自然の緑（13.0%）が三番目に大きいのにに対し、中国では道(10.2%)の割合が三番目であることがわかった。なお、自然と人工の緑をあわせた合計を見ると、日本は 22.8%、中国は 11.8%で、それぞれ、2 番目と 3 番目になる。

路地では領域表示をしている物が一定程度に見られ、その表現として、あふれ出しと緑が多く見られるのが特徴とされている（小林，1985）。あふれ出し+自然の緑+人工の緑の割合の合計は、日本で 34.9%、中国で 41.7%、日中とも三割以上となり、一定の割合を占めている。この数値から a の路地/里弄と思われるものの特徴が伺える。

また、空の可視率については、日本は 6.4%、中国で 4.0%、道の可視率は、日本で 9.9%、中国で 10.2%であった。



図 55 路地/里弄と思われるもの（中国 N=14，日本 N=20）における各物理量の比率

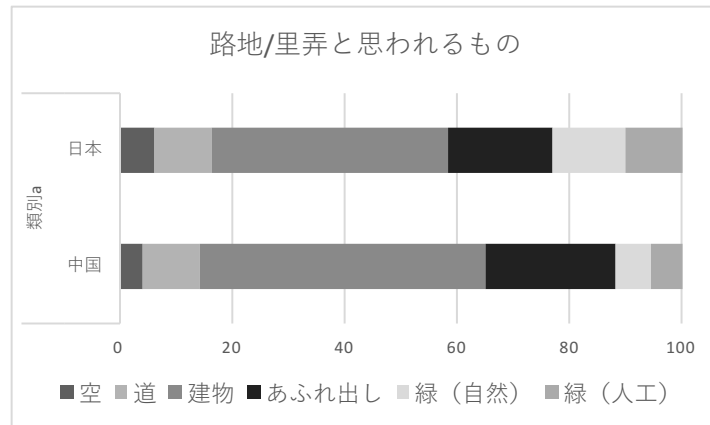


図 56 日中の各物理量の割合の平均値

b. 路地/里弄らしい部分はあるが、違う要素があるもの について

図 57 は日中それぞれの路地/里弄らしい部分はあるが、違う要素がある道について、各写真に占める各物理量の可視率を示す図である。図 58 は日中の各物理量の割合の平均値を示す図である。図 56 で示すとおり、日中とも建物が一番大きい割合を占め、日本では 34.6%、中国では 42.4%である。続いて、あふれ出しについて、日本では 20.8%、中国では 23.7%となり、緑（自然と人工の合計）日本では 19.8%、中国では 11.3%が二番目、三番目の割合を占める。

空については、日本では 11.0%、中国では 8.4%、道については、日本では 13.9%、中国では 14.1%であった。

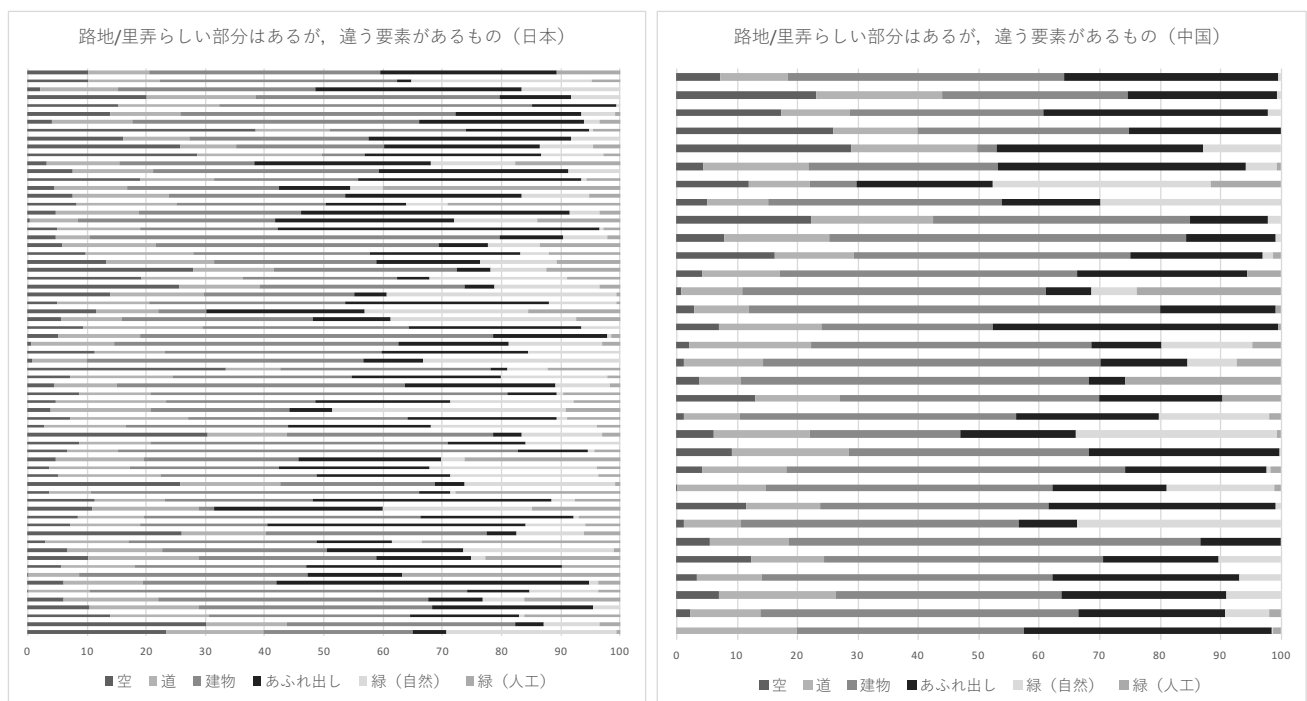


図 57 路地/里弄らしい部分はあるが、違う要素があるもの（日本 N=68、中国 N=32）における各物理量の比率

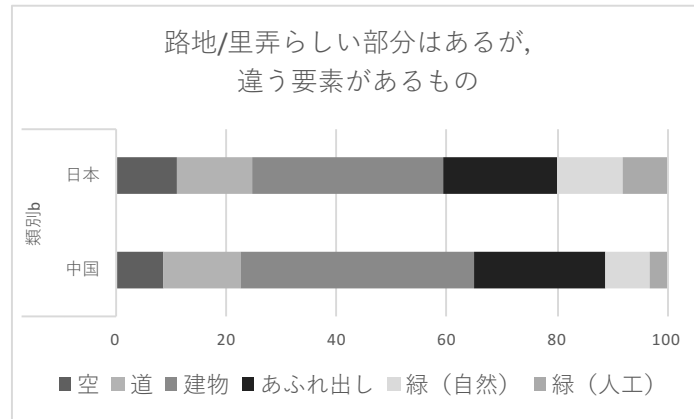


図 58 日中の各物理量の割合の平均値

c. 路地/里弄として商業開発また観光地再開発したもの について

商業開発または観光地再開発されたものに関して、図 59, 60 でその概要を示す。

平均値を見ると、緑の量が少なく、日本では自然と人工の緑の合計で 6.5%，中国では 10.0%である。

具体的な写真とあわせてみると、商業または観光化されたものは路地/里弄をベースにしたものの、路地/里弄の雰囲気醸し出すため、人工的に作られたあふれ出しが多いほか、商売の看板やテーブル・椅子などが多い特徴が挙げられる。あふれ出しの比率は、日本では 18.8%,中国では 20.5%であり、ほぼ同程度である。

建物の比率は日本で 50.5%,中国で 48.7%となる。空は日本で 10.5%,中国で 9.2%である。

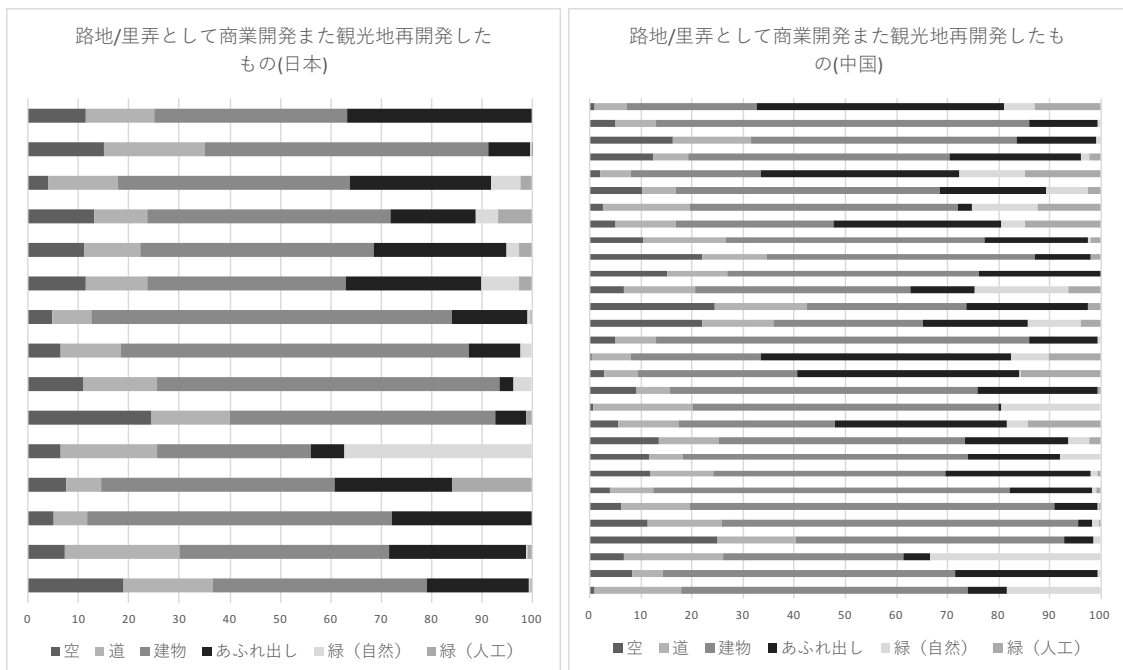


図 59 路地/里弄として商業開発また観光地再開発したもの (日本 N=15, 中国 N=30) における各物理量の比率

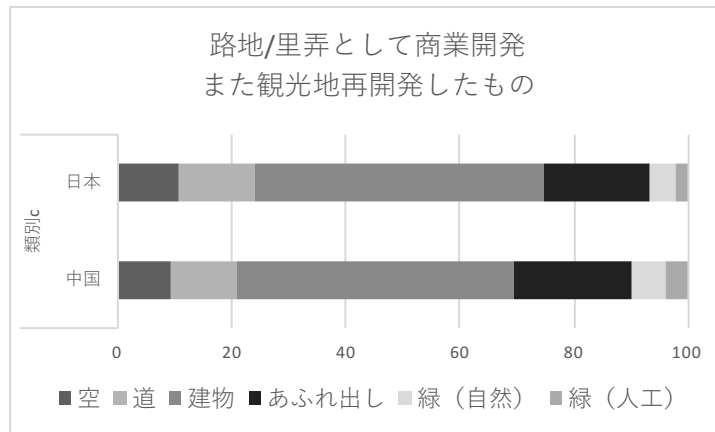


図 60 日中の各物理量の割合の平均値

d. 路地/里弄的ではあるが、生活感がないもの について

図 61, 62 が示すように、生活感のない路地/里弄では建物の比率が極めて大きい。日中は 66.6%, 66.0%, ほとんど異ならない。また、日本の緑の合計は 4.0%, あふれ出しは 11.8% であり、中国で緑の合計が 2.8%, あふれ出しが 10.7% と少ない。

上記から、この分類の道には住民による表出行為が少ないことがわかり、具体的な写真を見ると、道の両側の建物は確かに路地/里弄の両側にある建物だが、あふれ出しや緑が少ない。その分、建物と道が多く見られ、そのため、生活感がないものとして分類されたことが伺われる。なお、日中両国の各物理量の比率にほとんど差がないことがこの分類の特徴と考えられる。

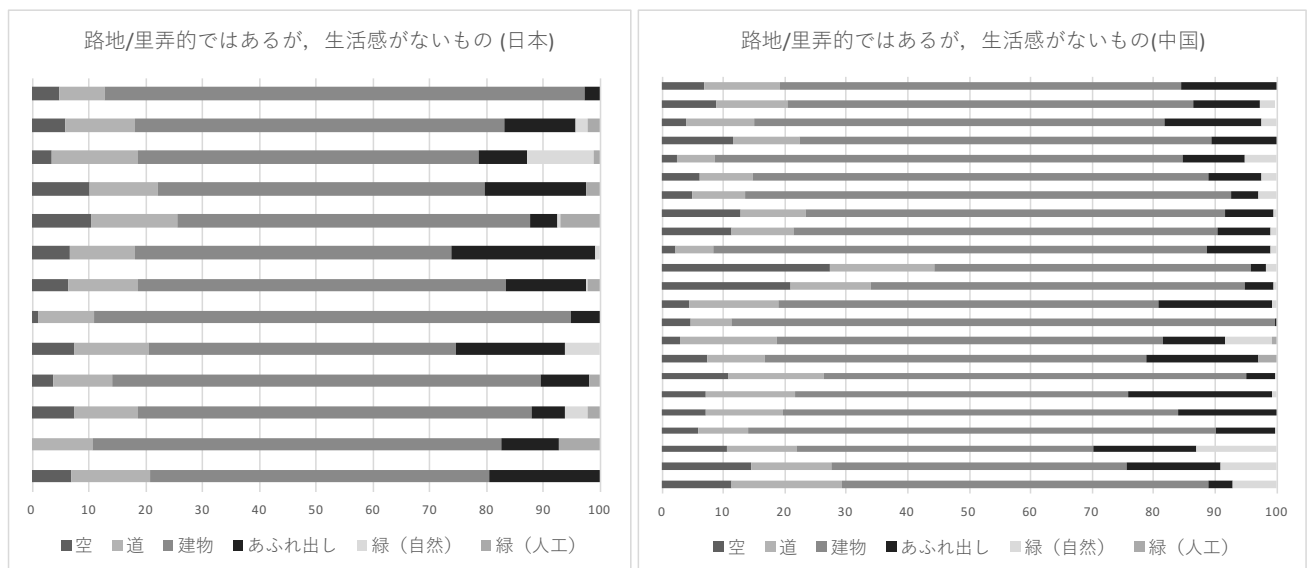


図 61 路地/里弄的ではあるが、生活感がないもの (日本 N=13, 中国 N=23) における各物理量の比率

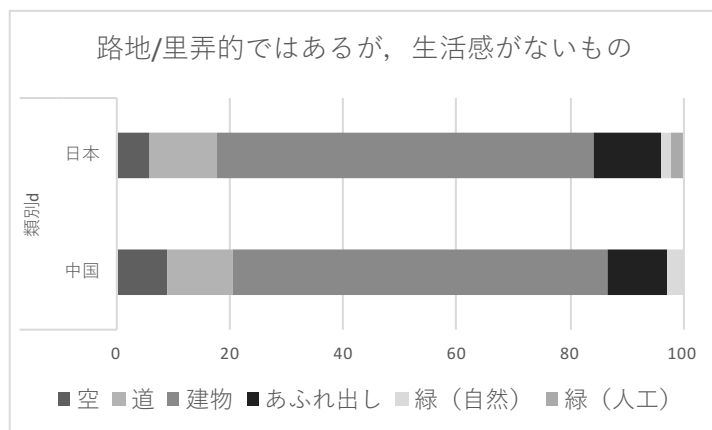


図 62 日中の各物理量の割合の平均値

e. 老朽化して状態のよくないもの について

老朽化して状態の良くないものに関しては、図 63 で示すとおり、緑の割合が少ない、日本では 9.0%,中国では 9.1%である。ところが、あふれ出し率は一定程度あり、日本では 18.6%,中国では、22.7%となり、分類 a, b, c とほぼ同程度である。

このことから、この分類のものに緑が少なく、あふれ出しが普通にあることがデータから読み取られる。具体的に写真をみてみると、あふれ出しはあるものの、整理整頓が足りず、または粗大ゴミ、廃棄物などがほとんどであり、緑は自然のものがほとんどで、手入れがなされていないことがわかる。この特徴はこの分類のデータに如実に反映されたと思われる。

なお、日中を比較してみると、緑の合計は、日本で 8.4%,中国で 3.3%と、日本が若干多く、一方で、あふれ出しは上記のように、中国が若干多いという差が見られるものの、ほかはほとんど変わらないことが特徴と言える。（図 64）

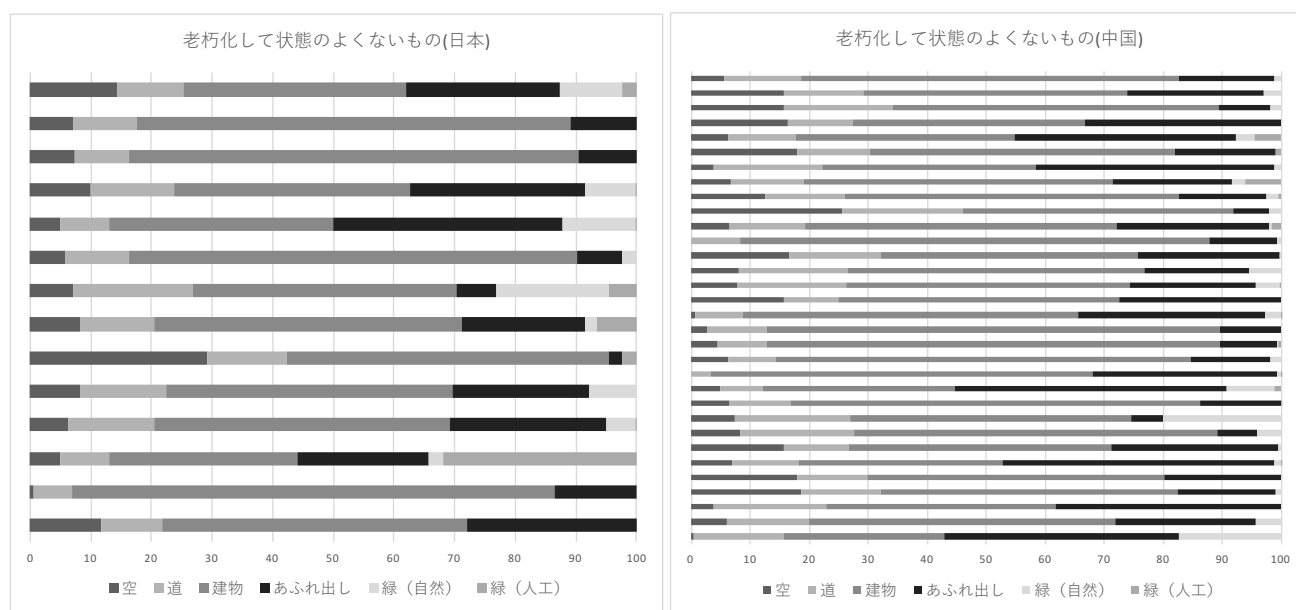


図 63 老朽化して状態のよくないもの (日本 N=14, 中国 N=31) における各物理量の比率

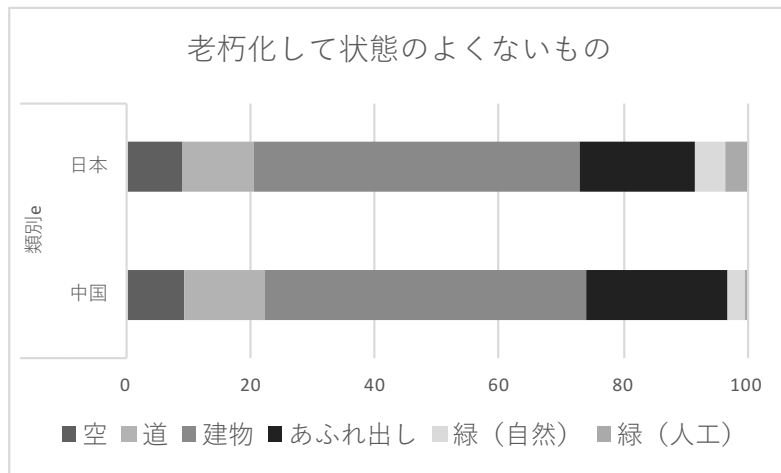


図 64 日中の各物理量の割合の平均値

## 2.3.2 路地/里弄と他の分類の道との比較

この項では、路地/里弄そのものと他の分類の道との比較を行う。

比較を行う際に、各類別の道の写真に映る物理量の可視率の平均値を用いる。以下、平均値について補足しておく。全体からみると、建物とあふれ出しにおいて、写真に占める割合の外れ値がなかった。すなわち、割合の数値が95%信頼区間に入っている。分類 a, b において、建物とあふれ出しの比率は正規分布を呈し、そのほかの分類においても正規分布に近い分布が見られた。ただし、自然の緑及び人工の緑の比率において、いずれも日中ともに外れ値が各分類に見られ、外れ値を除いても正規分布ではないものがほとんどであった。

本論は路地/里弄空間を対象とする研究であり、路地/里弄そのものに分類される道の特徴を明らかにするため、以下では、路地/里弄そのもの（分類 a）と他の分類（b, c, d, e）それぞれの比較を行う。

### 路地/里弄そのもの（分類 a）及び異なる要素を含むもの（分類 b）の間の比較

分類 a は路地/里弄そのものであり、分類 b は違う要素はあるが、路地/里弄らしいものが感じられる道である。図 65 で示すとおり、この二分類には路地/里弄らしさが感じられるのが共通点であり、データからも他の3つの分類と違い、建物の比率に続いて、2番目多い割合を占める要素はあふれ出しと緑（人工・自然の合計）となっている。このことから、路地/里弄らしいものにはあふれ出しと緑の量が多いことが伺える。分類 b と分類 a を比べてみると、建物の比率は、日本では42.0%から34.6%となり、7.4%減少した。中国では50.8%から42.4%となり、8.4%減少した。一方では、あふれ出しや緑の量は、あふれ出しは日本で2.0%増加するが、緑は3.0%減少する。中国では同様に0.4%増加するに対して、0.3%減少する。

したがって、分類 b では、路地の特徴を表すあふれ出しと緑の合計が分類 a との差が少ないため（日中で1%減、0.1%増）、路地/里弄らしさが感じ取れることが考察する。

また、空については、分類 b と分類 a を比べてみると、日本では4.5%増加し、中国でも4.4%増加した。一方で、道についても、日本で4.0%増加し、中国で3.9%増加した。日中ともに建物の比率が減った分が空と道の比率の増加分となったと考えられる。したがって、分類 b の道は分類 a の道より空間構成がやや広いものが多く含まれることがわかる。

なお、分類 a は日中ともに分類 b より各物理量の割合のばらつきは小さく、各物理量の写真による違いが少ないことがわかった。具体的な写真を見てみると、分類 b では、特に中国の場合、緑の割合において、少数の違う分布が見られ、極端に緑が多い例がある。また空の割合をみてみると、分類 a の日本平均 6.4%、標準偏差 2.8、中国平均 4.0%、標準偏差 2.6 に比べ、分類 b では日本平均 10.9%、標準偏差 9.1、中国平均 8.4%、標準偏差 7.9 の結果となり、空のばらつきが激しいことがわかった。これはこれらの写真に違う要素があると分類される根拠の一つだと考えられる。中国での



緑、両国での空と道の割合の大きなものがそれぞれ典型的な路地/里弄と認識されなかったことに影響していた可能性がある。

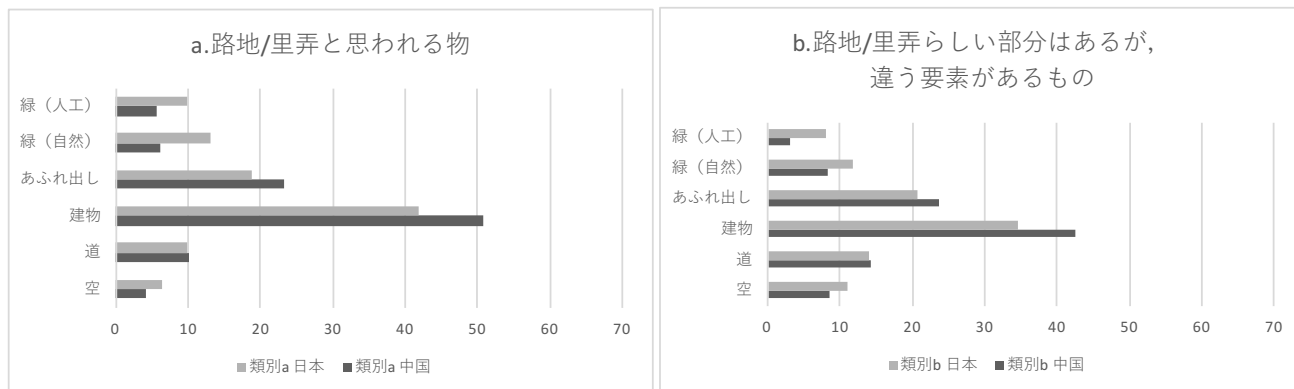


図 65 分類 a, 分類 b の日中の各物理量の可視率

### 路地/里弄そのもの（分類 a）及び商業・観光地再開発された路地/里弄（分類 c）の間の比較

c. 路地/里弄として商業開発また観光地再開発したものについては、商業または観光地開発されることは調査からも、写真からも一目でわかるため、分類する際には優先としてこの分類に写真が分けられた。緑の比率は分類 a より、日本で 16.3%、中国で 1.7% 少なくなり、特に日本の場合、人工と自然の緑は両者とも分類 a の 1/3 以下となっている。商業または観光地化は路地/里弄のものより、緑が減ったことが伺える。空の比率は日中ともに分類 a に比べると多くなるが、そのほかの比率では、日本では建物の比率は 8.5% と大きく増加しており、続いて道が 3.6% 増となっている。中国では空が 5.2%、道も 1.4% 増加しているが、緑のほかにあふれ出しが 2.8%、建物が 2.1% 減少している。（図 66）

日本では路地の緑が明らかに多く、商業・観光開発地の道には緑が少ないことがわかった。緑が少ない分、建物と道の割合が多くなる。中国では、里弄的なものと商業・観光開発地された里弄的な道との差はそれほど大きくなく、緑、あふれ出し、建物が若干減少した分は空と道が見える傾向がある。

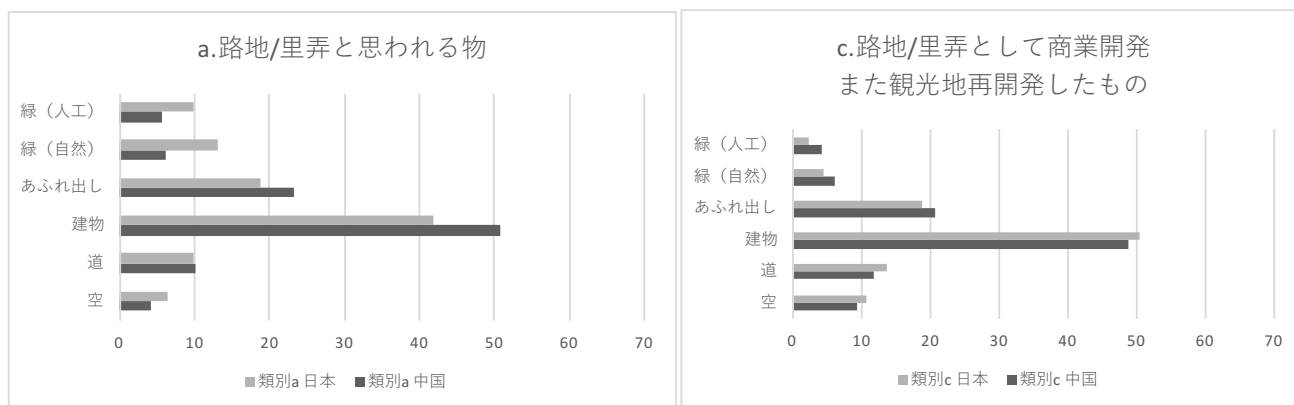


図 66 分類 a, 分類 c の日中の各物理量の可視率

### 路地/里弄そのもの（分類 a）及び生活感のない路地/里弄（分類 d）の間の比較

d の生活感のないグループの建物の割合はほかのグループより明らかに大きく、a の分類より日本で 24.6%多い、中国で 15.2%多いことがわかった。また、緑の割合は少なく、日中とも分類 a の同じカテゴリーの比率の半分以下となり、あふれ出しの比率も少なく、他の分類より 10%前後少ない。（図 67）つまり、あふれ出しや緑の割合が少なく、住民による表出行為が少ないことがわかった。この結果は写真を見るとき印象を根拠付けている。表出やあふれ出しがほとんどなく、その分無表情な建物が見えるため、生活感が感じられないことが伺われる。

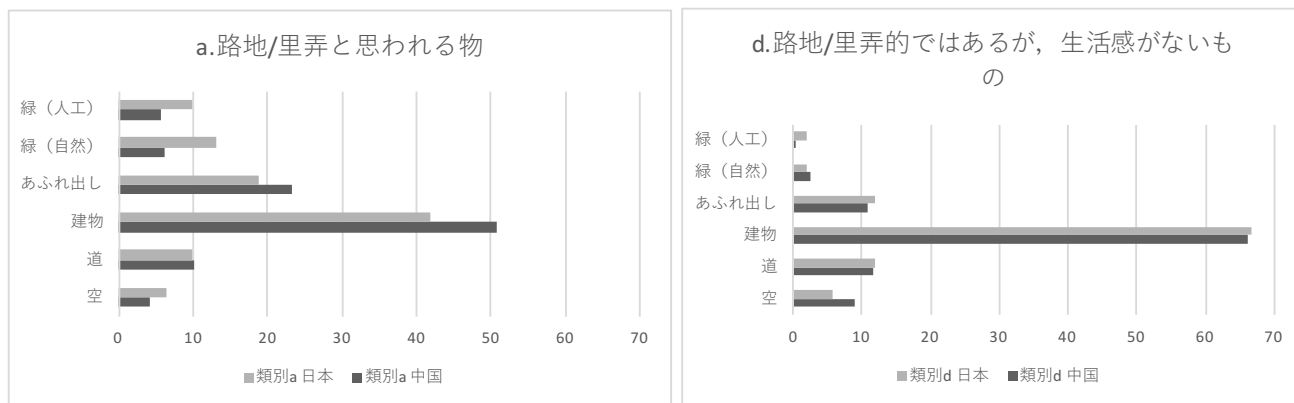


図 67 分類 a, 分類 d の日中の各物理量の可視率

### 路地/里弄そのもの（分類 a）及び状態のよくない路地/里弄（分類 e）の間の比較

分類 a の具体的な写真を見ると、e の老朽化して状態のよくないものや d の生活感のないもののグループと違い、あふれ出しや緑が多い。さらに緑と建物の手入れがなされ、生活感を感じさせると同時に、そこに生活している人々の活気が感じられる。e.老朽化して状態のよくないものにおいて、図 68 で示すとおり、あふれ出しの比率は一定程度約 20%あり、他のグループとほぼ変わらないが、手入れがされず、マイナスな印象を与えるあふれ出しがほとんどであった。また、緑の量が少なく、日中とも分類 a の半分以下であることが伺える。日本では a の路地と比較して、14.5%減少し、中国でも 8.4%減少した。事例によっては、自然の緑が多いものもあるが、そのほとんどは手入れが足りず、乱雑な印象を与えている。

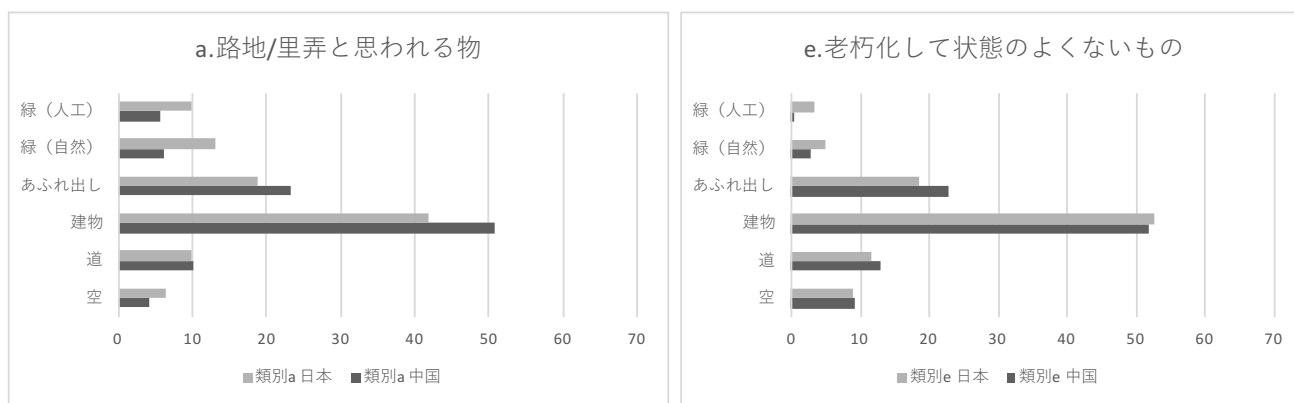


図 68 分類 a, 分類 e の日中の各物理量の可視率

### 2.3.3 要素ごとの各分類の比較

この項では、補足として、2.3.2 概観したものの統計検定を試みる。日中を分けて、まず6つの物理量ごとに各分類間の比較をする。

平均値について、図 69 は要素ごとの各分類における日中の物理量の平均値を示すものである。なお、日本については、自然の緑の a, d, e の分布が正規分布ではなかったため、検定から除外する。また人工の緑 a, c, d, e、あふれ出しの e、道の a、建物の c, d, e も同様に除外する。中国については、自然の緑の c, d, e の分布が正規分布ではなかったため、検定から除外する。また人工の緑のすべて、あふれ出しの d, e 道の b, c, e、建物の c、空の c, d, e も同様に除外する。

なお、以下の検定には t 検定を用いた。

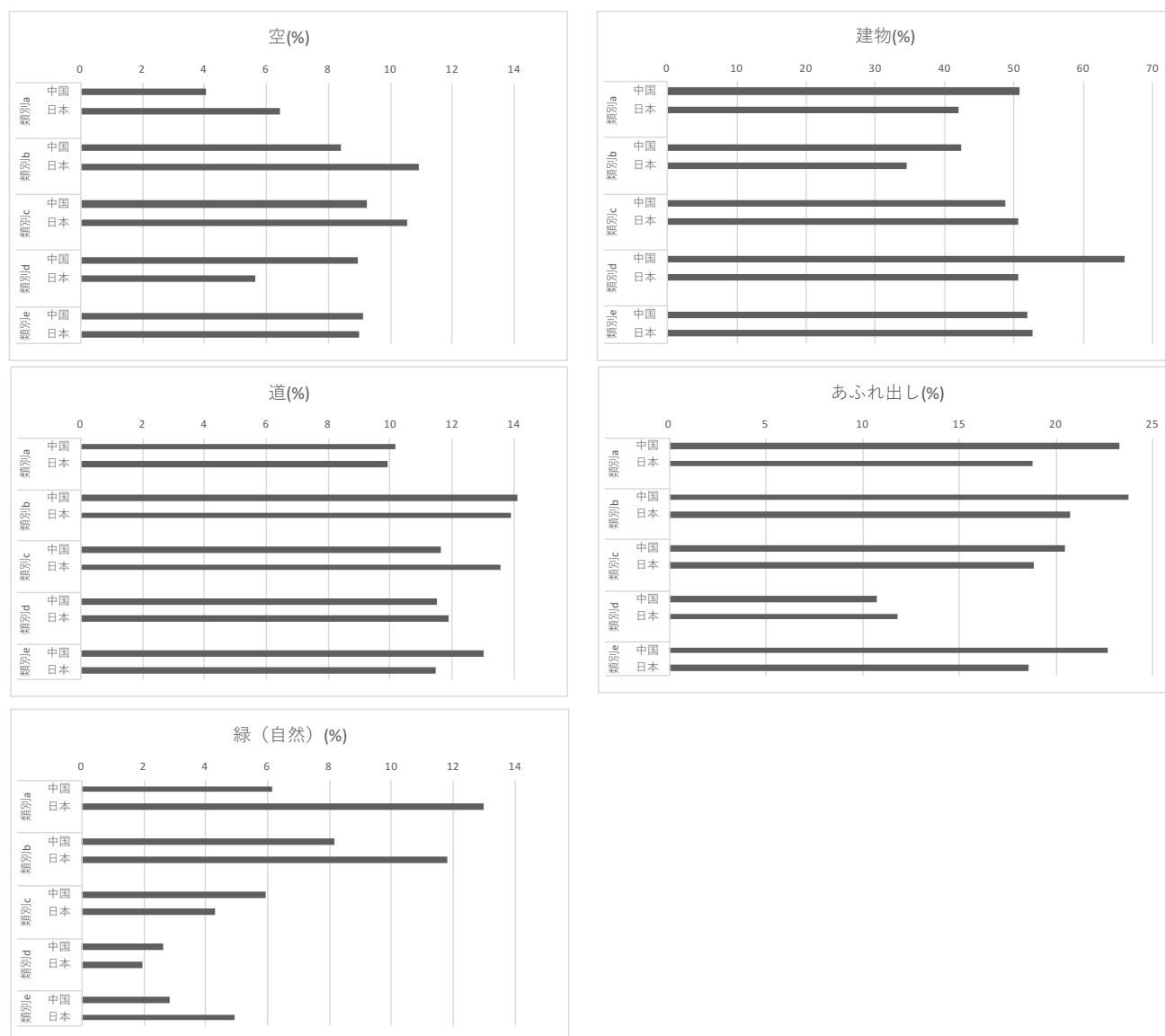


図 69 要素ごとの各分類における日中の物理量の平均値

## 緑について

図 70 で示すとおり，分類 a, b では日中とも 6%以上となり，他の分類より高いことがわかった。緑（人工）においても，分類 a, b では日本側の割合は他の分類より高く，中国は分類 c のほうが分類 b より 0.9%高いことがわかった。さらに，分類 d の緑率は他の分類より低く，日中とも最も低い割合を呈している。

緑（自然）について，日本の b. 路地に近い道と c. 商業開発された路地的な道とでは，自然の緑の比率に有意な差が見られた ( $p < 0.01$ )。分類 b のほうが分類 c よりも有意に自然の緑が多かった。中国の a. 里弄そのものと b. 里弄に近いもの間に有意傾向が見られた ( $p = 0.052 < 0.1$ )。里弄そのものより，里弄に近い道のほうが自然の緑が多い傾向がわかった。

なお，分類 b について，日中の自然の緑の差を検定したところ，有意な差が認められた ( $p < 0.01$ )。路地/里弄的な道において，日本のほうが中国より緑の比率が有意に高いことがわかった。

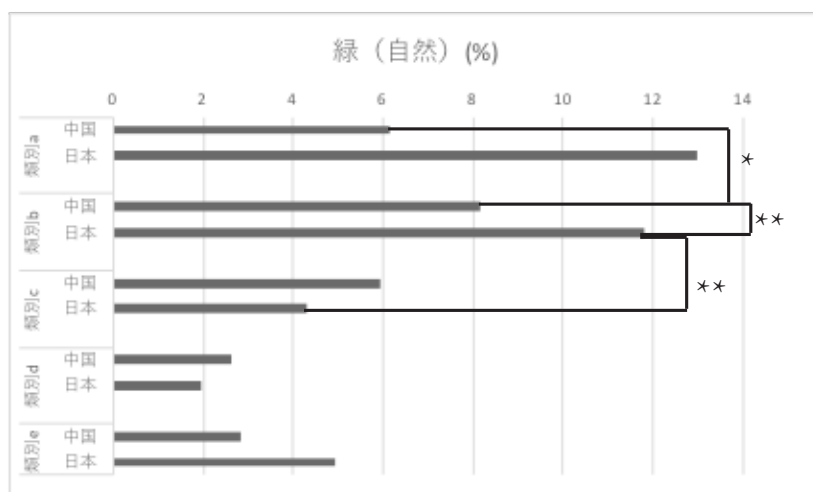


図 70 各分類における日中の緑（自然）の可視率の平均値(\*\*: $p < 0.01$ , \*: $p < 0.1$ )

## あふれ出しについて（図 71）

日本の a. 路地そのものと b. 路地に近い道，c. 商業開発された道，d. 生活感のない道とで，それぞれ t 検定を行った。ただし，多重比較になるので， $p$  値を 1/3 に補正した（1.67%で有意確率 5%となる）。a と d の間に有意な差が見られた ( $p = 0.013 < 0.05$ )。分類 d の道は分類 a の道より，あふれ出しが有意に少ないことがわかった。a と b, c の間に有意な差が見られなかった。

中国の a. 里弄そのものと b. 里弄に近い道，c. 商業開発された道とで，それぞれ t 検定を行った。ただし，多重比較になるので， $p$  値を 1/2 に補正した。（2.5%で有意確率 5%となる）a との間には b, c のどちらも有意な差が見られなかった。

上記の結果から，日本の路地において，生活感のないものは路地そのものよりあふれ出しが有意に少なく，住民の生活による表出行為が少ないことが言える。なお a, b について，日中のあふれ出しの差を検定したところ，有意な差が見られなかった。日中のデータに若干の差が見られるもの

の、有意な差ではなかった。日中の路地/里弄とそれに近似するものに分類されるものには日中の間に有意な差がないと言える。

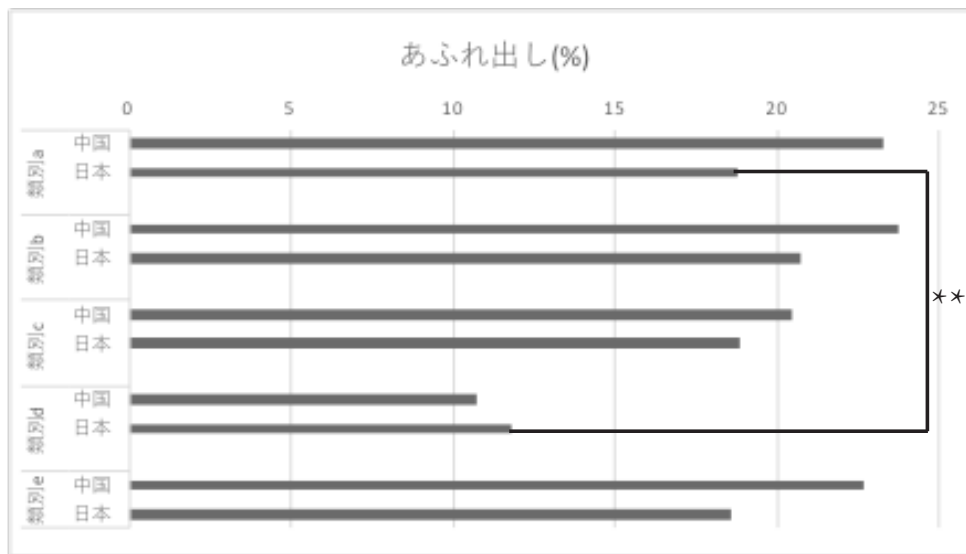


図 71 各分類における日中のあふれ出しの可視率の平均値(\*\* $p<0.01$ )

### 建物について

6つの要素において、建物はどの分類においても最も高い割合を占め、30%~70%の範囲で分布している。(図 72) 日本については、分類 a と分類 b の間に  $p<0.01$  で有意差が認められ、b. 違う要素が感じられるものは a. 路地/里弄そのものに比べ、建物率が有意に低いことがわかった。

中国については、分類 a と分類 d の間に  $p<0.001$  で有意差が認められ、d. 生活感のない里弄は、a. 里弄そのものに比べ、建物率が有意に高いことがわかった。分類 a と分類 b, 分類 c の間には有意な差が見られなかった。

なお、日中の差を検定したところ、分類 a において、日中の間に  $0.05<p<0.1$  で有意傾向が認められ、中国は日本より建物率が高い傾向がある。中国の里弄は日本の路地より建物率が高い。分類 b では、有意確率  $p<0.01$  で日中の間に差が認められ、中国のほうが日本より建物率が有意に高いことがわかった。その他の分類には日中の間に有意差が認められなかった。

このことから、路地/里弄らしいものと路地/里弄らしいが違う要素があるものにおいて、中国のほうの建物率は日本より高いことがわかる。理由としては、分類 a, b のいずれにおいても、緑の合計について、中国は日本より 10%前後少なくなるとなり、前項の「緑について」で、分類 b において、中国は日本より緑の比率が有意に低かったことが考えられる。つまり、分類 a, b での中国の里弄の緑の比率が日本の路地の緑の比率より少ないため、建物が多く見られることがわかった。

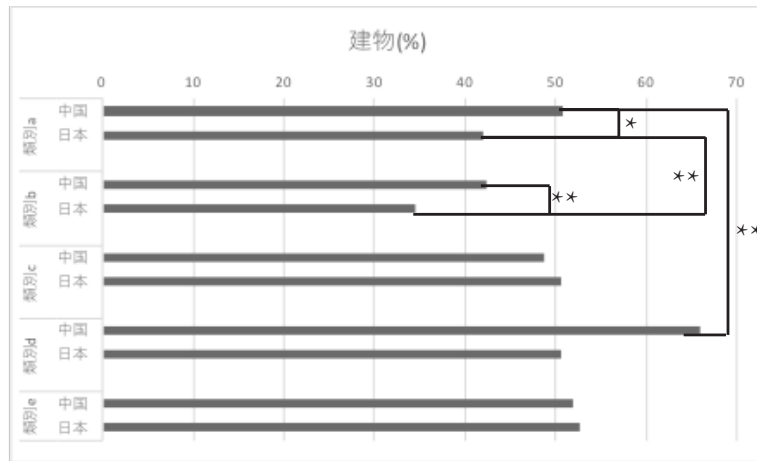


図 72 各分類における日中の建物の可視率の平均値(\*\*: $p<0.01$ , \*: $p<0.1$ )

### 空について

分類 b, c の日本側のデータを除き，日中問わず空の割合はすべての分類において 4%～10%の範囲内であることがわかった．（図 73）分類 a, b において，両方とも日本のほうが中国より空の割合が 2%以上高く，t 検定で  $p<0.01$  の有意確率で有意差が認められた．このことから，路地/里弄らしいと感じられるものには日本のほうに空が多く見られることがわかった．次に，分類 c, e の日中の差は 1.5%以内であるに比べ，分類 d では，中国は日本より 3.3%も高く，すべての分類において，最も差を示す分類となったが，有意な差ではなかった．

分類の間を比較してみると，分類 a と b の間には，日本で  $p<0.01$ ，中国で  $p<0.05$  の有意差が認められた．路地/里弄と違う要素を感じさせるものとして，空の割合が有意に違うことが挙げられる．

上記から，空の割合は各分類において，日中とも 1 桁台から 10%前半の範囲内に収まっており，分類 a, b では日本のほうが中国より有意に高く，そのほかの分類において，日中間に有意な差が認められなかった．分類の間では，分類 b は分類 a より空の割合が有意に高く，違う要素の一つが空の割合であることが言える．

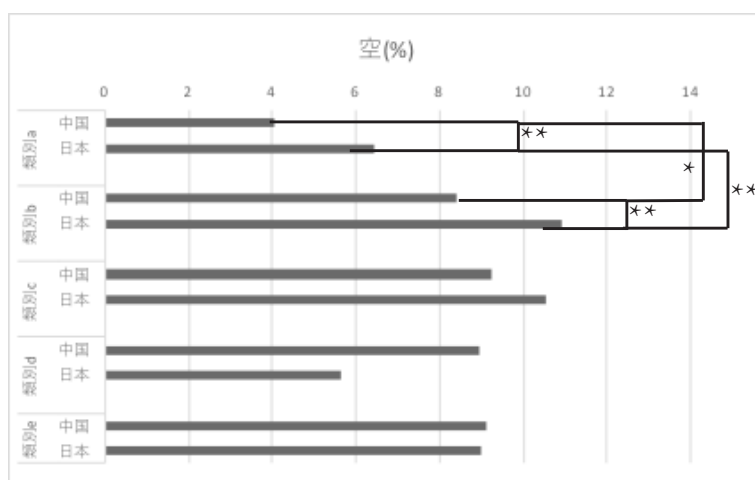


図 73 各分類における日中の空の可視率の平均値(\*\*: $p<0.01$ , \*: $p<0.05$ )

## 道について

道の比率について、日本の分類 a のデータは正規分布ではなかったため、比較としては省略する。

中国においては、道の割合について、すべての分類において、日中とも 9.9%~14.1%の範囲内に収まっており、分類 a, b, d において、日中の差が 1%以内であった。（図 74）すべての分類において、日中の間に差が認められなかった。分類 a, d の間に  $p < 0.01$  で有意差が認められ、d のほうが a より有意に高いことがわかった。

上記から路地/里弄らしいではあるが、違う要素を感じさせるものには、道の割合が有意に高い、道が関係ある要素の一つであることが言える。また、各分類に分類されたものに日中の間に道の割合に有意な差がなく、同じ分類であれば、日中のものの道の割合が近似していることが言える。

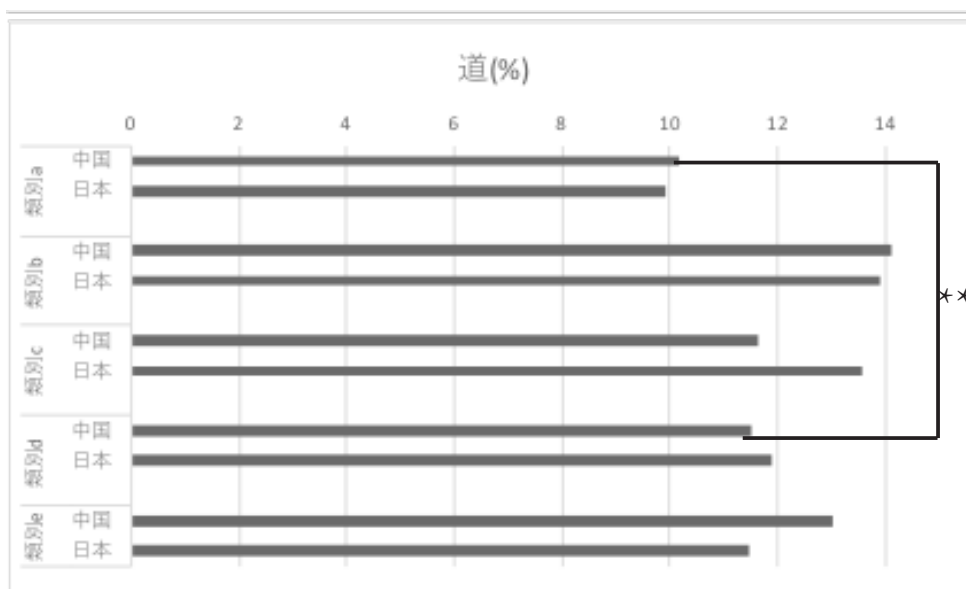


図 74 各分類における日中の道の可視率の平均値(\*\*: $p < 0.01$ )

## 2.4 まとめ

本章では、第一章の先行研究にもとづき、日中における実地調査を計画し、その分析を行った。まずは、日中それぞれの具体的な調査対象地区を選定し、日本の東京では、合計 10 個の地区、中国の揚子江南部地域では、合計 8 個の地区でそれぞれフィールド調査を行った。

予備調査では、調査地区の基本データをまとめ、さらに、調査対象場所の区画を限定した。そのうえで、本調査では、目視調査で街区の構成と用途、路地/里弄の道の幅員、主な表出とあふれ出しの位置と物品名の記入を行った。その後、写真調査を行い、日中合計 9870 枚の写真データを撮影した。

調査した地区ごとに一定の枚数の写真をピックアップし、結果として、中国側では合計 130 枚となり、日本側はその枚数にあわせて、各調査地区から一定枚数の写真のピックアップを行った。

続いて、上記の調査結果をまとめ、主要な道一本一本につき、データシートを作成した。データシートは道の基本データ、平面図、断面図、道の写真で構成した。さらに、分析図：①各物理量の可視率、②あふれ出しの種類と分布、③SSA による In. V. の算出、を作成した。

データシートを整理したうえで、日中の各 130 枚の写真を路地/里弄のイメージ及びその変化のバリエーションをもとに、一定の手順で分類をした。類別は以下の 5 つとなる：a. 路地/里弄と思われるもの、b. 路地/里弄らしい部分はあるが、違う要素があるもの、c. 路地/里弄として商業開発また観光地再開発したもの、d. 路地/里弄的ではあるが、生活感がないもの、e. 老朽化して状態のよくないもの。各写真において一致率 2/3 以上の分類結果が得られた。



## 2.4.1 各物理量の可視率について

路地/里弄の物理的構成要素の分析として、データシートの分析図の各物理量（空、道、建物、緑（自然・人工）、あふれ出し）の可視率を用い、分析と考察を行った。各物理量の可視率は写真に映る各物理量のピクセル数の全体のピクセル数に占める割合から算出し、比較及び検定を行う際には、各類別の平均値を用いた。

比較では、日中それぞれ 130 の道の物理的要素の可視率について、5つの分類のデータの概要をまとめ、まずは、a.路地/里弄そのものと他の分類（b,c,d,e）との間の比較、次に、日中を分けて、6つの要素ごとに各分類の間の比較を行った。

### 分類 a. 路地/里弄そのものとその他の分類（b, c, d, e）の各物理量の比較

それぞれの比較結果は下記のとおりである。

①分類 a は分類 b（路地/里弄らしい部分はあるが、違う要素があるもの）と物理量の割合が大きいものに共通点が見られ、建物の割合に続いて、緑（人工と自然の合計）の割合が二番目に多い結果となった。この点は他の3つの分類(c,d,e)と違っていた。さらに、路地の特徴を表すあふれ出しと緑の合計においては、分類 b と分類 a の差が少なかった。ただし、分類 b は各物理量のばらつきが大きいゆえ、路地/里弄らしさが感じ取れつつも、典型的なものとして認識されなかったと思われる。

さらに、この2つの分類において、日中ともに路地/里弄と違う要素を感じさせるものに空の割合が有意に高いことが挙げられた。また、日本では、この2つの分類において、あふれ出しに有意差が認められなかった。一方で、分類 a 路地そのものより分類 b の路地に近い道の建物率が有意に低い結果であった。したがって、日本の b.路地に近い道では、建物率が低い分、空のほうが多く見えていることがわかる。すなわち、D/H の値が大きいものが多く含まれていたことが伺われる。一方、中国では、この2つの分類において、あふれ出し・建物では有意な差が見られず、分類 a の里弄そのものより分類 b の里弄に近い道のほうが自然の緑が多い（有意傾向）。しかし、緑の合計において、分類 a と b の間に差がほとんどないことがわかった。したがって、里弄では植木鉢など人工の緑が多いが、一定数の写真において、里弄に近い道では、自然の緑が多かったことが、a と b の違いにつながると思われる。a は自然の緑が少なく、空が遮ることがないにもかかわらず、空が少なく見られことから、里弄そのもののほうの D/H の値が小さいことが伺われる。なお、建物率は有意差にはならなかったが、a と b の間に比較的大きな差が見られた。一方、洗濯物など空にかかる可能性のあるあふれ出しについては、差はほとんど見られなかったこともこのことを支持している。

なお、日中間の違いを見ると、分類 a,b ともに、日本のほうが中国より空の割合が有意に高く、中国は日本より建物率が高い傾向にある。したがって、分類 a,b とも、中国の道の D/H は日本の道

より値が小さく、建物が迫って見えることが伺われる。なお、道について、2つの分類とも日中の間に有意な差が認められなかった。中国の緑の合計は日本の緑の合計の半分ほどとなり、少なくとも、自然な緑について、明らかな差が見られた（有意傾向）。日中の道の可視率に差がほとんど見られないのは緑によって隠されたためと考えられる。一方、あふれ出しに関して、日中とも、aとbの間に有意な差が認められなかったことから、分類aとb、そして分類a,bにある日中の道のあふれ出しの可視率における近似性が垣間見える。

②分類c（商業・観光地再開発された路地/里弄的な道）に比べ、日本ではa路地の緑が明らかに多いが、中国では、a里弄との差がそれほど大きくなく、緑、あふれ出し、建物が若干減った分は空、道の分となっていた。分類cの要素ごとに、日中間の可視率の比較をすると、どの要素についても、日中の間に有意な差が認められなかった。この結果から、路地/里弄をベースに作られたもの、または路地/里弄を模して作られたものにおいて、日中の物理量の可視率がほとんど同じ値を取り、日中の物理的構成が似ていることがわかる。分類aより、分類cのほうが日中ともあふれ出しと緑の合計が少なかった。分類aでは自然な緑で日中の間に差が見られたことに比べて、分類cにおいては、道と空間に置かれるものの少なさによって、日中の間の差が少なくなったと考える。

③分類d（生活感のない路地/里弄的な道）の建物率は分類a及びその他の分類より特出して大きく、さらにあふれ出しや緑の割合が少なく、住民による表出行為が少ないことが伺える。分類dの要素ごとに、日中間の可視率の比較をすると、いずれの要素においても、日中の間に有意な差が認められなかった。生活感のない路地/里弄になると、分類a路地/里弄そのものより、あふれ出しと緑が少なくなり、その分建物や道が現れて、多く見られる。前項同様、道と空間に置かれるものの少なさにより、日中の間の差が少なくなり、似ていることがわかった。

④分類aと分類eの状態のよくない路地/里弄の間では、あふれ出し率に差がほぼないものの、分類aと違い、分類eでは緑の合計が分類aの緑の合計の1/3となり、日中の間に緑の差はあるものの、有意な差ではなく、値自体も小さいため、日中の間の差とならなかった。

各分類の物理量の可視率のデータに異同が見られ、各分類それぞれの特徴を表していると考えられる。したがって、2.2.5の分類は一定の信頼性を持っていたと考える。また、分類aとbは共通して、空、建物、自然な緑において、日中とも同じ傾向の有意差が見られた。分類c,d,eをみると、分類a,bと違い、あふれ出しと緑の少なさにより、日中の間の差が少なくなり、他の物理要素においても日中の間に有意な差が見られなかった。この結果から、a路地/里弄そのものとbのそれに近い道の物理的特徴をある程度把握でき、且つ日中のaとbの道の間物理的構成に差があることがわかった。

## 2.4.2 結

本章では各物理要素の可視率の分析を行い、路地そのものとそれに近似する道はそれぞれカテゴリーとして成り立っていて、商業・観光地の路地的な道、生活感のない路地的な道、状態のよくない道の類別と違い、日中の中に物理的構成に差が見られた。

日中の路地/里弄そのものとそれに近い道に物理的構成要素の可視率に日中の中で有意な差があり、日本の路地と中国の里弄は景観における物理的要素の割合に違いがあった。これらについて、日中両国の人々が同じ種類のものとして判断するかどうかは課題となる。

そして、日中の人々は路地/里弄をどのように考え、日中のものを近似したものとして認識しているか、どのような印象を持っているかについてまだ明らかになっていない。路地/里弄を判別・評価する際に重要である人々の意識について、第三章のアンケート調査を通じて、解明していく。

# 第三章 日中の人々による 路地/里弄の識別及び印象評価

## 3.0 本章の目的

### 3.1 アンケート調査用の写真の選定

3.1.1 路地/里弄の特徴を聞き取る予備調査について

3.1.2 選定された20枚の写真について

### 3.2 アンケート調査の方法について

3.2.1 写真を用いたアンケートについて

3.2.2 質問ページのデザイン

3.2.3 調査の手順

3.2.4 調査対象者

3.2.5 調査時期

### 3.3 路地/里弄に対する日中の評価にもとづく分析

3.3.1 結果の概要

3.3.2 「日本/中国らしさ」の識別と「路地/里弄らしさ」「懐かしさ」「雰囲気良さ」の印象評価について分析

3.3.3 印象評価によるクラスター分析及び雰囲気良さと保存意識の相関分析

### 3.4 まとめ

### 3.0 本章の目的

第二章では、日中それぞれにおけるフィールド調査を行い、日本の路地的な道と中国の里弄的な道の写真の分類を行った。さらに、日中それぞれ 130 枚の道の写真の物理量の可視率の分析を行った。路地/里弄に分類されるものはほかの分類と違い、あふれ出しと緑の合計が多い特徴が伺われ、日本の路地と中国の里弄の間に物理量の可視率に有意な差がみられた。

ところが、日本在住の日本人、または中国在住の中国人は見た目に違いがある路地/里弄に対する印象評価はまだ明らかになっていない。日中の人々は路地/里弄を識別できるか。また、路地と里弄の概念に共通するものはあるか、国籍を問わず、人々は似ている印象評価を持ち得るかが疑問である。したがって、本章では、路地/里弄の写真を用い、アンケート調査を行う。

## 3.1 アンケート調査用の写真の選定

この節では、第二章で分類された日中それぞれ 130 枚の路地/里弄的な道の写真のなかから、アンケート調査で扱う写真の選定について述べる。選定にあたって、路地/里弄の特徴を聞き取る予備調査を行い、路地の特徴を表す要素のいくつかをまとめた。続いて、第二章の分類結果と予備調査でまとめた要素にもとづき、各分類から写真の選定を行い、写真についての説明を述べる。

### 3.1.1 路地/里弄の特徴を聞き取る予備調査について

本調査を実施する前に、路地/里弄の印象について日本人 8 名を対象に予備調査を行った。

調査の趣旨として、路地そのものに対する印象を聞き取り、さらに、路地の特徴を表す要素を確かめ、まとめる。

予備調査では、写真の構図、そして写真に映った建物、道、空の比率、背景に新築の有無などを考慮し、図 75 と図 76 の写真を用いた（図 75、76 で使用した写真は筆者が撮影したものではなく、図 75 の各画像は Google の画像検索の「路地」項目で、非営利目的での再使用が許可された画像である。図 76 の各画像は Baidu の画像検索の「里弄」項目で、非営利目的での再使用が許可された画像である。）。

路地/里弄に関して、その狭さが一般的に認識され、プライバシー的であり、外の人間が入りにくく感じさせる特性を持っている。密集住宅区に位置し、住宅の間を挟む狭い道のほか、地元の商店街や裏道などが思い浮かべる。また、近年の路地/里弄住宅の老朽化に伴い、取り壊しと再開発が見られ、路地/里弄ではあるものの、違う特徴がみられる。

予備調査では、図 75 で示すとおり、千駄木、谷中、日暮里、京島の路地のほか、商業開発された浅草の道の写真を用いた。図 76 で示すとおり、上海市の里弄を中心に、今でも使われていて、あふれ出しがたくさんみられるもの、老朽化して状態のよくないものと、生活感のないものの写真を用いた。

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 75 東京の路地的な道

インターネット公表に対する  
著作権者からの許諾が得られていない

図 76 揚子江南部の里弄的な道

予備調査については、上記複数の写真から路地らしいものを選び出させ、路地として識別される空間の特徴を挙げさせた。

調査の方法として、上記図 75 を一枚の紙に印刷し、被験者に配る。以下のことを被験者に伝える：1) 写真に人がいないことを想定し、そのなかから一般的に路地だと思われるものを選び出す。2) そう感じさせる要素を挙げる。3) 路地である写真を見る際の感覚を覚えておき、後に出される写真群のなかから、同じ感覚のものを選ぶ。

被験者が語った路地であるもの、またはそうではないものを記録し、それぞれの識別に関する記述を記録した。その後、もう一組の写真を被験者に配り（図 76）、同じ条件を想定したうえ、路地と同じ感覚を感じさせるものを個人の立場からではなく、一般的な認識から判断してもらった。その感覚を左右する要素を挙げさせ、箇条書きで記録した。

写真に関する記述を写真ごとにまとめ、整理した結果は表7で示す。路地と思われるものはA6、A8の浅草、A9の京島、B1の上海市の東斯文里、B6の江蘇省常州市の青果巷とB7の無錫市の水弄堂であった。路地を識別する際に、判断基準として考えられる要素を表8にまとめる。

表7 写真ごとにおける判断と記述

番号	判断	記述
A1	×	郊外の住宅地・商店街、古い看板
A2	×	郊外の住宅地・商店街
A3	下町	古い店、個人経営、道端にものがあふれ出し、商品が並んでいる。道が細すぎなく、車一台の道幅である。色々な人がいる
A4		言葉で表現しにくい、A1、A7とは違う
A5	×	観光地である、人が住んでいない感じ。観光地、皆の町ではない。屋台は下町っぽい、よく言えない。
A6	路地	道幅が狭い(1m)→地元に住んでいる住民の道、車が通らない狭い道。路地かもしれないが、看板が路地ではないと感じさせる
A7	×	郊外の住宅地・商店街
A8	路地	明治時代のものではない、郊外のもの。古い木造のもの、表面だけがしっかりしている。非常に細い道、車の通行は不可能であり、自転車と歩くための、地元に住んでいる住民の道である。だが、オシャレすぎ、下町ではない感じがする。路地は工夫的に閉じられるプレバートの空間、勝手に入るのはダメである。
A9	路地	A8と同じ
B1	路地	狭い、生活感ある、人が暮らしている。路地の感じ、庶民がワイワイやっている、あふれ出しが多い。住民しかいない、日本の路地と違う、日本ではほぼない風景(洗濯物)
B2	×	規則的であり、社宅のようなもの、労働者向けのもの、下町の路地とは言えない。インパクトある、高さ揃っているのは路地っぽくない、路地はもっと狭い。寂れて、治安が悪い、路地というより、スラムの感じがする。
B3	×	都市生活者の感じ、高さ揃うのは路地っぽくない、下町ではない。路地として道幅が広すぎる。
B4	下町	都市生活者の感じ、高さ揃うのは路地っぽくない。背景の高層ビルとの対比は日本のスカイツリーとの対比のように下町に感じさせる。下町らしいが、建物が離れている、日本の下町路地の場合、建物が隙間なく並んでいる、ここにはこのような感じはしない。
B5	×	整理された観光地、都市かもしれない、田舎の町、下町路地ではない。開口部がない。車社会に対応していない、地方の村のメインストリー、おしゃれすぎる、パブリックな感じ。路地に住んでいなくても、入って通ることができる。見た目は路地である。
B6	路地	日本の路地とは近いけど、都市のものではない、田舎の感じ、下町の路地とは言えない。車社会に対応していない、地方の村のメインストリー。路地である、狭い、日本との感覚が近い。大通りがしっかりしている、住宅周りの路地が近道として存在する。ボロボロ、人が住んでいるかどうか怪しい。路地っぽい 道幅が狭い、その人しかいない 寂れて、治安が悪そう、路地というより、スラムの感じ
B7	路地	狭い路地、生活感ある、人が暮らしている。洗濯物は邪魔であり、こんな風景見たことがない。路地の感じ 路地っぽくて、下町路地っぽい 日本との感覚が近い。大通りがしっかりしている、住宅周りの路地が近道として存在する。 路地っぽいけど、袋小路で、先が見えるのはちょっと違う 住民しかいないが、日本の路地と違う 日本ではほぼない風景(洗濯物)
B8		日本ではほぼない風景(洗濯物)、家が壊れている 路地っぽい 路地として道幅が広すぎる



表 8 調査でまとめた要素












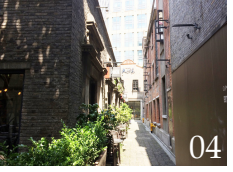






路地だと思われる要素
1 道が狭い・車の通行不可・奥行きがある
2 工夫的に閉じられる空間・プライバシー・半私的
3 古い・木造・おしゃれではない・大きい看板がない・スラムではない
4 住んでいる人の生活感が滲んでいる・あふれ出しが多い
5 両側の建物は特別なルールがなく、揃わず、勝手に建てられている・ぎっしりと並んでいる・アパートと違う

上記のとおり、予備調査では、路地として判断される要素に関する記述をまとめてみると、路地はその住民の道として、車が通れなく、人と自転車のみが通れる狭い道である。両側の建物は木造のものが多く、統一感がなく、高さも揃わず、都市のアパートのような建物ではないがスラムでもない。建物は隙間なくぎっしりと並んでいる。路地空間はおしゃれではないが、工夫的に閉じられているプライベートな空間であり、古くて複雑で、奥行きがあるなどの特徴が挙げられた。路地のあふれ出しから家のなかの人々の生活感が感じられる。

そして、中国の里弄は日本の路地よりあふれ出しが多く、道の状態は綺麗ではないが汚れているでもないことが指摘された。補足として、中国での実地調査では、里弄の住民に里弄の印象についてインタビューを行った。いい印象として挙げられたのは安心感がある、親しみやすく、身近な存在であり、懐かしくて、人々の距離が近いことであった。一方、よくない印象としては、汚くて狭い、プライベートが侵害され、不便で老朽化が進んでいるであった。

### 3.1.2 選定された 20 枚の写真について

この項では、アンケートで使用する日中それぞれ 10 枚、合計 20 枚の写真の選定及びそれらが属す分類の説明をする。

	東京の路地的な道の写真 (10 枚)		揚子江南部の里弄的な道の写真 (10 枚)	
a	 14	 18	 03	 02
b	 09	 10	 07	 05
c	 11	 15	 01	 04
d	 12	 13	 06	 08
e	 16	 17	 19	 20

- a. 路地 / 里弄と思われるもの
- b. 路地 / 里弄らしい部分はあるが、違う要素があるもの
- c. 路地 / 里弄として商業開発また観光地再開発したもの
- d. 路地 / 里弄的ではあるが、生活感がないもの
- e. 老朽化して状態のよくないもの

図 77 各類別から選定したアンケートで使用する日中の路地/里弄の写真

第二章 2.2.5 の分類にもとづき、各類別から日中それぞれ 2 枚ずつ写真を選定し、アンケート調査用の写真とする (図 77)。アンケートでは、それぞれの写真を図の右下の番号順に見せた。

20 枚の写真は下記の手続きで選定した。

分類 a のものを選定する時、前項 3.1.1 の表 8 でまとめた路地の特徴を表す要素を参考とし、多数の特徴が同時にみえるものを選定した。

分類 b の 4 枚の写真について、10 番は道が狭く、車の通行が不可で、あふれ出しが多いなど表 8 でまとめた路地の特徴がみられ、構成が似ているが、店の看板が見え、人が住んでいるものの、建物の用途が違うことがわかる。10 番と同様、7 番は店の裏であり、建物の用途が違う。5 番の道の左側に地植えの緑の割合が大きく、両側の構成が違うようにみえる。また、9 番の道について、両側の建物の密度は路地と近似しているが、道が広く、緑のほとんどが地植えであり、両側に塀があるなど路地そのものと違う要素がみられる。

分類 c の道は商業・観光地化再開発されたものである。15 番のような路地的な道が多い住宅区にできたもの、または 11 番のように両側に商店とオフィスがみえる表どおりが日本で多くみられ、典型的なものとして選定した。中国側の道に関して、1 番は里弄をベースに新しく作られた商店街である。4 番は旧来の里弄を観光地化再開発されたものである。里弄のリノベーションとして典型的である。

分類 d の道について、12 番は住宅とオフィスビルが挟む道であり、13 番の道が位置する地区にオフィスビルが多く、その影響で住宅の間の道であっても、表出・あふれ出しや緑がほとんどみられない。6 番の道は 2 種類の里弄住宅の間の道である。8 番を含め、4 枚の写真のどれもあふれ出しや緑が少なく、人が生活している感がほとんどないものであった。

分類 e の道について、日本の路地は中国の里弄より全体的に状態がいいことを考慮し、日本側では、17 番のあふれ出しの手入れがなされていないものや 16 番の裏道で配管など乱雑なものが多くみられるものを選定した。一方、中国側では、19 番の建物等の物理的要素がボロボロな道、そして、明らかに人が住んでいなく、空き家がみえる 20 番を選定した。

下記では、これらの写真を分類ごとに説明する。

a. 路地/里弄と思われるもの(図 78, 79, 80, 81)

路地/里弄の典型例である。道幅が 4m 以下となり、生活用品、干し物や盆栽などのあふれ出しが置かれ、視線が道に沿って遠くまで通り抜けるは特徴として挙げられる。



図 78 根津の住宅地



図 79 谷中の住宅地



図 80 上海の里弄 その1



図 81 上海の里弄 その2

b. 路地/里弄らしい部分はあるが、違う要素があるもの（図 82, 83, 84, 85）

この類別に分類されるものが紛らわしい部分があるが、路地/里弄そのものと類似するところがある。

日本のものについては、三鷹台の戸建て住宅区の構成が路地と近い、車がギリギリ通れるの道幅である。辰巳新道には店の看板はいっぱいあるが、多くの店は住居の機能も兼ね、住むためのあふれ出しもあることが見て取れる。

中国のものに関しては、両側の建物のスタイルがお互いに違うが、あふれ出しや住民による自発的増改築が見られ、また緑も多いため、気にしない程度になった。主弄の道幅が広いが、両側の建物も高いため、D/H に違和感を持ちにくい。支弄との構成も近いため、里弄に近い道であると分類された。



図 82 三鷹台の住宅



図 83 辰巳新道の居酒屋



図 84 無錫の里弄 その 1



図 85 上海の里弄 その 3

c. 路地/里弄として商業開発また観光地再開発したもの（図 86, 87, 88, 89）

日本のものに関しては、道に面する一階は店であり、上の階は住宅またはオフィスである。商売のための看板が多く見られるなどの特徴が挙げられる。

中国のものに関しては、道に面する一階は店舗であり、あふれ出しは道中央まであふれ出しているが、すべてが商業のためのものである。または里弄風にリノベーションされ、小綺麗な上品な商業空間である。



図 86 門前仲町



図 87 神楽坂



図 88 南京の里弄風商店街



図 89 上海新天地

d. 路地/里弄的ではあるが、生活感がないもの（図 90, 91, 92, 93）

日本のものに関しては、両側の建物のスタイルがそれぞれであり、その間の道が内の道ではなく、外のものと感じ取れる。そして、あふれ出しはほとんどない。さらに、両側の建物が高すぎるため、D/Hの値が小さく、ヒューマンスケールに合っていない。

中国のものに関しては、あふれ出しが極めて少なく、人気の感じない生活感のない道である。



図 90 人形町の道





図 91 小伝馬町近くの道



図 92 上海の里弄 その 4



図 93 寧波の里弄

e. 老朽化して状態のよくないもの（図 94, 95, 96, 97）

日本のものに関しては、建物の配線・配管があるため、乱雑した様相を呈し、そこに住むまたは働く人だけが通う裏道である。また、あふれ出しが路地の雰囲気プラスするものではなく、乱雑さとスラム感を増すものになってしまう。

中国のものに関しては、路地としての要素は揃っているが、建物など物理的構成要素がボロボロであり、スラムの状態となっている。または道の両側の建物が里弄の両側の建物とさほど差がないが、人が住んでいないため、シャッター街となり、人気は全く感じないがゆえ、ゴーストタウンとなっている。



図 94 千駄木近くの道



図 95 根津の住宅区



図 96 無錫の里弄 その2



図 97 常州の開発区の近くの道

上記のとおり5つの分類から日中それぞれ2枚の写真の選定を行った。これらの写真にもとづき、アンケートをデザインした。アンケートの趣旨は日本人/中国人の路地/里弄についての識別と印象評価である。検証したい仮説は、路地/里弄を日本/中国のものとして弁別でき、且つ路地/里弄に対し、日本人と中国人が似ている印象を持っている。

アンケート調査の問題点としては、アンケートを実施する際に、写真はランダムに出しているものの、すべての被験者において、写真の出し順は同じである。言い換えれば、前の順番で出した写真はいつも前に出していることになる。写真の出す順番がランダムの場合と違い、同じ順番に出すため、印象評価に影響する可能性が懸念される。さらに、アンケートでは日中それぞれ上記10枚、合計20枚の写真の評価をしてもらう。アンケートを回答するには大体20分またはそれ以上の時間が所要することを想定している。それに加え、ウェブアンケートの特性もあり、後の写真を見て、前の写真に対する評価が変わっても、戻してやるのに手間がかかる。(写真を順なしで出すことはウェブアンケートの構成上では極めて困難である。)

## 3.2 アンケート調査の方法について

近年、郊外における自然を含んだ原風景の研究が数多くなされてきたが、都市部においても、都市の原風景を理解したうえで、地域環境を保護または発展させていく必要がある。アジアの国の都市空間を調査、比較することにより、各々の都市の原風景及び原風景に対する意識が解明できると考えられる。従って、場所に住み着いた人々にとっての都市の原風景が残っていると思われるところ、すなわち本論で扱う東京の路地と揚子江南部地域の里弄を比較の対象としてアンケート調査を行う。

日本においては路地、中国においては里弄、そこには未だに古き良き時代の雰囲気が残っており、人情豊かなふれあいが感じられ、都市の原風景そのものであると考えられる。そこで、ほぼ同じ緯度帯に入り、気候も似ている日本の東京の路地と中国の揚子江南部地域の里弄を取り上げ、比較研究をすることにした。両者がしばしば同列に扱われる理由として：1) 物理的環境からみれば、両者とも狭い道であり、車両通行不能の密集住宅地に位置する；2) 住民による改築や改造、またはあふれ出しや表出が見られる；3) 路地/里弄にいる時に感じられる昔の風情や情緒、懐かしくて親しみやすい雰囲気がある。

路地や里弄それぞれの既往研究は数多くあるが、両者を比較対象として捉え、国際的な視点から研究した例は少ないことがわかった。また、生まれ育つ環境や文化が異なる人々の路地及び里弄に対する印象評価の研究は管見にして未だに見たことがない。そこで、本論では（日本東京の）路地と（中国揚子江南部地域の）里弄を研究対象として取り上げ、日本人と中国人向けのアンケート調査を通じて、路地と里弄の識別及び印象の類似性について論じる。

### 目的

本章では以下の4つの仮説を立てて、これらを検証したい。

- ① 日本の路地と中国の里弄の概念に共通するものがある；
- ② 日中の路地/里弄には共通する懐かしさがあり、国籍を問わず、人がその懐かしさを感じられる；
- ③ 以上の評価は、自国のものをはっきり識別できたうえで成立する。
- ④ 日中の路地/里弄の価値の評価には、有意な差が見られない。

この懐かしくて親しみやすい雰囲気を解釈する時、人による感受性と理解の差のほか、意識に依存する雰囲気への理解をどうすれば捉えられ、且つ具体的に分析できるかを考え、アンケート調査を通じて、仮説の妥当性を実証し、今後の路地/里弄の保全と発展に役立てることを目的とする。日中ともに現在、路地/里弄空間が喪失されつつあるなか、人々の認識を確かめることで、このような空間の保全や発展の一助とできれば幸いである。

## 方法

研究手段としては、写真を用い、写真ごとの質問項目における七段階の評価により、1) 路地と里弄の識別（国らしさ・路地/里弄らしさ）；2) 印象評価（懐かしさ・雰囲気の良い）；3) 利用価値の評価（残したいか）を分析し、以下の仮説：日本の路地と中国の里弄の概念に共通するものがある。自国のものをはっきり識別できたうえ、他国のものに対し、自国のものに対すると同様な感情を抱くことがある。の検証を試みた。

## 結果

分析の結果、日本人または中国人は日中のものを識別できたうえ、路地/里弄の識別に類似性が認められた。印象評価において、懐かしさについて差が見られ、雰囲気の良いと残したいの日中の評価が近い、そして、強い正の相関が認められた。

### 3.2.1 写真を用いたアンケートについて

#### 写真の利用について

場所愛着の研究において写真等の視覚的手段を用いることで、文字とデータと違う何らかの発見ができる(Ball ら, 1992). Van ら (2010) は調査対象参加型の写真利用について 1) 調査参加者が意識しない情報刺激も与えられる手段として有効である, 2) 他の手段より多めの情報が与えられる, 3) 権威・社会階層・知識程度などの差をなくすことができる. の3つの利点を挙げた (Stedman ら, 2014).

したがって、本論ではより豊富な情報を提供できる写真を用い、アンケートをデザインした。

### 3.2.2 質問ページのデザイン

ウェブアンケートは下記ウェブページで行われた。日本人参加者には「路地」、中国人参加者には「里弄」の用語を用いて印象評価を聞いた。

#### 質問ページの構成（図 98、付録 6）

質問ページは 1) 全 20 枚それぞれの写真の識別と印象評価、2) 調査参加者の路地/里弄に関する居住経験、3) 調査参加者の属性から構成された。

そのなか、1) 20 枚の写真をランダムに出し、路地/里弄の識別及び印象評価の部分では 5 つの質問を設けた。

①写真の国の識別を問う、「日本/中国らしさ」、路地/里弄と捉えられるかを問う「路地/里弄らしさ」、②印象評価を得るため、「懐かしさ」、「雰囲気良さ」を質問し、③さらに、「残したいかどうか」の評価で、路地/里弄の価値について聞いた。

質問ページでは、日中それぞれ 10 枚の路地/里弄に近い道の写真（合計 20 枚）を用い、1 枚ごとに上記 6 つの質問をした。質問では、1（最もそうではない）～7（最もそうである）の七段階評価を求めた。

2) 路地/里弄に関する居住経験。そこに住んでいた経験の有無や路地に対する印象を聞いた。

#### アンケート調査票のイメージ

路地空間（中国で実測する時は中国語バージョンで、「路地」を「里弄」で書き換える）に関するアンケートです。  
回答するにはおよそ20分～30分がかかります。

1. 日本の東京の路地を実際に見たことがありますか。

あり

なし

2. 中国の揚子江南部地域の里弄を実際に見たことがありますか。

あり

なし

3. 路地/里弄に住んだ経験ありますか。

あり

なし

---

**3. 1**

差し支えなければ、路地/里弄に住んでみた印象をお書きください。

回答を入力

---

**4.**

これより、路地/里弄の写真を一枚ずつ出します。  
その写真について、もつの疑問に8段階評価のなかで一番ふさわしいと思われる評価をお選びください。  
(写真は合計20枚あります)

#### 5.

以上でお見せした20枚の写真を下記のリストにまとめてお示します。  
この16枚の写真のなか、あなたが抱く路地のイメージともっとも合致するものを3枚をお選びください。

● イエロー






● オレンジ






● グリーン






● レッド






● 青






お選びした3枚の写真の番号をお書きください。

回答を入力



	1	2	3	4	5	
路地らしい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	路地らしくない
	1	2	3	4	5	
雰囲気がいい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	雰囲気が悪い
	1	2	3	4	5	
懐かしい印象がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	懐かしい印象がない
	1	2	3	4	5	
住みやすいと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	住みにくいと思う
	1	2	3	4	5	
日本らしい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	日本らしくない
	1	2	3	4	5	
残したい風景	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	残したくない風景

## 6.

あなたのことをお聞きます。

## 6. 1年齢

選択 ▾

## 6. 2性別

選択 ▾

## 6. 3国籍

選択 ▾

## 6. 4建築を勉強し、または建築に関連する仕事をなさいますか。

- はい  
 いいえ

## お選びした写真についてお聞きます。

3枚の写真について、それぞれなぜこれを路地だと思われる要素についてお聞きます。

## 一枚目

- 道幅  
 建物の高さ  
 道幅と建物の高さの比例 (D/H)  
 建物の様式  
 道に置かれる生活用品など  
 植物  
 人々の集まり  
 看板  
 入り口から建物中の様子が見える。気配が感じられる  
 清潔感  
 現代的な要素がある  
 住みやすい  
 その他

## 二枚目

- 道幅  
 建物の高さ  
 道幅と建物の高さの比例 (D/H)  
 建物の様式  
 道に置かれる生活用品など  
 植物  
 人々の集まり  
 看板  
 入り口から建物中の様子が見える。気配が感じられる  
 清潔感  
 現代的な要素がある  
 住みやすい  
 その他

## 三枚目

- 道幅  
 建物の高さ  
 道幅と建物の高さの比例 (D/H)  
 建物の様式  
 道に置かれる生活用品など  
 植物  
 人々の集まり  
 看板  
 入り口から建物中の様子が見える。気配が感じられる  
 清潔感  
 現代的な要素がある  
 住みやすい  
 その他

その他をお選びの方、その詳細についてお書きください。  
 回答を入力

図 98 アンケート質問紙のイメージ



### 3.2.3 調査の手順

アンケートは日本人向け（日本語）と中国人向け（中国語）のものそれぞれを作成し，Google フォーム<sup>注1</sup>を使ってウェブアンケートの形式で行った。

### 3.2.4 調査対象者

調査対象者は，日本では，某大学建築学専攻の大学院生と某大学の生活科学部の1，2年生，及びその知人若干名とした。中国では，某大学の建築学科出身者及びその知人若干名とした。

回答は依頼文に記載されるウェブアドレスまたはQRコードを経由し，アンケートフォームにアクセス，入力することによって行われた。

### 3.2.5 調査時期

2016年7月～10月に調査を行った。日中の年代の偏りを揃えるため，2017年11月に日本側の若者（10代～30代）に向けて追加調査をした。

## 3.3 路地/里弄に対する日中の評価にもとづく分析

### 3.3.1 結果の概要

日本側で日本籍ではないもの、中国側で中国籍ではないもの、及び回答時間が360秒未満のものを無効回答とみなした結果、日本側から合計82件、中国側から合計79件の有効回答が得られた。

日本側の有効回答のうち、男性22名、女性60名；10代～30代61名、40代～60代21名；建築関係45名、建築関係ではないものが37名であった。

中国側の有効回答のうち、男性16名、女性63名；10～30代77名、40代～50代2名；建築関係28名、建築関係ではないものが51名であった。

両国間の年代構成が大きく異なっていたため、40代以上のデータを除き、若者世代（10～30代）のデータのみにつき分析を進めた。有効回答は日本で61件、中国で77件となった。そのうち、路地に住んでいたことのある日本人は6%で、里弄に住んでいたことのある中国人が23%であった。

#### 全体の傾向

質問ごとに日中各質問上位3位と下位3位のを表9にまとめた。表9にある写真番号は図99を参照のこと。

表9 日中各質問上位3位と下位3位の写真まとめ

(●は相手国においても、同じく上位3位、または下位3位となるものを示す)

1 路地/里弄らしい													
順位	1	2	3	18	19	20	順位	1	2	3	18	19	20
	日本側の選択							中国側の選択					
写真番号	14	3	10	11	9	20		8	3	19	11	9	20
	写真が中国側での順位							写真が日本側での順位					
	4	2	8	18	19	20		12	2	4	18	19	20
	●			●	●	●		●			●	●	●
2 雰囲気の良さ													
	日本側の選択							中国側の選択					
写真番号	10	5	18	7	16	20		15	10	9	16	7	20
	写真が中国側での順位							写真が日本側での順位					
	2	7	5	19	18	20		4	1	5	19	18	20
	●			●	●	●		●			●	●	●
3 懐かしさ													
	日本側の選択							中国側の選択					
写真番号	14	18	10	6	8	20		10	8	3	1	16	20
	写真が中国側での順位							写真が日本側での順位					
	8	5	1	12	2	20		3	19	9	13	8	20
			●			●		●					●
4 住みやすさ													
	日本側の選択							中国側の選択					
写真番号	9	18	5	19	7	20		9	15	18	19	16	20
	写真が中国側での順位							写真が日本側での順位					
	1	3	8	18	17	20		1	5	2	18	17	20
	●	●		●		●		●		●	●		●
5 日本/中国らしさ													
	日本側の選択							中国側の選択					
写真番号	10	9	14	20	19	2		8	19	3	10	12	11
	写真が中国側での順位							写真が日本側での順位					
	18	17	12	7	2	4		16	19	15	1	8	5
	●				●			●			●		
6 残したい風景かどうか													
	日本側の選択							中国側の選択					
写真番号	10	5	18	16	7	20		15	10	18	7	16	20
	写真が中国側での順位							写真が日本側での順位					
	2	3	10	19	18	20		10	1	3	19	18	20
	●	●		●	●	●		●	●	●	●	●	●

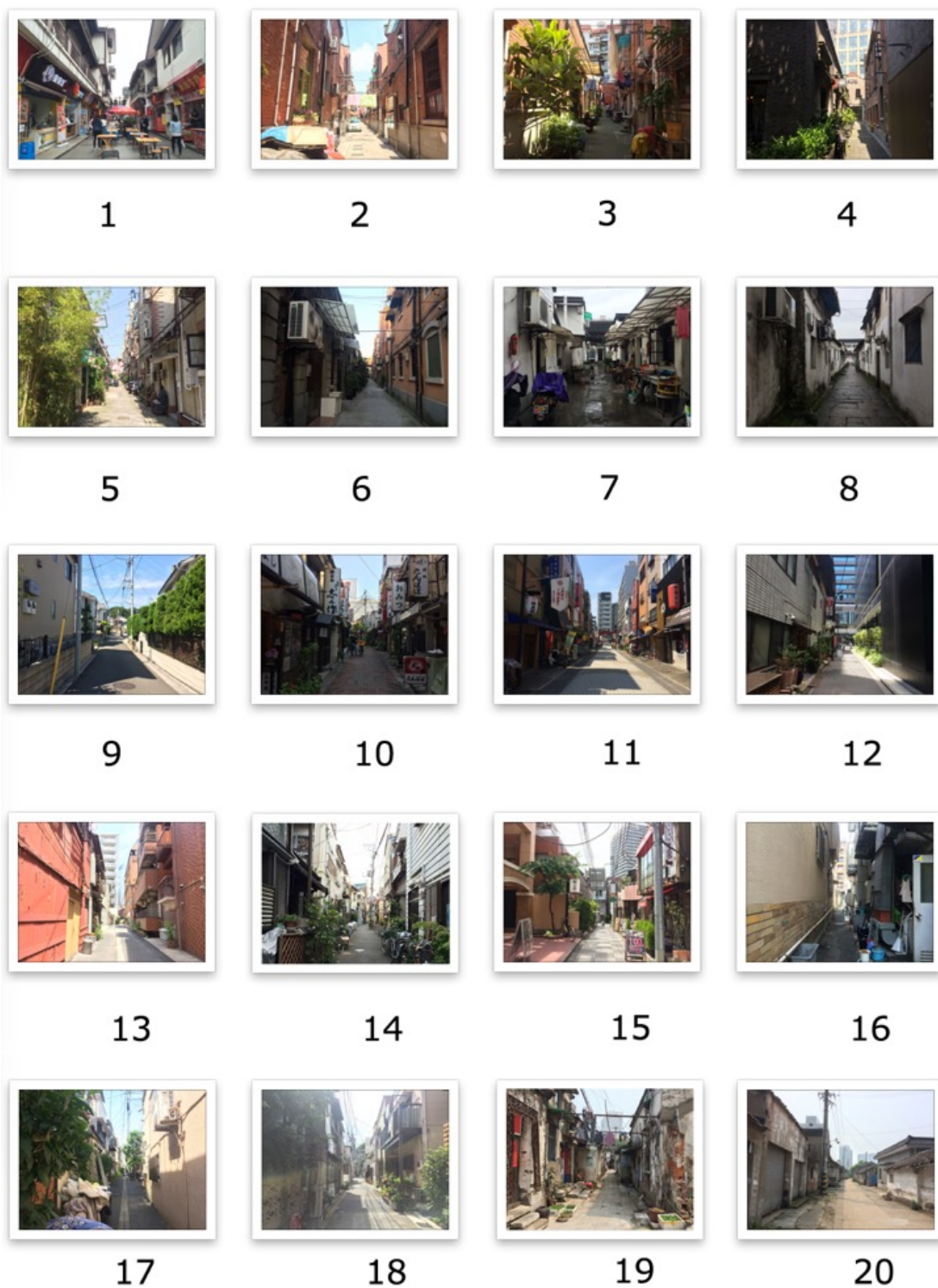


図 99 アンケートで使用される写真リスト (番号順)

下記表 10 は日中で最も評価の高い/低い写真を質問ごとに並べたものである。

表 10 質問項目ごとの最高・最低平均得点の写真

	日本	中国		日本	中国
	項目 1: 路地 / 里弄らしさ			項目 4: 住みやすさ	
らしい			住みやすい		
らしくない			住みにくい		
	項目 2: 雰囲気の良い/悪い			項目 5: 日本 / 中国らしさ	
雰囲気がいい			らしい		
雰囲気が悪い			らしくない		
	項目 3: 懐かしい印象の有無			項目 6: 残したい風景であるか否か	
懐かしい印象がある			残したい		
懐かしい印象がない			残したくない		
20 枚写真のなか、最も路地 / 里弄らしいと思われる写真 3 枚					
日本				中国	
					

具体的に見ると、路地/里弄らしさについて、日本側で 14 番を最も路地らしいと感じ、一方、中国側で 8 番を最も里弄らしいと感じられた。日中両方とも、20 番を一番路地/里弄らしくないと感じた。最も路地/里弄らしいとして選ばれたのが谷中の路地と浙江省紹興市の里弄、最も路地/里弄らしくないとして選ばれたのが三鷹台駅付近の戸建て住宅地の道であった。この結果を踏まえ、日本人と中国人がそれぞれ路地/里弄について差別化することができるが、その判断について似ている傾向が見られた（古き良きものは路地であり、整備された新しいものは路地ではない）。

ほかの5つの質問について、得点が最も低いものが20番の写真に集中しており、下記では、20番に触れず、下から2番目となる選択で結果を述べる。

路地/里弄らしさに関して、下から2番目は日中ともに9番であった。

雰囲気の良いさについて、日本側で10番が一番雰囲気よくとされたに対し、中国側で15番が最も雰囲気よくとされた。下から2番目のものとして、日本側は16番で、中国側は7番であった。

懐かしさについて、日本側で最も懐かしく感じたのは14番で、中国側で最も懐かしく感じたのは10番であった。下から2番目のものとして、日本側は8番で、中国側は16番であった。

住みやすさについて、日中ともに最も住みやすいと評価されたのは9番で、下から2番目のものとして、日本側は7番で、中国側は16番であった。

日本/中国らしさについて、日本側で一番日本らしいと感じたのは10番で、中国側で一番中国らしいと感じたのは8番であった。最も日本/中国らしくなく感じさせるものとして、日本側は2番で、中国側は11番であった。これは写真に映った看板に文字があることに関係すると思われる。

残したい風景かについて、日本側で最も残したい風景は10番で、中国側で最も残したい風景は15番であった。下から2番目のものとして、日本側は7番で、中国側は16番であった。

国の差に関わらず、最も路地/里弄らしくないものとして、日中ともに東京郊外の閑静な戸建住宅地の道を選んだ。一方、住みやすさにおいても、日中ともにこの写真が最も住みやすいものとして選ばれた。このことから、日中において、路地/里弄らしいものは異なる場合もあるが、閑静な戸建住宅地について共通の印象があり、国を超えて最も路地/里弄らしくなく、最も住みやすいものとして認識されたことがわかる。

もう一つ興味深い結果として、日本人が最も日本らしいものとして選んだ門前仲町の路地商店街を中国人が最も懐かしいとして選んだことである。このことから、日本らしいものはアジアの他の国の人からも懐かしく感じられる場合があることがわかった。

その国らしさと路地/里弄らしさの結果から分析すると、最も日本らしいとされた辰巳新道の路地の商店街は路地らしいの上位三位に入る。最も中国らしいものは最も里弄らしいものである。最もその国らしくないものは比較された国の路地/里弄である。この結果から見ると、路地が日本らしい、里弄が中国らしいと感じられ、他国のものが自国らしくない感じられることがわかった。

上記を項目懐かしい印象の有無とあわせてみると、日本人が最も路地らしいものを懐かしく思い、一方、中国人が最も日本らしいものを懐かしく思うという調査結果が得られた。これによって、路地らしいものが懐かしい印象を有し、懐かしい印象を有するものは自国のものに限り言える。

そして、20枚の写真のなか、最も路地/里弄らしいと思われる3枚の写真について、図100の結果が得られた。



図 100 最も路地/里弄らしいと思われる 3 枚の写真

考察として、下記のことが考えられる。

- ・路地らしいものが里弄らしいことはある。日中において、路地/里弄らしくないものに強い共通性が見られた。
- ・日中に雰囲気よくないものに強い共通性が見られた。10番は路地らしいものとして日中ともに雰囲気の良いものとして選んだ。
- ・日本人は日本の路地を懐かしく感じ、中国の里弄1枚を懐かしくなく感じる。一方、中国人は中国の里弄、日本の路地ともに懐かしく感じる傾向が見られた。
- ・住みやすさに関して、日中を問わず、共通的に日本のものを住みやすく、中国のものを住みにくく思う傾向が見られた。
- ・日本/中国らしさに関して、日中ともにはっきりと自国のものの弁別ができることが伺える。自国のものに限らず、日本人が里弄を路地と思い、中国人が路地を里弄とすることがある。
- ・日中ともに、住みにくいものを残したくなく、残したいものに路地/里弄らしいものが含まれることがわかった。

3.3.2 の各質問の分析では、日中の平均値で t 検定を行う前に、アンケートで得られた 6 つの設問の日中の平均値の分布が正規分布であるか否かを検証した (表 11)。

表 11 各質問の日中回答の平均値の正規分布についての検定結果 (○正規分布, ×正規分布ではない)

路地/里弄らしさ		住みやすさ	
中国	日本	中国	日本
○	×	×	○
雰囲気の良さ		日本/中国らしさ	
中国	日本	中国	日本
○	×	○	×
懐かしさ		残したい風景かどうか	
中国	日本	中国	日本
○	○	○	○

項目ごとの統計データが正規分布であるかを検定した結果、残したい風景であるか否か・懐かしさ、見る風景からイメージを問う設問の回答の平均値は正規分布であり、t検定で検定した結果、日中間の有意差が認められなかった。一方、日本/中国らしさ、路地/里弄らしさ、日中それぞれのイメージを問う設問の回答の平均値は正規分布ではないことがわかった。

次に、質問ごとの日中それぞれの評価にもとづき、高得点から低得点を順に7枚、6枚、7枚の3つのグループで写真をグルーピングしてみた。（付録8）

高得点グループからには、「路地/里弄らしさ」日中それぞれ7枚のうち4枚が同じ（日中のもの2枚ずつが入った）であり、残り3枚は日中ともに自国のものを選び、それが比較相手国のどちらとも言えないグループに入っていることがわかった。

「雰囲気の良い」について、日中ともに7枚すべて同じ写真であった。（そのうち、日本のものは5枚、中国のものは2枚であった。）

「懐かしさ」7枚のうち、日中から3枚（日本のもの2枚、中国のもの1枚）が同じ、残り4枚について、日本側ですべて自国のものを選び、一方、中国側で3枚は自国のもので、1枚は日本のものであった。

「住みやすさ」7枚のうち日中には5枚が同じものであった。（すべて日本のものであった。）そのほか、日本が中国のもの2枚、中国が日本、中国それぞれ1枚を選んだ。

「日本/中国らしさ」7枚のうち、日本側は全て日本のものを選び、中国側はすべて中国のものを選んだ。

「残したい風景かどうか」7枚のうち日中は3枚（3枚ともに日本のもの）を同じく選択し、そのほか、日本側は中国のもの3枚、日本のもの1枚、中国側は中国のもの2枚、日本のもの2枚を選んだ。

低得点グループからには、「路地/里弄らしさ」は日中ともに同じものが選ばれ、しかも順位も一緒であった。全体からみると、自国のものを路地/里弄らしく感じる人が多いが日本人が中国の里弄を路地らしく感じ、中国人が日本の路地を里弄らしく感じることもあった。一方、路地/里弄らしくないものについて、日中の選択傾向がほぼ完全に一致し、強い共通性が見られた。

「雰囲気の良い」7枚のうち日中の選択には6枚（そのうち中国のものが4枚、日本のものが2枚であった）が同じであり、残り1枚は日中ともに中国のものを選んだ。雰囲気の良いに関して、日中ともにほぼ完全に一致した傾向が見られた。そして、日本のもののなか、雰囲気の良いものが多くとされ、中国のもののなか、雰囲気の良いものが多いとされることがわかった。

「懐かしさ」7枚のうち2枚（2枚ともに中国のもの）が同じ、懐かしくないと感じる残りの5枚は日本が全て中国のものを選び、中国は日本のもの4枚、そして中国のもの1枚を選んだ。懐かしく感じるもののなか、他国のものが含まれていることに対し、懐かしくなく感じるものがほとんど相手国のものであることがわかった。



「住みやすさ」7枚のうち6枚（うち中国のもの4枚、日本のもの2枚）が同じ、そのほか日中ともに中国のもの1枚を選んだ。日本のものが住みやすく、中国のものが住みにくく印象を受けた。

「日本/中国らしさ」日中ともにそれぞれすべて相手国のものを選んだ。日中ともに自国並びに他国のものをはっきり識別できることが伺われる。

「残したいか」7枚のうち5枚（そのうち中国のものが3枚、日本のものが2枚）が同じ、そのほか、日本側は日中のものそれぞれ1枚、中国側は中国のもの2枚を選んだ。残したいものとして日本のものが多く、残したくないものとして中国のものが多い、日中の間に共通性が見られた。

日中における「路地/里弄らしさ」とその他の印象評価との関係について、路地/里弄らしさを従属変数とし、それをほかの項目で説明する線形回帰分析を行った。

1) 日本側では、残り5項目で求めた回帰式は有意ではなかったため、VIFが高い「雰囲気の良い」と「残したい風景か」とを除いて、線形回帰分析を行った。路地らしさについての回帰式では、「懐かしさ」「日本らしさ」が有意に影響していた（表12）。

表12 路地らしさを予測する回帰式

回帰式に影響がある項目		標準化されていない係数		有意確率	共線性の統計量	
		B	標準誤差		許容度	VIF
	(定数)	3.314	1.107	0.009		
	懐かしい印象	1.376	0.427	0.005	0.305	3.278
	住みやすさ	-0.482	0.313	0.143	0.64	1.562
	日本らしさ	-0.403	0.199	0.06	0.364	2.744
従属変数 路地らしさ		分散分析予測値 $p=0.039<0.05$ 有意				

2) 中国側では、残り5項目で有意確率 $p<0.01$ で回帰式が求められ、「懐かしさ」「雰囲気の良い」が有意に影響していた（表13）。

表13 里弄らしさを予測する回帰式

回帰式に影響がある項目		標準化されていない係数		有意確率	共線性の統計量	
		B	標準誤差		許容度	VIF
	(定数)	1.209	0.799	0.153		
	雰囲気がよいか	-0.907	0.668	0.196	0.025	40.118
	懐かしい印象か	1.88	0.535	0.003	0.066	15.192
	住みやすさ	-0.317	0.425	0.468	0.061	16.278
	中国らしさ	-0.046	0.203	0.826	0.317	3.154
	残したいか	0.241	0.829	0.775	0.021	47.579
従属変数 里弄らしさ		分散分析予測値 $p=0.00<0.01$ 有意				

上記表12、表13を比較すると、同じ項目で係数Bの符号が同じであることがわかる。また「懐かしいか」、「住みやすいか」の係数値が類似している。したがって、日中でこれらの指標の捉え

方が類似していることが伺える。係数 B をみると、日中ともにより路地/里弄らしいものがより懐かしい印象を有している。一方、路地らしいものは必ずしも日本らしいわけでもなく、里弄らしいものは必ずしも中国らしいわけでもない。また、路地/里弄らしいものが住みにくいこともわかる。

以上を踏まえ、日中において、路地/里弄のイメージに共通性が見られ、且つ路地/里弄らしいものが雰囲気よく、住みにくく感じられることが考察できる。一方、残したいかは路地/里弄らしさときほど関係がないことも明白であった。

### 3.3.2 「日本/中国らしさ」の識別と「路地/里弄らしさ」「懐かしさ」「雰囲気の良い」の印象評価について分析

以下、設問ごとの各写真の評価の平均値をもとに分析する。<sup>注2</sup>

#### 識別について

##### 1) 写真の国別の識別

写真を国別に識別できるかを検証するには、「日本/中国らしさ」といった国の弁別を問う質問項目の結果から分析を行った。

日本人による評価と中国人による評価の分布を図 101, 102 で示す。日中のどちらとも言えないを得点 4 として、その上下の分布を見ると、東京の道に対し、日本人ははっきり日本らしいと評価し、中国人は 18 番以外をほぼ中国らしくないと評価した。一方、揚子江南部の道に対し、日本人は 5 番以外をはっきり日本らしくないと評価し、中国人は 1, 6, 7, 20 をどちらとも言えない、残り 6 枚を中国らしいと評価した。全体では日本の道より中国の道のほうの点差が少なかったが、概ね評価が分かれ、日中の写真に対して、日本らしさ/中国らしさが逆転することがなかった。

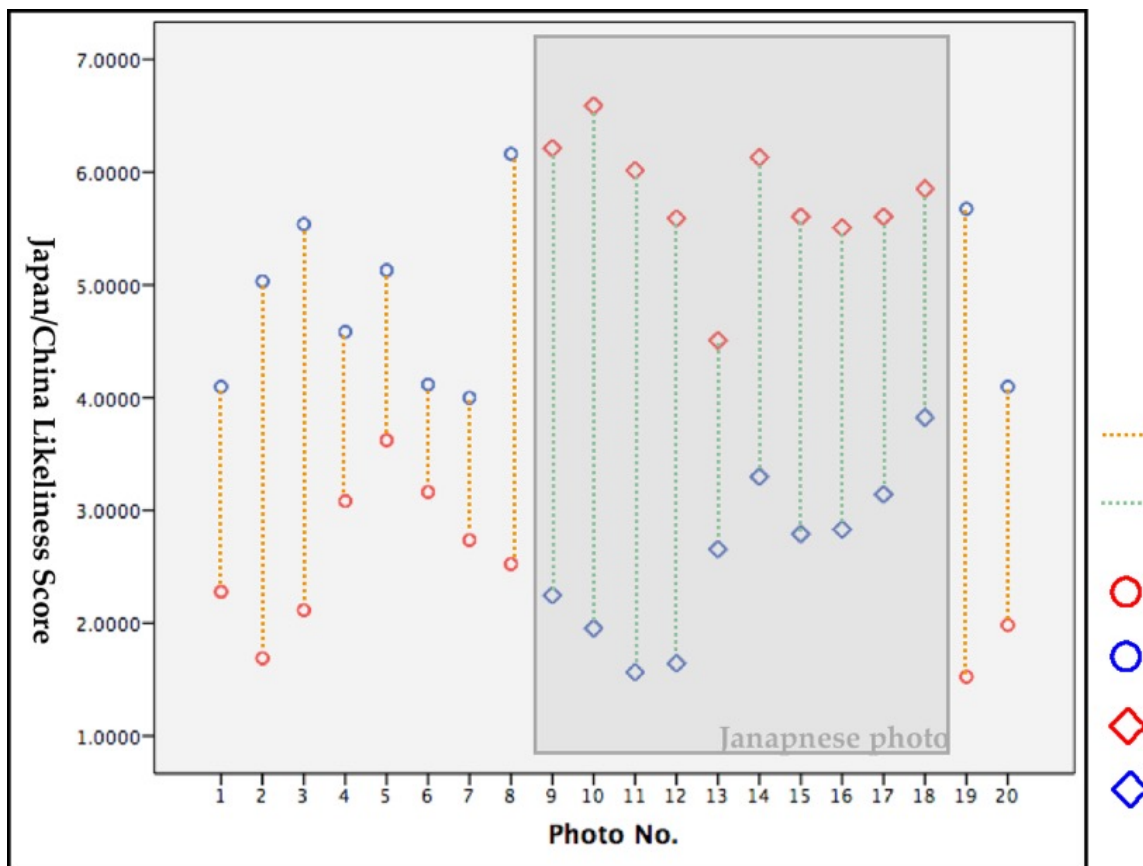


図 101 日本人/中国人が「日本/中国らしさ」における評価（日本人赤，中国人青）

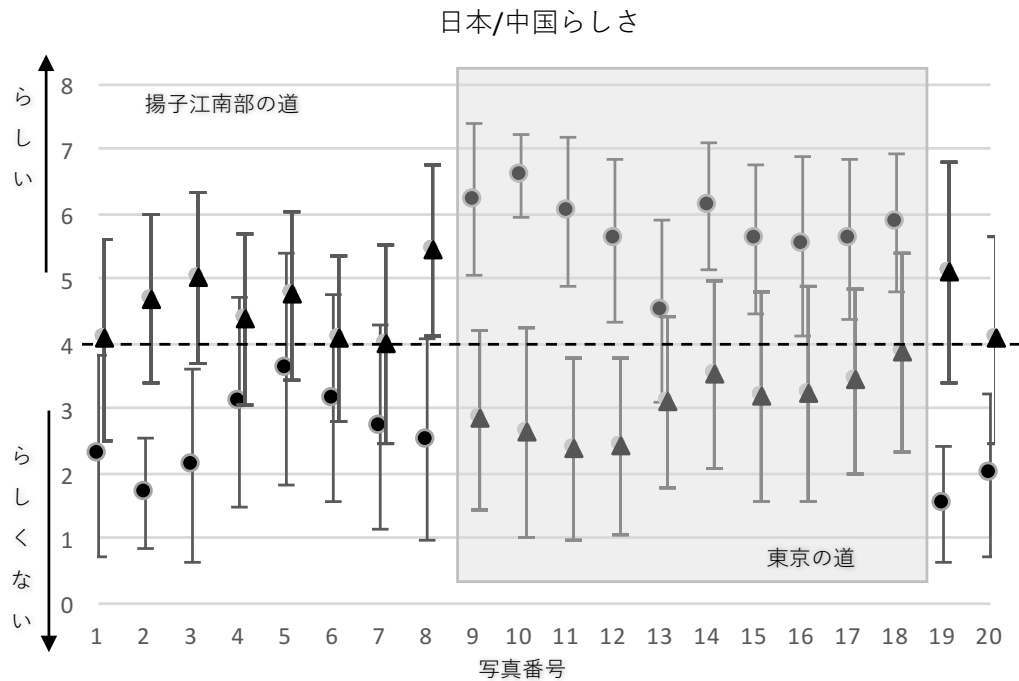


図 102 「日本/中国らしさ」についての得点の分布  
(平均点 ●日本人 ▲中国人 エラーバーは標準偏差)

日中の評価の概ねの分布を把握したうえで、さらに、日本人/中国人が路地/里弄的な道を弁別できたかを知るために検定を行った。図 103 は東京の道の写真 (N=10) と揚子江南部の道の写真 (N=10)二群で日本人と中国人それぞれの評価の平均点をグラフ化したものである。

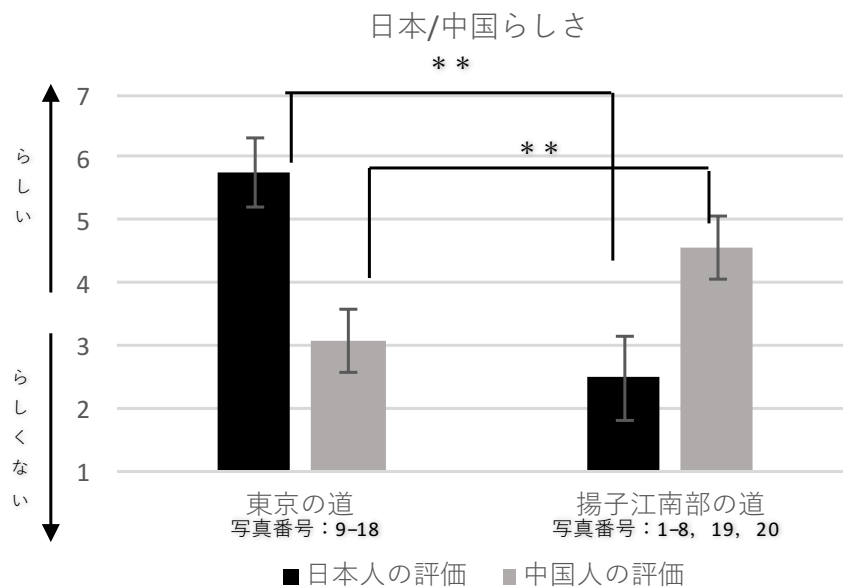


図 103 国別写真群に対する日中の日本/中国らしさの得点  
(エラーバーは標準偏差, \*\*:p<0.01)

路地的な道と里弄的な道の間には、日本人の評価、または中国人の評価どちらも  $p^{**}=0.00(p<0.01)$  で有意差が認められた。以上から、日中ともに東京の道及び揚子江南部の道の写真をそれぞれ日本のもの、または中国のものとして区別ができていることがわかった。

## 2) 路地/里弄の識別

続いて、路地/里弄の識別について分析を行った。

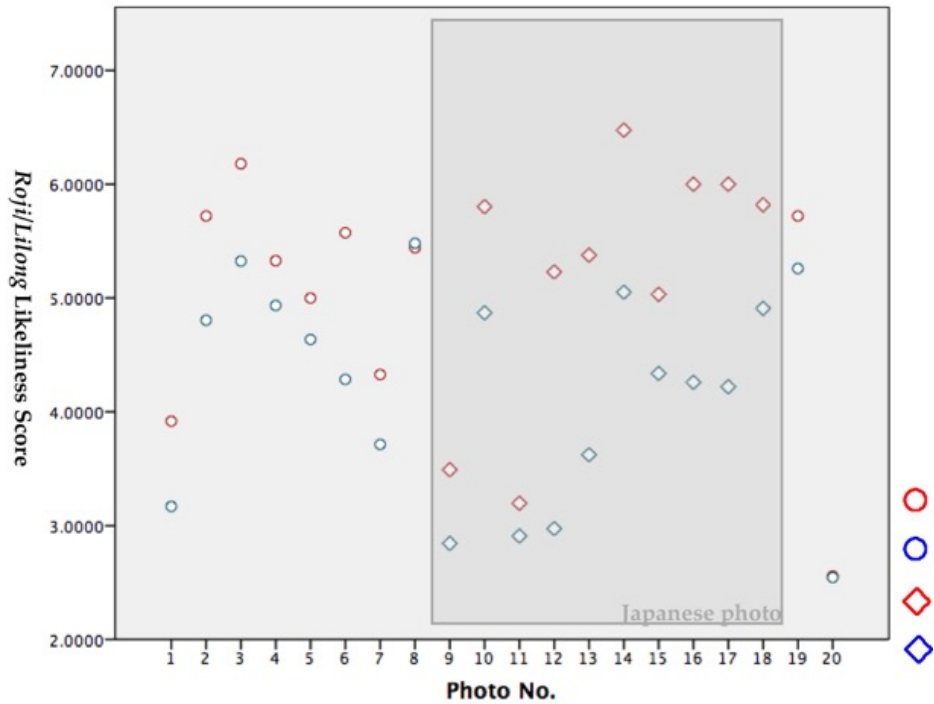


図 104 日本人/中国人が「路地/里弄らしさ」における評価（日本人赤、中国人青）

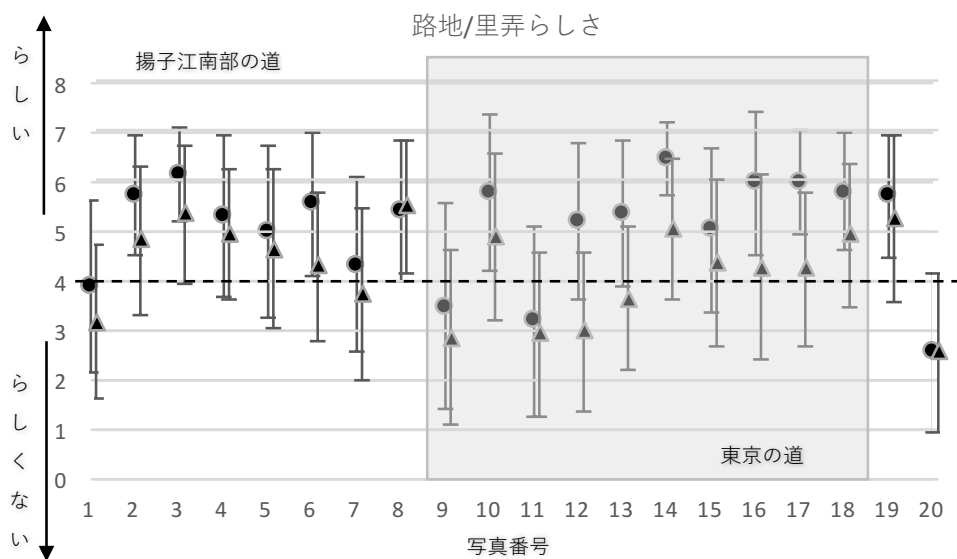


図 105 「路地/里弄らしさ」についての得点の分布  
 (平均点 ●日本人 ▲中国人 エラーバーは標準偏差)

日本人による評価と中国人による評価の分布を図 104, 105 で示す。路地/里弄らしさに関して、どちらも言えないを得点 4 とし、4 を超えた点数がつけられた写真を路地/里弄として識別されたものとする。20 枚写真のなか、写真番号 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 合計 13 枚の写真が日中ともに路地/里弄として識別されたことがわかった。13 枚のうち、写真番号 6, 16, 17 の 3 枚を除き、残りの 10 枚において、日中の評価に差があるものの、点差がすべて 1 点未満であった。写真番号 6, 16, 17 においても、日中の点数の標準偏差のエラーバーの重なりはかなりあった。具体的に見ると、日本人が揚子江南部の道（番号 2, 3, 4, 5, 6, 8, 19）を路地と識別し、中国人が東京の道（番号 10, 14, 15, 16, 17, 18）を里弄として識別していた。7 枚の里弄的な道には中国語の文字や中国の特徴を表す要素や鮮烈な色彩の使用などがなく、これは日本人が道を身近な路地として識別しやすい原因だと考えられる。一方、6 枚の路地的な道には、なかに日本語の看板が見えるものはあるが、ヒューマンスケールの密集住宅地の雰囲気は中国人が里弄として識別した理由だと思われる。以上から、日中は路地/里弄に対し、共通な認識があることが言える。

残り 7 枚の写真のなか、写真 1, 9, 11, 20 について、日中とも路地/里弄らしいと判断しなかった。写真 7, 12, 13 について、日本人が路地と思うが、中国人が里弄と思わなかった。日本の路地の概念が広く、日本人が道幅の狭さから路地として判断した。一方、中国人にとっての里弄は住宅区の細い道であるため、住宅区外の写真 7, 12, 13 を里弄としなかったのではないかと考える。

以上から、日本人/中国人が日中の道を識別できたうえで、他国のものを自国の路地/里弄と識別することがあることがわかった。また、評価の分布が近いことから、路地/里弄として識別し得るものに対し日本人/中国人の感覚が近いことが伺われた。



中国人が里弄として認識した里弄的な道（上段）  
写真番号 2, 3, 4, 5, 6, 8, 19

日本人が路地として認識した路地的な道（下段）  
写真番号 10, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18

図 106 路地/里弄として識別された道の写真

さらに、以上において、日本人の 50%より多くが路地として識別した東京の道と中国人の 50%より多くが里弄として識別した揚子江南部の道を図 106 でまとめた。15 枚の写真に共通する特徴として、車の通行がなく、奥まった地域に位置する細い道で、両側の建物の密度が高いことが挙げられ、その多くはあふれ出し（生活用品や緑）が置かれ、ごちゃごちゃした生活感がある点が挙げられる。路地的な道の写真 10 枚のうち、日本人が路地として識別しなかった写真は 9, 11 であった。写真 9 は閑静な道ではあるが、郊外戸建て住宅地に位置しており、両側の建物の密度が低く、

道幅がやや広い。写真 11 は商店などが密集する表通りであり、道幅がやや広く賑やかである。里弄的な道の写真 10 枚のうち、中国人が里弄として識別しなかった写真は 1, 7, 20 であった。写真 1 は里弄風の商業施設であり、道幅が広く賑やかである。写真 7 は市場を思わせる裏道で、密集住宅区の里弄としての性格と合わない。写真 20 はスラム街であり、生活感がなく、殺風景な景色である。

続いて、上述の日本人が路地と思うもの、または中国人が里弄と思うものについて、東京と揚子江南部の道の間で路地/里弄らしさに差があるかを検討してみた。

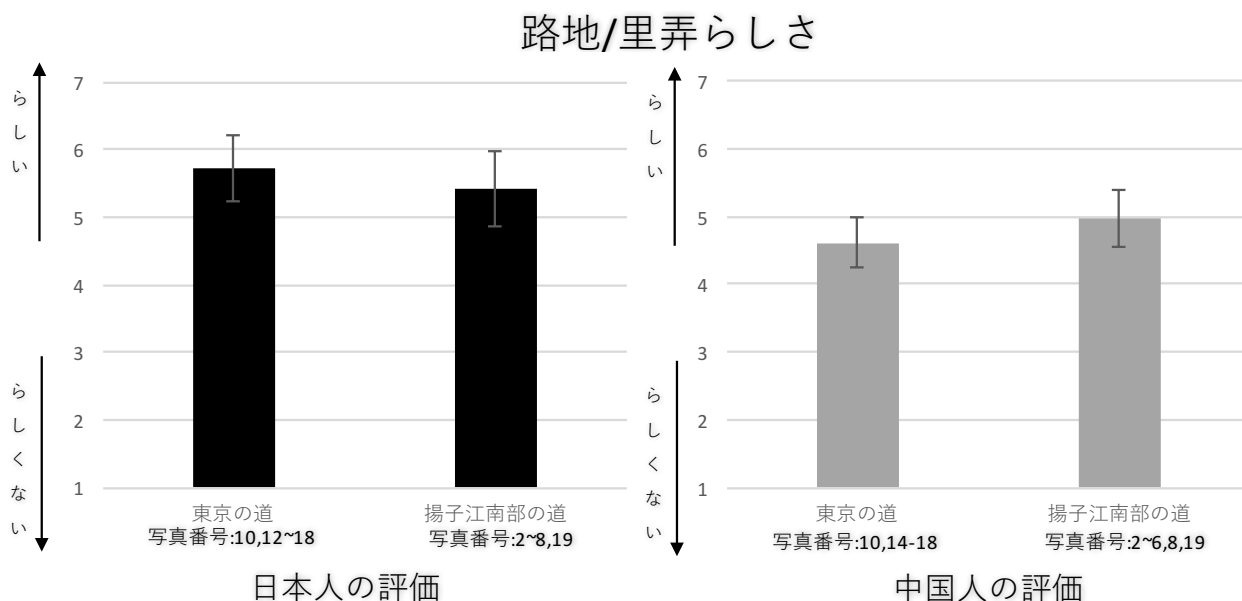


図 107 日本人/中国人が路地/里弄と識別した道における評価  
(エラーバーは標準偏差)

図 107 で日中それぞれが路地/里弄と識別した道にしばり、それらに対する評価の平均を東京の道(日本人が路地として識別したもの N=8, 中国人が里弄として識別したもの N=6)と揚子江南部の道(日本人が路地として識別したもの N=8, 中国人が里弄として識別したもの N=7)の二群に分けて、グラフにした。全体から見ると、日本人の評価が中国人の評価より高く、日中のものを問わず、ほぼ同じ 5 点をつけた。

以上二群の写真を評価した点数を独立したサンプルとして t 検定を行った。その結果、日本人の評価、または中国人の評価どちらでも  $p > 0.1$  で有意差が認められなかった。この結果から、路地/里弄と識別された道について、どちらの国においても日中の道の間で路地/里弄らしさの程度に明確な差がないことが言える。ここで注意を置くべきことは、日本側では路地と識別されていないものが 4 つしかないため、有意差がない結果に至る可能性がある。



## 印象評価

印象評価に関しては、愛着に近い感情表現を「懐かしさ」と一般的な良し悪しの傾向を問う「雰囲気の良い」の2つの項目を調べた。

### 1) 懐かしさについて

20枚の写真において、日本人の「懐かしさ」の印象評価の平均値は3.61で、一方、中国人の評価の平均値は3.80であった（李，横山；2018）。日本人の評価と中国人の評価の平均値は概ね同じであるが、日本人の評価の分散が大きかった。

どちらも言えないを4として、図108、109の分布を見ると、全体的には3～5の得点が多く、「懐かしさ」ではあまり強い感情があるとは言えない結果であった。日本人の評価は、揚子江南部の道において、すべて4を下回り、懐かしい印象があるとは言えない結果となり、東京の道においても、4あたりの点数を多めに付け、4を下回る評価もあった。一方、中国人の評価は、日中のものを問わず、4のところで評価が半々に分かれた。

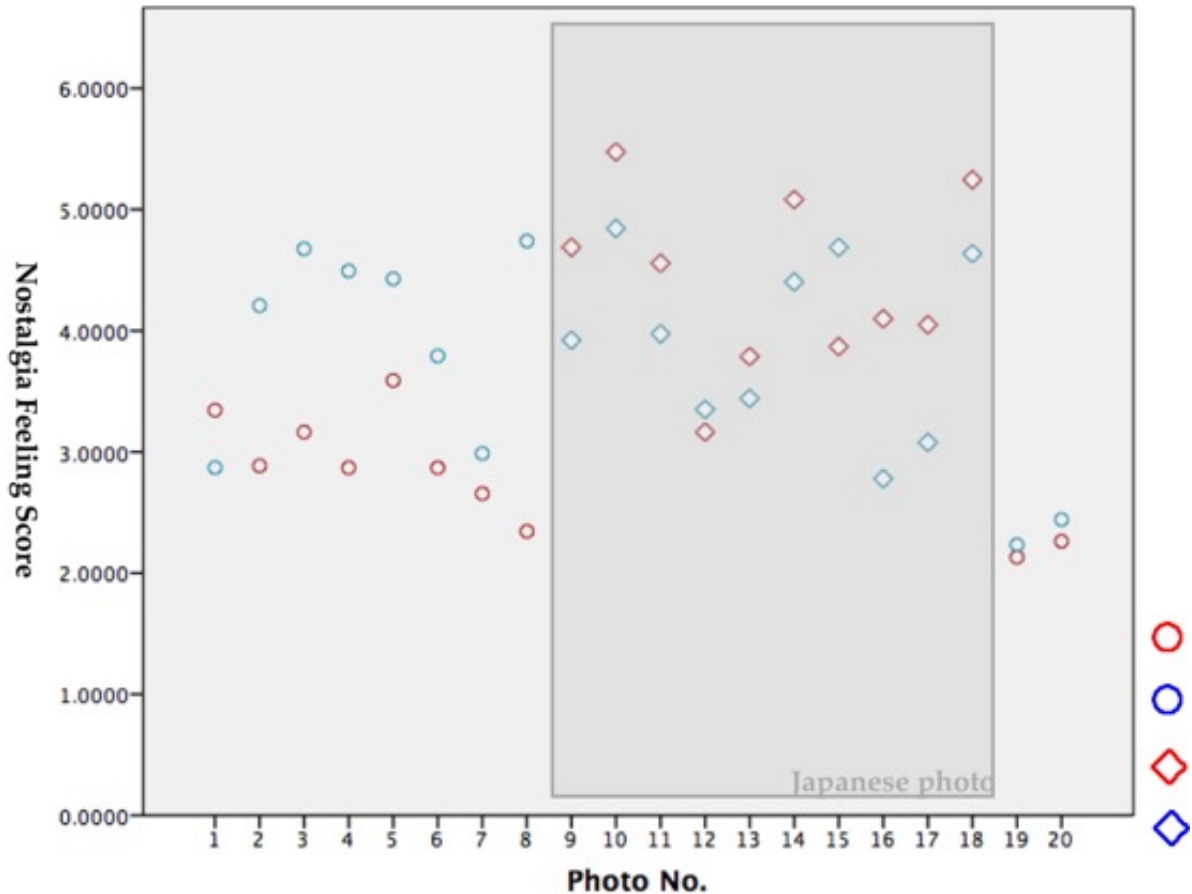


図108 日本人/中国人が「懐かしさ」における評価（日本人赤，中国人青）

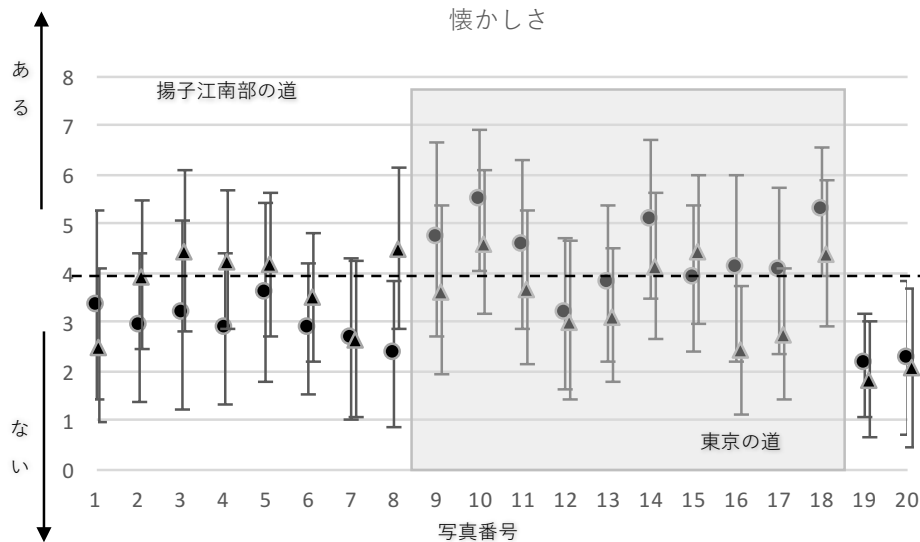


図 109 「懐かしさ」についての得点の分布  
(平均点 ●日本人 ▲中国人 エラーバーは標準偏差)

図 110 では、写真を日中それぞれ路地/里弄と識別した道とそうではない道の二群（日本人の評価では N=16,N=4,中国人の評価では N=13,N=7）に分け、「懐かしさ」の評価の平均得点をグラフ化した。どちらも言えないを 4 とすると、日本人側では路地であるかないかを問わず、懐かしさがあると云えない結果であった。一方、中国側では里弄と識別した道はそうではない道より懐かしく感じる事がわかった。

日中それぞれについて、上記路地/里弄と識別した道とそうではない道二群の写真の評価の平均点を独立したサンプルとして t 検定を行った。その結果、日本人の評価に有意差が認められず、中国人の評価に  $p^{**}=0.03(p<0.05)$  で有意差が認められた。この結果から、日本人が路地とそうではない道に対し懐かしさに明確な差がないことと中国人が里弄に対し、そうではないものより有意に懐かしい印象を感じる事がわかった。

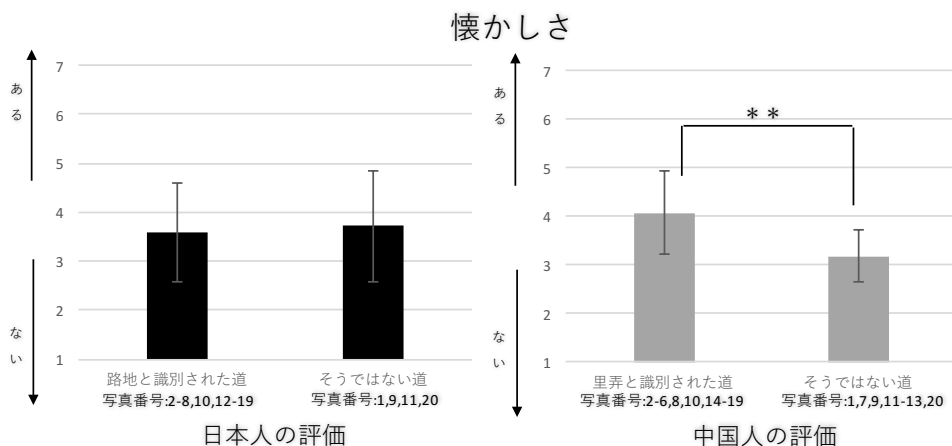


図 110 路地/里弄と識別される群とそうではない群の日中得点  
(エラーバーは標準偏差)

図 111 では、日中それぞれが路地/里弄と識別した道に対する「懐かしさ」の評価を路地的な道と里弄的な道の二群に分け、平均得点をグラフした。どちらもと言えないを4としたところ、日本人が日本の道を4以上、中国の道を4以下と点数をつけ、日本の道に有意に懐かしい印象を感じることがわかった。一方、中国人はどちらにも4近くに点数をつけ、日中のもので懐かしさが変わらないことがわかった

日本人については路地、中国人については里弄と認識した道のみにしぼり、東京の道(日本人が路地として識別したもの N=8、中国人が里弄として識別したもの N=6)と揚子江南部の道(日本人が路地として識別したもの N=8、中国人が里弄として識別したもの N=7)の二群を独立したサンプルとしてt検定を行った。その結果、日本人は路地と識別する道に対し、どちらかというところ、日本のものを懐かしく感じ、中国のもの懐かしく感じていない( $p^{**}=0.00$  ( $p<0.01$ )). 中国人は里弄と識別する道に対し、日中のもので、懐かしさの度合いに差が見られないことがわかった ( $p>0.1$ ).

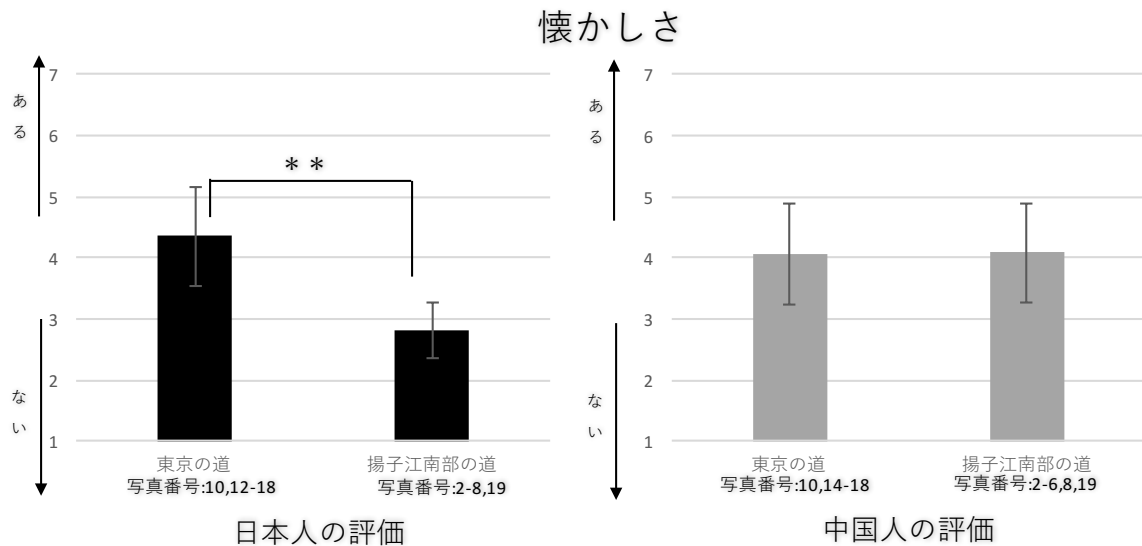


図 111 日本人/中国人が路地/里弄と識別した道における評価  
(エラーバーは標準偏差)

以上、路地/里弄とそうではない道の間では、日本人の懐かしい印象に有意な差がなく、一方、中国人が里弄的な道をより懐かしく感じるということがわかった。そして、路地/里弄と識別された道については、日本人は東京の道を有意に懐かしく感じ、中国人は日中の道に対し、懐かしさに差が見られないことが伺われる。これは日本人において、路地という言葉の範囲が広い、路地として識別されていないものが少ないの可能性もある、写真をさらに増やし、検証する必要がある。

日本人の日本の路地に近い道の写真に対する「懐かしさ」の印象評価の平均値は 3.61 点 (min:2.13, max:5.48) で、一方、中国人の中国の里弄に近い道の写真に対する評価の平均値は 3.80 点 (min:2.23, max:4.84) であった。日本人の評価の平均値は中国人のより 0.19 点低く、評価の分散が大きかった。

20枚の写真それぞれについて、日本人と中国人の評価の平均値を求め、独立サンプルとして、t検定を行った。日本側では、日本の写真の評価と中国の写真の評価の間に有意差が認められた( $p < 0.01$ )。一方、中国側では、有意差が認められなかった。この結果から、日本人は日中それぞれの路地/里弄写真に対し、「懐かしさ」の印象に差があり、中国人はどちらの写真に対しても、「懐かしさ」の印象において、明確な差が認められないことが言える。

これらが、日中それぞれの評価の仕方の影響によるのか、または、アンケート参加者の属性の影響で、このような結果に繋がったのかを下記の方法で検証してみた。

### 「懐かしさ」を写真の国籍別で検定した結果

日本の写真10枚と中国の写真10枚を分けて、日中それぞれの評価のつけ方の分析を試みた。日本側は日本の写真に対し、平均3.5~4.5となる高得点をつけ、平均5点以上もあったのに比べ、中国の写真に対しては、平均2.5~3.5となるあまり高くない点数をつけた。一方、中国側では、日中の写真を問わず、平均3.5~4.5となる点数が多かった。

続いて、写真ごとに、日中それぞれの評価のつけ方を比較した結果、日本の写真において、日中ともに平均3.5~4.5の点数が多いのに対し、中国の写真において、中国側の評価は日本側の評価より、平均1~1.5高くなることがわかった。

上記の分析から、日本の道の写真については、日中の間にアンケート参加者による評価の差が見られなかった。一方、中国の道の写真については、日本人からの評価は中国人からの評価より低く、両者に違いが見られた。

### 「懐かしさ」を年代別で検定した結果

羽生ら(2012)によると環境の知覚・認知、評価、推論は職業的専門性や教育の影響を受ける。したがって、次に考えられるのがアンケート参加者の属性である。日中別に集計した結果を見る限り、性別・建築専門であるか否かでは「懐かしさ」の評価に差がないが、参加者の年代別で差があった。

日本側の回答者合計82人のなか、40代~50代は20人(24.3%)がいるのに対し、中国側の回答者79人のなか、40代~50代は2人(2.5%)しかいなかった。

したがって、若者(20代~30代)、年輩(40代~50代)を別々にし、写真ごとのt検定を行った。中国の年輩は少ないため、比較の対象から除いた。

### 日中の若者同士の比較結果

日中の若者同士の集計データを等分散を仮定した2標本とし、t検定を行った。結果として、「懐かしさ」の評価に、両側有意差が認められない( $p > 0.1$ )写真(番号1,7,9,12,13,20)が6枚(日本3枚、中国3枚)あった。(図112)残り14枚(日本7枚、中国7枚)については、日中で評価に有意及び有意傾向の差が見られた。

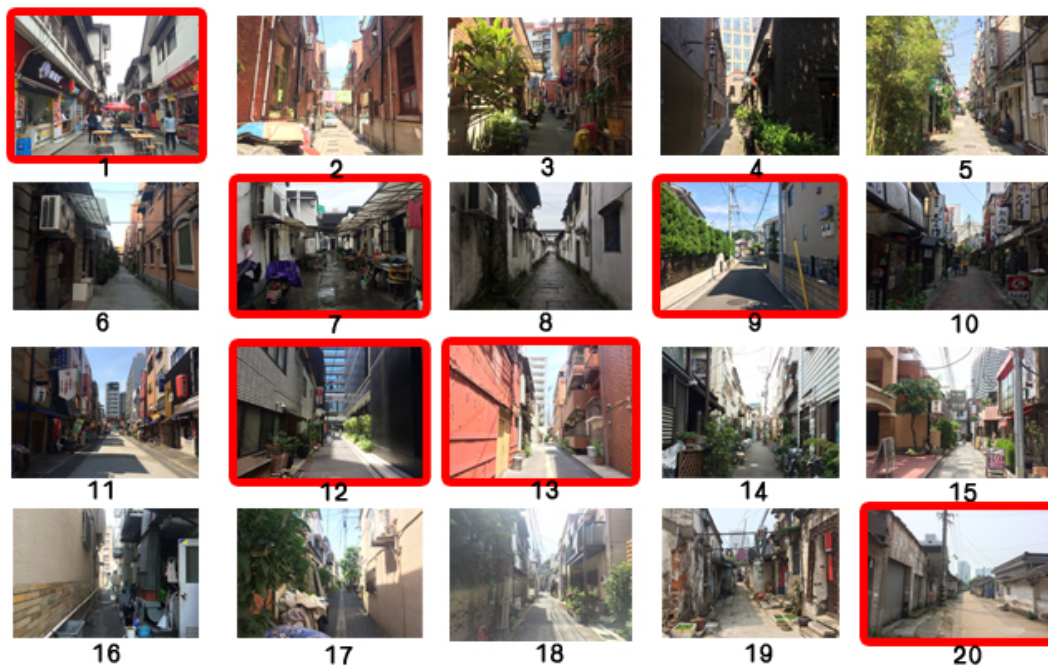


図 112 日中の若者同士の比較結果

日本の年輩と中国の若者の比較結果

日本の年輩と中国の若者の集計データをもとに、同じく t 検定を行った結果、「懐かしさ」の評価に両側有意差が認められない ( $p>0.1$ ) 写真 (番号 1, 3, 4, 5, 6, 9, 11, 12, 13, 19, 20) が 11 枚 (日本 4 枚, 中国 7 枚) あった。(図 113) 残り 9 枚 (日本 6 枚, 中国 3 枚) については、評価に有意及び有意傾向の差が見られた。

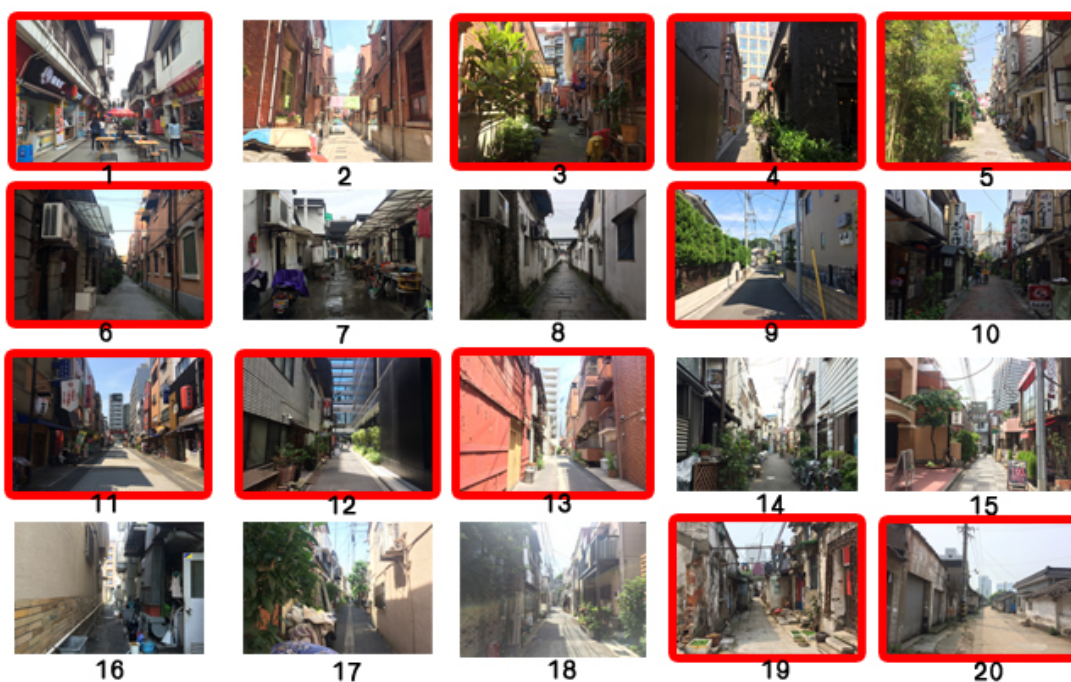


図 113 日本の年輩と中国の若者の比較結果

上記結果から、日本人が自国の道の写真（平均 4 点以上の写真 7 枚）に対して懐かしく感じ、一方、他国（中国）の道の写真に対してはあまり懐かしく感じなかった。ただし、番号 5 の中国の道の写真に対し、平均 3.59 点となる点数をつけ、番号 12 の日本の道より点数（3.16 点）が高かったなど、場合によっては中国の里弄に近い写真に対し、日本の路地に近い写真より懐かしく感じることもあった。また中国人は、日中を問わず路地/里弄に近い道に明確な差のない懐かしさを感じる（平均値 4 点以上の写真が日本の道 4 枚、中国の道 5 枚）ことがわかった。

そして、1) 日中の若者同士の比較、日本の年輩と中国の若者の比較どちらにおいても、写真 1, 9, 12, 13, 20 には「懐かしさ」の評価に明確な差が認められない群に入った。2) 日本の年輩と中国の若者の比較では「懐かしさ」の評価に有意差のある写真は 5 枚少なく、合計 9 枚で、全 20 枚の写真の半数未満となった。3) 日本の年輩と中国の若者の比較において、「懐かしさ」の評価に有意差のある写真のうち、一枚（番号 7）だけは日中の若者同士の比較において有意差はなかったが、他は全て若者同士では差が生じた。以上の 3 点を踏まえ、日中の若者同士より、日本の年輩と中国の若者のほうが、日中の路地/里弄に近い道の「懐かしさ」に関して、感覚に明確な差が少なかったことが言える。日本の 1960 年代以降の高度成長期に対し、中国の高度成長期は 1980 年代以降であった。これが日本の年輩と中国の若者の「懐かしさ」の印象評価の類似性、または、中国の今どきの道の写真に対する「懐かしさ」の感覚に影響したのだろう。

「懐かしさ」の印象評価について、中国人は日本の路地に近い道にも「懐かしさ」を感じられること、一方で、日本人の特に若者は、中国の里弄に近い道に「懐かしさ」をあまり感じられなかったことを確かめた。この差は日本人の若者の育った環境からの影響が原因として考えられる。

## 2) 雰囲気の良い

図 114 の雰囲気の良いの得点分布を見ると、全体としては、写真番号 1, 8 以外の 18 枚に対し、日中がつけた点数の差は平均で 1 点未満であり、日本人と中国人の雰囲気の良いの感覚が近いことが伺える。

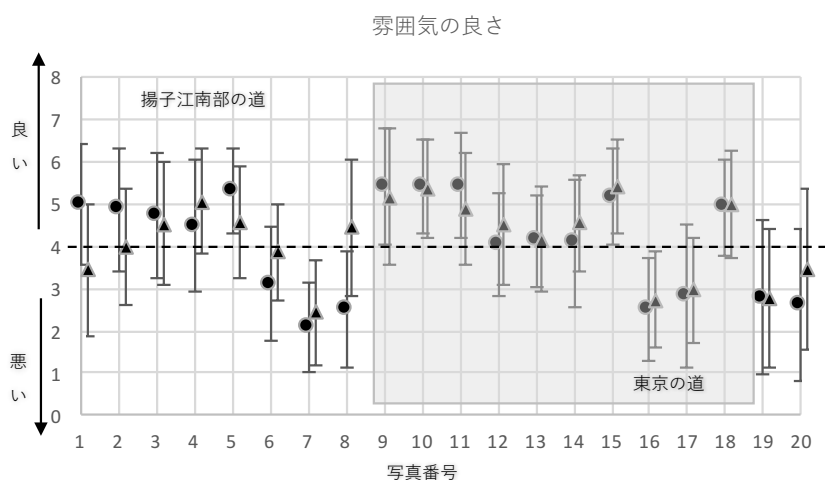


図 114 「雰囲気の良い」についての得点の分布  
(平均点 ●日本人 ▲中国人 エラーバーは標準偏差)

図 115 では、日中それぞれで路地/里弄と識別した道とそうではない道の二群（日本人の評価では N=16,N=4,中国人の評価では N=13,N=7）に分け、評価の平均得点をグラフ化した。路地/里弄とそうではない群の日中それぞれの点数はおおよそ 4 点前後である。

この二群を独立したサンプルとして日中それぞれで t 検定を行った結果、どちらも有意差が認められなかった。この結果から、日中それぞれ路地/里弄とそうでは道において、雰囲気の良いの印象に明確な差はないことがわかった。

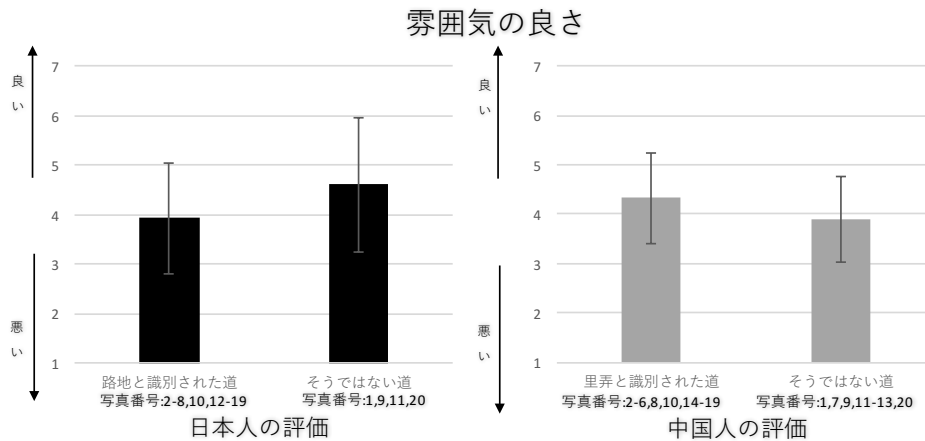


図 115 路地/里弄と識別される群とそうではない群の日中得点  
(エラーバーは標準偏差)

さらに、図 116 では日中それぞれが路地/里弄と識別した道にしぼり、東京の道(日本人が路地として識別したもの N=8, 中国人が里弄として識別したもの N=6)と揚子江南部の道(日本人が路地として識別したもの N=8, 中国人が里弄として識別したもの N=7)の二群に分けてグラフ化した。二群を独立したサンプルとして t 検定を行った結果、日中どちらにも有意差が認められなかった。この結果から、日中どちら側でもが路地/里弄として識別した道の雰囲気は、日本の道と中国の道の間で、明確な印象の差がなかった。

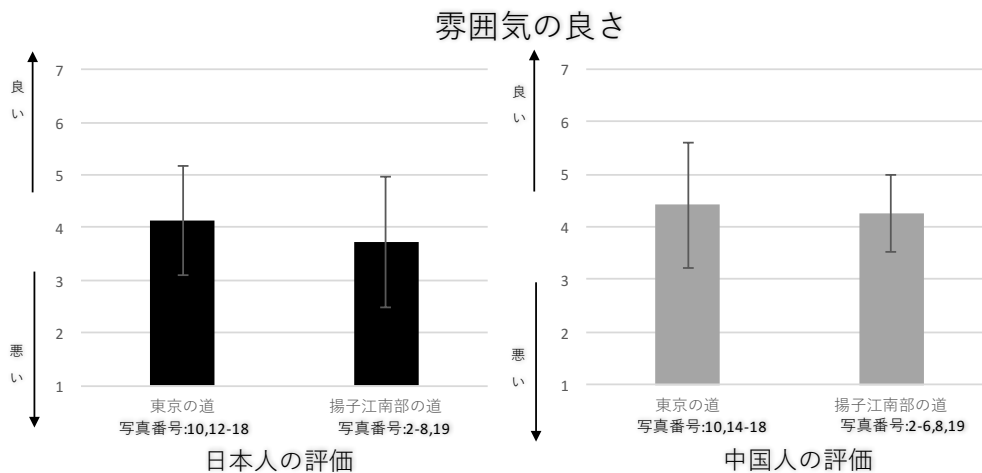


図 116 日本人/中国人が路地/里弄と識別した道における評価  
(エラーバーは標準偏差)

以上からアンケートで使われた 20 枚の写真において、「路地/里弄らしい」ものとそうでないもの間の雰囲気の影響に明確な差はなく、また路地/里弄のなかでも国別の道の印象に明確な差がないことが言える。

### 路地/里弄の価値評価

残したいかの評価の全体の分布（図 117）を見ると、雰囲気の良いの評価の分布とほぼ同じであることが見てとれる。そして、2 枚（番号 1, 8）を除き、残り 18 枚の写真において、「残したいか」の日中の評価の点差が 1 未満であり、ほとんどのものがほぼ同じ分布となっていた。

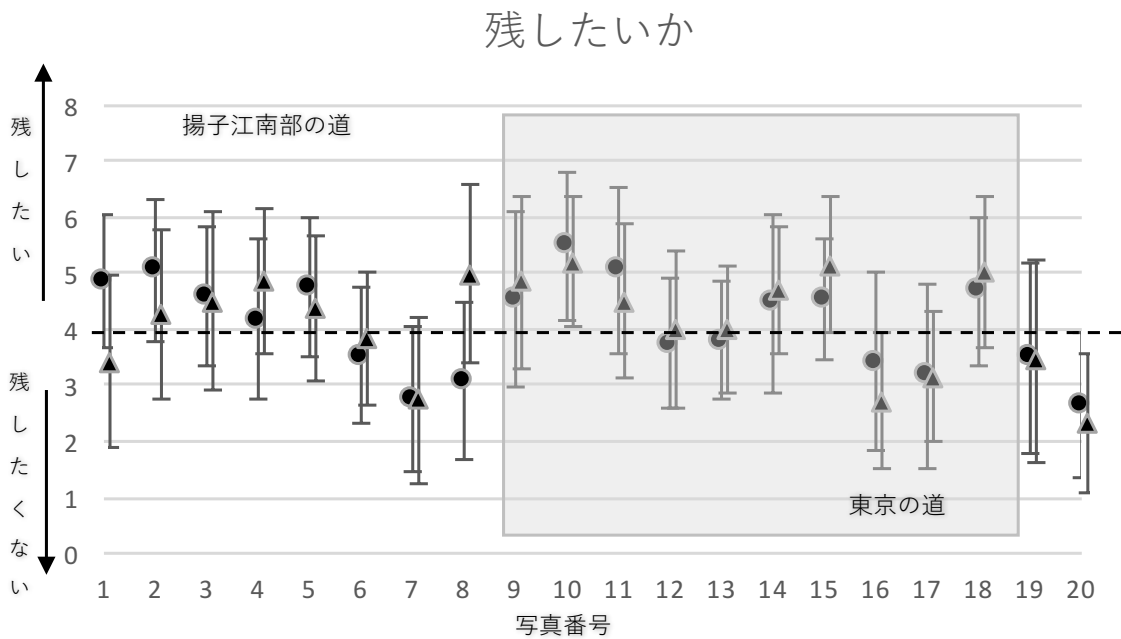


図 117 「残したいか」についての得点の分布  
(平均点 ●日本人 ▲中国人 エラーバーは標準偏差)

東京の道のうち、日本人が路地として識別したものが 8 枚で、うち残したいものは 4 枚であった。揚子江南部の道のうち、中国人が里弄として識別したものは 7 枚で、残したいものが 5 枚であった。東京の道についての日本人の評価を路地 (N=8) とそうではないもの (N=2) について表し、揚子江の道に対する中国人の評価を里弄 (N=7) とそうではないもの (N=3) に分けてグラフ化したのが図 118 である。それぞれ二群の間で t 検定を行った結果、日本側では有意差が認められず、中国側では  $p^{**}=0.00(p<0.01)$  で有意差が認められた。日本人は路地とそうではない道で、残したい気持ちに明確な差がないことがわかり、中国人は里弄らしい道に対し、「残したい」とする評価が有意に高いことが伺えた。



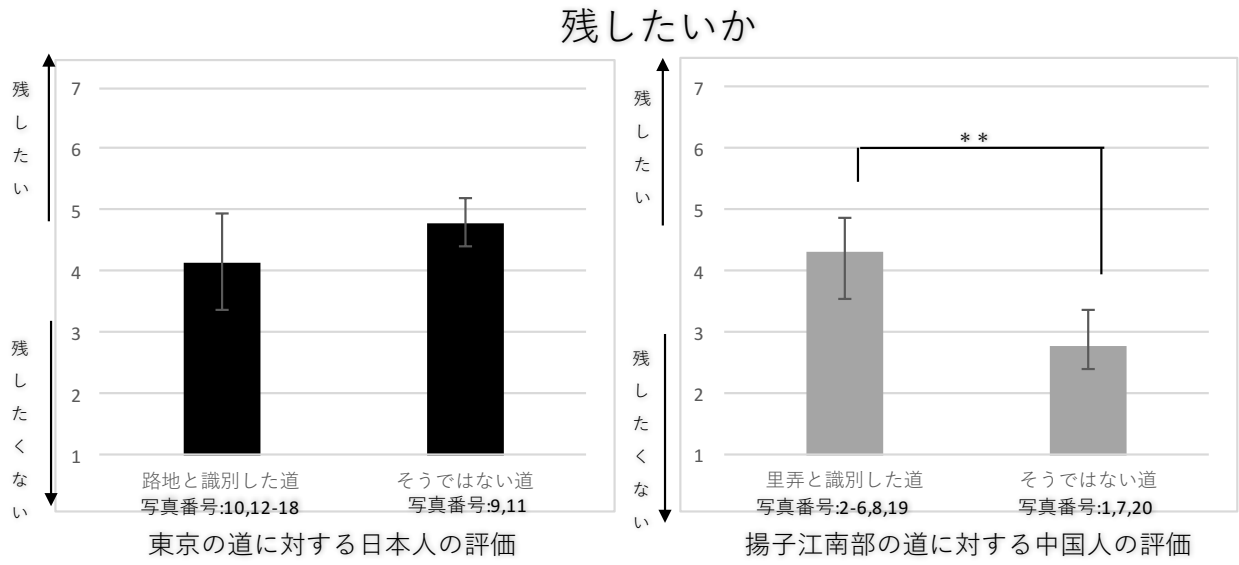


図 118 路地/里弄と識別される群とそうではない群の日中得点  
(エラーバーは標準偏差)

### 3.3.3 印象評価によるクラスター分析及び雰囲気の良いと保存意識の相関分析

#### クラスター分析

従属変数と思われる「路地/里弄らしさ」を除き、残りの5つの独立変数である質問項目でクラスター分析を行った結果、前述のとおり、日本側の評価において、残り5項目で求めた回帰式は有意ではなかったため、VIFが高い「雰囲気の良い」と「残したい風景かどうか」を除いて、線形回帰分析を行った。路地らしさについての回帰式では、「懐かしさ」「日本らしさ」が有意に影響していた。これによって、「懐かしさ」と「日本らしさ」の2項目でクラスター分析を行うことにした。中国側では、残り5項目で有意確率  $p < 0.01$  で回帰式が求められ、「懐かしさ」、「雰囲気の良い」が有意に影響していた。これによって、「懐かしさ」と「雰囲気の良い」の2項目でクラスター分析を行うことにした。結果は図 119, 120 で示す。

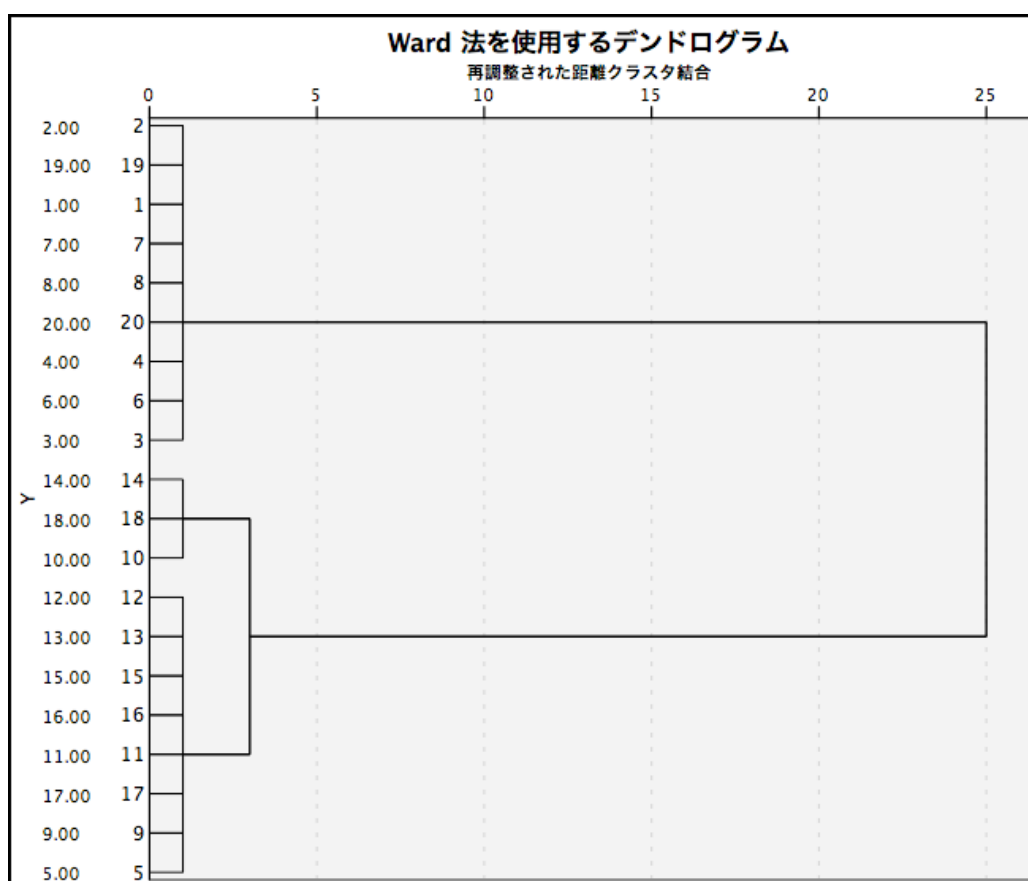


図 119 路地らしさに有意に影響する項目で 20 枚の写真におけるクラスター分析結果

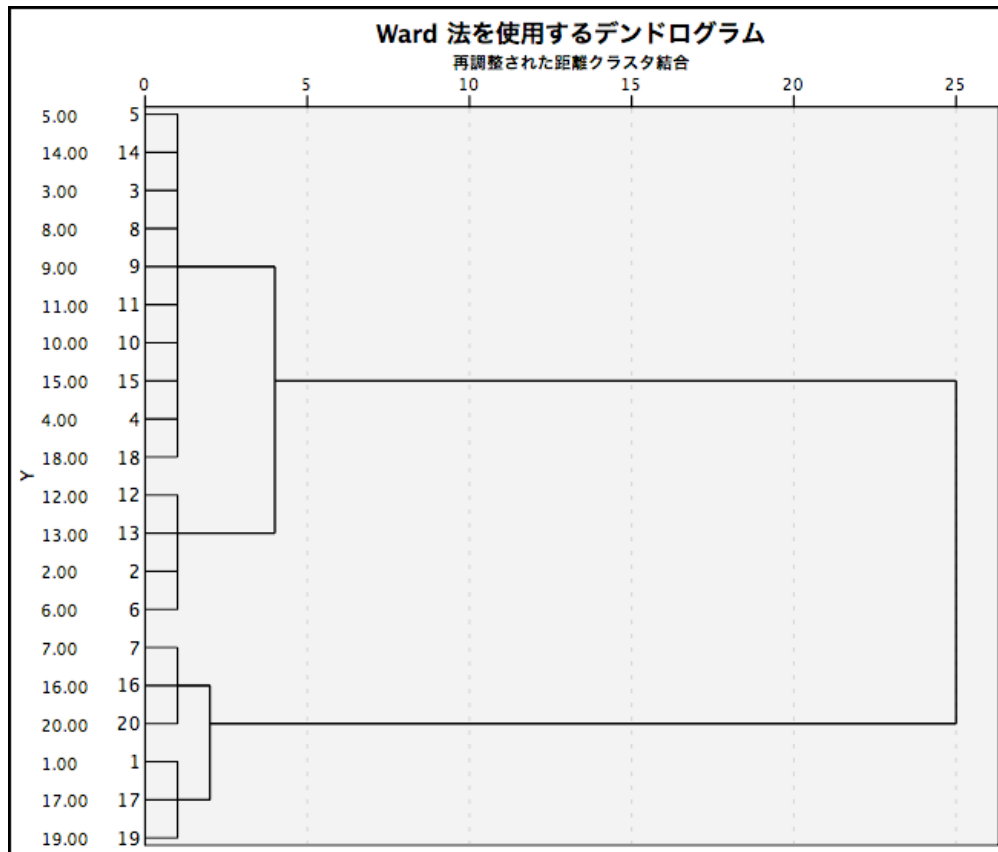


図 120 里弄らしさに有意に影響する項目で 20 枚の写真におけるクラスター分析結果

距離 5 のところで分け、日本側の評価による分類は：写真 1 2 3 4 6 7 8 19 20 が一グループ、写真 5 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 が一グループである。中国側の評価による分類は：写真 2 3 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 18 が一グループ、写真 1 7 16 17 19 20 が一グループである。日本側の分類において「日本らしさ」の影響が強く、中国側の分類において、「雰囲気の良い」の影響が強い。

距離 3 のところで分け、日本側の評価による分類は：写真 1 2 3 4 6 7 8 19 20 が一グループ、写真 10 14 18 が一グループ、写真 5 9 11 12 13 15 16 17 が一グループであることがわかる。一方、中国側の評価による分類は：写真 3 4 5 8 9 10 11 14 15 18 が一グループ、写真 2 6 12 13 が一グループ、写真 1 7 16 17 19 20 が一グループである。したがって、写真 2 6、写真 12 13、写真 19 20、写真 3 4 8、写真 10 14 18、写真 5 9 11 15 がどちらにおいても同じグループに属することがわかった。

#### 「雰囲気の良い」と「残したいか」の相関

図 121 は「雰囲気の良い」と「残したいか」の相関を表すグラフである、相関係数は日本側で 0.94、中国側で 0.90、日中ともに強い正の相関を呈している。

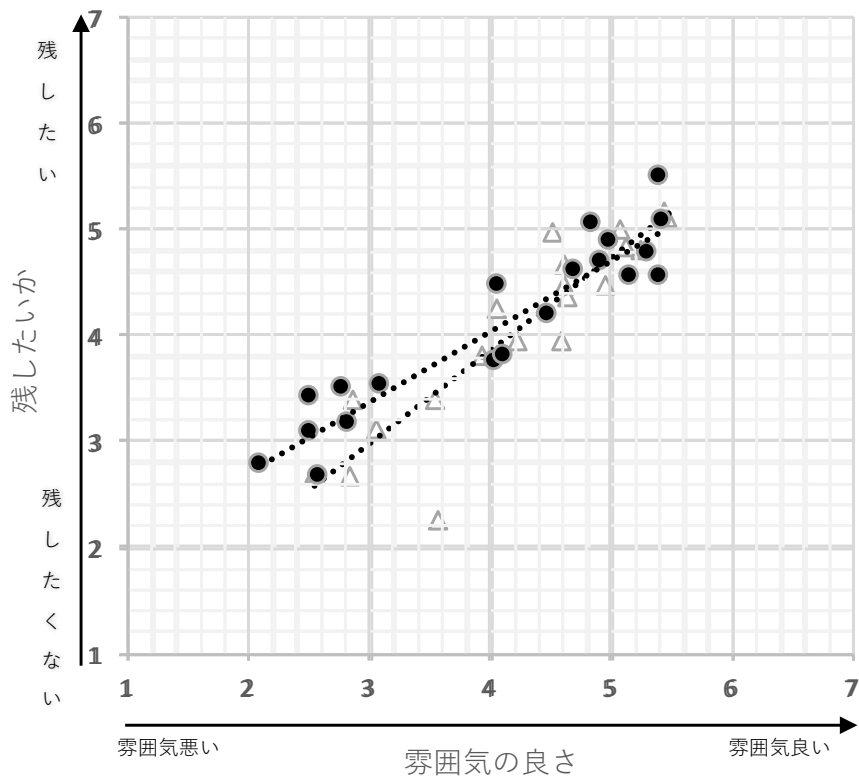


図 121 「霧囲気の良さ」と「残したいか」の相関  
(平均点 ●日本人 △中国人)

3.3.2 の分析とあわせ、「残したいか」の評価において、日中間に全体としてあまり差がなく似通っていること、また日中ともに霧囲気のいいものを残したいことが示唆された。そして、中国人が里弄的な道を有意に残したいと思うのに対し、日本人にはこのような傾向が見られなかった。

### 3.4 まとめ

本章では、国際的な視点から路地/里弄を比較対象として捉え、生まれ育った環境や文化が異なる人々の路地/里弄の識別と印象の類似性をアンケート調査で分析した。国を超えた比較をするために、環境への愛着や印象を「懐かしさ」、「雰囲気良さ」で表現し、さらに、「残したいか」の評価項目で感情と行動意識が一致するかどうかを分析した。

日中ともに東京の道及び揚子江南部の道をそれぞれ日本のもの、または中国のものとして他からはっきり弁別できた。そのうえで、他国のものを日本人は路地または中国人は里弄と識別することがあり、日本人、中国人ともに路地/里弄の識別において、明確な差は見られなかった。

本論の仮説である日本人/中国人が自国のものをはっきり識別できたうえで、日本の路地と中国の里弄の言葉に共通的な認識があることを検証できたと考える。一方で、日本人の路地の概念がより広く、狭い道一般に広がりがちであるのに対して、中国人の里弄はより住宅に寄っていることが示唆された。しかし、この点については、再度検討が必要である。

「懐かしさ」において、日中の分布が分かれることが多かった。日本人は路地と思う日中の道に差があり、中国人の場合は里弄と思う日中の道に差がなかった。一方で、路地/里弄と識別したものの「雰囲気良さ」において、日中は似ている分布を呈していた。

また「雰囲気良さ」は「残したいか」と強い正の相関が見られ、日本では、路地とそうではない道の間で明確な差が見られなかった。これは日本人が路地の範囲を広く考えているため、特に残したくないような狭い道も路地として捉えている可能性が考えられるが、この点についても更なる検討が必要であろう。

各質問項目の間の関係性及びアンケート調査で得られた心理量と路地/里弄空間の物理量との関係性については今後の研究に譲りたい。

## 注

- 1) 日本側では、Google 社が無料提供する Google ドキュメントのオフィスソフトを利用した（付記 URL 参照：[https://www.google.com/intl/ja\\_jp/forms/about/](https://www.google.com/intl/ja_jp/forms/about/)）。中国側では、Google サービスが使用できないため、同じ機能を持つ问卷星（付記 URL 参照：<https://www.wjx.cn/>）でアンケートを実施した。
- 2) 統計分析は IBM SPSS Statistics Ver.22 と Microsoft Excel Ver.15.26 を使用した。

結

都市開発や社会基盤整備が進んだ今日、グローバル範囲で大都市は似かよった様相を呈している。都市開発の進捗が都市景観にかつてない影響を与える今、都市の従来の雰囲気や地域らしさの保持、都市に生活している人々の愛着感情、人々がふるさとを感じさせる都市の原風景をどう守り、都市空間をどう発展していくかを考えるべきである。

日本の東京の路地であれ、中国揚子江南部地域の里弄であれ、そこにいとその町の独特の雰囲気に惹かれ、懐かしく感じることもある。なぜ路地/里弄にこのような雰囲気が感じられるか、人はなぜ懐かしく感じるのか、この雰囲気を醸し出す物理要素、この雰囲気の中身を模索し、人々の感覚を日中両国の違う背景から分析・比較し、物理的要素の分析と印象評価の解明が必要となる。

本論では、都市空間の代表例として路地/里弄空間を取り上げ、日中両国の路地空間の比較研究の必要性を述べたうえで、関連の先行研究のまとめ及び整理を行った。日中両国では自国の路地/里弄空間に関する先行研究の成果が数多くある。それに比べて、日中の路地空間を比較対象とした研究は少ない。特に、日中両国の人々が持つ路地/里弄の印象から、日中の比較を通して、路地が醸し出す雰囲気の解明に関する研究は、筆者が調べる限り、見られない。

本論は先行研究で扱っていなかった日中の路地空間の比較研究をテーマとした。まず、第一章に、先行研究をもとに、路地/里弄とはどのようなものか、路地と里弄の言葉の異同を明らかにした。先行研究の定義を見ながら、本論で扱う路地/里弄の範囲を定めた。日中の先行研究の全体像を概観したうえで、本研究ではこれらを重要と思われる先行研究を以下の5つにまとめた。①路地/里弄の物理的特徴、②路地/里弄の心理的評価、③路地/里弄の現状調査、④リノベーション・再開発、⑤アジアにおける路地的な道。

さらに、東京の路地的な道と揚子江南部地域の里弄的な道における調査を行った先行研究を整理したうえで、本論の位置づけをした。

第二章では、調査対象地域（東京と揚子江南部地域）において、具体的に調査する地区と道の選定を行った。日本の東京の路地に近い道を含む地区10箇所と中国の揚子江南部地域の里弄に近い道を含む地区8箇所にフィールド調査を実施した。まず、区画限定をするために予備調査を行った。次に、本調査で目視調査と写真調査により道のデータを取り、各物理量の可視率を求めた。道の基本データとあわせ、データシートで調査内容をまとめ、都市空間における調査方法の一例として提案した。そして、類別ごとの道における各物理量の可視率を分析した。

さらに、路地/里弄の分類の手順を決め、日中それぞれ130枚の写真を下記5つの類別に分類した。a. 路地/里弄と思われるもの、b. 路地/里弄らしい部分はあるが、違う要素があるもの、c. 路地/里弄として商業開発また観光地再開発したもの、d. 路地/里弄的ではあるが、生活感がないもの、e. 老朽化して状態のよくないもの。

写真に映る各物理量の分析では、上記の類別の間の比較をし、そして、6つの要素ごとに分類の間、及び日中の間の差について検定をした。結果として、各類別に特徴が見られ、a.路地/里弄その



ものと b.路地/里弄らしいが違う要素がある道の 2 つの分類の間に、建物率に続き、あふれ出しと緑の割合の合計が 2 番目に多く共通性が見られた。これは分類 c, d, e に見られない特徴であった。

また、a.路地/里弄そのもののうち、日本の路地と中国の里弄の間において、物理的構成に有意な差があった。

第三章では、上記の分類にもとづき、カテゴリー (a, b, c, d, e) ごとに日中それぞれ 2 枚の写真を選定し、アンケートを作成した。アンケートを日中それぞれで実施し、人々の路地/里弄の識別と印象評価を「日本/中国らしさ」、「路地/里弄らしさ」、「懐かしさ」、「雰囲気の良いさ」の項目で問い、各項目における日中の調査結果を分析・考察した。

上記の物理量の分析及び心理量の分析により、路地/里弄空間の類別ごとの特徴を明らかにした。日本の路地と中国の里弄に物理的構成に違いがあるにもかかわらず、同じものとして認識されることがわかった。さらに、類別ごとに対する印象評価の解明により、東アジア（日本・中国）の異なる生活環境で生き、違う文化的背景を持つ人々が路地/里弄をはっきり識別することができ、少なくとも、中国の人は里弄と思う日本の道（路地）に対し、懐かしい印象を有することを検証できた。

日中ともに現在、路地/里弄空間が喪失されつつあるなか、本論は路地/里弄空間はどのようなものか、日本の路地と中国の里弄の異同は何かについて、先行研究で扱っていなかった日中の路地空間の比較研究をテーマとし、フィールド調査及びアンケート調査を通し、物理量の可視率の分析及び人々の印象評価を行った。したがって、本論では、見た目が違う場所が似ている雰囲気を醸し出すことが可能であり、その原因は物理的要素のほか、物理要素だけでは説明しきれない人々のイメージにも関係あることを論証した。また、第三章で、「雰囲気の良いさ」の評価と「残したいか」の評価の間に正の相関が強く見られたことも興味深い。e.状態のよくない道は日中ともに雰囲気の良いさの評価が低く、路地/里弄を良い状態に保つことが保存につながるということがわかった。

本論は基礎研究とし、アジアの伝統的な町空間の比較研究を通して、日中お互いに勉強できる点や改良すべき点の提示、中国は日本の発展経緯から経験と教訓の参照、そして、路地空間の国際比較研究における研究方法に寄与できれば幸いである。

## 参考文献

### A

- 安部容子. (1992). 下町東西軸の街あかり(<特集>江戸情諸 東京下町の街あかり:東京支部). 照明学会誌 92(7), 367-373.
- 阿登. (2006). 上海的文化化石—石库門情结. 大美術(06).
- アイランズ. (2009). 地図から消えた東京物語 : 新旧地図で比較する東京の 20 年. 東京, 東京地図出版.
- 赤瀬川原平, 南伸坊, 藤森照信. (1993). 路上観察学入門. 筑摩書房.
- Altman, I. (1992). Place attachment: A conceptual inquiry. Altman, I., Low, S.M. (eds). Place Attachment, Springer, 1-12.
- 青木義次, 湯浅義晴. (1993). 開放的路地空間での領域化としてのあふれ出し : 路地空間へのあふれ出し調査からみた計画概念の仮説と検証 その 1. 日本建築学会計画系論文報告集(449), 47-55.
- 青木義次, 湯浅義晴, 大佛俊泰. (1994). あふれ出しの社会心理学的効果 : 路地空間へのあふれ出し調査からみた計画概念の仮説と検証 その 2. 日本建築学会計画系論文集 59(457), 125-132.
- Arkaraprasertkul N. (2009). Towards modern urban housing: redefining Shanghai's lilong. Journal of Urbanism, 2(1), 11-29.
- 荒井歩. (2000). 江戸下町の水辺における庶民の遊行行動に関する研究(平成 12 年度 日本造園学会研究発表論文集(18)). ランドスケープ研究 : 日本造園学会誌 : journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture, 63(5), 639-642.

### B

- 馬場幸男. (2005). 佃島のはじまり(水産談義 古今東西). 日本水産学会誌, 71(6), 1027.
- Ball, M.S., Smith G.H.W. (1992). The use of photographs in a discipline of words. Analyzing visual data. 5-19.
- Beyhan, Burak. Plugins and Scripts Developed to Conduct Space Syntax Analysis in FOSS4GIS, Mersin University Publication, No. 34.
- ビジュアルブック江戸東京. (1992). 東京: 岩波書店.

## C

- 陈喆琪. (2007). 上海里弄中的场所研究. 修士論文. 上海交通大学.
- 陈兆倩. (2012). 江南水乡景观的保护性开发-以无锡“水弄堂”为例. 艺术教育. 7,172-176.
- 陈璐媛,侯晓波. (2009). 江南余韵,城市遗踪——杭州里弄的历史与文化. 科学 24 小时(03).
- 陈易. (2001). 上海里弄住宅与生态学理论. 重庆建筑大学学报(社科版)(02).
- 陈青长, 冯子通. (2013). 基于多种利益团体共生的上海旧区里弄再生研究——以上海武康路 280 弄为例. 装饰(10).
- 陈兆倩. (2012). 江南水乡景观的保护性开发——以无锡“水弄堂”为例. 艺术教育(07).
- 陈虹宇, 刘斐. (2007). 江南意象的空间再造. 装饰(07).
- 张燕. (2010). 常州青果巷历史街区保护与开发. 中国市场(26).
- 张志斌, 张琦, 陶韬. (2010). 无锡小娄巷历史文化街区的空间维护与重塑. 现代城市研究(08).
- 张萌. (2005). 里弄建筑属于上海. 城乡建设(12).
- 张琪. (2013). 浅析居民行为因素对街巷开放空间设计的影响——以喀什老城区奥然喀依巷为例. 大众文艺(04).

## D

- 德风. (2011). 穿越时空的南锣鼓巷. 北京人大(11).
- 董志文. (1997). 上海里弄人家. 科技与经济画报(03).

## E

- 江面嗣人. (1978). 佃島民家の類型とその変遷について：近代日本都市庶民住居の研究 I-1(歴史意匠・住宅問題). 研究報告集. 計画系(49), 609-612.
- 江面嗣人. (1978). 佃島の住居と敷地割の央的関連について：近代都市庶民住居の研究 I-2：建築歴史・意匠. 学術講演梗概集. 計画系, 53, 2179-2180.
- 江面嗣人. (1989). 明治・大正期における佃島の住居の類型と変遷. 日本建築学会計画系論文報告集 (396), 100-113.

## F

- 布衣.(2001). 让历史再生——关于历史地段再开发改造的问题. 中外房地产导报(09).
- 藤森照信.(1982). 明治の東京計画 (Vol. 18): 岩波書店.
- 藤島範孝.(1998). 上海市の古地名(租界名稱含む)と古地形の相関性の究明及び里弄命名方式の解明と都市構造について. 駒澤大学北海道教養部論集, 13, 1-24.

## G

- 严铭, 李朋朋, 左乐川.(2014). 经济视角下对历史文化建筑保护的思考——以常州青果古巷建筑为例. 现代商业(02).
- 阮仪三, 李红艳.(2009). 对上海新一轮旧城发展的思考. 中国名城(01).
- 吴剑锋.(2006). 苏州东山陆巷古村落空间意向分析. 苏州工艺美术职业技术学院学报(S1).
- 吴江国, 张小林, 冀亚哲, 李红波.(2013). 江苏镇江地区聚落体系的空间集聚性多级分形特征——以团聚状聚落体系为例. 长江流域资源与环境(06).

## H

- 波多野純.(1987). 江戸・深川における河岸地の権利形態について：江戸の都市設計に関する研究-5. 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 849-850.
- 羽生和紀, 山下雅子.(2007). 日英の庭の弁別に関する環境推論.MERA Journal=人間・環境学会誌, 10(2), 1-10.
- 羽生和紀, 山下雅子.(2012). 個人の庭に対する知覚と推論：居住国と教育の影響.MERA Journal=人間・環境学会誌,15(1),1-10.
- 花里俊広, 高橋鷹志.(1992). 用途の混在した都市空間の安定に関する考察：東京・根津におけるケーススタディ. 学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 69-70.
- 原田陽子.(2011). 大阪市空堀地区における路地単位特性と接道不良長屋所有者の居住改善実態--木造密集市街地における地域資源を活かした住環境の保全的更新に関する研究. 日本建築学会計画系論文集, 76(669), 2117-2126.
- Hidalgo, M.C., Hernandez, B. (2001). Place attachment: Conceptual and empirical questions. Journal of environmental psychology, 21(3), 273-281.
- Hillier, B., Hanson J..(1989). The Social Logic of Space, Cambridge university press.
- 平山洋介.(2012). 特集 トーキョー・アーバニズム-駆動力, リスク, ライフスケープ. 建築雑誌. Vol.127, No.1638, 11月号, 20.
- 広畑大輝, 北川亮, 平林典久, 浅野聡.(2011). 密集市街地における路地を活かした景観・防災まちづ

くりに関する研究：東京都中央区月島地区と京都府京都市東山区祇園町南側地区の事例分析(密集市街地と火災(1),都市計画). 学術講演梗概集.F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 853-854.

- 本多昭一, 華俊.(1995).上海「里弄住宅」の保存修景に関する研究：(2)里弄住宅の形式・種類について(建築史・建築意匠・建築論). 日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系(35), 1057-1060.
- 穂積和夫.(2010). 絵で見る明治の東京, 東京: 草思社.
- 方宇清.(2008). 推进卢湾区旧里综合改造的建议. 上海房地(02).

## I

- 市岡綾子, 伊藤毅, 伊藤裕久, 金行信輔, 小林英之, 菊地成朋, ... 稲垣栄三.(1994).再開発による生活環境の変容過程：汐入研究 10. 学術講演梗概集.F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 183-184.
- 市川大輔, 玉川英則.(1999).既存「路地空間」の性質とその使われ方：月島、根津、中央地区の比較から. 学術講演梗概集.F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 179-180.
- 生田国男, 篠野志郎.(2006).濃州加納城下町における大名の交代に伴う都市構成とその内部構造の変化について：近世城下町の研究(建築歴史・意匠). 日本建築学会関東支部研究報告集 II(76), 369-372.
- 今野美里, 後藤春彦, 佐藤宏亮.(2009). 下町商店街における賑わいと人間関係の継承に関する研究：東京都江戸川区の「平井親和会商店街」「春日町通り商店街」を対象として. 学術講演梗概集.F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題 1073-1074.
- 伊藤毅, 伊藤裕久, 金行信輔, 小林英之, 菊地成朋, 横山ゆりか, ... 稲垣栄三.(1994).近世・近代における東京・汐入の居住地形成について：汐入研究 1. 学術講演梗概集.F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 1994, 1591-1592.
- 伊藤裕久, 伊藤毅, 金行信輔, 小林英之, 菊地成朋, 横山ゆりか, ... 稲垣栄三.(1994).地主層の銃器よについて：汐入研究 2. 学術講演梗概集.F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 1994, 1593-1594.

## J

- 陣内秀信.(1992). ビジュアルブック江戸東京. 東京, 岩波書店.
- 常州調査の背景資料：  
常州旅游推广中心.有一条街叫时光——常州 42 个老地名.2014.9.  
(<http://www.cztv.tv/folder337/folder338/2014-09-04/56565.html>, 2019.7 現在)

## K

- 華俊, 本多昭一.(1994).上海「里弄住宅」の保存修景に関する研究 : (1) 居住者の要求調査報告. 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 1187-1188.
- 華俊, 本多昭一.(1995).上海「里弄住宅」の保存修景に関する研究 : (3)里弄住宅の新分類法(建築史・建築意匠・建築論). 日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系(35), 1061-1064.
- 金井透, 伊藤毅, 伊藤裕久, 金行信輔, 小林英之, 菊地成朋, ... 稲垣栄三.(1994).東京近郊農村の宅地化と路地形成 : 汐入研究 9. 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 181-182.
- 金行信輔, 伊藤毅, 伊藤裕久, 小林英之, 菊地成朋, 横山ゆかり, ... 稲垣栄三.(1994).汐入の借家住宅について : 汐入研究 3. 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 1595-1596.
- 金子裕子, 伊藤毅, 伊藤裕久, 金行信輔, 小林英之, 菊地成朋, ... 稲垣栄三.(1994).借家建設過程に見る町の生活空間構成の仕組み : 汐入研究 7. 学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 153-154.
- 川辺真未, 牧野あゆみ, 内田奈芳美, 真野洋介, 佐藤滋.(2011).上海市における持続的居住環境の再生研究(8) : 里弄における生活内部と生活領域の分析(選抜梗概,住環境の管理と保全,オーガナイズドセッション,都市計画). 学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 545-548.
- 川崎晴朗.(2002). 築地外国人居留地 : 明治時代の東京にあった「外国」. 雄松堂出版.
- 何卓旄, 吴学华, 张华.(2009). 螺蛳壳里大道场——“田子坊”消防改造见闻. 新安全 东方消防(09).
- 何丹, 朱小平.(2012). 石库门里弄和工人新村的日常生活空间比较研究. 世界地理研究(02).
- 何奕廷, 王筱倩.(2008). 无锡清名桥聚落的传统意象分析. 郑州轻工业学院学报(社会科学版)(02).
- 可贵而艰难的起步——记“石库门”旧住宅改造.(1992). 上海人大月刊(08).
- 河形信和, 増田達男.(2010).金沢における城下町時代の残存街路(空間解析,都市計画). 学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 1023-1024.
- 川本三郎.(1997). 東京下町・山の手 : ふたつの異質な場所(都市と場所)(都市史研究の方法とひろがり)(<特集>都市史). 建築雑誌, 112(1406), 48-49.
- 建築・都市計画のための調査・分析方法(改訂版).(2012). 日本建築学会. 井上書院.
- 菊地成朋, 伊藤毅, 伊藤裕久, 金行信輔, 小林英之, 横山ゆりか, ... 稲垣栄三.(1994).地区の構成と道のネットワーク : 汐入研究 5. 学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 149-150.
- 北原糸子.(2012). 江戸の城づくり : 都市インフラはこうして築かれた. 東京, 筑摩書房.
- 金栄爽, 高橋鷹志, 鈴木毅,横山ゆりか.(1994).下町型集住形式の計画に関する基礎的研究 その 4 : 密集住宅地における隙間の効用について. 学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 155-156.
- 金栄爽, 高橋鷹志.(1995). 密集住宅地の「住戸群」における路地と隙間の役割に関する研究. 日本建築学会計画系論文集(469), 87-96.
- 木村和世.(2007). 路地裏の社会史 : 大阪毎日新聞記者村嶋歸之の軌跡. 京都: 昭和堂.

- 金宇澄. (2013). 繁花. 上海文艺出版社.
- 小林英之, 伊藤毅, 伊藤裕久, 金行信輔, 菊地成朋, 横山ゆりか, ... 稲垣栄三. (1994). 集落の災害歴と住環境更新 : 汐入研究 4. 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 1597-1598.
- 小林秀樹. (1985). 住居集合における共有領域の形成に関する研究 (博士論文). 東京大学工学博士 甲第6696号.
- 小林秀樹. (1988). なわばりの集住学. 彰国社. 12-42.
- Kobayashi Hideki. (1989). Shuju no nawabarigaku. SHOKOKUSHA Publishing.
- 小林一郎. (2014). 横丁と路地を歩く. 柏書房.
- 江晨, 大熊優里香, 寺田佳織, 高村雅彦. (2012). 上海における近代街区の形成過程と建築類型 : その2. 街区内の敷地割と外国人による土地所有(都市史:中国・ヴェトナム, 建築歴史・意匠, 2012 年度大会(東海)学術講演会・建築デザイン発表会). 学術講演梗概集, 929-930.
- 高偉俊, 尾島俊雄. (1995). 東京下町におけるエコロジカルシティ計画に関する調査研究. 日本建築学会計画系論文集(472), 63-71.
- 香坂順一. (1982). 現代中国語辞典. 光生館.
- 杭州調査の背景資料 :  
 钱江晚报. 综合整治之后的杭州老巷子. 2016.4.  
 (<http://zjnews.zjol.com.cn/system/2016/04/15/021110894.shtml>, 2019.7 現在)  
 搜铺网. 消失的巷子与满大街的盒子. 2016.3.  
 (<http://www.soupu.com/news/667726>, 2019.7 現在)
- Korpela K.M. (2012). Place attachment. Clayton S.D. (eds). The Oxford Handbook of Environmental and Conservation Psychology, Oxford university press, 148-163.
- 工藤綾, 鳥海基樹. (2003). 街路景観向上のためのストリートファニチャー整備に関する研究 : 横浜市・東京都を対象として(街路空間とその構成要素, 都市計画). 学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 279-280.

## L

- Lewicka, M. (2011). Place attachment: How far have we come in the last 40 years? Journal of Environmental Psychology, 31(3), 207-230.

## M

- 馬丹丹.(2013). 里弄的生活——上海与香港的里弄影像比较. 北京电影学院学报(02).
- 牧野あゆみ, 趙城埼, 内田奈芳美, 佐藤滋. (2010).上海市における持続的居住環境の再生研究(7) : 隣人意識と生活アクティビティから見る「高密度コミュニティ」(市街地の再整備,都市計画). 学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 399-400.
- 松本泰幸. (1992). 東京支部特集号の編集にあたって(<特集>江戸情緒 東京下町の街あかり:東京支部). 照明学会誌, 92(7), 358-359.
- 松浦健治郎, 日下部聡, 横田嘉宏, 山口庸介, 浦山益郎. (2005). 近世城下町を基盤とする府県庁所在都市における明治・大正期から昭和初期までの官庁街の都市デザイン手法. 日本建築学会計画系論文集(588), 87-94.
- 松口輝久, 吉田高子. (1996). 大阪船場南部地区の町割と街区構成について : 近世大阪城下町の構成と形成過程に関する研究 その3. 日本建築学会計画系論文集(486), 177-186.
- 正井泰夫. (1986). アトラス東京 : 地図でよむ江戸～東京. 東京: 平凡社.
- 万勇. (2014). 里弄保护与更新的基本方式和关键环节——以上海里弄为例. 城市发展研究(01).
- 三石明彦. (1992). 下町南北軸の街あかり(<特集>江戸情諸 東京下町の街あかり:東京支部).照明学会誌 92(7), 374-380.
- 宮尾慎一. (1992). 江戸の文化とくらし(<特集>江戸情緒 東京下町の街あかり:東京支部). 照明学会誌, 92(7), 360-366.
- 水島彩子, 阿部充毅, 饗庭伸, 高見澤邦郎. (2003).東京都千代田区の下町における近年の住宅開発実態(住宅市街地の変容,都市計画). 学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 935-936.
- 三森弘, 花里俊廣. (2011). 京都の既成市街地における敷地の接道条件からみた路地空間の特徴--都心地区・今熊野地区・七条地区におけるケーススタディ. 日本建築学会計画系論文集, 76(668), 1839-1848.
- 宮田一郎. (2005). 新華字典(10 版日本語版). 光生館.
- 持丸伸吾, 西田徹, 高橋鷹志, 鈴木毅. (1993).居住者による根津の地域イメージに関する研究 : 人間-環境系としての地域に関する研究 その1. 学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 93-94.
- 森晶子, 児島理志, 手嶋尚人, 前野まさる, 中村精二. (1990).江戸の場末"谷中、根津、千駄木"の伝統的住環境について:その3:伝統的住環境の人的側面からの研究. 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 11-12.
- 森晶子, 前野まさる, 中村精二. (1989).江戸の場末"谷中、根津、千駄木"の伝統的住環境について : その2 : 門前町屋型住宅地における街区構成バリエーション. 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 3-4.
- 森晶子. (1988). 伝統的街区における街区の研究 : 谷中・根津・千駄木地区の路地の構成パターンについて(第35回研究発表大会). デザイン学研究(68), 74.
- 村松健児, 飯島縁, 真野洋介, 内田奈芳美, 趙城埼, 佐藤滋. (2009).上海市における持続的居住環境の再生研究(4): 旧式里弄を中心とした住環境ユニットの抽出と外部空間からみた住環境評価(中国



の都市と住宅(1),都市計画). 学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 275-276.

●無錫調査の背景資料：

无锡市城市建设档案馆.无锡市城建档案馆积极参与“6•9 国际档案日”广场宣传活动. 江苏省住房和城乡建设厅.2017.6.

([http://jsszfhcxjst.jiangsu.gov.cn/art/2017/6/15/art\\_49099\\_6061539.html](http://jsszfhcxjst.jiangsu.gov.cn/art/2017/6/15/art_49099_6061539.html), 2019.7 現在)

腾讯房产论坛.锡城流影.No.7.2013.6.

(<http://wuxi.house.qq.com/zt/xc/jiacl.htm>,2019.7 現在)

无锡勇志成.无锡城中老房子, 名人故居有多少—百巷崇安.2015.2.

(<http://bbs.tianya.cn/post-449-41778-1.shtml>,2019.7 現在)

发现无锡之蔡家巷. 2014.7.

([http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_4ed3aabc0102uytd.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_4ed3aabc0102uytd.html),2019.7 現在)

新浪旅游.无锡南长街.2013.9.

(<http://travel.sina.com.cn/china/2013-09-25/1635219189.shtml>,2019.7 現在)

## N

●永井浩貴, 横内憲久, 岡田智秀, 押田佳子. (2012).都市における寺社空間の保全に関する研究 : 切絵図・古地図・現代地図からみる寺社面積の変遷について(緑地調査,都市計画,2012 年度大会(東海)学術講演会・建築デザイン発表会). 学術講演梗概集, 361-362.

●中島伸. (2004).商業地区内路地の空間特性と動向に関する研究 : 東京都銀座を事例として(歩行空間と屋台,都市計画). 学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 1169-1170.

●中島伸.(2009).東京都戦災復興土地地区面整理事業地区の街区配列に関する研究(都市形成史・街区形成,都市計画). 学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 1037-1038.

●永井荷風.(1999). 日和下駄 一名 東京散策記. 岩波文庫.

●南京調査の背景資料：

金陵生活圈. 小巷子, 大故事, 南京城里的老巷子, 你走过几条? 2017.10.

([https://www.sohu.com/a/198489425\\_350023](https://www.sohu.com/a/198489425_350023),2019.7 現在)

1998-2018, 南京有 126 条巷子消失了.2018.9.

(<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1611854741513287583&wfr=spider&for=pc>,2019.7 現在)

南京的 16 条老巷子.2018.1.

([http://www.360doc.com/content/18/0119/20/32500348\\_723450479.shtml](http://www.360doc.com/content/18/0119/20/32500348_723450479.shtml),2019.7 現在)

●寧波調査の背景資料：

中国宁波网. 看老巷子, 寻味那些被时间埋没的故事.2013.8.

(<http://news.cnnb.com.cn/system/2013/08/03/007804502.shtml>, 2019.7 現在)

新浪博客.宁波老街桂井巷 穿越时空的古静祥和.2014.12.

(<http://nb.sina.com.cn/travel/destination/2014-12-28/070072766.html>,2019.7 現在)

- 根橋正一.(1991). 中国の都市居住者の生活環境 : 上海里弄調査報告(1)(幼児教育学科関係). 武蔵野短期大学研究紀要, 5, 115-123.
- 新治良子, 友常由貴子, 南泰裕.(2009).東京都心における路地的空間の研究 その2(街路空間の構成要素(1),都市計画). 学術講演梗概集.F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 639-640.
- 新村出.(2008). 広辞苑(第六版). 岩波書店.
- 西田徹, 高橋鷹志, 鈴木毅.(1992).根津の地域研究 : その1. イメージによる地域構造分析. 学術講演梗概集.E, 建築計画, 農村計画, 67-68.
- 西田徹, 篠崎正彦, 高橋鷹志, 鈴木毅, 橘弘志, 市岡綾子, 持丸伸吾.(1993).根津の地域研究 : その2. 様々なレベルの関わりをアフォードする地域空間. 学術講演梗概集.E, 建築計画, 農村計画, 91-92.
- 野々村五四男.(1960).戦災復興土地地区画整理後における過小画地、袋路地発生経過の分析(都市計画・経済・防災). 日本建築学会論文報告集(66), 457-460.

## O

- 小木新造, 前田愛.(1986). 帝都東京. 東京, 筑摩書房.
- 小木新造, 前田愛.(1986). 東京時代. 東京, 筑摩書房.
- 小野佳英子, 松本泰生, 戸沼幸市.(1999).東京の微地形に関する研究 : その4 : シークエンスが変化する自然発生的街路空間の特性. 学術講演梗概集.F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 307-308.
- 王任偉, 陳伯超.(2010) 伝統巷井文化価値浅析, 沈阳建筑大学学报(社会科学版), vol.12, no.04, 414 - 418.
- 王郁, 東樋口讓.(1999). 上海旧市街地における里弄住宅団地の空間形態及び施設構成 : 1949 年以前の租界時代について. 日本建築学会計画系論文集(522), 263-269.
- 王兰顺.(2013). 东交民巷谈往. 北京规划建设(02).
- 王铭珍.(2005). 北京有座西洋建筑博物馆——东交民巷. 上海消防(10).
- 王海松, 杨嘉峰.(2012). “康青龙”, 台北的巷弄空间与城市文化. 公共艺术(02).
- 王任炜, 陈伯超.(2010). 传统巷井文化价值浅析. 沈阳建筑大学学报(社会科学版)(04).
- 大橋亨, 伊藤庸一.(2004).東京都墨田区京島を事例とした路地の形態的特徴に関する研究(都市街路・街区と密度,都市計画). 学術講演梗概集.F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 561-562.
- 岡本哲志.(2003). 明治後期の銀座における土地と建物と路地で構成される空間単位の類型化とその特性に関する研究. 日本建築学会計画系論文集(571), 157-163.
- 大熊優里香, 寺田佳織, 江晨, 高村雅彦.(2012).上海における近代街区の形成過程と建築類型 : その3. 敷地内部の開発と里弄の形成過程(都市史:中国・ヴェトナム,建築歴史・意匠,2012 年度大

会(東海)学術講演会・建築デザイン発表会). 学術講演梗概集, 931-932.

- 大月敏雄, 伊藤毅, 伊藤裕久, 金行信輔, 小林英之, 菊地成朋, ... 稲垣栄三. (1994). 路地をとりまく住戸群の住戸まわり空間の変容と管理に関する考察 : 汐入研究 8. 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 179-180.
- 大場修. (1987). 龍野旧城下町における町家の発展過程と町並みの構成に関する一考察. 日本建築学会計画系論文報告集(376), 137-149.
- 大森秀一, 郷田 桃代, 狩野朋子. (2009). 5764 上海における里弄住宅の空間形態に関する分析(海外の空間構成(I), 建築計画 II). 学術講演梗概集. E-2, 建築計画 II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育, 285-286.
- 大森広, 羽生和紀, 山下雅子, 渡辺達三, 斎尾乾二郎 (2005). 個人住宅庭園景観が与える国のイメージについて. 日本造園学会 全国大会 研究発表論文集 抄録, 68(5), 849-854.

## P

- 庞敏. (2012). 穿梭在历史与现实中的建筑文化——论上海城市建筑与文化认同. 大舞台(02).
- 北京对外经济贸易大学. (2015). 日中辞典, 北京商務印書館. 小学館.
- Polish Army Topography Service. (1967). Japan. Pergamon World Atlas. Pergamon Press, 239-240.

## R

- Rapoport, A., 高橋鷹志(訳). (2006). 構築環境の意味を読む. 彰国社.
- リオッタ サルバトール・ジョン, 宮脇勝. (2009). 東京・浅草における『映画街』の形成プロセスに関する研究 : 土地台帳, 地籍図, 地図, 写真にもとづく土地利用と景観の変化に関する分析. 日本建築学会計画系論文集, 74(637), 617-625.
- 李晋琦, 横山ゆりか. (2018). 日中路地空間の比較研究—「懐かしさ」の印象評価について. 日本建築学会大会学術講演梗概集(東北)・建築計画, 637-638.
- 李珠姫, 三村翰弘. (1997). 特徴的な街路空間をもつ地域の特性とその構造 : 東京, ソウルの4地域を事例として. 学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 175-176.
- 李斌, 舟橋國男, 鈴木毅. (1999). 近隣交際からみた領域意識の実態調査研究 : 上海市の里弄・「新村」を事例として. 学術講演梗概集. E-1, 建築計画 I, 各種建物・地域施設, 設計方法, 構法計画, 人間工学, 計画基礎, 1055-1056.
- 李斌, 舟橋國男, 鈴木毅, 木多道宏. (2000). 上海市の里弄・新村における屋外空間の利用実態からみた領域意識の研究(第6回大会発表論文). MERA Journal=人間・環境学会誌, 6(1), 43.

- 李艳红,吴尧.(2013). 无锡传统建筑古村落——荣巷故里 灰塑研究. 大众文艺(04).
- 李王鸣, 江佳遥, 沈婷婷.(2010). 城市记忆的测度与传承——以杭州小营巷为例. 城市问题(01).
- 李山石, 刘家明.(2013). 基于文化创意产业的历史街区提升改造研究——以南锣鼓巷为例. 人文地理(01).
- 李勇.(2013). 从苏州弄堂解析苏州传统民居文化. 大众文艺(20).
- 里弄房屋综合整治途径——以虹口区“百弄优化”为例.(2008). 上海房地(04).
- 林强,梅媚.(2009). 城市历史街区改造中的空间营造途径——以成都市宽窄巷子为例. 中国高新技术企业(19).
- 林箐.(2013). 浅析“三坊七巷”南后街的空间形态. 现代物业(上旬刊)(04).
- 罗雅晖.(2006). 弄堂建筑. 中外房地产导报(03).
- 卢济威, 张凡, 陈泳.(2007). 城市密集区开发中的历史保护方式探索. 现代城市研究(08).
- 盧莘明, 重村力.(1992). 初期里弄住宅における空間と住まい方の変容 : 中国上海里弄に関する研究 その1. 日本建築学会計画系論文報告集(433), 75-84.

## S

- 佐原六郎.(1968). 佃島の文化 : 記述的芸術社会学資料探訪. 哲學, 52, 1-46.
- 齐藤千尋, 蜂屋景二, 坂本一成.(1995). 東京区部における「まち」の空間構成の類型 : 街区にみる建築の集合形式の研究. 日本建築学会計画系論文集(474), 123-131.
- 齐藤庸平, 田畑貞寿.(1992). 火除地等の防火機能に関する実証的研究. 造園雑誌, 55(5), 355-360.
- 三坊七巷 闽都里坊的古风与文脉.(2013). 世界遗产(06).
- 戚ゼンロン,山下哲郎.(2004). 上海廬湾区における里弄住宅の更新と居住者の住環境の変化に関する考察 上海旧市街地における里弄住宅の更新に関する研究 その1. 日本建築学会計画系論文集(579), 7-14.
- 戚ゼンロン,山下哲郎.(2005).上海廬湾区紹興路地区の居住実態に対する考察(中国の近代住宅,建築計画II). 学術講演梗概集.E-2, 建築計画II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育, 3-4.
- 戚ゼンロン,山下哲郎.(2006). 上海静安区における里弄住宅の更新による居住者の住環境の変化に関する考察 : 上海旧市街地における里弄住宅の更新に関する研究 その2. 日本建築学会計画系論文集(608), 1-9.
- 戚ゼンロン.(2001). 上海都心部における里弄住宅の更新に関する研究(海外居住(1)中国・台湾,建築計画II). 学術講演梗概集.E-2, 建築計画II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育, 451-452.
- 忻平.(1995). 人・建筑・空間・文脉——论20—30年代上海建筑文化. 华东师范大学学报(哲学社会科学版)(06).
- Seidensticker Edward, 安西徹雄 (訳) .(2013).東京下町山の手 : 1867-1923. 東京, 講談社.

- 申立.(2012).上海里弄的空间变迁.城市问题,(8) 68-72.
- 重村力, 盧明.(1988).上海里弄住宅の共用空間に関する研究. 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 417-418.
- 篠原修.(1997). 地図計測と微地形から読み解く城下町の設計(形態と意味)(都市史研究の方法とひろがり)(<特集>都市史). 建築雑誌, 112(1406), 32-33.
- 篠崎正彦, 高橋, 西田徹, 鈴木毅, 金栄.(1994).根津の地域研究 : その 4. 地域空間における居住者と地域環境の関わり. 学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 163-164.
- 篠田紀行, 松本真澄, 谷口僚一, 上野淳.(2007). 東京都心下町地域における在宅高齢者の地域生活様態と外出行動に関する調査 : 千代田区神田地域のケーススタディー(建築計画). 日本建築学会技術報告集, 13(26), 673-678.
- 園田美保.(2002). 住区への愛着に関する文献研究, 九州大学心理学研究 3,187-196.
- Stedman, R.C., Amsden, B.L., Beckley T.M., Tidball B.G. (2014). Photo-based methods for understanding place meanings as foundations of attachment. Manzo, L.C., Devine-Wright, P.(eds). Place attachment, Routledge,112-118.
- Sugihara, S., Evans, W.E. (2000). Place attachment and social support at continuing care retirement communities. Environment and Behavior,32(3),400-409.
- 須博.(2009). 从青果巷看城市古建筑的去留. 艺术与设计(理论)(08).
- 鈴木成文, 小柳津醇一, 初見学.(1984). 「いえ」と「まち」. 鹿島出版会.
- 鈴木伸子, 脇坂敦史.(2012). 水の東京を歩く : 地形と古地図で愉しむ 10 コース (Vol. . 太陽の地図帖 : おとなの「旅」の道案内 014). 東京: 平凡社.
- 上海調査の背景資料 :  
 新民网. 文青最爱的 10 条上海老弄堂.No.5.2014.8.  
 (<http://ish.xinmin.cn/xnhsh/2014/08/11/25059048.html>,2019.7 現在)  
 腾讯世博. 上海, 60 年弄堂变迁.  
 (<http://2010.qq.com/zt/2009/60lt/index.htm>,2019.7 現在)  
 iask 爱问. 上海最老的弄堂.2007.9.  
 (<http://iask.sina.com.cn/b/10516445.html>,2019.7 現在)
- 上海石库弄堂的新天地.(2002). 现代城市研究(01).
- 肖为.(2012). 蜗居时代,建筑形态与生活方式的裂变. 青春岁月(16).
- 紹興調査の背景資料 :  
 新浪博客. 走进绍兴怀旧小巷 .2017.2.  
 ([http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_8950e2520102x76t.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_8950e2520102x76t.html),2019.7 現在)  
 绍兴 E 网. 五条绍兴必走的小巷子.2010.12.  
 (<http://www.e0575.cn/read.php?tid=3050911>,2019.7 現在)
- 昭阳, 陈晓茹.(2005). 静安同乐坊进行时 创意改变城市. 大美术(11).

## T

- 橋弘志, 高橋鷹志, 菊地成朋. (1991).根津・千駄木・谷中の街並に関する考察. 学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 201-202.
- タディー. 日本建築学会技術報告集 13(26), 673-678.
- 陶海燕. (2001). 浅析城市的个性与保护. 宁波高等专科学校学报(02).
- 高木真人, 森田孝夫, 阪田弘一. (2010). 京都東山における路地の空間特性と安心感からみたセキュリティ空間としての可能性. 日本建築学会計画系論文集, 75(652), 1349-1354.
- 高桑広太郎, 小川次郎, 富谷広宣. (2012). 私領域の拡張からみた八潮市における水路路地の構成 : 建築と都市環境要素の混成による構成形式に関する研究(2). 日本建築学会計画系論文集, 77(682), 2891-2898.
- 高村雅彦, 江晨, 大熊優里香, 寺田佳織. (2012).上海における近代街区の形成過程と建築類型 : その 1. 福州路・新建小区の建築類型(1842-1949)(都市史:中国・ヴェトナム,建築歴史・意匠,2012 年度大会(東海)学術講演会・建築デザイン発表会). 学術講演梗概集, 927-928.
- 高野裕作. (2007). Space Syntax を用いた街路パターンの構造分析と街並の特性に関する研究 -世田谷区東部の密集市街地を対象として-. 早稲田大学理工学部社会環境工学科 景観・デザイン研究室. 卒業研究.
- 譚縦波, 阿部正和, 斎藤和夫. (1986). 20 世紀前半中国・上海の建築規制に見られる「里弄」(リノン) 規定について : 都市の近代化過程における建築規制の考察(その 2)(都市計画). 日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系(26), 609-612.
- 田中順己, 原田陽子, 野嶋慎二. (2010).大阪市空堀地区における路地単位特性とコミュニティの実態 : 木造密集市街地における自律的住環境形成と住環境の保全的更新に関する研究(既存ストックの活用,都市計画). 学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 279-280.
- 寺田佳織, 高村雅彦, 江晨, 大熊優里香. (2012).上海における近代街区の形成過程と建築類型 : その 4. 道路の拡張計画と街並みの整備(都市史:中国・ヴェトナム,建築歴史・意匠,2012 年度大会(東海)学術講演会・建築デザイン発表会). 学術講演梗概集, 933-934.
- 手島尚人, 前野まさる, 中村精二. (1989).江戸の場末"谷中、根津、千駄木"の伝統的住環境について : その 1 : 街区形成過程にみる特性. 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 1-2.
- 手嶋尚人, 森晶子, 児島理志, 前野まさる, 中村精二. (1990).江戸の場末"谷中、根津、千駄木"の伝統的住環境について : その 4 : 伝統的住環境におけるコミュニケーション分析. 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠, 13-14.
- 千島孝弘, 宇杉和夫. (2009).月島の街区形成における路地と隙間の空間分布類型について(都市の居

- 住空間,建築計画 II). 学術講演梗概集. E-2, 建築計画 II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育, 353-354.
- 千島孝弘, 宇杉和夫. (2010). 東京都中央区月島の初期の路地の空間分類について 1(町屋・路地, 建築計画 II). 学術講演梗概集. E-2, 建築計画 II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育, 147-148.
  - 友常由貴子, 新治良子, 南泰裕. (2009). 東京都心における路地的空間の研究 その 1(街路空間の構成要素(1), 都市計画). 学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 637-638.
  - 積田洋, 関戸洋子, 菅原綱治. (2004). 指摘量分析によるエレメントの特性とエレメント構成の類型化: 街路空間における「気配」の研究(その 1). 日本建築学会計画系論文集(583), 47-52.
  - 積田洋, 関戸洋子, 濱本紳平. (2006). 心理量分布図による街路空間の雰囲気と指摘エレメントの相関分析: 街路空間における「気配」の研究(その 2). 日本建築学会計画系論文集(607), 41-48.
  - 積田洋. (2015) 風景構図の解釈学的考察, 東京電機大学, 空間研究のこれまでとこれから, 建築計画委員会, 第 80 回 空間研究小委員会研究会, 2015.09.

## U

- 上田篤, 田端修. (2013). 路地研究—もうひとつの都市の広場, 鹿島出版会.
- ウィキペディア「下町」項目 (<http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=下町>, 2019.7 現在)
- 上村幸治. (1999). 中国路地裏物語: 市場経済の光と影 (Vol. 新赤版 601). 東京: 岩波書店.
- 宇杉和夫, 千島孝弘. (2010). 東京都中央区月島の路地の空間分類について 2(大正期)(町屋・路地, 建築計画 II). 学術講演梗概集. E-2, 建築計画 II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育, 149-150.

## V

- Van Auken, P.M., Frisvoll, S., Stewart, S. (2010). Visualising community: Using participant-driven photo-elicitation for research and application. *Local Environment*, 15(4), 373-388.

## W

- 脇田祥尚. (2011). コンバージョンによる長屋と路地の空間更新--中崎町界限(大阪市北区)を事例として. 日本建築学会計画系論文集, 76(660), 287-294.

## Y

- 藪崎奏菜, 松浦健治郎, 浦山益郎. (2008). 近世城下町を基盤とする府県庁所在都市における官庁街の形成手法に関する研究 その 8 : 城郭地区に形成されたシビックゾーンの変遷と堀の消失の関連性-中部地方の県庁所在都市 7 都市の場合-(都市計画). 東海支部研究報告集(46), 625-628.
- 山崎明子, 中林一樹. (2011). 東京区部における地域特性と細街路整備諸施策のあり方に関する研究 (1)23 区の細街路整備に関する経年比較と地域間比較の視点から. 日本建築学会計画系論文集, 76(663), 947-956.
- 山崎明子, 玉川英則, 中林一樹. (2013). 街づくり事業地区における細街路整備手法と市街地の地域的特徴との関係 : 東京区部における地域特性と細街路整備諸施策のあり方に関する研究(2). 日本建築学会計画系論文集, 78(694), 2547-2556.
- 杨丽萍. (2010). 新中国成立初期的上海里弄整顿. 当代中国史研究(05).
- 八代克彦, 那須聖. (2005). 上海の里弄住宅における内部空間の使用変更に伴う路地空間の変容(中国の近代住宅, 建築計画 II). 学術講演梗概集. E-2, 建築計画 II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育, 1-2.
- 姚栋. (2000). 里弄意义的符号学分析. 同济大学学报(社会科学版)(S1).
- 姚云辉, 徐敏. (2013). 城市传统街巷的保护与更新——以镇江大龙王巷历史文化街区为例. 苏州科技学院学报(社会科学版)(04).
- Yokoyama Yurika. (2000). Street Structure and Human Contact in Urban Residential Area: A Case Study of Shioiri in Tokyo, MERA Journal, 6(1), 9-17.
- 横山ゆりか. (2000). 都市居住地域における道とヒューマン・コンタクト : 戦前の地主開発型住宅地<汐入>のケーススタディ. MERA Journal=人間・環境学会誌, 6(1), 9-17.
- 横山ゆりか, 伊藤毅, 伊藤裕久, 金行信輔, 小林英之, 菊地成朋, ... 稲垣栄三. (1994). 女性居住者の目から見た路地空間の変容 : 汐入研究 6. 学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 151-152.

## Z

- 材野博司, 檜山知見. (1983). 既成市街地における建築奥行と路地率から見た街区寸法に関する考察 : 街区寸法に関する考察・その 1. 日本建築学会論文報告集(334), 139-147.
- Zhao Chunlan. (2004). From shikumen to new-style: a rereading of lilong housing in modern Shanghai. The Journal of Architecture, 9(1), 49-76.



## 謝辞

本論は筆者が東京大学工学系研究科建築学専攻博士課程での研究内容をまとめたものである。同専攻教授加藤道夫先生は指導教官として、本研究の実施に機会を与えいただき、遂行にあたって終始ご指導をいただいたことに深謝の意を表す。同専攻教授横山ゆりか先生は副指導教官として、本論の研究において、実地調査の分析、アンケートのデザイン及び実施、データの分析、投稿論文の執筆、学会の参加、並びに種々たる研究活動に終始ご指導とご助言をいただいたことに深謝の意を表す。（2019年4月、加藤先生のご退官により、横山先生と主査の交代を行った。）東京工業大学名誉教授大野隆造先生、東京大学工学系研究科建築学専攻教授千葉学先生、同専攻准教授松田雄二先生、は副査としてご助言いただくことに感謝の意を表す。

同専攻加藤道夫研究室、同専攻横山ゆりか研究室の院生諸君、研究遂行にあたり日頃より有益なご議論とご助言をいただいた。研究の遂行にあたり、総合文化研究科の奈尾信英先生から有益なアドバイスをいただき、フィールド調査の仕方等のご指導に感謝する。元横山研 PD、現東京都市大学都市生活学部 講師諫川輝之先生からアンケートのデザイン、統計分析の仕方、研究の考え方、発表の仕方にご指導をいただいた。横山研博士院生伊藤景子氏、元修士院生現鹿島建設株式会社 IT ソリューション部情報基盤 Gr.和泉智也氏から写真の集計、統計分析について有益な意見及び手助けをいただいたことに感謝の意を表す。

本論第二章のフィールド調査の実施にあたり、路地/里弄にお住みの皆様、インタビューで訪問した皆様からご協力をいただいたことに感謝する。アンケートの実施にあたり、ご協力頂いた皆様、並びにお茶の水女子大学の長澤夏子先生にご協力いただき、厚くお礼を申し上げる。

本研究及び本論の執筆にあたり、日本語のご指導をくださった同専攻日本語教室、東京大学日本語教育センターの先生方、日本での研究生活を支えてくださった友人諸君に感謝する。特に長期に渡り、日々励ましてくださり、温かく見守ってくださった母親に心から深謝の意を表す。

本研究の一部は中国政府建設高水平大学項目の資金によった。

# 付録

# 付録 1 里弄の代表的な平面

第一章 1.3.2 の補足である。

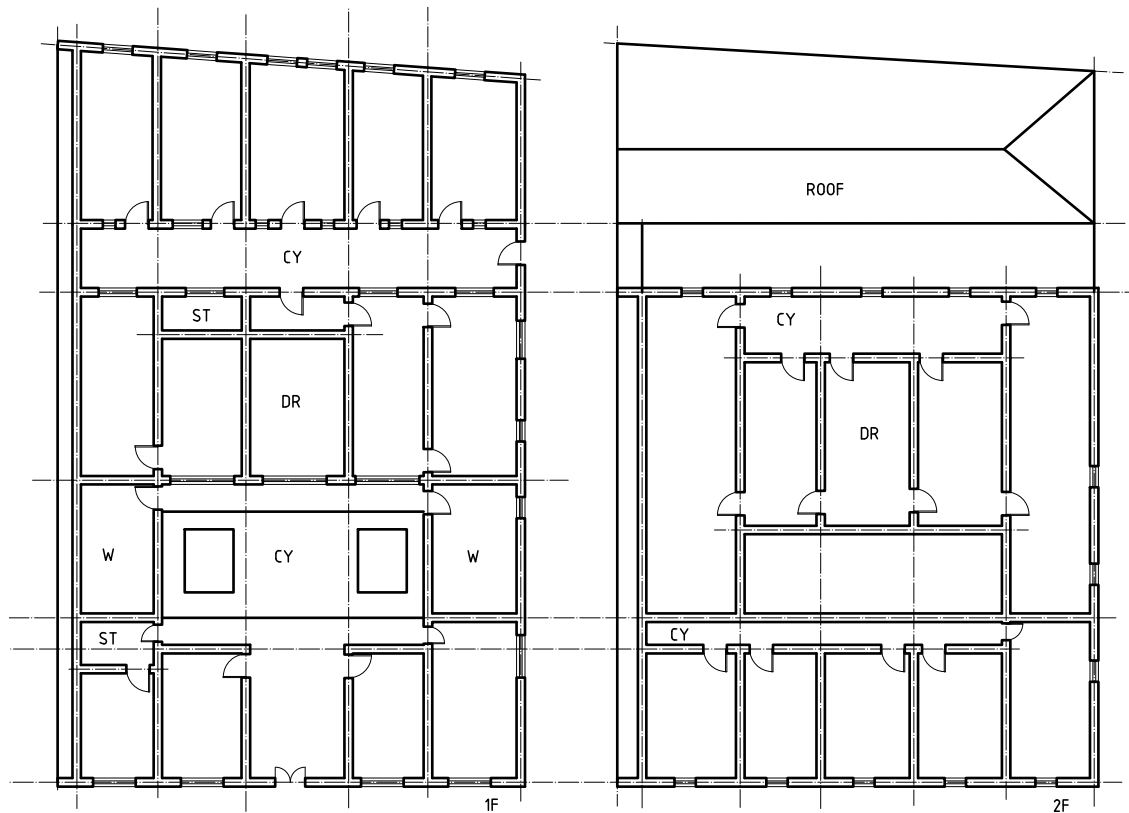


図 A1\_1 旧式石庫門里弄 前期 興仁里の建物平面

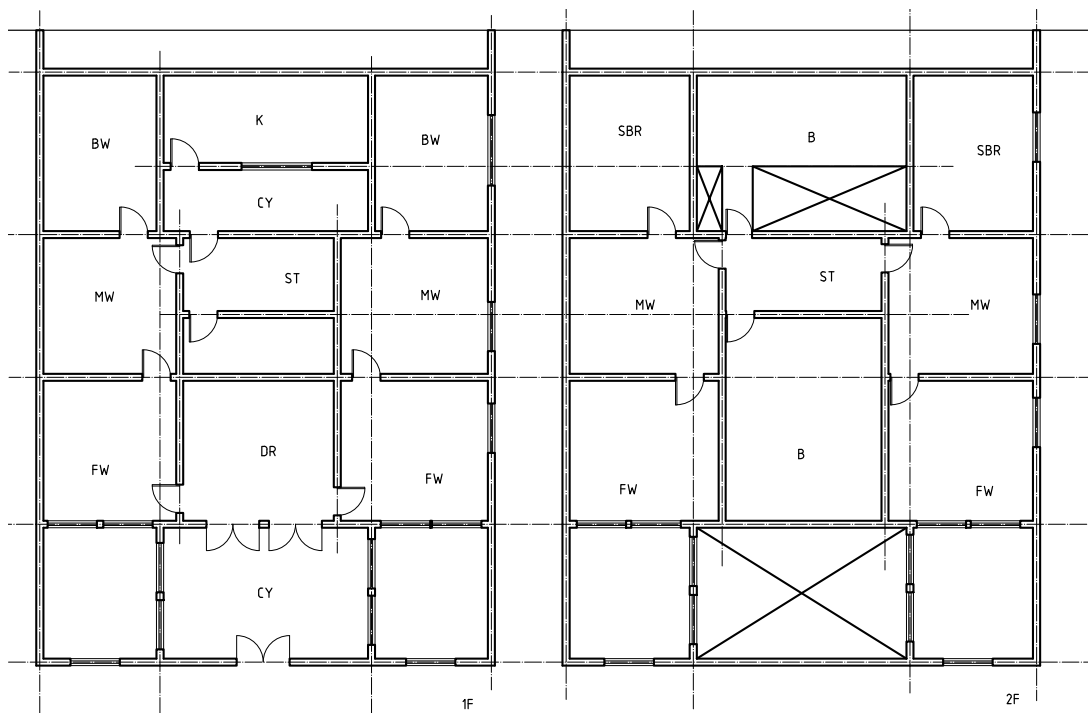


図 A1\_2 旧式石庫門里弄 前期 公順里の建物平面

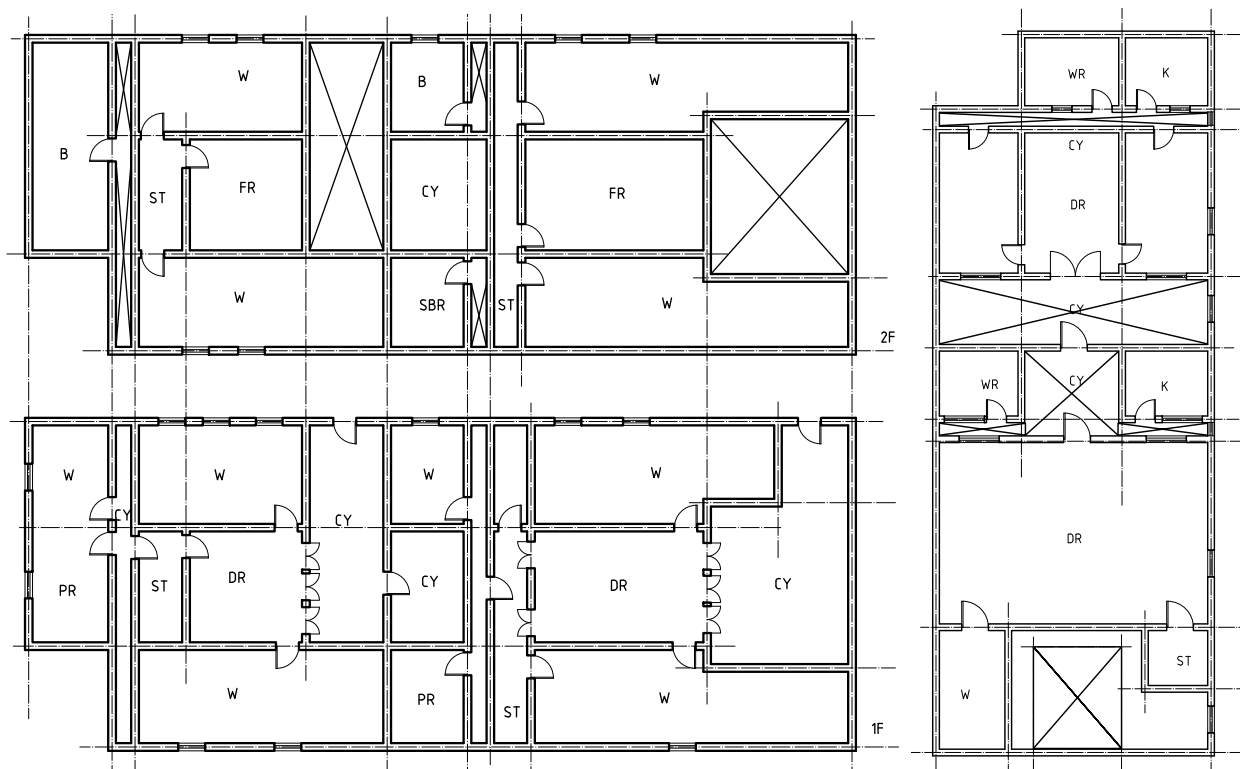


図 A1\_3 旧式石庫門里弄 後期 洪德里の建物平面

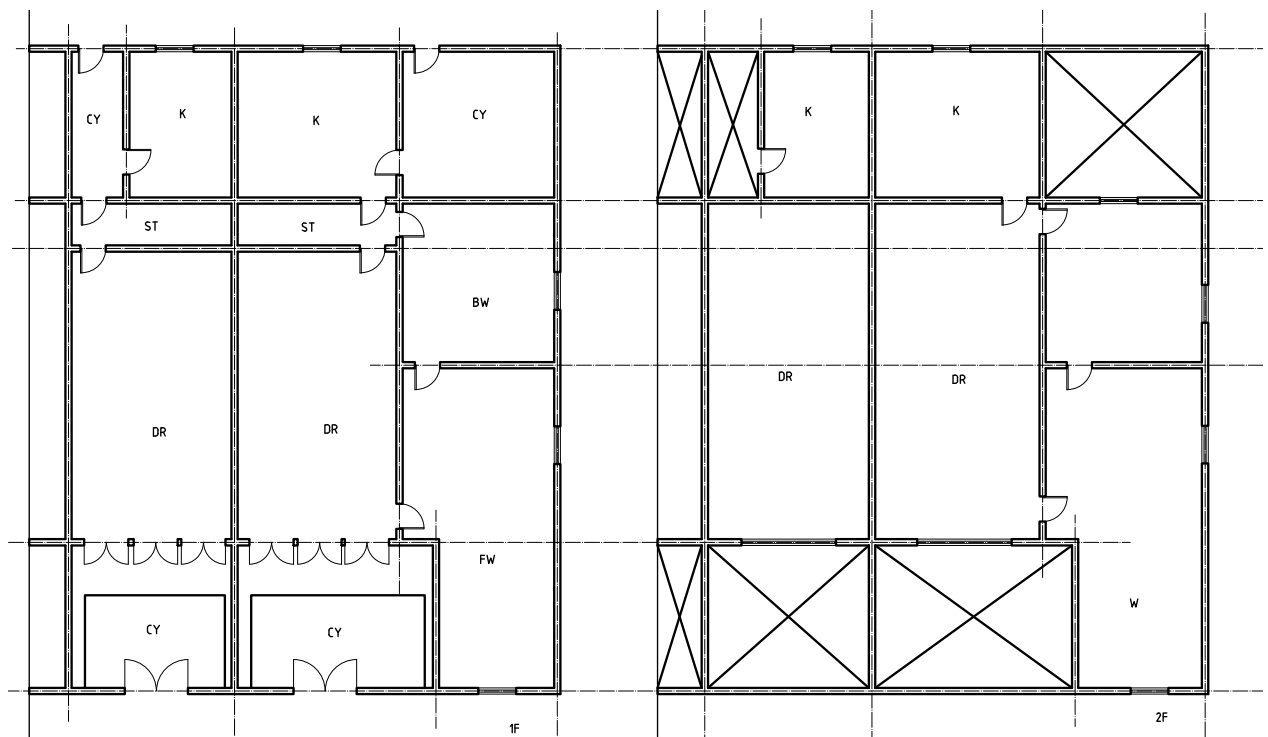


図 A1\_4 旧式石庫門里弄 東斯文里の建築平面

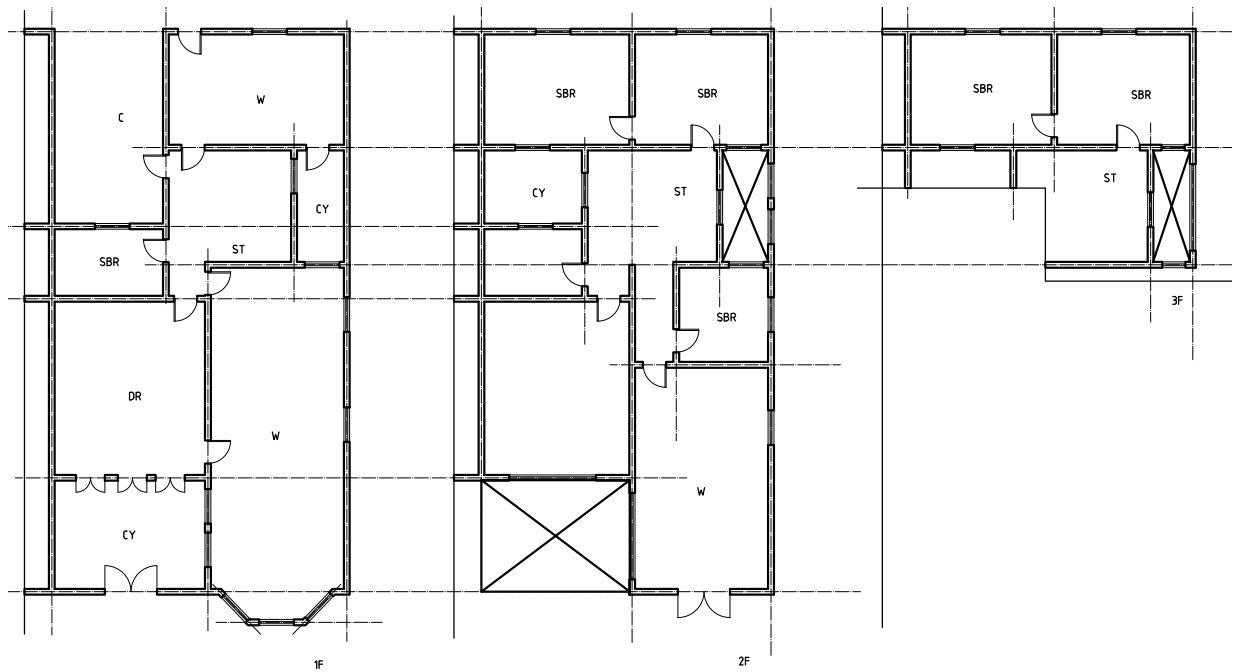


図 A1\_5 四明村の建物平面

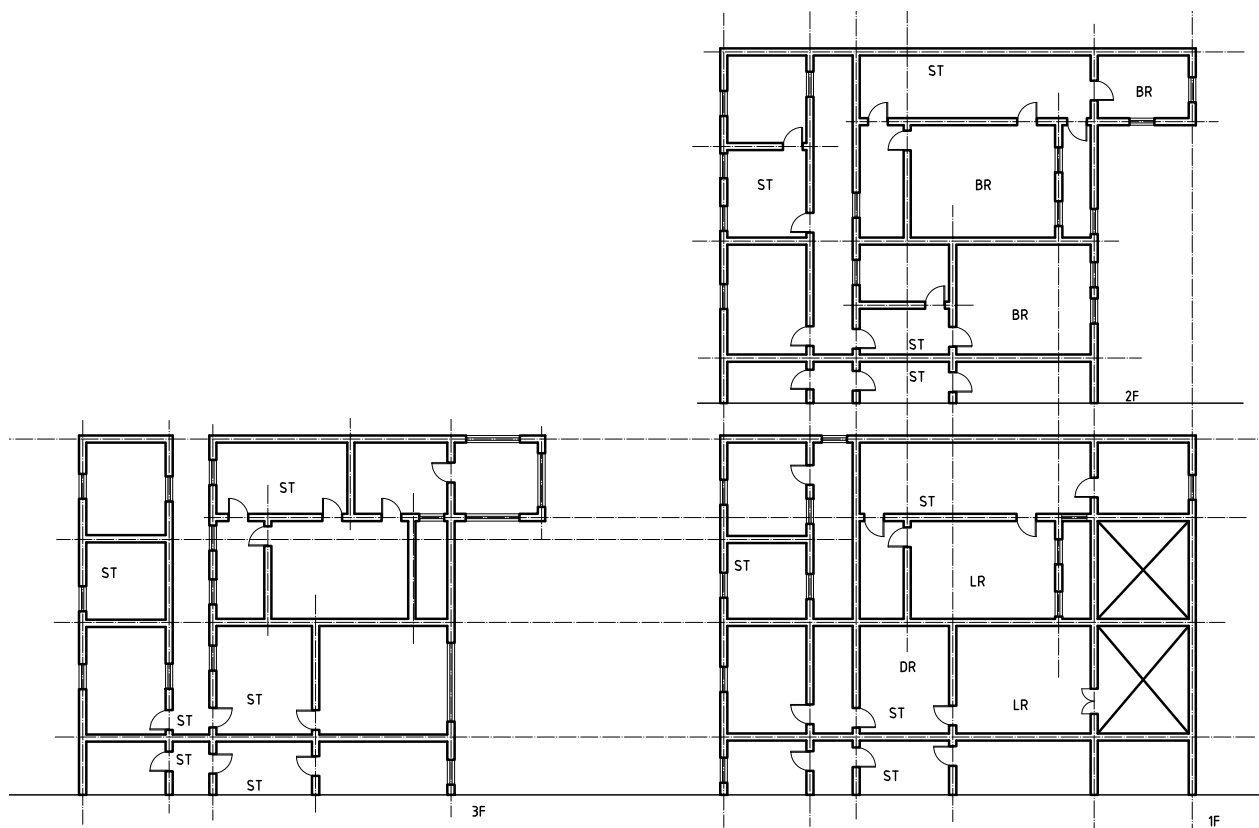


図 A1\_6 新石庫門里弄 四明村の建物平面

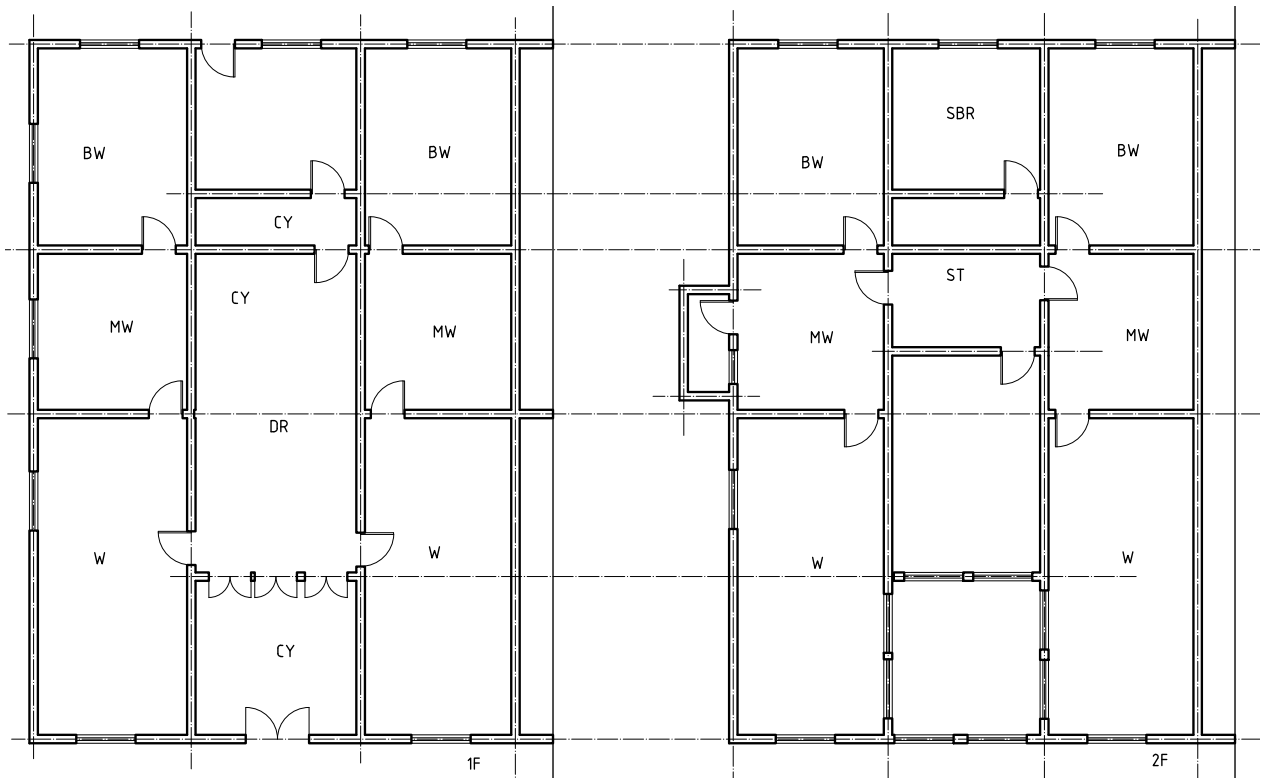


図 A1\_7 新石庫門里弄 会楽里の建物平面

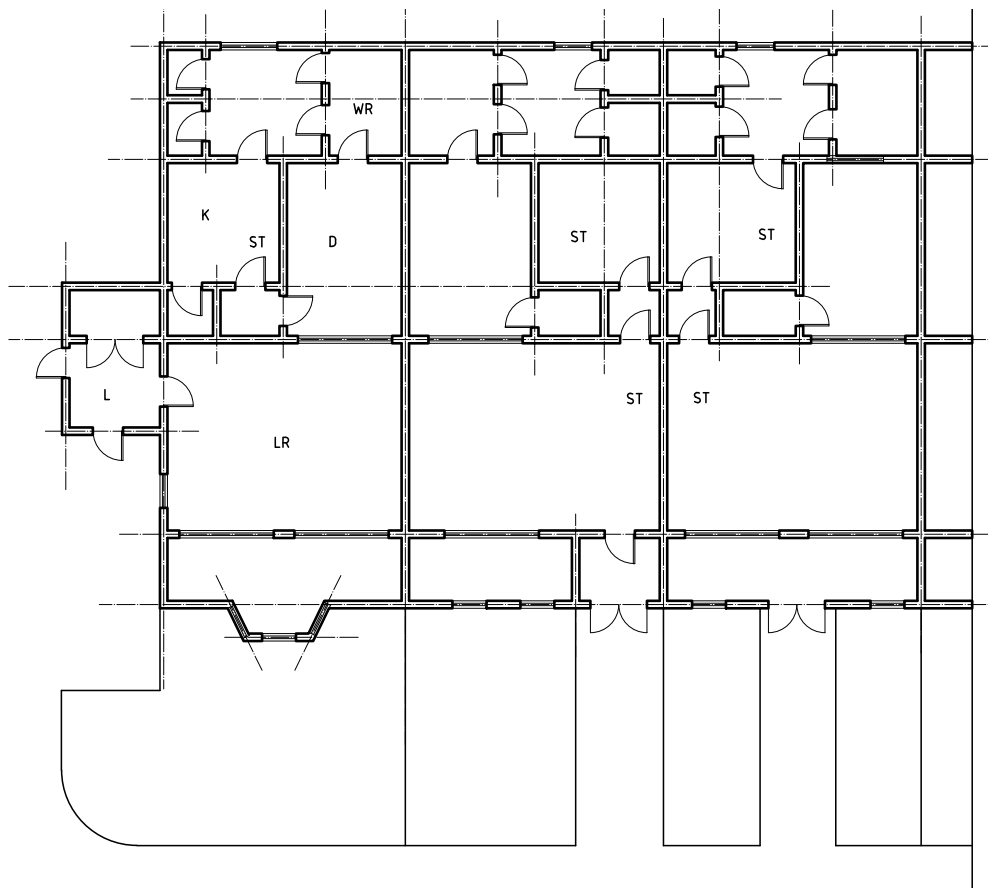


図 A1\_8 新石庫門里弄 ボルトン花園の建物平面

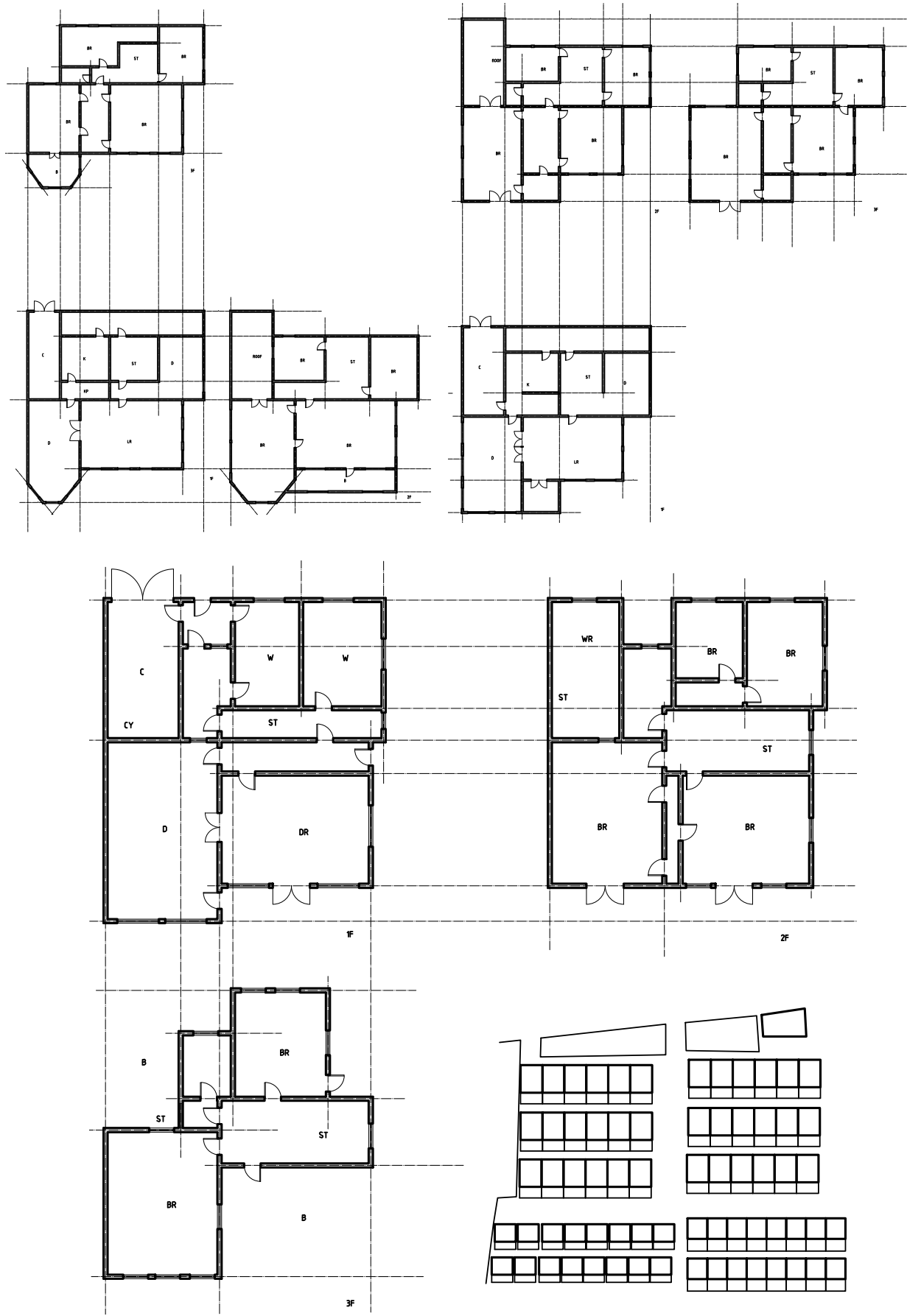


図 A1\_9 花園式里弄 上方新村の建物平面

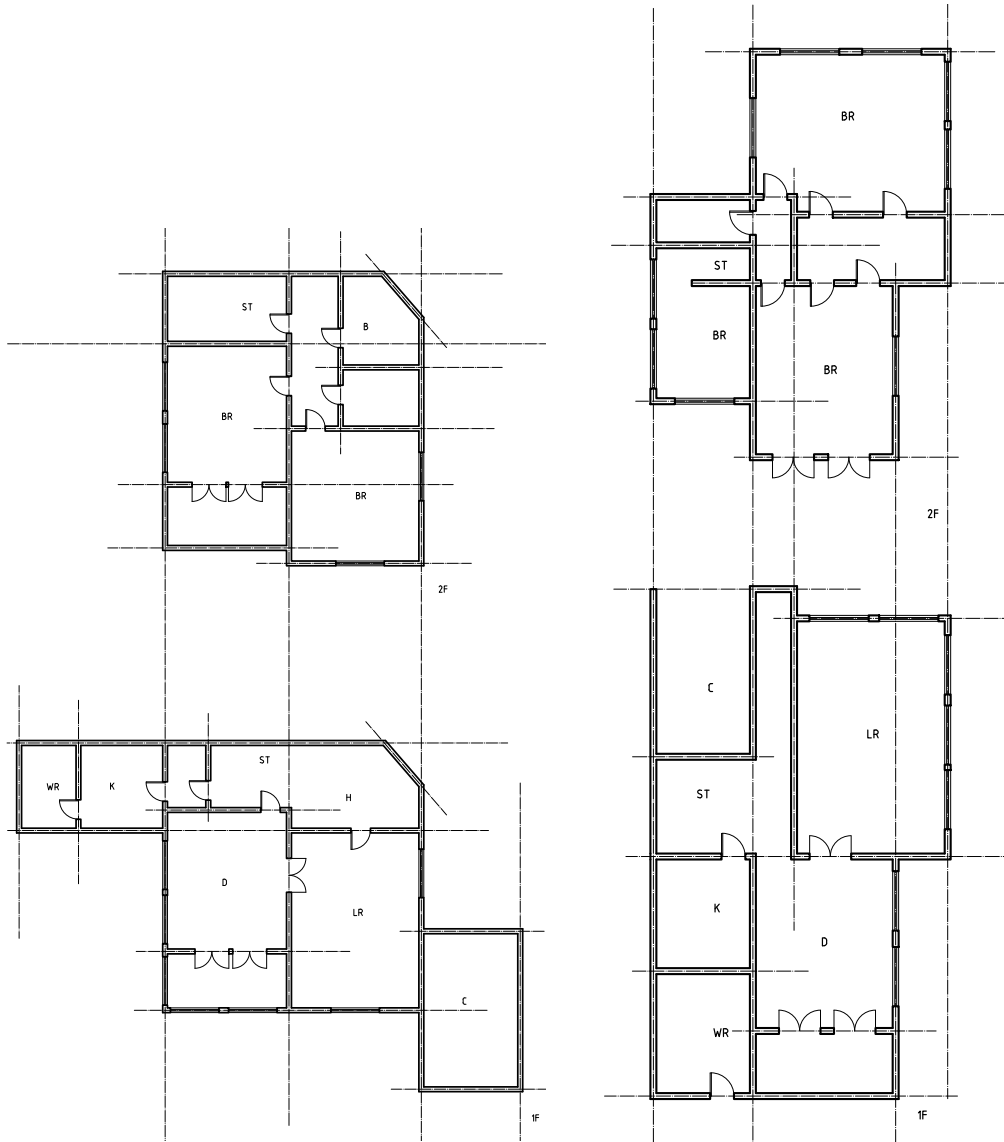


図 A1\_10 マンション式里弄 福履新村の建物平面

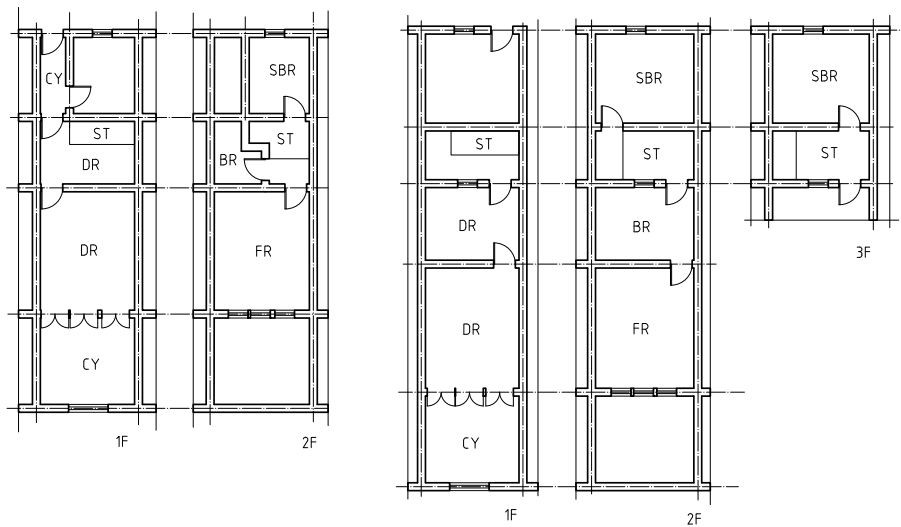


図 A1\_11 マンション式里弄 陝南村の建物平面



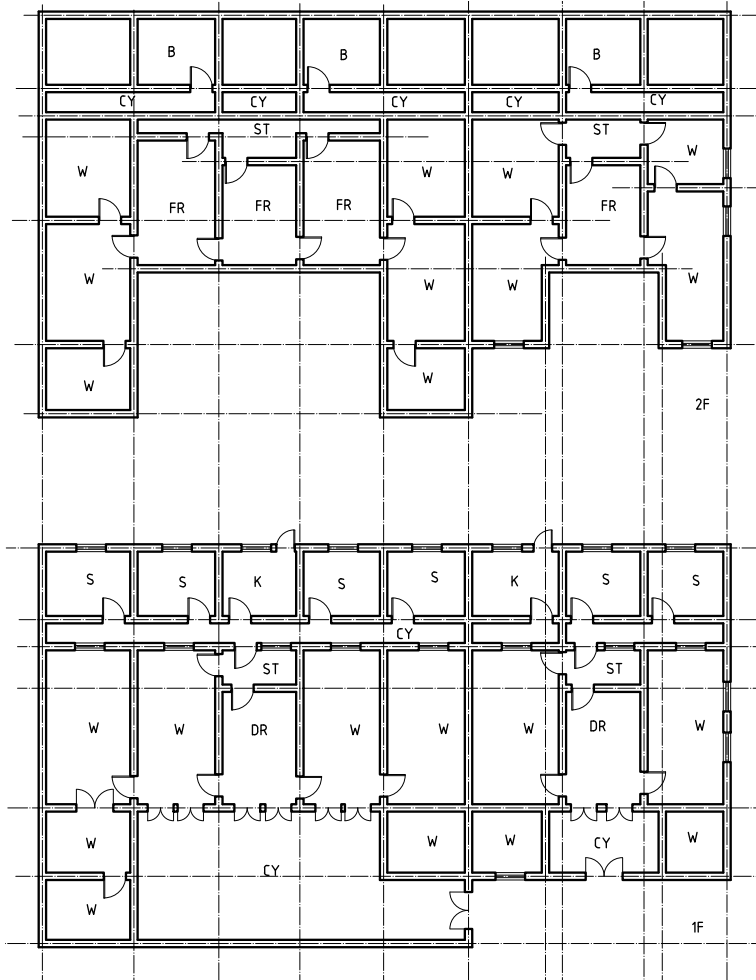


図 A1\_12 兆福里の建物平面

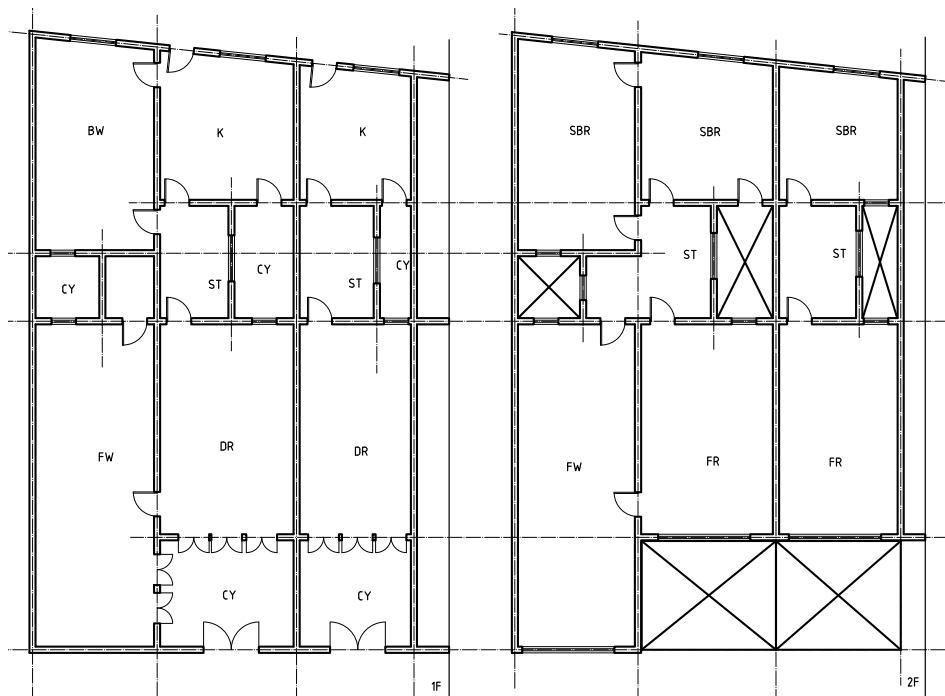


図 A1\_13 江陰路 88 弄の建物平面



## 付録2 揚子江南部地域における各都市の調査対象となる里弄の位置

第二章 2.1.1 の補足である。

以下、図面を持って、揚子江南部地域における各都市の調査対象である里弄の位置を示す。

地域ごとに、調査対象である道（154箇所）の所在位置を地図で示す（以下街路名は中国語表記とする）。

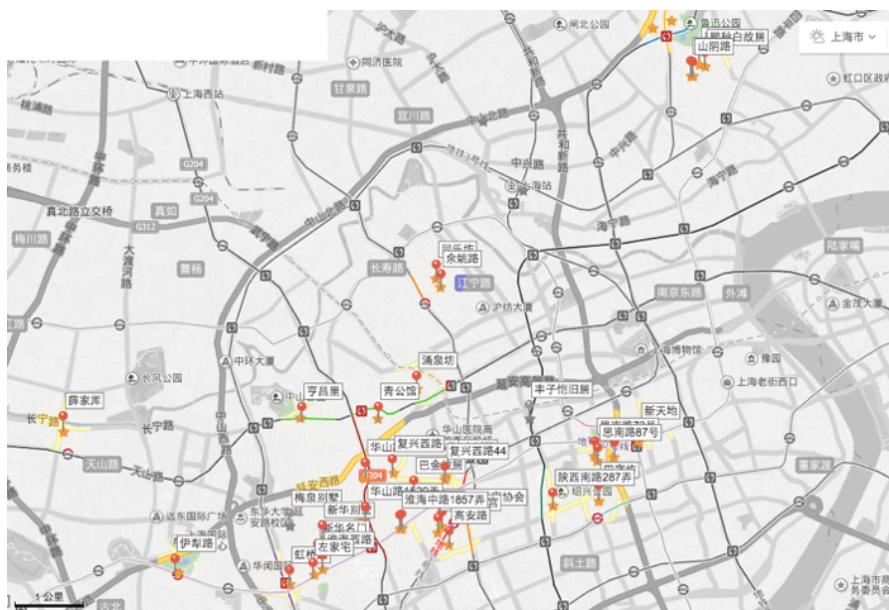


図 A2\_1 上海で調査した場所（27箇所）



図 A2\_2 蘇州で調査した場所（18箇所）



図 A2\_3 無錫で調査した場所 (14箇所)





图 A2\_4 常州で調査した場所 (1, 2) (21箇所)





図 A2\_5 南京で調査した場所 (1, 2) (20箇所)





図 A2\_6 杭州で調査した場所 (1, 2) (24箇所)



図 A2\_7 紹興で調査した場所 (22箇所)



図 A2\_8 寧波で調査した場所（8箇所）



## 付録 3 連続立面輪郭図の作成

第二章 2.1.3 の補足である。

Google Map の Street View 機能では、あたかも実際に現場にいるよう、空間を体験することができる。

図 A3\_1 の画像を見ればわかるように、透視が実体験よりきつく、狭い道で歩いていると、両側の建物の全体が見えることはほとんどなく、二階か三階くらいしか見えない。路地の両側の建物の連続立面図を作成する際に、実体験ではあまり見えないものを入れてしまう恐れがあるため、路地を歩く時の視線を分析し、視線の高さを把握する必要がある。

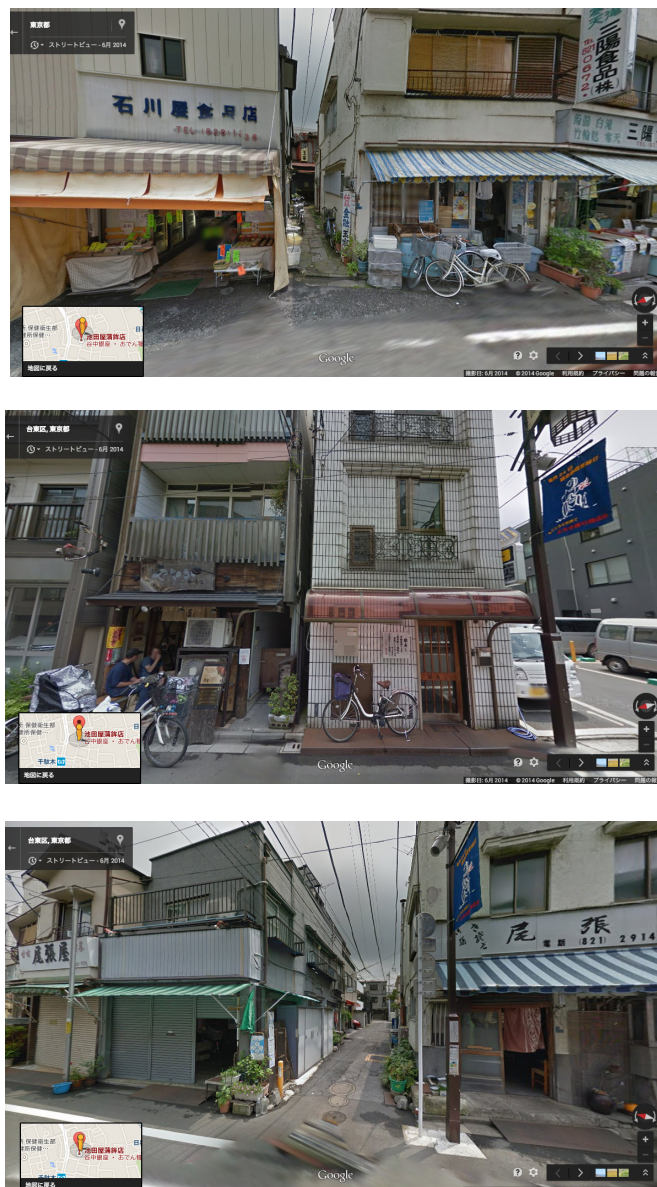


図 A3\_1 Google Map の Street View 機能

連続立面輪郭図を作成する際に、人の目の高さを1.7mとし、路地の道幅を4mにする。人が道端の端っこに立って、視線が水平であることを想定する。したがって、垂直範囲内は4m、せいぜい二階しか見えないことがわかった。（図 A3\_2）

これにもとづき、Google Map の Street View 機能を使って、連続立面輪郭図の作成は妥当だと判断する。だが、建物の立面は年代につれ変化し、目視調査で作成した図面の確認が必要となる。一方、この方法は表出・あふれ出しの調査には適切ではなく、実地調査が必須である。

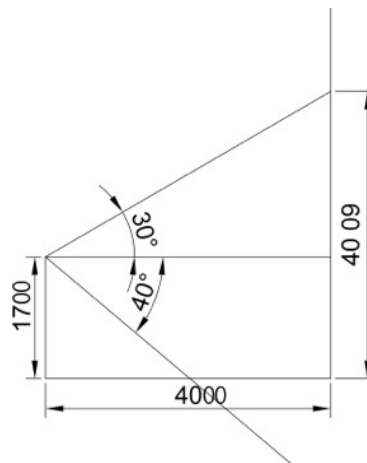


図 A3\_2 路地にいる時に人が目視できる範囲

続いて、Photoshop で写真を処理し、線分がはっきりわかるようフィルターをかけ、道の片側の立面をつなげることによって、連続立面輪郭図を作成した。ここでは色の影響を除き、モノクロのものに仕上げた。（図 A3\_3）



図 A3\_3 連続立面図の作成

## 付録4 Space Syntax Analysis (以下 SSA) にもとづき、データ算出の手順

第二章 2.2.2 の補足である。

Space Syntax は 1984 年にロンドン大学(UCL) の Bill Hillier らによって提唱された空間のつながりを解析する理論である。SSA によって、建築の内部空間から都市の空間構造まで解析することができる。SSA は屋外の都市空間において、街路の構成パターンの分析ツールとして有用性はある。

(Hillier ら, 1984 ; 高野, 2007) 本論では, SSA を用いて, 対象地の街路構造を分析し, 物理要素の割合と Integration Value (以下 In. V.) の関係性を探った。

SSA を用い, 対象地の街路を作成し, その構造から以下 In. V. を算出する。

分析する際の操作手順は下記のとおりである。

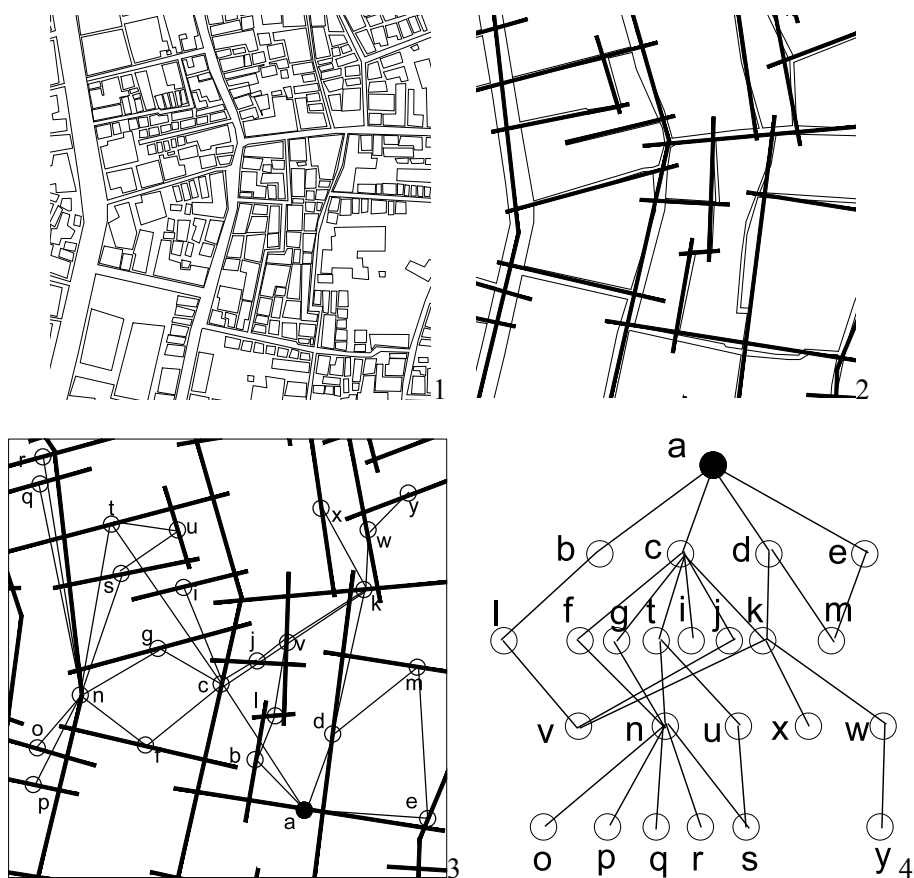


図 A4\_1 SSA を用いる操作手順

図 A4\_2 で示すように、谷中銀座池田屋が位置する街区を例に、SSA を説明する。1 は街区範囲、建物の配置と道路網を示す図面である。分析では建物の配置、道の幅員と関係がないため、道と道の位置関係、長さ、ブロックの形状だけを残し、2 を作成する。続いて、街路の階層関係を整理し、道 a とつながっている道は b,c,d,e である。よって、道 a から道 b,c,d,e への Depth は 1 となる。このように道 a から各道への Depth をカウントし、その合計は Total Depth となる、図 A4\_1 の

例の TD は  $4 \times 1 + 8 \times 2 + 5 \times 3 + 6 \times 4 = 59$  である。道の数  $k$  は  $4 + 8 + 5 + 6 = 23$  で、Mean Depth は 2.565 となる。

ここでは図 A4\_2 の道路網の MD の値を例として分析を行う。



図 A4\_2 SSA による MD の算出 (左：新宿三丁目、右：谷中銀座)

図 A4\_2 では MD の値が大きければ大きいほど、線分が太くなる。よって、太い線分の街路の空間構成が複雑であり、ほかの街路とのつながりが弱いことがわかる。留意すべき点として、分析の区画を選定する際に、本来他の街路とつながっていた街路が分断され、区画の周辺の線分はこの影響を受けつながりが弱い道となってしまう。原因として、MD の値は選択範囲の影響を受けやすく、選択範囲の中央付近になればなるほど、値の信頼性が高くなる傾向がある。したがって、MD を使って街路を分析するには街区の範囲を広範囲にする必要があることが伺われる。

In. V. について、その算出数式は  $In. V. = [k \log_2 \{(k+2)/3 - 1\} + 1] / \{(MD-1)(k-1)\}$  である。とある切り取った一定範囲の道路網の  $k$  を定数としたら、MD は道と他の道のつながりを反映する値であるため、その逆数である In. V. の値が大きくなればなるほど、つながりが強くなり、道路網において、その道の奥行きが浅く、より公共的な道であることがわかる。

わかりやすい道路網の構成は簡単で、奥行きが浅い。ところが、構成が簡単といっても必ずしも奥行きが浅いというわけではない。言い換えれば、奥行きが浅い道の構成が複雑である可能性もある。道のわかりやすさは実体験、そして街区の道路網の図面とあわせて確認する必要がある。

複雑な街区で分析する際に、人工の計算が不可能となり、本論では Quantum GIS のプラグインの SSA を使い、計算を行った。

本論では日中の路地/里弄を比較対象として扱う。比較において、対象地の範囲を同じくする必要がある。したがって、分析対象である道の街区を真ん中にし、所在街区と接する街区を含め、分析の範囲にした (図 A4\_3)。(道は遠くまでつながっているため、分析範囲を選定した時点で、周辺の道とのつながりが分断され、数値に影響が出てしまう。対象である道が選定範囲の外周であればあるほど影響が大きい。これを軽減するため、対象である道を中央にし、隣接する街区を範囲として選定し、範囲内に一定数量の道を確保することにした。)



図 A4\_3 調査対象である道の In.V.を計算する際の選択範囲

前述のとおり、In.V.を用いて対象地の道の奥行きを逆数で反映でき、道のわかりやすさが計算できた。下記、方法の説明として、日中それぞれ2個ずつ例を挙げる。

下町の性格を有する東京の谷中銀座と上海の静安別荘，都心部に位置する新宿三丁目と上海の陸家嘴の一部分を抽出し、上述の方法を用い、図面の作成及び In.V. TD, MD の計算を行った。

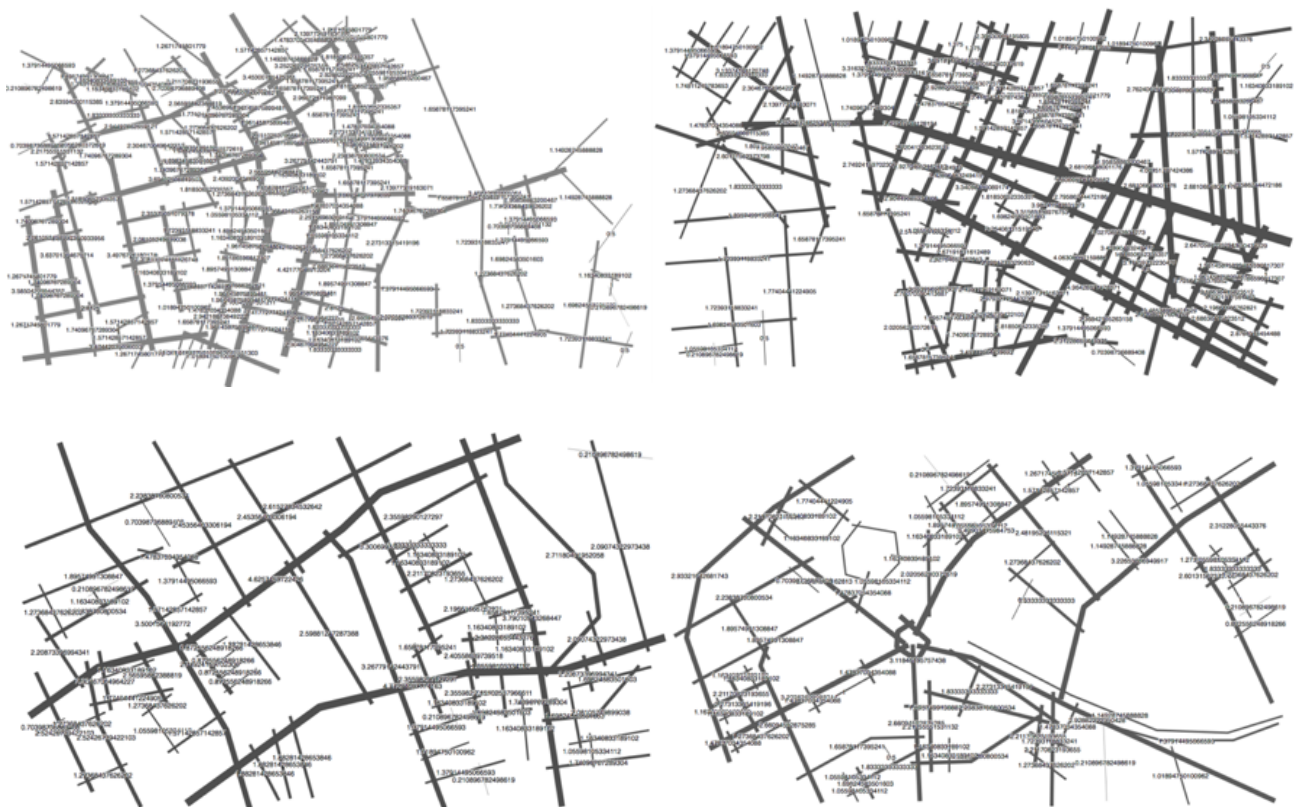


図 A4\_4 In.V.の計算結果（左上：谷中，右上：新宿，左下：静安別荘，右下：陸家嘴）

図 A4\_4 で示すように、線分ごとに In.V.の値が表示され、数字が大きければ大きいほど線分が太くなる。太い線分の奥行きが浅い、つながりがよいとされる。これは実地調査での観察と体験に合致する。

## 付録5 あふれ出し率と Integration Value の関係性

第二章 2.2.2 の補足である。

We have interest in the visual physical composition of an alleyway that people visually experience when they walk through it, and statistically predict the relationship between the visual physical characteristics, i.e. coverage rates of overspilled daily goods, grounded green and pot green, and Integration Value calculated basing on the road location in the road network exists.

In this paper, we take 30 Roji and similar roads in the same area in Tokyo, Japan in Fig. A5\_1 listed from No. 1 to No. 30 as a case study to do the analysis.



Fig. A5\_1 Photographs of the picked up 30 roads

The integration values range from 1.06, No. 15 to 5.87, No. 11, and the average value is 2.28. Only one alleyway, No. 11, 5.89 has the integration value larger than 3.50, and except other two, No. 13, 3.50 and No. 29, 3.24, all the others range from 1.05 to 2.94.

For the following analysis, we categorize these 30 photographs in the two ways, one is to categorize them into group roads considered as Roji, No. 3, 10, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 23, 24 or not; the other is to

categorize them into group locating in residential area, No. 1, 7, 8, 9, 10, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24 or not. Then we calculated the average coverage rates of visual physical characteristics.

Table. A5\_1 Average coverage rates of visual physical characteristics

average rate (%)	sky	road	architectuer	overspilled daily goods	green	pot green	In. V.
all road photographs	7.57	11.67	48.52	16.85	6.09	9.29	2.28
1) <i>Roji</i> photographs	5.27	10.08	39.09	23.72	7.72	14.11	1.74
2) residential area road photographs	9.36	10.34	45.24	16.58	8.15	10.33	2.02

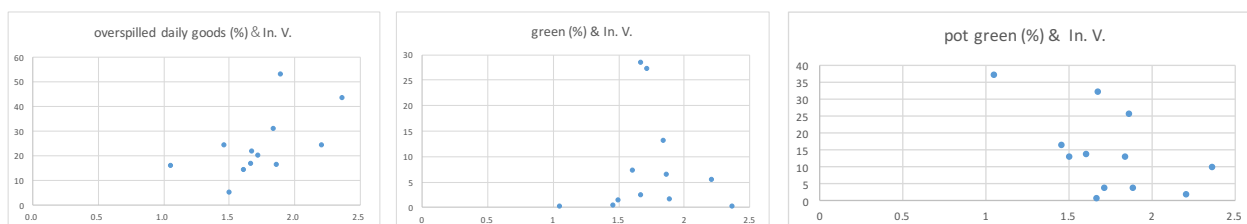


Fig. A5\_2 Scattergrams of rates of overspilled daily goods, green and pot green & In. V. (group of *Roji* photographs)

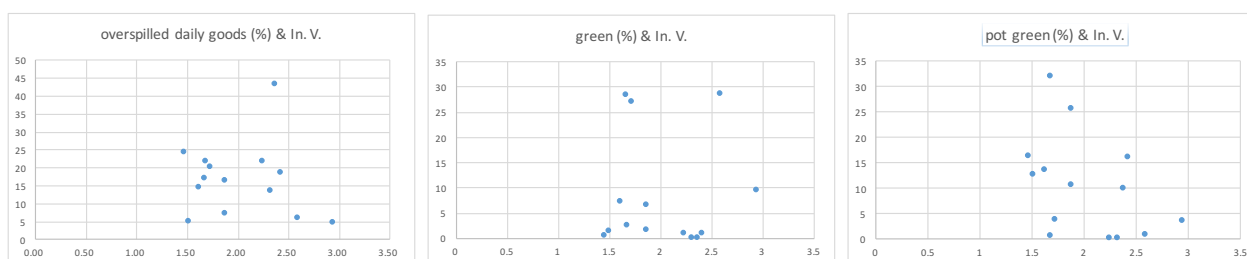


Fig. A5\_3 Scattergrams of rates of overspilled daily goods, green and pot green & In. V. (group of residential area locating roads)

## Summary and Discussion

According to analysis beforehand, we explain and conclude as the follows:

1) Roads considered as *Roji* have more overspilled daily goods, 23.72% and pot green, 14.11% comparing to the average overspilled daily goods, 16.86% and pot green, 9.29% in all 30 roads. At the same time the average In. V. of *Roji*, 1.74 is smaller than the average In. V. of all 30 roads, 2.3. (Table. A5\_1)

This result shows clearly that people laying out their goods and pot greens in order to show off their individual ownership especially in *Roji* as Kobayashi (1992) mentioned. On the other hand, from the result of lower average In. V. of *Roji*, we can see that *Roji* as a whole is calm enough to be considered as private, for there are fewer passers-by in the roads with lower In. V. also in Japan according to Yokoyama (2000), we can conclude people lay out more of their things in calm and private alleyways comparing to public roads, and at

the same time, that Roji in Japan is private and it influences people's territory behavior of laying out daily goods and pot greens.

2) Analysis shows that, within Roji, rate of overspilled daily goods has a positive correlation with In. V., while rate of pot green has a negative correlation with In. V.. (Fig. A5\_2)

Although overspilled daily goods can be found more in Roji than other roads, the rate of it shows a decreasing tendency as the Roji being private. We consider the reason might be there existing more shops and bars in public Roji with higher In. V., while there are more residential houses in Roji located deep inside with lower In. V.. Shops and bars hang out many big signboards and advertisements to attract customs, while residential houses only have small doorplate, mailbox, and ect., although number of overspilled daily goods is larger in low In. V. Roji, the visual coverage rate of it is smaller than that of high In. V. Roji. But when things go to the rate of pot green, it is contrary to the situation, because of the same size of pot green.

3) On the other hand, roads locating in residential area, the rate of overspilled daily goods and rate of pot green have a negative correlation with In. V., i.e. overspilled daily goods and pot greens increase as the roads turn to be private in residential area. (Fig. A5\_3)

Although almost the same average amount of overspilled daily goods and pot greens can be found in roads locating in residential area as the average of all of the roads, people lay out more daily goods and pot greens as the road turning to be more private, this can be considered as people laying out more of their things in their living space to show their residential area as a territory behavior.

4) Rate of green increases from 0 to max and again decreases to 0 with the increasing In. V. in Roji, for the reason that Roji with high In. V. as shops in integrated road and one with low In. V. as residential house in segregated road do not have enough space for natural green, but ones with medium In. V. are just suitable for natural green. (Fig. A5\_2, Fig. A5\_3)

By fieldworks and data analysis, we made conclusion that environment-behavior relationships can be estimated by a correlation of the coverage rate values calculated from image analysis and Integration Value.



# 付録 6-1 アンケート調査票のイメージ（日本人向け）

第三章 3.2.1 の補足である。

## アンケート調査票のイメージ

路地空間（中国で実測する時は中国語バージョンで、「路地」を「里弄」で書き換える）に関するアンケートです。  
回答するにはおよそ20分～30分がかかります。

1. 日本の東京の路地を実際に見たことがありますか。

あり  
 なし

2. 中国の揚子江南部地域の里弄を実際に見たことがありますか。

あり  
 なし

3. 路地/里弄に住んだ経験ありますか。

あり  
 なし

**3. 1**

差し支えなければ、路地/里弄に住んでみた印象をお書きください。

回答を入力

**4.**

これより、路地/里弄の写真を一枚ずつ出します。  
その写真について、もつの疑問に4段階評価のなかで一番ふさわしいと思われる評価をお選びください。  
（写真は合計2枚あります）

**4. 1**



	1	2	3	4	5	
路地らしい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	路地らしくない
	1	2	3	4	5	

**5.**

以上でお見せした16枚の写真を下記のリストにまとめてお示します。  
この16枚の写真のなか、あなたが特に路地のイメージともっとも合致するもの3枚をお選びください。

イエロー

オレンジ

グリーン

レッド

ブルー

お選びした3枚の写真の番号をお書きください。

回答を入力

**お選びした写真についてお聞きします。**

3枚の写真について、それぞれなぜこれを路地だと思われる要素についてお聞きします。

一枚目

道幅  
 建物の高さ  
 道幅と建物の高さの比例（D/H）  
 建物の様式  
 道に置かれる生活用品など  
 植物  
 人々の集まり  
 看板  
 入り口から建物中の様子が見える。気配が感じられる  
 清潔感  
 現代的な要素がある  
 住みやすい  
 その他

雰囲気がいい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	雰囲気が悪い
	1	2	3	4	5	
懐かしい印象がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	懐かしい印象がない
	1	2	3	4	5	
住みやすいと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	住みにくいと思う
	1	2	3	4	5	
日本らしい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	日本らしくない
	1	2	3	4	5	
残したい風景	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	残したくない風景

## 6.

あなたのことをお聞きます。

### 6. 1年齢

選択 ▾

### 6. 2性別

選択 ▾

### 6. 3国籍

選択 ▾

### 6. 4建築を勉強し、または建築に関連する仕事をなさいますか。

- はい  
 いいえ

## 二枚目

- 道幅  
 建物の高さ  
 道幅と建物の高さの比例 (D/H)  
 建物の様式  
 道に置かれる生活用品など  
 植物  
 人々の集まり  
 看板  
 入り口から建物中の様子が見える、気配が感じられる  
 清潔感  
 現代的な要素がある  
 住みやすい  
 その他

## 三枚目

- 道幅  
 建物の高さ  
 道幅と建物の高さの比例 (D/H)  
 建物の様式  
 道に置かれる生活用品など  
 植物  
 人々の集まり  
 看板  
 入り口から建物中の様子が見える、気配が感じられる  
 清潔感  
 現代的な要素がある  
 住みやすい  
 その他

その他をお選びの方、その詳細についてお書きください。

回答を入力

## 付録 6-2 アンケート調査票のイメージ（中国人向け）

**关于里弄空间的印象调查**

您好，感谢您打开并浏览该调查问卷

本人目前正就中国和日本的内弄空间进行比较研究。作为研究的一部分，需要了解人群对内弄空间的认知和理解，因此实施该问卷调查。感谢您百忙之中协助本问卷的调查。本调查所获得的数据将仅用于研究，同时，问卷中的问题设置和获得的统计数据将不能也不会用于特定某一答卷人。

**请回答所有的问题。**

回答该问卷大约需要20-30分钟的时间。

问卷的目的不是测试，回答没有正误之分，仅需根据自身感觉和认知作答即可。

如有任何疑问请与我联系。

李晋琦  
daat1928@163.com

从下一页开始将会逐页出现一张照片。关于每张照片会有六个问题，请就此六个问题分别进行1~7段的分段评价。  
(照片合计共20张。推荐使用电脑作答。)

点击下部【下一页】按钮，将开始问卷的作答。

1 [照片1] [必答题]

	1	2	3	4	5	6	7	
没有弄堂的感觉	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	很有弄堂的感觉
场所的氛围很差	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	场所的氛围很好
完全不让人怀念	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	非常让人怀念
不宜居环境	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	宜居环境
完全没有中国味	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	很有中国味
不想保留这样的风景	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	想保留这样的风景

注：20张照片此后依次出现，问题和选项相同。

将此前已作答的20张照片列表如下。

请在以下这20张照片中选出3张与您所持有的里弄的印象最为接近的照片。

(请将3张照片的编号如提示填写) [填空题] [必答题]

\_\_\_\_\_

提示：1, 2, 3

请关于所选3张照片，回答如下问题。

在判断照片内容是否为里弄时，是什么要素影响了您的判断？请将您认为最重要的5个要素按重要度的顺序选择（或填写）出来。

第一重要的要素 [单选题] [必答题]

道路宽度

建筑物高度

道路宽度与建筑物高度之比 (d/h)

建筑样式

放在道路周边的生活用品

植物

人群

广告牌

从建筑出入口可以看到建筑物内的情况，感受到建筑物内的氛围

自由散漫的生活气息

现代的要素

古旧的要素

其他 (请具体填写) \_\_\_\_\_

第二重要的要素 [单选题] [必答题]

同上

第三重要的要素 [单选题] [必答题]

同上

第四重要的要素 [单选题] [必答题]

同上

第五重要的要素 [单选题] [必答题]

同上

#### 有关您对里弄（路地）的了解度

1.您实际见过日本东京的路地（与里弄相近的概念）吗？ [单选题] [必答题]

- 见过
- 没见过

2.您实际见过中国长三角地区的里弄吗？ [单选题] [必答题]

- 见过
- 没见过

3.您曾在或正在里弄（路地）生活居住吗？ [单选题] [必答题]

- 是
- 否

4.您在题3中选择了【是】。如果方便的话，请写出您在里弄（路地）居住的印象。 [填空题]

\_\_\_\_\_

#### 有关您自身

1.您的年龄 [单选题] [必答题]

- ~19岁
- 20岁~29岁
- 30岁~39岁
- 40岁~49岁
- 50岁~59岁
- 60岁~69岁
- 70岁~

2.您的性别 [单选题] [必答题]

- 男性
- 女性

3.您的国籍 [单选题] [必答题]

- 日本
- 中国
- 其他（请注明） \_\_\_\_\_

4.您的专业，职业或个人经历与建筑相关吗？ [单选题] [必答题]

- 相关
- 不相关

调查问卷尚未结束，请务必点击下部【提交】按钮，提交问卷。

感谢您的配合。

# 付録 7 各物理量の可視率の分析で得られた二次データ

第二章の補足である。

類別 a

中国	空	道	建物	あふれ出し	緑 (自然)	緑 (人工)
	8.552422529	16.28864738	48.36189333	25.55155649	0.555139034	0.690341245
	4.232983477	8.356437701	63.176764	16.034085	1.245973189	6.953756625
	5.841607354	11.54783106	52.65449389	20.77610282	2.036974455	7.142990424
	2.917558553	15.58885264	42.92275401	37.35613791	0.158773042	1.055923855
	1.470138079	12.38055645	58.69466299	10.58259496	0.774573312	16.09747421
	3.517689189	12.7926734	76.61458506	6.665849646	0.409202699	0
	8.405969951	6.196223796	66.19826005	17.83920694	0	1.360339264
	2.77219976	5.826988266	48.95798001	36.59669925	0	5.846132717
	0.870168962	6.578236214	32.6300888	25.67247888	28.00505554	6.243971596
	3.807774093	6.551926462	40.60821186	42.47371115	5.380111605	1.178264832
	2.247626068	8.551746129	37.7557697	24.07227189	7.283923521	20.08866269
	4.63095305	5.294003832	63.59940665	21.81181175	0	4.663824723
	0.687051623	17.04490885	46.79102197	29.79205515	2.545313185	3.139649219
	6.737075366	9.424782724	32.91165867	10.37844502	37.44400176	3.104036455
平均	4.049372718	10.17312964	50.8483965	23.25735763	6.131360096	5.540383418
標準偏差	2.551465785	4.100766823	13.29506444	10.71310049	11.61997155	5.893651975

日本	空	道	建物	あふれ出し	緑 (自然)	緑 (人工)	
		4.857796734	6.019764902	48.79059607	25.72641215	9.491938001	5.113
		4.135021097	13.98093452	6.352450904	41.27228213	27.05776944	7.201
		9.868478464	13.09709323	45.7054998	24.05576679	5.399239544	1.873
		2.827411333	11.57770737	70.57626191	15.01861939	0	
		7.400637186	5.991298995	35.61755507	20.12772842	27.05650662	3.806
		8.384903433	11.57719306	57.62828798	21.65798737	0.751628147	
		0.653205789	7.364636061	43.93337716	16.16445855	6.38669368	25.49
		6.60910899	12.75407885	35.20737977	16.75110902	28.20858471	0.469
		7.113854183	9.416950841	21.29937375	17.07041001	26.77403887	18.32
		6.254095078	8.093619381	23.02363078	16.09234593	26.26107853	20.27
		9.07968241	5.185271426	45.09050992	24.10306093	0.353848361	16.18
		4.343885973	10.08518113	50.63611705	14.22361444	7.18008454	13.53
		7.375677721	6.81214559	66.78228958	5.006479168	1.321335642	12.70
		4.003234355	13.65095302	36.18053955	38.67337953	5.022303058	2.469
		8.312084194	12.61113145	7.052025751	23.15318613	24.99167613	23.87
		7.977848336	9.256319352	50.56510187	16.37993436	15.82079608	
		8.943833435	10.21687832	68.10300261	12.73628564	0	
		1.217802952	9.678546327	64.31306074	3.114689709	2.999338488	18.67
		10.3023823	7.152421859	59.21324586	4.10529307	14.43139003	4.795
		8.708310836	13.65016406	3.31914275	20.31835362	30.33413631	23.66
平均		6.41846274	9.908614487	41.96947244	18.78756982	12.99211931	9.923
標準偏差		2.800697237	2.868158744	20.86205009	9.696493889	11.56684441	9.286

類別 b

中国	空	道	建物	あふれ出し	緑 (自然)	緑 (人工)	
		0	19.81106192	37.63796221	41.02741577	0.220947392	1.3026
	2.1986	43532	11.76944202	52.55190779	24.26330462	7.330961594	1.885
	6.9930	82622	19.30834536	37.34781144	27.25480327	9.095957306	0
	3.3272	69136	10.85650723	48.03571985	30.83529987	6.945203913	0
	12.4614	1791	11.89481976	46.11456257	19.13380737	10.39539239	0
	5.5042	36663	13.01063682	68.16616109	13.25896074	0.06004692	0
	1.2482	38038	9.352013938	45.88771679	9.677379116	33.83465212	0
	11.4046	66223	12.37173032	37.72481004	37.636176	0.862621404	0
	0.1972	47268	14.62955342	47.24643645	18.89520745	17.93495205	1.0966
	4.2300	38319	13.99275159	55.88647621	23.5425818	0.638233798	1.7099
	9.0426	3276	19.51279814	39.70497798	31.41111942	0.328471703	0
	6.0828	49487	15.95331791	24.84216522	19.25366029	33.14623909	0.7217
	1.1131	76335	9.245048062	45.76046261	23.58854189	18.28827668	2.0044
	13.0554	2726	13.94565041	42.97266709	20.24149825	0	9.7847
	3.6751	41558	7.02849367	57.55026409	5.99322505	0	25.752
	1.2272	83847	13.13421759	55.76802677	14.40586609	8.066074309	7.3985
	2.0151	88675	20.15666306	46.48764492	11.59979483	14.99056159	4.7501
	7.0564	90215	16.96163227	28.32106854	47.09869555	0	0.562
	2.8962	24443	8.93627555	68.1171811	19.14520954	0	0.9050
	0.8013	84978	9.949277868	50.42549775	7.334535514	7.52124401	23.968
	4.2580	35805	12.85416914	49.07118007	28.15822691	0	5.6583
	16.3209	95058	13.10777971	45.66659239	21.79125426	1.690090398	1.423
	7.8361	42053	17.48329529	59.01035755	14.73320277	0.937002341	0
	22.3225	53673	20.08559249	42.58931796	12.75440104	2.248151792	0
	5.0343	56829	10.21075793	38.45094793	16.51145089	29.65896896	0.1335
	11.8330	1113	10.19199291	7.67234491	22.68910709	35.9850998	11.628
	4.4614	44385	17.4052489	31.19703985	41.03052086	5.287799562	0.6179
	28.9845	53695	20.79912174	3.1161049	34.09855017	13.00168624	0
	25.8036	65117	14.1341844	34.85226059	25.20990384	0	0
	17.2746	68815	11.36746075	31.94270821	37.25838088	2.156762007	0
	23.0307	72965	20.78876714	30.73048068	24.71702932	0.732993208	0
	7.1777	80133	11.25850107	45.67751936	35.45067873	0.435520703	0
平均	8.4021	41219	14.10959714	42.39145859	23.74999341	8.181058408	3.1657
標準偏差	7.8801	19791	4.01534949	14.26803982	10.45972627	11.04831325	6.4125

日本	空	道	建物	あふれ出し	緑 (自然)	緑 (人工)	
		23.3456155	16.49391805	25.20492525	5.69232333	28.58383438	0.6748
		30.05500556	13.72465594	38.5617979	4.65216191	9.492153693	3.5048
		13.9361687	16.72639466	33.82628792	18.51874726	0.917372245	16.08
		10.37706781	18.53049311	39.35666135	27.08384513	4.651932597	0
		5.98054387	16.0232594	45.50153872	9.236659291	7.175629085	16.076
		0.116530335	10.35609021	63.7236031	10.4246132	11.63937276	3.7471
		6.001713646	13.45669923	22.5198929	52.75223252	1.48662562	3.7904
		0.072871165	8.550839575	38.51417562	15.98411367	0	36.877
		5.579483896	12.6131682	28.8578667	43.19241019	0	9.7550
		10.19670038	18.71990278	30.0374907	15.82768635	2.47224568	22.750
		6.704721805	15.97691728	27.90125357	22.97682991	25.4148717	1.0204
		2.95956811	14.0631158	31.84601471	12.58229655	5.0394667	33.509
		25.97172924	14.1531156	37.40544328	4.880180094	11.38403539	6.2003
		7.181400653	11.8412263	21.48652267	43.6300751	9.945206677	5.9189
		8.403272071	11.2633127	46.62742182	25.80223846	0.938835111	6.9599
		10.77184686	17.95680255	2.669430429	28.49509411	25.30932004	14.803
		11.2116839	11.8168092	25.0156801	40.41395467	3.84882145	7.6904
		3.62891759	6.968210101	55.41346727	5.305801238	0.84703052	27.836
		25.69625648	16.90393272	26.17487759	5.024897862	25.3479983	0.8520
		5.114079513	17.29682899	26.42504214	22.5306073	24.90898951	3.7249
		3.655487929	13.63935297	25.2165626	25.2250219	28.3736886	3.8936
		4.628034131	15.08015077	26.0900911	23.91413305	3.941471295	26.346
		6.788528032	8.54168398	67.42617542	11.73484653	1.179572636	4.3283
		8.645792612	12.0953886	50.09170001	13.123294	16.0463911	4.3283
		30.30454391	13.42757066	34.78206577	4.85234837	13.6898543	2.9529
		2.751940409	13.86556185	27.39826437	24.09885523	27.94499318	3.9393
		7.159602124	19.99250162	37.05794259	25.07317134	1.80948464	8.9073
		3.911221256	16.7749566	23.56641737	7.137694439	39.4938809	9.1223
		4.756166626	18.6944119	25.03503412	22.74407107	20.89315315	7.8751
		8.637873627	12.05766148	60.17235456	8.305804254	1.203700674	9.5433
		4.576736374	10.4706798	48.7232151	25.28173197	9.286811544	1.6578
		7.194138616	17.18098329	30.2706242	25.17336399	17.9155237	2.2619
		33.5254091	9.142458508	35.41054955	2.89964774	6.72765913	12.299
		0.83126119	9.25859211	46.64398302	10.02627403	33.24252762	0
		11.19449836	11.94703519	36.54276206	24.80212056	15.5138382	0
		0.594756557	14.00586155	48.0296641	18.61665851	15.6244318	3.1286
		5.075228744	13.7944983	59.72127249	19.2874527	0.629658148	1.4944
		9.247177955	20.29776726	34.82071713	29.08947543	6.544862218	0
		5.495716185	10.48324224	32.18728971	13.00693333	31.51537906	7.3124
		11.57245032	10.47937226	8.19630812	26.57631952	27.58801661	15.599
		4.85281766	15.63949115	33.06172972	34.44172129	11.45302077	0.5519
		13.9769619	15.8156721	25.40760898	5.293612358	38.79160289	0.7119
		25.46502098	13.68452392	34.50362163	5.10405963	17.79167161	3.4471
		19.11090761	17.23859141	25.91976141	5.528372	23.28845384	8.9219
		27.90823905	13.63669503	30.83227503	5.762509608	9.454327735	12.400
		13.30410322	18.1119269	27.4726117	17.46317683	12.85781459	10.79
		9.660643947	18.19388589	29.94397054	25.43291741	4.81983555	11.949
		5.896811951	15.71641255	47.72051953	8.29077468	8.801478515	13.577
		4.694014263	5.832202981	69.1626033	10.669349	7.538133795	2.1020
		5.046517959	13.82282436	23.2727488	54.41565312	0.693047357	2.7402
		0.282547453	8.13532133	33.40578672	30.24586403	13.8908261	14.040
		4.799234123	13.86982967	27.49550539	45.34522276	5.018583169	3.4743
		8.260544886	16.88795671	25.12188482	13.60016004	7.134283664	28.994
		7.567841098	16.2506499	29.85234585	29.6423068	11.55705399	5.1233
		4.397479002	12.41020806	25.64268038	12.12020115	5.540543472	39.973
		18.9832618	12.5534448	24.16624705	37.84267456	0.877313456	5.5770
		7.566438962	13.65462262	37.98878878	32.10506444	8.68585198	0
		3.241101518	12.2135861	22.8770754	29.7239074	14.23859919	17.703
		28.64314931	21.08017392	7.151895241	29.72164702	10.53395448	2.8691
		25.7426009	9.500819821	24.92774806	26.24732937	8.96423462	4.6168
		16.22551598	11.08805619	30.2958789	33.99871512	8.393124827	0
		38.5652378	12.31272133	23.10202092	20.6938424	0.72300637	4.5993
		3.98926342	13.73761127	48.29734177	27.94286926	2.488350016	3.5439
		13.90356459	11.82140329	46.38797951	21.2542375	5.836694616	0.7961
		15.25486884	16.9936109	52.99644773	14.1114699	0.643175344	0
		20.14113641	18.25397152	41.19007768	12.01500736	8.395607031	0
		1.987100367	13.17703333	33.2795156	34.88137241	16.67497829	0
		10.1596659	12.0132427	40.14462169	2.36747365	30.5416717	4.7673
		10.24136834	10.25635761	39.00187879	29.82043674	0	10.673
平均		10.92366595	13.89264387	34.56461331	20.75584443	11.79777311	8.0633
標準偏差		9.0858155	3.344539854	13.055115	12.50798206	10.4530634	9.2477

類別 c

中国	空	道	建物	あふれ出し	緑 (自然)	緑 (人工)
	0.952271852	16.92636139	56.18487237	7.569228206	18.36726618	0
	8.30552027	5.856102684	57.35738541	27.78753311	0.693458534	0
	6.691603374	19.49775092	35.25229734	5.07708307	33.4812653	0
	24.90980421	15.3004002	52.62828133	5.824604207	1.336910045	0
	11.20267316	14.53914537	69.90475519	2.674612031	1.482185155	0.1966290
	6.194622353	13.34808688	71.36166788	8.432957789	0.36379173	0.2988733
	3.975057	8.374551994	69.91307742	15.96999863	0.909302335	0.8580126
	11.7042028	12.43808098	45.51625179	28.41495623	1.266038638	0.6604695
	11.54129786	6.620578197	55.88947077	18.05634897	7.892304209	0
	13.38701487	11.90092751	48.19773045	20.10736308	4.079796881	2.3271672
	5.472635781	11.8013391	30.59843633	33.61141146	4.336895949	14.179281
	0.593890522	19.45728118	59.92380273	0.543258347	19.48176723	0
	8.96838181	6.686898544	60.26823152	23.576019	0	0.5004691
	2.77759883	6.65098388	31.1161309	43.43640055	0.362837615	15.656048
	0.232637573	7.770969663	25.41227043	48.98510037	7.326938056	10.272083
	5.034461967	7.941742123	73.09138919	13.35606541	0.576341314	0
	22.02911095	13.79695223	29.28469221	20.60959473	10.30686814	3.9727817
	24.31819974	18.20472062	31.15736917	23.88926012	0	2.4304503
	6.560446944	14.08894087	42.03642412	12.70551297	18.17120413	6.4374709
	15.21089967	11.75668043	49.17766573	23.85475417	0	0
	22.08277488	12.48511355	52.40672888	11.19502388	0	1.830358
	10.45633373	16.03393038	50.71877957	20.27149284	0.563362162	1.9561013
	5.050235674	11.72475812	31.04151162	32.79665922	4.683908046	14.702927
	2.621516054	16.90602813	52.54875318	2.645941392	12.95651264	12.321248
	10.05386181	6.626647205	51.79388607	20.71767777	8.270871451	2.5370556
	2.088869099	5.820708509	25.420373	38.93982541	12.79002578	14.94019
	12.23843422	6.841929965	51.31106132	25.64011858	1.653540338	2.3149153
	16.28978251	15.27382487	52.05257072	15.61988155	0.763940355	0
	5.034461967	7.941742123	73.09138919	13.35606541	0.576341314	0
	0.866169874	6.349310679	25.34137404	48.63450384	5.99355867	12.81508
平均	9.228159045	11.63208294	48.666621	20.47664174	5.95624108	4.0402541
標準偏差	7.144872658	4.402357501	15.10915175	13.21878699	7.945113476	5.5908323

日本	空	道	建物	あふれ出し	緑 (自然)	緑 (人工)	
		18.79281418	17.79884949	42.48040033	20.29904179	0.274842361	0.3540
		7.376960542	22.63705595	41.671831	27.20156719	0.040344215	1.072
		5.076108386	6.489416291	60.54683361	27.88764171	0	0
		7.664578912	6.752316372	46.36492572	23.24530255	0	15.972
		6.340406694	19.15238536	30.51724209	6.828997364	37.16096849	0
		24.58427143	15.35650432	52.70834023	6.016786412	0	1.3340
		10.89935909	14.54739794	68.12554159	2.678294067	3.749407321	0
		6.450724923	12.03692397	68.95633906	10.12325237	2.432759673	0
		4.708821201	7.880794021	71.52884886	15.03089117	0.487473915	0.3661
		11.38784487	12.33494371	39.26240209	27.00375015	7.486155228	2.524
		11.2637448	10.84283469	46.37423111	26.31920017	2.667282262	2.5327
		13.13051588	10.38548056	48.46017559	16.82684219	4.296179674	6.9008
		4.02199303	13.65404073	46.27009539	27.77525638	5.799506177	2.4791
		15.0116166	19.91988837	56.46789833	8.192367419	0.208157536	0.2000
		11.34912633	13.74406204	38.08072513	36.8260865	0	0
平均		10.53725912	13.56885959	50.52085534	18.8170185	4.30637179	2.2491
標準偏差		5.688684136	4.827006222	12.28548606	10.27146594	9.404722437	4.2176

類別 d

中国	空	道	建物	あふれ出し	緑 (自然)	緑 (人工)
		11.27458913	17.88818768	59.6304733	4.133836215	7.072913684
		14.62303954	12.84745749	48.02530667	15.23720845	9.26698785
		10.67344319	11.19333276	48.36179654	16.6949253	13.0765022
		5.785812705	8.200101002	76.20958608	9.639280348	0.165219867
		7.047920378	12.59939295	64.38088832	15.97179835	0
		7.217384613	14.31269094	54.22771447	23.41698573	0.825224243
		10.90283242	15.31453912	68.93930114	4.45509713	0.388230189
		7.376210655	9.335714791	61.97472439	18.38615372	0
		2.963676164	15.67628153	62.77043782	10.17429795	7.738171736
		4.674875272	6.630650166	88.31478504	0.228686083	0.151003435
		4.485251164	14.42327882	61.9563387	18.26136489	0.873766426
		20.85912493	13.19907171	60.61949658	4.785301798	0.537004978
		27.19747168	17.05241767	51.54144564	2.350660441	1.858004567
		2.239871331	6.193673335	80.21291142	10.32223476	1.031309158
		11.27041258	10.16437569	68.87529486	8.77798222	0.91211865
		12.69172114	10.66781911	68.15299461	7.975931751	0.511533395
		4.873719739	8.683118848	78.94573856	4.595429303	2.901993549
		6.022587269	8.784599589	74.06632444	8.704517454	2.421971253
		2.495683468	6.006948056	76.24160097	10.1566433	5.099124212
		11.4373928	10.84588596	67.01928375	10.6974375	0
		3.927223209	11.04582281	66.64181917	15.8404874	2.544647412
		8.954137794	11.51606318	66.01271773	10.74526048	2.607987582
		6.950788088	12.28803003	65.17152751	15.58965437	0
平均		8.954137794	11.51606318	66.01271773	10.74526048	2.607987582
標準偏差		5.950517144	3.321699676	10.14077005	5.890045049	3.512633535

日本	空	道	建物	あふれ出し	緑 (自然)	緑 (人工)
		6.843367964	13.92962407	59.54988132	19.67712665	0
		0	10.47820802	72.11781979	10.01414351	0
		7.473558566	11.18625772	69.17203799	5.908142612	3.923607868
		3.554263163	10.41125766	75.4462561	8.629556548	0
		7.349654434	13.06547908	54.25421046	19.14616555	6.184490483
		0.936851788	9.98623376	83.99814789	5.078766562	0
		6.235714182	12.24326973	64.88636623	14.11102062	0.229194772
		6.708796514	11.31254487	55.81709622	25.23623249	0.9253299
		10.39857682	14.98965207	62.28082011	4.859893013	0.388177
		9.972321302	12.06696975	57.53932076	17.91719337	0
		3.459991708	15.1971393	59.90277778	8.52694859	11.76036484
		5.721190586	12.26060328	64.99679406	12.64592632	2.128287715
		4.821055195	7.794558691	84.63070639	2.753679726	0
平均		5.651949402	11.91706138	66.50709501	11.88498427	1.964573275
標準偏差		3.086942339	2.077183263	10.05199898	6.914803003	3.504327469



類別 e

中国	空	道	建物	あふれ出し	緑 (自然)	緑 (人工)
	0.520596896	15.16727819	27.2576205	39.56119929	17.49330512	0
	5.944075575	14.07218564	51.88948199	23.77713408	4.317122722	0
	3.734060984	19.23018529	38.86260261	38.17315112	0	0
	18.58987808	13.45517469	50.43280826	16.40371341	1.118425563	0
	18.00115399	11.71836084	50.4198768	19.70286919	0.157739182	0
	6.981619538	11.22001386	34.44842999	46.21180105	1.019263158	0.118872398
	15.69195028	11.006288	44.33872087	28.37600835	0.587032504	0
	8.277629835	19.3146081	61.62648675	6.692936284	4.088339032	0
	7.318039945	19.61881361	47.55096874	5.463989839	20.04818787	0
	6.478279348	10.3238723	69.37171357	13.72655228	0	0.099582503
	4.877019181	7.206251768	32.53356291	46.01092146	8.121433681	1.250811
	0	3.338714656	64.62176391	31.25839528	0.639084257	0.142041899
	6.166159349	8.118062679	70.41267202	13.37146749	1.931638466	0
	4.453734173	8.417505618	76.67324246	9.650415647	0.315555121	0.489546977
	2.577364521	10.08571844	76.85705984	10.47985721	0	0
	0.58661469	8.170957471	56.69879824	31.80880151	2.67714535	0.057682737
	15.7370269	9.197685897	47.53845385	27.52683335	0	0
	7.771359803	18.53508054	48.09311949	21.27088275	4.074235115	0.255322306
	8.060453921	18.29133997	50.4379087	17.79299801	5.417299408	0
	16.54699102	15.44313885	43.74898829	23.99192293	0.268958905	0
	0	8.259365815	79.40819061	11.47703077	0.855412802	0
	6.498447318	12.76331811	52.74991754	25.84795952	0.441845462	1.698512039
	25.56265491	20.38531638	45.95357604	5.967816264	2.130636409	0
	12.64131531	13.26654265	56.79550202	14.72630715	2.012866214	0.557466665
	6.659955798	12.31963688	52.40955704	20.2722207	2.206180833	6.132448756
	3.843199739	18.27450259	36.29734036	40.4469502	1.138007109	0
	18.02611353	12.24802235	51.54041523	17.26563036	0	0.919818532
	6.20939373	11.46621001	37.14721933	37.53881387	2.981524083	4.656838978
	16.41096022	10.92168864	39.36997707	33.29737407	0	0
	15.69125973	18.43255517	55.32153353	8.71868099	1.835970578	0
	15.63155076	13.42011648	44.88184237	23.05703031	3.009460082	0
	5.599639296	12.99594208	64.03099229	16.09246989	1.280956447	0
平均	9.096515574	13.02138917	51.86626073	22.68625421	2.817738296	0.511842025
標準偏差	6.562587287	4.285961309	13.25518358	11.84748298	4.592804578	1.354423428

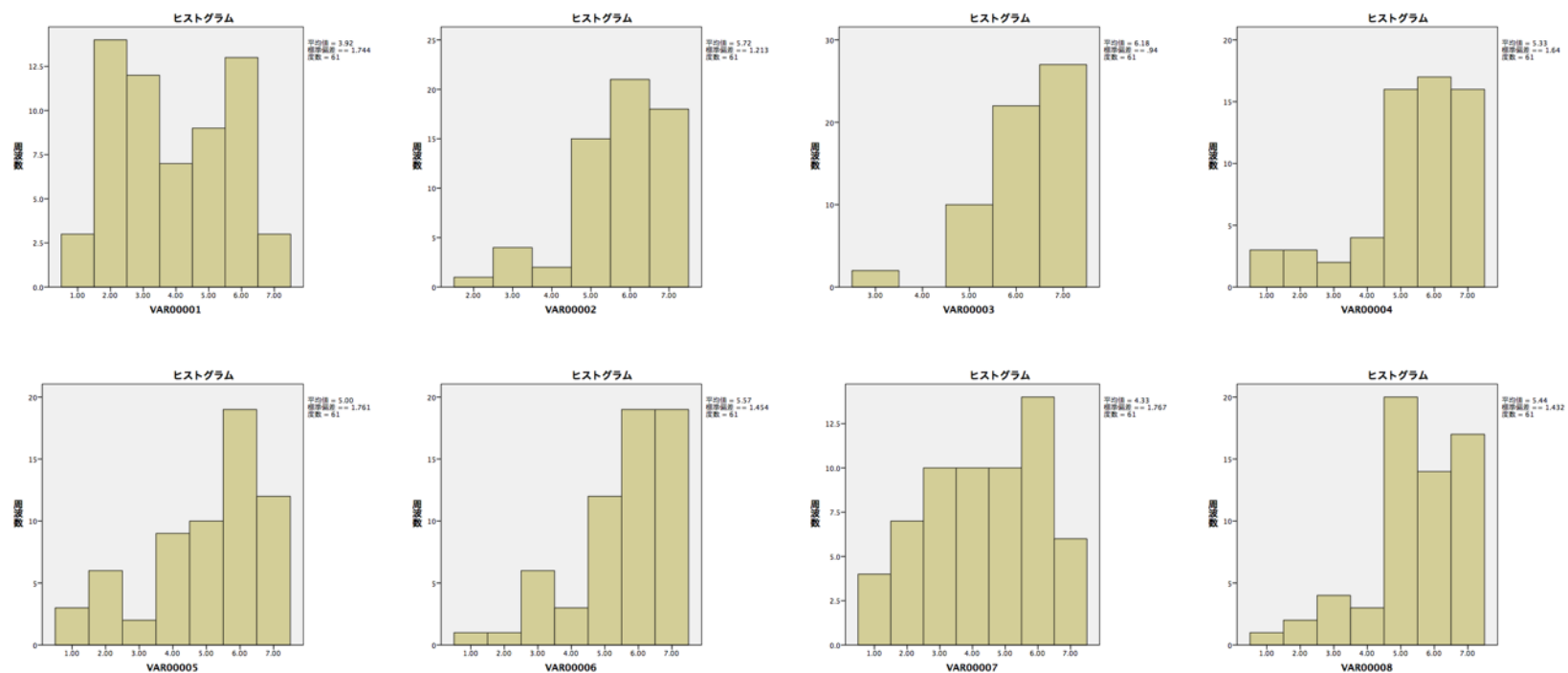
日本	空	道	建物	あふれ出し	緑 (自然)	緑 (人工)
		11.63781	10.10624343	50.36388839	27.84205818	0
		0.498207162	6.47690121	79.51169871	13.4526339	0.060559016
		4.896752351	8.244064762	31.01677075	21.51479614	2.348609482
		6.247814503	14.26005328	48.76529848	25.67125968	4.785196903
		8.305602179	14.11706643	47.2028671	22.45890305	7.915561238
		29.29594979	13.10260788	53.15488605	2.09902909	0
		8.291892878	12.19448465	50.71544405	20.27630657	2.093244134
		7.179742386	19.61253837	43.53550413	6.572980131	18.44877919
		5.755246724	10.56136224	73.91607726	7.420988554	2.346325222
		4.859579979	8.098952966	36.9990985	37.74466021	12.08492866
		9.957873013	13.70424737	38.9752491	28.82739977	8.373698974
		7.312428671	8.956576377	74.09628512	9.634709832	0
		7.18192049	10.41997333	71.51778266	10.88032351	0
		14.4356539	10.8992875	36.55662374	25.36838736	10.41728194
平均		8.993391002	11.48250007	52.59481957	18.55460257	4.919584625
標準偏差		6.704977582	3.355869613	15.8979763	10.32875827	5.732296743

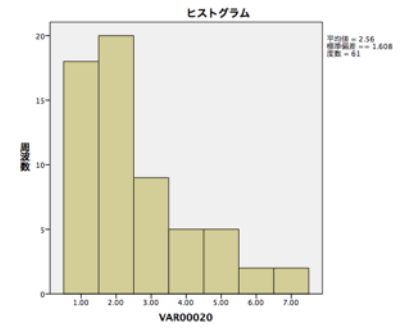
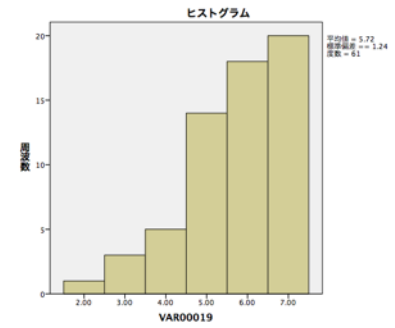
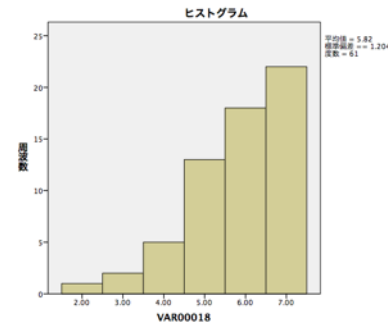
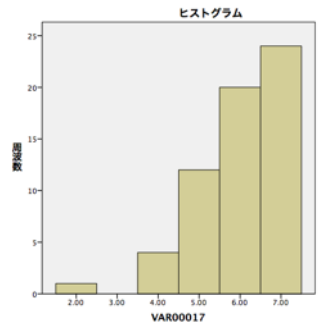
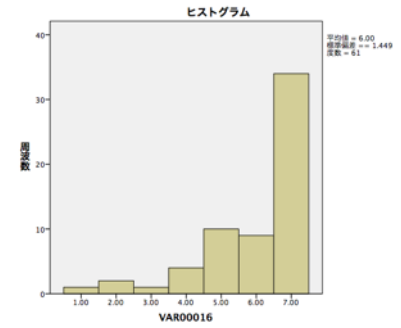
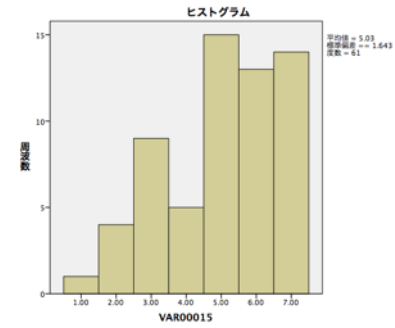
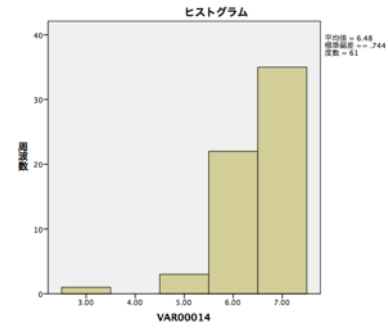
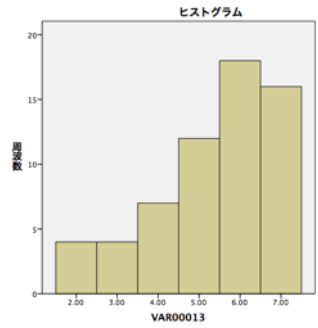
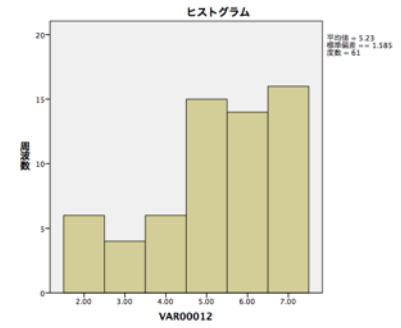
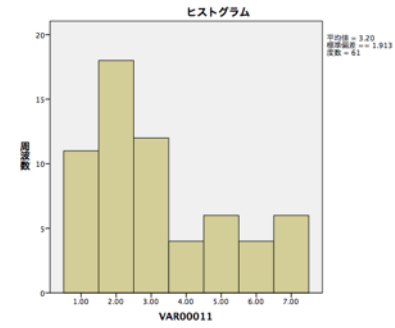
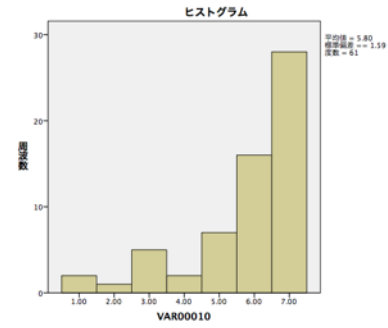
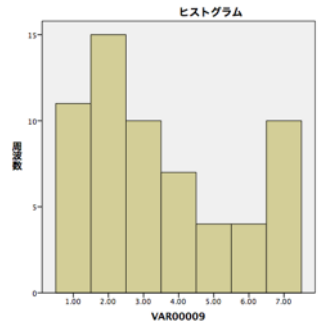
## 付録8 アンケートで得られた二次データ

第三章の補足である。

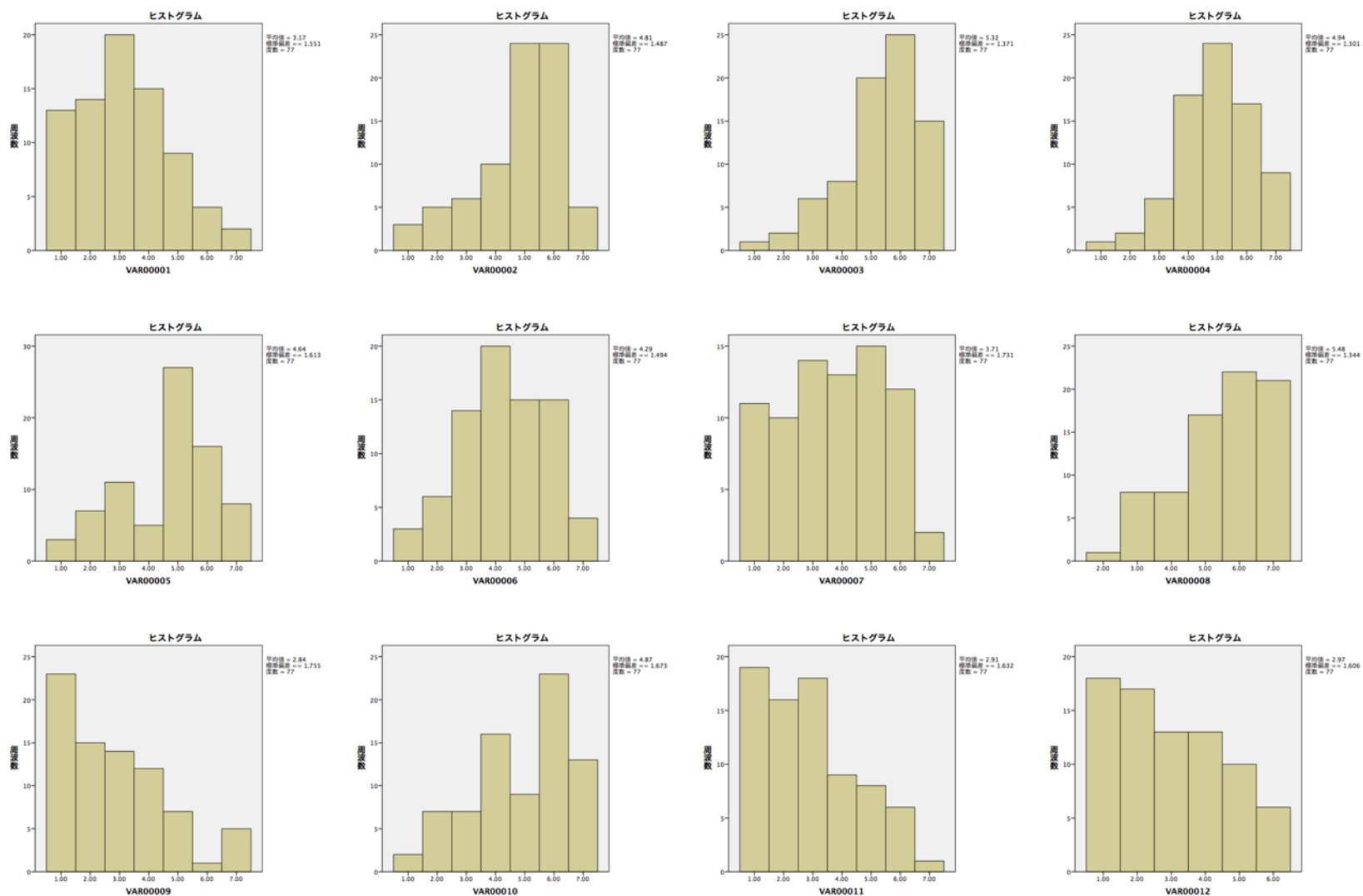
「路地/里弄らしさ」における日中それぞれの評価の写真ごとの分布（正規性分析）

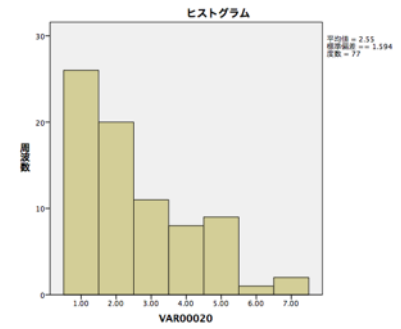
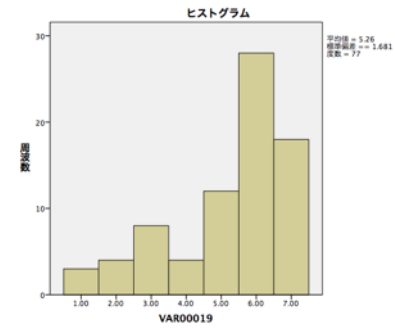
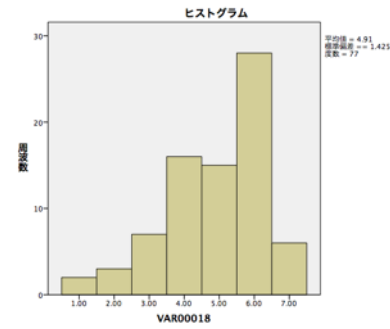
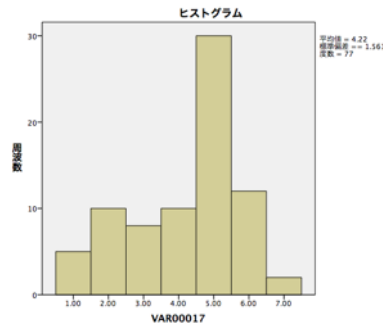
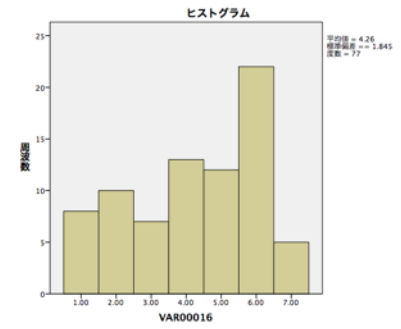
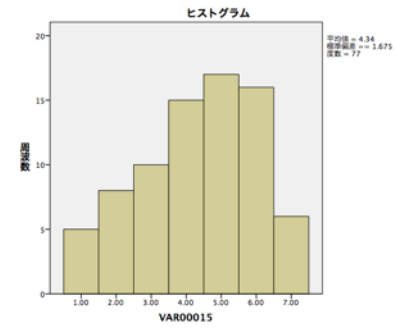
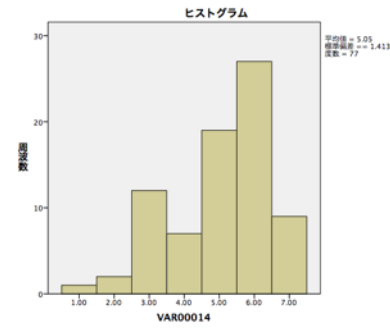
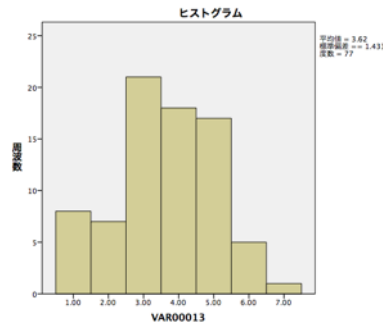
日本側 写真番号 1-20





中国側 写真番号 1-20





日中の評価点数の質問ごとにおける平均値、中央値及び標準偏差

1 路地/里弄らしさ

1 路地/里弄らしさ						
写真番号	中国			日本		
	平均	中央値	標準偏差	平均	中央値	標準偏差
1	3.168831169	3	1.550913122	3.918032787	4	1.744468228
2	4.805194805	5	1.487128645	5.721311475	6	1.212863657
3	5.324675325	6	1.371145875	6.180327869	6	0.940003488
4	4.935064935	5	1.301190369	5.327868852	6	1.640338496
5	4.636363636	5	1.613341506	5	6	1.760681686
6	4.285714286	4	1.494350262	5.573770492	6	1.454407284
7	3.714285714	4	1.730965222	4.327868852	4	1.767496454
8	5.480519481	6	1.34370256	5.442622951	6	1.43206832
9	2.844155844	3	1.755179816	3.491803279	3	2.094619702
10	4.87012987	5	1.672931947	5.803278689	6	1.589755454
11	2.909090909	3	1.631771867	3.196721311	3	1.913284019
12	2.974025974	3	1.605697307	5.229508197	5	1.585280655
13	3.623376623	4	1.433058572	5.37704918	6	1.485080631
14	5.051948052	5	1.413246579	6.475409836	7	0.744010694
15	4.337662338	5	1.674973602	5.032786885	5	1.642835081
16	4.25974026	5	1.845354034	6	7	1.449137675
17	4.220779221	5	1.561235818	6	6	1.064581295
18	4.909090909	5	1.425166825	5.819672131	6	1.204272903
19	5.25974026	6	1.681185338	5.721311475	6	1.240042305
20	2.545454545	2	1.593947884	2.557377049	2	1.607530095

2 雰囲気の良い悪い

2 雰囲気の良い悪い						
写真番号	中国			日本		
	平均	中央値	標準偏差	平均	中央値	標準偏差
1	3.532467532	4	1.543956091	5	5	1.425949976
2	4.064935065	4	1.360511343	4.852459016	5	1.43568875
3	4.61038961	6	1.424926999	4.704918033	5	1.464516556
4	5.12987013	5	1.217748671	4.475409836	4	1.576986127
5	4.649350649	5	1.305516975	5.31147541	5	1.008976108
6	3.935064935	4	1.127849168	3.098360656	3	1.350369308
7	2.545454545	2	1.219851744	2.098360656	2	1.05995154
8	4.519480519	5	1.577893246	2.508196721	2	1.361652805
9	5.233766234	6	1.596839839	5.393442623	6	1.381770465
10	5.428571429	6	1.163350101	5.393442623	5	1.099677051
11	4.948051948	5	1.286530462	5.426229508	6	1.230975445
12	4.597402597	5	1.407309305	4.049180328	4	1.216911795
13	4.233766234	4	1.223628167	4.114754098	4	1.096940604
14	4.623376623	5	1.112594893	4.06557377	4	1.49297078
15	5.467532468	6	1.107206247	5.163934426	5	1.113258399
16	2.831168831	3	1.116887091	2.508196721	2	1.233193021
17	3.064935065	3	1.217608337	2.819672131	2	1.668414384
18	5.064935065	5	1.24960691	4.918032787	5	1.144480697
19	2.857142857	3	1.627997525	2.786885246	2	1.817642742
20	3.558441558	4	1.888284563	2.590163934	2	1.801638598

3 懐かしさ

3 懐かしい印象の有無						
写真番号	中国			日本		
	平均	中央値	標準偏差	平均	中央値	標準偏差
1	2.87012987	3	1.472114925	3.344262295	3	1.913855149
2	4.207792208	4	1.417351703	2.885245902	3	1.506633783
3	4.675324675	5	1.542738154	3.163934426	3	1.925100239
4	4.493506494	4	1.324102244	2.868852459	3	1.52179072
5	4.428571429	4	1.371021243	3.590163934	3	1.810865807
6	3.792207792	4	1.228367148	2.868852459	3	1.322565812
7	2.987012987	3	1.491144972	2.655737705	2	1.662179753
8	4.74025974	5	1.533851339	2.344262295	2	1.481949683
9	3.922077922	4	1.612175988	4.68852459	5	1.962489776
10	4.844155844	5	1.38663674	5.475409836	6	1.456097036
11	3.974025974	4	1.477676216	4.557377049	5	1.717795003
12	3.350649351	4	1.502333569	3.163934426	3	1.529491504
13	3.441558442	4	1.26171882	3.786885246	4	1.57177982
14	4.402597403	5	1.38848403	5.081967213	5	1.625782703
15	4.688311688	5	1.407309305	3.868852459	4	1.477333294
16	2.779220779	3	1.220691959	4.098360656	4	1.912284132
17	3.077922078	3	1.254111488	4.049180328	5	1.677560029
18	4.636363636	4	1.394623991	5.245901639	5	1.299432411
19	2.233766234	2	1.098996	2.131147541	2	1.040439167
20	2.441558442	2	1.51738614	2.262295082	2	1.548134785

4 住みやすさ

4 住みやすさ						
写真番号	中国			日本		
	平均	中央値	標準偏差	平均	中央値	標準偏差
1	3.038961039	3	1.633864956	3.918032787	4	1.294798337
2	4.298701299	4	1.236132924	4.62295082	5	1.293109101
3	4.584415584	5	1.426724712	4.131147541	4	1.564985728
4	4.974025974	5	1.245772071	3.93442623	4	1.327514626
5	4.649350649	5	1.200506842	4.721311475	5	1.45064523
6	4.116883117	4	1.235164873	3.409836066	3	1.29585299
7	2.753246753	3	1.289184199	2.196721311	2	1.180673143
8	4.246753247	4	1.3969501	2.704918033	3	1.333469938
9	5.519480519	6	1.500968018	5.704918033	6	1.115709973
10	5.103896104	5	1.303683199	4.032786885	4	1.622418083
11	4.857142857	5	1.274386186	4.508196721	5	1.523405733
12	4.350649351	4	1.519749233	3.68852459	4	1.297959727
13	4.519480519	5	1.262937153	4.180327869	4	1.162012575
14	4.909090909	5	1.078276136	4.147540984	4	1.536620378
15	5.38961039	5	1.160261361	4.37704918	5	1.343675735
16	2.675324675	3	1.081441027	2.770491803	3	1.498815562
17	3.441558442	4	1.251246815	3.016393443	3	1.443281022
18	5.246753247	6	1.215641959	4.885245902	5	1.239601558
19	2.701298701	3	1.47848549	2.606557377	2	1.552188654
20	2.272727273	2	1.231562589	2.06557377	2	1.152806033

## 5 日本/中国らしさ

5 日本/中国らしさ						
写真番号	中国			日本		
	平均	中央値	標準偏差	平均	中央値	標準偏差
1	4.064935065		4 1.558825995	2.278688525		2 1.561315125
2	4.688311688		5 1.300402167	1.68852459		1 0.847368153
3	5.025974026		5 1.30760957	2.114754098		2 1.495530682
4	4.38961039		4 1.329382961	3.081967213		3 1.615498705
5	4.753246753		5 1.309437848	3.62295082		4 1.781047767
6	4.077922078		4 1.264559771	3.163934426		3 1.603956856
7		4	4 1.547493729	2.737704918		2 1.569518391
8	5.441558442		6 1.312826466	2.524590164		2 1.555705171
9	2.831168831		3 1.389837149	6.213114754		7 1.17068006
10	2.636363636		2 1.62957123	6.590163934		7 0.642314803
11	2.376623377		2 1.423847281	6.016393443		6 1.147341903
12	2.428571429		2 1.361390267	5.590163934		6 1.256676161
13	3.103896104		3 1.333618106	4.508196721		5 1.421536151
14	3.532467532		3 1.456242602	6.131147541		6 0.974258861
15	3.194805195		3 1.630619523	5.606557377		6 1.158716079
16	3.220779221		3 1.659291039	5.508196721		6 1.385916674
17	3.428571429		3 1.418195401	5.606557377		6 1.242023732
18	3.883116883		4 1.530170493	5.852459016		6 1.062011701
19	5.116883117		5 1.708908747	1.524590164		1 0.887065525
20	4.064935065		4 1.616833018	1.983606557		2 1.258197166

## 6 残したい風景かどうか

6 残したい風景かどうか						
写真番号	中国			日本		
	平均	中央値	標準偏差	平均	中央値	標準偏差
1	3.38961039		3 1.548818261	4.868852459		5 1.175803411
2	4.246753247		4 1.505742029	5.049180328		5 1.28356573
3	4.467532468		4 1.585994753	4.590163934		4 1.216238041
4	4.844155844		5 1.298429568	4.180327869		4 1.42019009
5	4.363636364		4 1.296849329	4.754098361		5 1.260366847
6	3.805194805		4 1.192509087	3.524590164		3 1.205633407
7	2.701298701		3 1.496178774	2.754098361		3 1.273521858
8	4.961038961		5 1.584809124	3.081967213		3 1.417686871
9	4.805194805		5 1.530728766	4.524590164		4 1.555705171
10	5.168831169		5 1.163056289	5.491803279		6 1.311779336
11	4.467532468		4 1.391557397	5.06557377		5 1.481765304
12	3.961038961		4 1.42756287	3.737704918		4 1.167642059
13	3.961038961		5 1.129060607	3.786885246		4 1.050630828
14	4.675324675		5 1.152132559	4.459016393		4 1.608039909
15	5.116883117		5 1.224465791	4.524590164		5 1.089442631
16	2.688311688		3 1.216765993	3.409836066		3 1.585108295
17	3.116883117		3 1.180700349	3.163934426		3 1.655096451
18		5	5 1.347512328	4.68852459		5 1.3233919
19	3.402597403		3 1.830011075	3.491803279		4 1.709024584
20	2.272727273		2 1.252748175	2.639344262		2 1.30425952



「懐かしさ」における日中の若者同士の評価の写真ごとの t 検定の結果

両側有意 $p < 0.05$		両側有意傾向 $0.05 < p < 0.1$		両側有意差が認められない $p > 0.1$																
写真1 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真2 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真3 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真4 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真5 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真6 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真7 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真8 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真9 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真10 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		
	変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2
平均	3.3442623	2.87012987	平均	2.8852459	4.20779221	平均	3.16393443	4.67532468	平均	2.86885246	4.49350649	平均	3.59016393	4.42857143	平均	2.86885246	4.4025974	平均	3.86885246	4.68831169
分散	3.66284153	2.16712235	分散	2.26994536	2.00888585	分散	3.70601093	2.38004101	分散	2.31584699	1.75324675	分散	2.95081967	2.183527	分散	2.18251366	1.9278879	分散	2.18251366	1.98051948
観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77
プールされた 仮説平均との 自由度	2.82699846 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.12405916 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.96502774 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.00145274 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.49714148 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.06963456 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.06963456 0 136	
t	1.64515798		t	-5.2941753		t	-5.1207429		t	-6.6997556		t	-3.0953112		t	1.28060405		t	2.59770818	
P(T<t) 片側	0.0511233		P(T<t) 片側	2.3391E-07		P(T<t) 片側	5.0958E-07		P(T<t) 片側	2.5346E-10		P(T<t) 片側	0.00119383		P(T<t) 片側	0.10211361		P(T<t) 片側	0.00520913	
t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.66515135		t 境界値 片側	1.65613499	
P(T<=t) 両側	0.10224659		P(T<=t) 両側	4.6781E-07		P(T<=t) 両側	0.1912E-06		P(T<=t) 両側	5.0692E-10		P(T<=t) 両側	0.00238766		P(T<=t) 両側	0.20422723		P(T<=t) 両側	0.01041826	
t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.99167261		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078	
写真11 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真12 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真13 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真14 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真15 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真16 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真17 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真18 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真19 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真20 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		
	変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2
平均	4.55737705	3.97402597	平均	3.16393443	3.35064935	平均	3.78688525	3.44155844	平均	3.86885246	4.4025974	平均	3.86885246	4.68831169	平均	3.86885246	4.4025974	平均	3.86885246	4.68831169
分散	2.95081967	2.183527	分散	2.33934426	2.25700615	分散	2.4704918	1.59193438	分散	2.18251366	1.9278879	分散	2.18251366	1.98051948	分散	2.18251366	1.9278879	分散	2.18251366	1.98051948
観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77
プールされた 仮説平均との 自由度	2.52203847 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.29333179 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	1.97953324 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.0402228 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.06963456 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.06963456 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.06963456 0 136	
t	2.1430134		t	-0.7193104		t	1.43192287		t	-2.1800463		t	-3.32316		t	-2.1800463		t	-3.32316	
P(T<t) 片側	0.01694605		P(T<t) 片側	0.23659195		P(T<t) 片側	0.07723008		P(T<t) 片側	0.01548746		P(T<t) 片側	0.00057184		P(T<t) 片側	0.01548746		P(T<t) 片側	0.00057184	
t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499	
P(T<=t) 両側	0.03389209		P(T<=t) 両側	0.4731839		P(T<=t) 両側	0.15446015		P(T<=t) 両側	0.03097492		P(T<=t) 両側	0.00114367		P(T<=t) 両側	0.03097492		P(T<=t) 両側	0.00114367	
t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078	
写真16 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真17 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真18 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真19 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真20 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真21 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真22 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真23 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真24 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		写真25 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		
	変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2
平均	4.09836066	2.77922078	平均	4.04918033	3.07792208	平均	5.24590164	4.63636364	平均	2.59016393	3.55844156	平均	2.26229508	2.44155844	平均	2.59016393	3.55844156	平均	2.26229508	2.44155844
分散	3.6568306	1.49008886	分散	2.81420765	1.57279563	分散	1.68852459	1.94497608	分散	3.24590164	3.56561859	分散	2.39672131	2.3024607	分散	3.24590164	3.56561859	分散	2.39672131	2.3024607
観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77	観測数	61	77
プールされた 仮説平均との 自由度	2.44600433 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.1204774 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	1.83183571 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	3.424567 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.34404626 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	3.424567 0 136		プールされた 仮説平均との 自由度	2.34404626 0 136	
t	4.92076896		t	3.89124552		t	2.62741251		t	-3.0525852		t	-0.683092		t	-3.0525852		t	-0.683092	
P(T<t) 片側	1.226E-06		P(T<t) 片側	7.775E-05		P(T<t) 片側	0.00479585		P(T<t) 片側	0.00136473		P(T<t) 片側	0.24785538		P(T<t) 片側	0.00136473		P(T<t) 片側	0.24785538	
t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499		t 境界値 片側	1.65613499	
P(T<=t) 両側	2.4521E-06		P(T<=t) 両側	0.0001555		P(T<=t) 両側	0.0095917		P(T<=t) 両側	0.00272947		P(T<=t) 両側	0.49571075		P(T<=t) 両側	0.00272947		P(T<=t) 両側	0.49571075	
t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078		t 境界値 両側	1.97756078	

「懐かしさ」における日本の年配者と中国の若者の評価の写真ごとの t 検定の結果

両側有意 p<=0.05		両側有意傾向 0.05< p<=0.1		両側有意差が認められない p>0.1											
写真1 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真2 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真3 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真4 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真5 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定							
	変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2	
平均	3.42857143	2.87012987		平均	3.28571429	4.20779221		平均	4.23809524	4.67532468		平均	5.0952381	4.42857143	
分散	3.65714286	2.16712235		分散	3.21428571	2.00888585		分散	2.99047619	2.38004101		分散	2.89047619	1.87969925	
観測数	21	77		観測数	21	77		観測数	21	77		観測数	21	77	
プールのされた	2.47754329			プールのされた	2.26001082			プールのされた	1.95048701			プールのされた	2.09027778		
仮説平均との	0			仮説平均との	0			仮説平均との	0			仮説平均との	0		
自由度	96			自由度	96			自由度	96			自由度	96		
t	1.44114964			t	-2.4914624			t	-1.1216454			t	-1.4353682		
P(T<=t) 片側	0.07639817			P(T<=t) 片側	0.00721865			P(T<=t) 片側	0.1324055			P(T<=t) 片側	0.0772162		
t 境界値 片側	1.66088144			t 境界値 片側	1.66088144			t 境界値 片側	1.66088144			t 境界値 片側	1.66088144		
P(T<=t) 両側	0.15279634			P(T<=t) 両側	0.0144373			P(T<=t) 両側	0.264811			P(T<=t) 両側	0.1544324		
t 境界値 両側	1.98498431			t 境界値 両側	1.98498431			t 境界値 両側	1.98498431			t 境界値 両側	1.98498431		
写真6 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真7 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真8 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真9 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真10 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定							
	変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2	
平均	3.47619048	3.79220779		平均	3.80952381	2.98701299		平均	3.33333333	4.74025974		平均	3.80952381	3.92207792	
分散	2.26190476	1.50888585		分散	3.46190476	2.22351333		分散	2.93333333	2.35269993		分散	4.06190476	2.59911141	
観測数	21	77		観測数	21	77		観測数	21	77		観測数	21	77	
プールのされた	1.66576479			プールのされた	2.48151154			プールのされた	2.47366522			プールのされた	2.90386003		
仮説平均との	0			仮説平均との	0			仮説平均との	0			仮説平均との	0		
自由度	96			自由度	96			自由度	96			自由度	96		
t	-0.9945944			t	2.12092564			t	-3.6336483			t	-0.2682968		
P(T<=t) 片側	0.16121696			P(T<=t) 片側	0.0182524			P(T<=t) 片側	0.00022559			P(T<=t) 片側	0.39452327		
t 境界値 片側	1.66088144			t 境界値 片側	1.66088144			t 境界値 片側	1.66088144			t 境界値 片側	1.66088144		
P(T<=t) 両側	0.32243392			P(T<=t) 両側	0.0365048			P(T<=t) 両側	0.00045117			P(T<=t) 両側	0.78904654		
t 境界値 両側	1.98498431			t 境界値 両側	1.98498431			t 境界値 両側	1.98498431			t 境界値 両側	1.98498431		
写真11 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真12 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真13 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真14 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真15 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定							
	変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2	
平均	4.28571429	3.97402597		平均	3.28571429	3.35064935		平均	3.71428571	3.44155844		平均	5.95238095	4.4025974	
分散	2.21428571	2.183527		分散	2.41428571	2.25700615		分散	2.81428571	1.59193438		分散	1.74761905	1.9278879	
観測数	21	77		観測数	21	77		観測数	21	77		観測数	21	77	
プールのされた	2.18993506			プールのされた	2.28977273			プールのされた	1.84659091			プールのされた	1.89033189		
仮説平均との	0			仮説平均との	0			仮説平均との	0			仮説平均との	0		
自由度	96			自由度	96			自由度	96			自由度	96		
t	0.8555529			t	-0.1743111			t	0.81523946			t	4.57871897		
P(T<=t) 片側	0.19718772			P(T<=t) 片側	0.43099402			P(T<=t) 片側	0.20847662			P(T<=t) 片側	7.0137E-06		
t 境界値 片側	1.66088144			t 境界値 片側	1.66088144			t 境界値 片側	1.66088144			t 境界値 片側	1.66088144		
P(T<=t) 両側	0.39437543			P(T<=t) 両側	0.86198804			P(T<=t) 両側	0.41695323			P(T<=t) 両側	1.4027E-05		
t 境界値 両側	1.98498431			t 境界値 両側	1.98498431			t 境界値 両側	1.98498431			t 境界値 両側	1.98498431		
写真16 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真17 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真18 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真19 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定		写真20 t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定							
	変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2		変数 1	変数 2	
平均	4.28571429	2.77922078		平均	4.47619048	3.07792208		平均	5.66666667	4.63636364		平均	3.9047619	3.55844156	
分散	3.11428571	1.49008886		分散	2.96190476	1.57279563		分散	1.13333333	1.94497608		分散	3.39047619	3.56561859	
観測数	21	77		観測数	21	77		観測数	21	77		観測数	21	77	
プールのされた	1.8284632			プールのされた	1.86219336			プールのされた	1.77588384			プールのされた	3.52913059		
仮説平均との	0			仮説平均との	0			仮説平均との	0			仮説平均との	0		
自由度	96			自由度	96			自由度	96			自由度	96		
t	4.52549536			t	4.162173			t	3.14050632			t	0.74883497		
P(T<=t) 片側	8.6351E-06			P(T<=t) 片側	3.4377E-05			P(T<=t) 片側	0.00112103			P(T<=t) 片側	0.22789377		
t 境界値 片側	1.66088144			t 境界値 片側	1.66088144			t 境界値 片側	1.66088144			t 境界値 片側	1.66088144		
P(T<=t) 両側	1.727E-05			P(T<=t) 両側	6.8755E-05			P(T<=t) 両側	0.00224206			P(T<=t) 両側	0.45528754		
t 境界値 両側	1.98498431			t 境界値 両側	1.98498431			t 境界値 両側	1.98498431			t 境界値 両側	1.98498431		

「路地/里弄らしさ」における日中の若者同士の評価の写真ごとのt検定の結果

両側有意 p<=0.05		両側有意傾向 0.05< p<=0.1		両側有意だが認められない p>0.1																	
写真1 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定				写真2 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定				写真3 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定				写真4 t-検定: 分散が等しくないと仮定した2標本による検定				写真5 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定					
	変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2	
平均	3.91803279	3.16883117		5.72131148	4.80519481		6.18032787	5.32467532		5.32786885	4.93506494		5.32786885	4.93506494		5	4.63636364		5	4.63636364	
分散	3.0431694	2.40533151		1.47103825	2.21155161		0.88360656	1.88004101		2.69071038	1.69309638		2.69071038	1.69309638		3.1	2.60287081		3.1	2.60287081	
観測数	61	77		61	77		61	77		61	77		61	77		61	77		61	77	
プールされた 仮説平均との 自由度	2.68673058 0 136			1.88485454 0 136			1.44043758 0 136			0 113			0 113			2.82219251 0 136			2.82219251 0 136		
t	2.66659699			3.89298386			4.15930686			0.06467207			0.06467207			1.26282952			1.26282952		
P(T<=t) 片側	0.00429593			7.725E-05			2.8115E-05			1.65845022			1.65845022			0.10440567			0.10440567		
t 境界値 片側	1.65613499			1.65613499			1.65613499			0.12934413			0.12934413			1.65613499			1.65613499		
P(T<=t) 両側	0.00859187			0.0001545			5.6229E-05			1.98118036			1.98118036			0.20881135			0.20881135		
t 境界値 両側	1.97756078			1.97756078			1.97756078									1.97756078			1.97756078		
写真6 t-検定: 分散が等しくないと仮定した2標本による検定				写真7 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定				写真8 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定				写真9 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定				写真10 t-検定: 分散が等しくないと仮定した2標					
	変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2	
平均	5.57377049	4.28571429		4.32786885	3.71428571		5.44262295	5.48051948		3.49180328	2.84415584		3.49180328	2.84415584		5.80327869	4.87012987		5.80327869	4.87012987	
分散	2.11530055	2.23308271		3.12404372	2.9962406		2.05081967	1.80553657		4.38743169	3.08065619		4.38743169	3.08065619		2.5273224	2.7987013		2.5273224	2.7987013	
観測数	61	77		61	77		61	77		61	77		61	77		61	77		61	77	
プールされた 仮説平均との 自由度	0 130			3.05262433 0 130			1.9137497 0 136			3.65717479 0 136			3.65717479 0 136		0 132			3.34596758	0 132		
t	5.10434072			2.0488373			-0.1598187			1.97577064			1.97577064			0.00053405			0.00053405		
P(T<=t) 片側	5.755E-07			0.02120055			0.4366305			0.02510242			0.02510242			1.65647927			1.65647927		
t 境界値 片側	1.65665941			1.65613499			1.65613499			1.65613499			1.65613499			0.0010681			0.0010681		
P(T<=t) 両側	1.151E-06			0.0424011			0.87326101			0.05020483			0.05020483			1.97809884			1.97809884		
t 境界値 両側	1.97838041			1.97756078			1.97756078			1.97756078			1.97756078								
写真11 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定				写真12 t-検定: 分散が等しくないと仮定した2標本による検定				写真13 t-検定: 分散が等しくないと仮定した2標本による検定				写真14 t-検定: 分散が等しくないと仮定した2標本による検定				写真15 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定					
	変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2	
平均	3.19672131	2.90909091		5.2295082	2.97402597		5.37704918	3.62337662		6.47540984	5.05194805		6.47540984	5.05194805		5.03278689	4.33766234		5.03278689	4.33766234	
分散	3.66065574	2.66267943		2.51311475	2.57826384		2.20546448	2.05365687		0.55355191	1.99726589		0.55355191	1.99726589		2.6989071	2.80553657		2.6989071	2.80553657	
観測数	61	77		61	77		61	77		61	77		61	77		61	77		61	77	
プールされた 仮説平均との 自由度	3.10296309 0 136			0 130			0 127			0 120			0 120		2.75849416 0 136			2.75849416 0 136			
t	0.95261457			8.25334204			6.99646584			7.60729546			7.60729546			2.44172825			2.44172825		
P(T<=t) 片側	0.1712377			7.502E-14			6.7122E-11			3.4811E-12			3.4811E-12			0.00795083			0.00795083		
t 境界値 片側	1.65613499			1.65665941			1.65694034			1.6576509			1.6576509			1.65613499			1.65613499		
P(T<=t) 両側	0.3424754			1.5004E-13			1.3424E-10			6.9622E-12			6.9622E-12			0.01590166			0.01590166		
t 境界値 両側	1.97756078			1.97838041			1.97881953			1.97993041			1.97993041			1.97756078			1.97756078		
写真16 t-検定: 分散が等しくないと仮定した2標本による検定				写真17 t-検定: 分散が等しくないと仮定した2標本による検定				写真18 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定				写真19 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定				写真20 t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定					
	変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2		変数1	変数2	
平均	6	4.25974026		6	4.22077922		5.81967213	4.90909091		5.72131148	5.25974026		5.72131148	5.25974026		2.55737705	2.54545455		2.55737705	2.54545455	
分散	2.1	3.40533151		1.13333333	2.43745728		1.45027322	2.03110048		1.53770492	2.82638414		1.53770492	2.82638414		2.58415301	2.54066986		2.58415301	2.54066986	
観測数	61	77		61	77		61	77		61	77		61	77		61	77		61	77	
プールされた 仮説平均との 自由度	0 136			0 133			0 136			0 136			0 136		2.5598536 0 136			2.5598536 0 136			
t	6.2052757			7.9383217			3.98756902			1.79209897			1.79209897			0.0434741			0.0434741		
P(T<=t) 片側	3.0806E-09			3.7727E-13			5.4238E-05			0.0376702			0.0376702			0.48269369			0.48269369		
t 境界値 片側	1.65613499			1.65639124			1.65613499			1.65613499			1.65613499			1.65613499			1.65613499		
P(T<=t) 両側	6.1611E-09			7.5453E-13			0.00010848			0.0753404			0.0753404			0.96538737			0.96538737		
t 境界値 両側	1.97756078			1.97796126			1.97756078			1.97756078			1.97756078			1.97756078			1.97756078		

質問ごとの日中それぞれの評価にもとづくのグルーピング

(右から左へは高得点から低得点への順である．それぞれ7枚，6枚，7枚の写真で3つのグループとなっている)

路地/里弄らしい 3つのグループ 7 6 7		14	3	10	19	16	18	17	2	5	6	4	8	15	13	12	7	1	11	9	20
日本																					
中国																					
券開きの良し悪し 3つのグループ 7 6 7		10	5	18	15	9	4	11	1	3	2	14	12	13	6	17	8	19	7	16	20
日本																					
中国																					
懐かしさ 3つのグループ 7 6 7		14	18	10	11	5	17	9	16	3	15	13	12	1	2	7	4	19	6	8	20
日本																					
中国																					
住みやすさ		9	18	5	14	15	3	11	2	13	4	10	1	12	6	17	8	16	19	7	20
日本																					
中国																					
日本/中国らしさ		10	9	14	18	11	17	12	15	16	13	5	6	4	7	3	8	1	20	19	2
日本																					
中国																					
残したいか		10	5	18	3	2	11	14	1	4	15	9	12	19	6	13	17	8	16	7	20
日本																					
中国																					